

以上は運針練習に入る順序を述べたものであるが運針は裁縫の基本として最も重要なものであるから各教材に附随させて、時間の始毎に五分間位練習させるを最もよき方法とする。

一一、三 重 縣（一〇）（和歌山縣参照）
一二、廣 島 縣

(一) 運針教授の準備としては、針の持ち方及び運針姿勢圖布の持ち方圖等の掛圖、及運針用布其の他の用具は豫め不用意の兒童の爲に準備し置く。

(二) 運針の方法。

1. 針の持ち方、右手の中指に指貫をはめて、無名指は小指と共に握り針頭を指貫にあて、針先を拇指と食指とにて摘みて持つ。
2. 針の運び方、(1)布の持ち方、右手は針を持ったまゝ、拇指と食指とにて用布を摘み、二三寸離れて、左手の拇指を手前に、他の四指を向ふにして、拇指と食指とにて堅く摘み、他の三指は軽く握りて布を張る。(2)運び方、前の如くして布を持ち針の手前に出た時は拇指を離して進め、針の向ふに出た時は食指を離して交るゝ進める左手は之に應じて調節し、縫つた布は次第に掌中に繰り込むものとする。かうして右手を進めて左手に近づけば糸こきをなし、

更に前のやうにして運び行く。針を以て實習させる前に両手特に右手の拇食兩指の運動を充分に練習させ然る後に針を持つて練習させる。

- 3: 姿勢、兩足を揃へて正しく着席し胸を張り上體を眞直にして、用布は眼より八九寸離して左右に引き兩腕を稍外に張り兩手を交互に動かして縫ひ行かせる、特に眼と布との距離に注意する事、兒童は熱心のあまり、追々眼と布との距離が近づき姿勢をくづす恐れあれば充分の注意を要する。

次に素縫、本縫と順次に進ませるが其の要領を確實に會得させ、種々變化をつけて、競争心を利用し、時間的に又、質的に量的に、グラフ表などを使用して充分な練習を計ること。

(備考) 素縫、本縫の練習は前和歌山縣を参照すること。

一三、石 川 縣

裁縫教授の目的は之を文部省令による要旨に従へば、通常衣類の縫ひ方、裁ち方等に習熟せしむると共に節約利用の習慣を以て目的とする。尙前項の目的によつて之を教授する際、用具の使用法、材料の品類、性質及保存法、洗濯法等を教示し、併せて徳性の涵養をなすことを以て目的とする。故に裁縫教授の目的は右にあげた裁縫科の目的を完全に達成せしむる事に努めねばなら

ぬ。今その方法を挙げれば。

1. 教材の選擇及排列に注意すること。(三、東京府参照)
2. 興味を持たして學習させること、興味は理解によつて生ずるものであれば教材の研究を充分にして種々の方法を工夫して理解力を助けること。
3. 教便物を案出、利用する事。
教師の考案によるものは最も効果があるものであれば常にこの點を考慮するを要する。
4. 教授の方法を研究する事。
教授の方法は一種の技術なれば天性の能、本能あるものなれども、知識廣く、教授の方法を工夫する時は自づから熟練するもので、勞少く効多き教授をなすことが得られる。
5. 教室の設備を完全ならせる事。
教室の設備の完、不完は教授能率の上に多大の影響を及ぼすものであれば、出來得る限り之が完全を期し不完全の爲めに生ずる種々の不便を除き去る事が大切である。其の他節約利用の習慣を養成するには先づ屑糸の整理、小布の利用等に意を用ひさせ、之の態度を初學年より養成し、學年の進むに従つて布帛の縫ひ方等を授けて一層廢物利用の一端を知らしめ、そ

の他裁縫に於ける用布の經濟等を授けて經濟思想を養ふ事、用具の使用法、材料の品類性質保存洗濯等は教材に附帶し、家事科との聯絡を保つて授け、技術偏重に陥りて知識教授を忽かせにしないやう之が教授の徹底を計ることが肝要である。

徳性の涵養については常に個性を觀察して教授の際適切なる訓練を施し種々の良習慣を養ふ事に留意し教育的教授を施せば裁縫教授の目的を徹底させることが出來得る。

一四、福岡縣

小學校に於て最も有效適切なる基礎教授をなすには、先づ教授細目の編制に慎重な注意を拂ひ充分教材を研究して其の難易取扱の方法等を如實に體驗したる後、兒童の心理的要件に適切な配當をする事が最も大切である。基礎教授も之を廣義に解する時は、小學校に於て授ける凡ての教材はやがて裁縫を習ふ場合の基礎となるものであれば、基礎教授と云ふも差支ないが狹義に解すれば。

(1)用具の使用法。(2)運針。(3)各種縫ひ方。(4)各種紝け方等をいふ。
中でも運針は裁縫技術養成の基本として重大な使命を有し、基礎教、即運針教授といつても差支なきまでに一般に認められてゐる。

左に順序を追ふて取扱ひの方法を述べる。

1. 用具、尺度、鉄、へら、等でその使用の巧拙は裁縫能率の上に多大の影響を及ぼすこと少くない、されば尺度は目盛りを讀ませ、正確に計らせる練習を積む事が大切である。鉄の使用法、笥の使用法等は示範によつて其の正確な要領を理解させ一般的にも個別的にも指導を充分にして其の技術の練習を計る事が大切である。
2. 運針については素縫より始め（方法は前和歌山縣参照）本縫に及び、正確な運針が出来るやう徹底的に、指導する事が大切である。
3. 各種縫方、合せ縫、三つ折縫、伏せ縫、折伏せ縫、袋縫、まつり縫等は衣服調製に直ちに使用せられる基礎技術であれば運針と共に授けて、標本により、實物によりよく、觀察力を養ひ自覺的に授けることが大切である。
4. 各種紵け方は車紵、三つ折紵、本紵等で、やゝ前縫方が上達した時授けるが有効である。授け方は縫方と同様である。世には運針教授の大切な事のみを知つて、紵け方練習を輕視するものが多いが一枚の着物を調製するには縫ひ方紵け方の二方法はどうしてもなさねばならぬ而して、兩方面とも同じ程度に使用してあるこの點に深く注意して、運針練習と共に此の練

習も怠つてはならぬ。要するに基礎技術の徹底は、やがて一人前の婦人となつて裁縫をなす場合に於いて其の能率の上に、技術の上に多大の影響を及ぼすものであれば、小學校時代に於いて確實な基礎づけをする事が最も肝要である。

一五、大分縣（一六）（熊本縣参照）

一六、熊本縣

裁縫教授の能率を増進させるには。

1. 基礎教授を徹底させる事。

中でも運針は基礎教授の主位を占め運針即基礎教授といふも過言でない程であるから、之が上達を計ることは裁縫能率の上に至大の影響を及ぼすものなれば初學年の内に全力を傾注するは云ふ迄もなく、やゝ上達の後と云へども各教材に附屬させて毎時之を練習させることが大切である、その他の基礎技術も反覆練習させて教授力の徹底を期して置くこと。

2. 教便物を有効に使用すること。

何學課でも直觀教授の必要なるは今更言を要しない事であるが、技能教科に於ては特にその必要あるを認めるものである。故に

イ、實物標本、分解標本、擴大標本等を豊富に用意し適當な使用によつて觀察能力及思考力等を涵養し、理解力を高めること。

ロ、裁ち方教授に於ては、分合標本又は染分け標本を使用して、裁ち方教授に對する理解力を養ひ無理解のまゝに暗記させる弊を救ふこと。

3. 興味を持たせる事。

興味なき教授は生命のない教授である。興味のない所に眞の學習は行はれない。故に兒童は進んで追究せんとする慾望もなく、只機械的に活動するに過ぎない。之に反して學習そのものの深甚な興味を持つ時は、教授されたものゝみでは満足せず、自ら未知のものをも追究せんとの研究心を増し、大いに教授の能率を増進するものである。興味は教材に對する理解と能力に相應したる教材に依つて、始て生ずるものであれば、心身の發達を考慮して出来る丈個別的に取扱ふをよしとする。

4. 教材は最小限度になすこと。

教材の過多は勢ひ反覆練習の機會を失ひ注入式教授に流れ易く、心身の陶冶を害ね、知識は不正確に陥り易きものであれば教材の選定に充分なる思慮を巡らし、最小限度に於て授け確

實に記憶させて、應用及創作的能力を養ふ。

以上述べた諸點に注意して、懇切熱心に教授する時は大いに裁縫教授の能率を増進させるものである。

一七、樺太廳

裁縫教授に於いて最も大切なことは次の通り。

1. 材料をよく準備させる事。
2. 運針練習に務め基礎技術の練習を計ること。
3. 標本、説明圖等の活用を計ること。
4. 個別的指導に力を注ぐ事。
5. 成績品の結果のみを尊重せず、その製作過程を重視する事。
6. 用具の整頓に注意すべき事。
7. 姿勢に注意する事。

以上の注意事項は裁縫教授の目的即ち、(1)衣類の縫方、裁ち方等の知識の授與、(2)積り方、服地等に關する知識の授與、(3)衣類の縫ひ方、裁ち方等の技能の習熟。(4)節約利用の習慣の

養成。(5)秩序、綿密、忍耐習慣の養成にとつて最も大切なものである。

一八、埼玉縣

部分縫を課するの可否は屢々問題を惹起する所であるが、その方法よろしきを得ば、甚だ有効なるものである。即ち、多數兒童を一學級に組織する一齊教授に於ては如何に熟練せる教師と云へども、衣服裁縫の困難の場所を只々説明示範に依るのみにては、中等以下の兒童には徹底を缺き必ず、大勢の劣等兒(裁縫の)を出すやうになる、又教授の進度は如何に苦心するも、中々に揃はずまじくになるのはまぬかれない。是等の兒童を個別的に指導するは容易ならぬことで、時間の空費と教授の不徹底とはまぬかれない。故に此の難解の場所に適當に課する時は甚だ効果があるものである。

一九、岐阜縣

技能教科の目的は兒童の思想の發表を主とするるのであるが技能として發表すべき思想を明瞭にすることは肝要な事である。従つて之が教授にあたり、兒童心身の發達に伴つて注意すべきことは易より難に、具體より抽象へ、模倣より創作に進み、漸次迅速に正確に然も巧妙に心身を發動させるやうにせねばならない。

二〇、埼玉縣

現在裁縫科は小學校に於ては尋常科第四學年に於て初めて課すことになつてゐる。故に本學年は、裁縫科の凡ての基礎を作る建設時代である。故に用具の使用法を始め、運針練習、及び各種縫ひ方、躰のかけ方、各種紝り方、各種留め方、糸のつぎ方、結び方等の基本教授をなすを以て目的とする。然して之等基本教授の徹底不徹底は裁縫能率の上に至大の影響を及ぼし、従つて本科の實質目的を完全に達成させると否とに大なる關係を有するものであればこの點に留意して、基本教授を徹底的に指導することが大切である中にも運針練習は基本教授の主位を占め本學年中特に力を注ぎて、之が上達を計らねばならない。運針指導の細部に渡つては(和歌山縣参照のこと)其の他の基本教授に於ても、最初の印象は、甚だ大切なものであれば、女子として裁縫の必要を自覺させ、爲めには興味的に方法を工夫し、各基礎技術は正確に、理解的に指導し、標本觀察の態度をも作らねばならぬ。其の他形式目的の立場より、用具の整理、整頓、糸屑の利用等の習慣を得させ、種々の諸徳の養成は單に初學年に於て必要なばかりでなく各學年を通じて常に指導すべきではあるが初學年に於て確然たる、習慣と會得とを得させ、その基礎づけをすることが最も大切である。

二二、千葉縣

メートル法實施について教授上留意すべきことはメートル法以外の尺度系統を忘れさせる事。即ち我が國に於ける從來の尺度には、鯨尺、ヤード及び曲尺等あり、裁縫科に於ては専ら鯨尺を使用し來つて今日に及んでゐる。故に家庭にては勿論、教師に於ても鯨尺に對する觀念深く、一朝にしてメートル尺のみを使用させる事は甚だ困難である。然し、メートル鯨尺對照尺を使用させる時は換算思想は統一の要旨に反し返つて複雑となり、いつ迄もメートル尺の徹底を期することが出来ない。裁縫科に於ては、メートルセンチメートル、を主として使用し、ミリメートルは補助として止むを得ざる場合に使用し、デシメートルは使用しない。故に種々の機械に於いて算術科手工科との連絡も保つて、メートル法の觀念を正確に植ゑつけねばならぬ。

二三、山口縣(二)千葉縣を参照のこと)

二三、廣島縣

教授の原理を適用し、實際の教授を施す場合に於ける形式は大凡左の如く區分せらる。新に知識を得しむる場合の形式には直接法又は(發展法)間接法、又は(傳達法)、目習法の三種がある。收得せるものを確實ならしめ、知識を技能となし又は之を系統的に組織する場合の形式には次

の四種がある。練習法、復演法、復習法及び試験である。

二四、山形縣

普通教育に於ける裁縫教育の方法は、他教科の教授と等しく一齊教授の方法に個人教授を加味するをよしとす。蓋し個人教授は個人教授の特性に應じて適切なる教授を施すことを得るが故に少數の兒童に對しては甚だ有効なる方法にして且つ其の材料も各別の教授なるが故に之を一定するの必要なく取揃へ上甚だ都合よろしき等の長所がある然れ共小學校の組織は多數の兒童を學級組織にして同時に教授するものなれば、勢ひ個人教授を施すことが困難である。今個人教授の短所をあぐれば次の如し。

1. 管理亂れ易きこと。

個人教授は各兒童につき個々別々の教材によりて指導するが故に、一兒童に指導する間は他の兒童をして空しく待たしめなければならぬ。然るに兒童は頗る活動性に富むものなればかゝる状態のもとに靜肅を保つて自習する事は甚だ無理なることであれば、或は私語し或は傍見し教師をして管理に不便ならしめ甚しきは教授を行ふ事不可能に至らしめることがある。

2. 時間を空費せしむること。

前の理由によりて教授は一部分にのみ行はるゝが故に、他に兒童は何事もなさずして徒らに時間を空費するに至る。

3. 注意力の修練を害ふこと。

教授全體に涉らざるが故に教師は一兒童に對して如何に熱心に教授するも他の兒童は己れに直接關係なき故、之に傾注する必要なく、遂に不注意怠慢の性狀を作る事となる。

4. 秩序を保つ教授を行ひ難きこと。

如何なる教材を授くるにも教授の原則に基き一定の順序によりて授くるを普通とす、然るに個々別々の教授を施す時は、如何に熟練の教師といへ共到底順序正しき教授をなし正確に習得せしむること不可能にして、粗雑漠然たる知識を得しむるのに止まる事となる。

5. 課程の全部に涉らざること。

各自隨意の材料によりて教授をうくるが故に、同一のものを數回繰り返すものもあり、或は教授を全く受けざるもの等ありて、日常須要のものと雖も遂に一回も教授を受けずに卒業するものもある。

6. 兒童をして自ら奮勵せしむる機會に乏しきこと。

個々別々の教材によりて教授するが故に、他の兒童との比較を見出す事難きを以て、自ら奮勵競争するの念乏しく大に進歩の力を減殺するものである。しかのみならず、其の修むるところ各異なるが故に自然と優劣の別を生じ平均の力を保たしむること能はざるに至る。

一齊教授にも又短所あり。即個人教授の短所とする所は一齊教授の長所にして、其の長所は短所となる。今その短所を擧ぐれば左の如し。

1. 個性の適應したる教授を施し難きこと。

人には各々天賦の優劣を有するものなり。ことに本科の如き技能教科には特に著しき能、不能により其の巧拙を異にし、中には幾度説明示範するも容易に了解し難きものあり。

然れども一齊教授による時は全體に一區分づゝ説明示範しつゝ進行するものなれば、各個人につき不能の點を指導すること能はざるため、大なる缺陷を生ずるに至る。

2. 優生劣生を犠牲にすること。

一齊教授は一學級中の中等兒童を目標として教授するものなれば、優生は常に手をつかねて他兒童の進度に合せ天賦の能力を伸ばす事能はず、劣生は不確實又は全然何事も得るところ

- の知識なくして、多數兒童の進度と共にすすみ、遂に卒業期に至る事がある。
3. 興味を失ふこと。

個人の特性に適應したる教授を施し難きため、理解せざる兒童は同一步調にて歩む事能はず次第に進歩遅れ、教授者の説明示範を離るゝにより教授に對する興味を失ふに至る。

以上各々長短を比較すれば、一齊教授の長所個人教授に優ること明瞭なれば、大體を一齊教授により短所を個人教授によりて補ふ事が大切である。

二五、香川縣

發問にとつて兒童を指導啓發し、その觀察を確實にし思想を統一し、且之が發表を習熟させる必要のある場合に適用すべきである。

二六、高知縣

發問に際して教師の注意すべきことは、

1. 被教育者の未知の言語を用ふることなく、又正しき言語にて全級の兒童が充分聞き取り得る高さを有すること。
2. 其の範圍は明確に限定され一個の問に對して唯一個の答が可能なるやうに發問し、概念法則

に導く場合には一歩く進んで決して飛躍せず、又兒童の自發活動を促すに足る發問をすべし。

3. 兒童の能力程度に適合し、なるべく簡單明瞭なるべきこと。
4. 其の分配は一二の兒童に偏することなく、先づ全級に發問して、然る後問の難易と兒童の優劣に應じて適宜に指名し、常に全級の理解を眼目として教授の進行を計ることが大切である。

二七、廣島縣

學級の編制法には二種の別がある中、全校兒童を一學級に編制するものを單級小學校と云ひ、之を二學級以上に編制せるものを多級小學校と云ふ。尙多級編制法にも三種の別がある。即ち單式學級制複式學級制及び、二部教授である。單式學級制とは同一學年の兒童のみを以て一學級を組織する編制法で、複式學級制とは、二個年以上程度の相異なる兒童を合せて一學級を組織することをいひ、二部教授制とは一學級の全部又は一部の兒童を前後二部に分ちて教授するやうに編制したものをいふのである。

以上諸編制中最も理想的なものは勿論單式編制法である。

我國の現行規定によれば尋常小學校に於ては七十人高等小學校に於ては六十人を以て一學級の收容限度となし、特別の事情あるときは各十人を増すことを得。又一學校に於ける學級數は十八學級を最大限度となし、特別の事情ありて此の制限を越ゆるときは府縣知事の認可を受けねばならぬ。但分教室を置くときは更に三學級までを増置することを得。

學級編制法と教材取扱ひ方につきて考慮すべきは複式學級の場合である。勿論複式學級に於ても學年の程度に拘らず、同教科同程度の教材を受くるときは其の取扱法は殆ど單式學級の場合に同じく、通常の教授と異なることが少ない。併し乍ら各組に同教科異程度の教材又は異教科を授くる場合に於ては即ち複式教授特有の工夫を要するのである。併し是等の工夫も敢へて單式教授の原理と異なるものではなく、只一般の原則を複式教授に適用したものに過ぎない。今左にその必要とする準則を述べると。

1. 勉めて教授力の分割を少くすること。
2. 各組に對する教授の分配を適當にすること。
3. 兒童に適當なる自働的作業を課すこと。
4. 教授の諸作用は敏活確實なること。

5. 各組に於ける教授の諸作用を互に調和すること。

二八、和歌山縣

模倣教材に於ける教授の基礎は、知識の方面より見たる原理中、主として直觀の原理と創作發表の原理である。即教材の提示によりて、兒童は諸種の感覺作用、感情作用及運動作用によりて教材を受領し、これを大脳に傳達し、そこで教材の表象を作り、更に之を諸種の感情作用運動作用及び感覺作用によりて之を表現するのである。

二九、埼玉縣

凡そ知識は直觀によりて得たるを比較的正確なりとする、殊に裁縫科は技術教授なれば言語には説明しがたき妙味を有するものである。又學級教授に於ては一齊教授に依らなければならぬが人には各々の能不能があつて、教授せんとする事柄を説明によりて充分理解し得るものと然らざるものがある。故に一學級完全に一教材を理解せしむるには、甚だ長時間を要し、優良兒は常に多大の犠牲を拂はざるべからざるに至る。教師は個人指導に忙殺され、然も兒童の得たる知識は不確實にして管理は亂れ易く勞多くして効なき授業に終る。故に技能教材たる裁縫科に於ては標本によりて、先づ構成の概要と縫ひ方裁ち方の概要を觀察させて、教材に對する觀念を得させ

裁縫科受験準備講義

然る後教授せば兒童の理解を補ふ事甚だ大なるものである。又裁ち方教授に於ては不完全なる裁ち方圖を唯一の方法として之に依りて、教授する從來の方法をさき、分合標本を使用して、完全なる理解を得させ、縫ひ方教授に於ては、各部分の縫ひ方を分解してその過程を示せる、分解標本を配布して觀察せしめ教師の説明と兒童の觀察能力とに依つて比較的完全なる理解の方法を取らせ之に倣はせるは教授の能率を高めて効多きものである。又教材によりては擴大標本を使用して明瞭にその部分を示すことも有効なる教授の方法である。四つ身單衣の空衿の部分に於ける標付の方法、元祿袖丸味の取扱等に於けるが如し。一方標本の觀察は、緻密の精神を要するものなれば綿密正確等の徳を養ひ又思考力を練つて工夫創作力を養ひ、人として最も尊き、獨立精神の養成の一端となる、以上擧げた理由により裁縫科に於ける標本は甚だ重要な價值を有し教授能率増進の上に至大の影響を及ぼすものである。故に標本を作製する場合にはその技術の優れたるは云ふ迄もなく、一分一厘と云へども忽かせにせず精確なものを作りて之に倣はしめ、色の配合布地と糸との關係大さ等をも充分研究して明瞭に要所を理解せしむるものを作製することが尤も大切である。

三〇、京 都 府

衣服の解方を授くるには先づ目的によつて、それぐ取扱の方法を定める必要がある。即單に衣服の解方を授くる目的によつて教授する場合に於ては、解方の順序、留場所に於ける注意、布の始末、肩糸の處理、其の他に就ての細かき注意等を説明して之れを實習させれば、解方教授の目的は達成せるものである。然し裁方教授及び縫方教授の前提として豫備的に解方を授くる場合には、前述の方法を授けると同時に縫方の方法及用布の裁方等を詳細に觀察させ、縫方裁方に關する大體の觀念を得させ、次の教授の理解を容易ならせる様指導しなければならぬ。

三一、奈 良 縣

成績物の處理についての注意。

1. 成績物は成べく早く檢閲して熱のさめぬうちに處理すること。
2. 成績物に對しては親切丁寧な檢閲を行ひ、その作る過程も重視して有効な批評又は批評をすること。
3. 兒童名兒の個性を顧慮して個性に應じた指導を行ひ、今後の學習に向つて發奮努力する意氣を與へるやうな動機を作る注意や批評を行ふこと。
4. 材料が成績物の上に非常に關係を及ぼすことがあれば縫ひにくい材料を眞面目に縫つたもの

- 又は比較的、縫ひ易い材料を縫つた者などよく兩者を斟酌して適當な批評を與へること。
5. 平素の教育の参考資料とすること。
6. 教師は成績物を檢閲し教授の反省の資とすること。

三二、福井縣

技術の確實精巧と製作の迅速とは裁縫科の二大目標である。此の目標に到達するには種々の必要條件があるが、用具の整理といふ事は實に必要な條件である。用具の不整理は精確にして然も秩序ある作業をなす事は到底望むことが出来ない。又迅速な事も難かしい。そればかりでない普通教育に於ける一大目的たる徳性の涵養を害し、將來婦人として一家整理の大任を果す事はざるに至る。用具の整理は使用時の便利と時間の經濟とを考へ、用具の位置を定めて之れを使用する事に極力注意し、之れを實行する様指導することが大切である。次は用具の清潔を保つ事である用具の清潔は獨り裁縫品の出來上りをよくするばかりでなく、之又女子として甚だ大切な徳性を涵養する上に意義深いものである事を忘れてはならない。其他折れ針、屑糸、綿屑等の仕末を一定の方法によつて授け、整然たる整理を常になし置くこと。又用具には一々記名し常に不足品なきやう取揃へ置くこと。

其の他學校の備品の如きも、使用後は叮嚀に後仕末をし、一定の場所に必ず納めること。始末悪しきために、破損を早める等の如きことがないやう、用具の使用上にも注意させる事が大切である。

以上の如く用具取扱上の注意をするのは甚だ緊要の事であるが、實際教授の際とかく等閑に附し易い傾向があれば教師は特にこの點に留意し、然も永続的、習慣性となる迄不斷の訓練が大切である。

三三、樺太廳(第一編小學校裁縫教授細目の部参照)

第三節 訓練及養護の問題並に解説

第一 訓練の問題

- 一、訓練の意義を説き併せて、裁縫科に於て訓練を行ふ、機會多しといふ、例を擧げて説明せよ(大分縣)
- 二、訓練の意義を述べて教授との關係に論及せよ(熊本縣)
- 三、訓練の任務を問ふ(香川縣)

裁縫科受験準備講義

- 四、命令、禁止に關する注意に就て述べよ(長野縣)
- 五、訓練に統一の必要なる理由を述べよ(奈良縣)
- 六、學校作業の訓練的價值如何(滋賀縣)
- 七、兒童の性癖の主なるものを挙げ之れに對する取扱の要領を簡單に述べよ(京都府)

第二 訓練問題の解説

一、大分縣

訓練の意義。訓練は教育の目的を達成する三つの手段(教授・訓練・養護)の一つであつて、實行を導いて、道德的品性を陶冶することである。小學校々令第一條の道德、教育の基調は訓練に於てなすべき事であれば誠に大切なものである。

裁縫科に於ては其性質上之れを教授する際教師この點に留意したならば訓練の機會甚だ多きものである。今其の例を挙げれば次の如し。

1. 個性觀察の機會が多い。

技能科は其の實習中、個人指導の機會が非常に多い故に赤裸々な兒童の個性をつかむことが出來得る、従つて個性を觀察する機會も非常に多い、故に此の機をとらへて個人に適應した

訓練を施すことが出來得る。

2. 種々の良習慣を養ふことが出来る。

裁縫教授の際心身の陶冶の機會甚だ多く、忍耐、綿密、秩序、清潔、整頓等の良習慣を養ふことは云ふ迄もなく、その他美的思想を養成し、思考力を増し、勤勞愛好の精神をも養成される。故に教師は常に此の點に留意して用具の使用法を始め布帛の取扱ひ等細心の注意を拂つて、裁縫に對する眞の自覺を起させ、適當な機會を利用して絶えざる訓練を施すことが大切である。

二、熊本縣(一)大分縣参照、教授の部(一)東京府参照)

三、香川縣

兒童の感情及意志を道德的にして、性格の完成を計る教育作用が訓練であれば、一般の順序として先づ兒童の幼少なる間は習慣養成を主として、他律的であるが、長ずるに従つて徐々に自律的な性格陶冶に導かねばならぬ。即ち訓練の任務は最初善良な習慣を築き上げ、知、行、合一の域に迄達成させるにある。

四、長野縣

命令も禁止も共に教師が意志を明にして兒童に服従させることである。命令は積極的にさせべき所をさせることで、禁止は消極的になすべからざることをなさしめざることである。注意すべきことは。

1. 正しくして實行の出来るものであること、不可能のことを強制すれば兒童を無氣力に陥らせたり、憎惡の念を起させたりして却つて教師の威信を落す様になることがある。
2. 簡單明瞭であること。
3. 一時に多くせぬ事。一つの仕事が終わつて後他事を命ずるがよい、でない、何れも徹底しない。
4. 必要の時にのみする事。即ちなすべきことをせぬ時、なすべからざることをした時にのみする。さうでなく多すぎれば何とも思はなくなるからである。
5. 終始一貫すること。人により時により變へない。教師が多い場合には特に統一を保つ様にせねばならない。
6. 正しく無理でなければ必ず實行させること。
7. 幼少の中は理由を示さずに従はせる。そして後になつて必要なことを覺らせればよい。理由を一々示すと理屈をいつて行はぬ様になるからである。

五、奈良縣

訓練の目的は道德的品性を築くのにある、道德的品性は行爲が道德的に同一方向をとつて間違のない状態になつたものを云ふ。故に訓練の効果を擧げるには意志を同一方向に向ける様にしななければならない。然るに訓練が不統一で、或る教師は禁止するが、他の一方の教師は命令する、又同一教師でも、時によつて前後矛盾を來したりすると、兒童は去就に迷つて確固たる意志を養ふことが出来得ない、故に訓練の統一を必要とする所以である。

六、滋賀縣

學校作業の訓練的價値は

1. 役にたつ人にする。
2. 人を活動的にする。
3. 共同作業では共同一致の精神が養成される。
4. 義務心や忍耐力を養成する。
5. 身體を強健にし四肢を器用にする。

- (一) 一口に性癖といつても非常に範囲廣く且つ多い故その重なるものを擧げる。
- (二) 放縱、規律の大切なことを體得させる又あまり急に取しまりを嚴格にすると卑屈にさせるその點注意。
- (三) 強情、正面からおしつけると反つて反抗心を強くする故巧に、興味を適當の方面に轉換させることが必要である。
- (四) 怯懦、親切と同情を以て導き常に勵賞する。
- (五) 過敏、教師は疑をもたせぬやうに明確な言動をなすにつとめ、兒童には自制心を強くさせる。放心、規則正しい生活をさせるのが何より大切である。出來得る丈、誘惑の刺戟と機會を少くする。
- (六) 輕躁、作業を秩序依然とさせる。又忍耐の習慣をつける。
- (七) 盜癖、常に他人の物品と自己の物品との區別觀念を明瞭に自覺させ、その盜の恐ろしさを覺らせ、家庭と連絡を保つて、學用品に決乏を來さぬやう深い注意をし、溫愛を以て指導に當る。
- (八) 虚言、之の原因にも種々あるが、あまり兒童の過りなどに對しあまりひどくしかつたりせめた

りすると恐怖の結果虚言をつくやうになれば日頃の取扱上に注意を要す。

第三 養護の問題

- 一、養護の目的を説明せよ。(高知縣)
- 二、養護上主要なる事項を概説せよ。(千葉縣)
- 三、作業を課するに際し養護上特に注意すべき事項を述べよ。(和歌山縣)

第一 養護問題の解説

一、高知縣

養護の目的は被教育者の身體を助長し健康を増進して心意の自由なる活動を遂げさせ、生活の基礎を強固ならしむるにある。「健全なる精神は健全なる身體に宿る」といふ諺の如く知的、能力も道德的感情も意志も身體の状態によつて影響を受けるのである従つて體育は教育上知徳の陶冶と相並んで重大なる一面を占むるものである。

元來身體の養護には消極的積極的の二方面がある。消極的とは即ち兒童の健康を保持しこれを増進する上の障害を除く作用を云ひ、積極的とは即ち鍛練の事であつて身體各部の強固を増進する作用をいふのである。従つて養護究意の目的は被教育者をして自覺的に自己の身體を尊重し、

自ら發奮努力してその健康と體力との増進を企圖させるにある。

二、千葉縣

養護上主要たる事項左の如し

1. 學校の設備及管理に於て衛生に注意し、兒童身體の諸機關及諸機能を保護すること。
2. 體育上必要なる知識を授け、その實行を獎勵すること。
3. 體育上必要なる習慣性を養ひ永く之れを繼續させること。
4. 遊戲、體操及作業などによりて積極的に身體の練習及鍛練をさせること。
5. 低學年は消極的より遂々に積極的に導くこと。

三、和歌山縣

作業を課する上の養護上の注意は、

1. 疲労に注意する事。
2. 姿勢に注意する事。
3. 身體に有害な作業は豫め之れを避ける事。

第四節 術語の意義の問題並に解説

第一 術語の意義の問題

- 一、左の術語の意義を簡單に述べよ(東京府)
 - イ、義務教育とは何ぞ。
 - ロ、教授細目とは何ぞ。
- 一、次の各項につきて説明せよ。(岡山縣)
 - イ、積極的養護。
 - ロ、選擇架設教科目。
 - ハ、粘液質。
- 一、左の事項に就て叙べよ。(熊本縣)
 - イ、示範。
 - ロ、直觀教授。
 - ハ、意識。
 - ニ、教授段階。

第二 術語意義の問題の解説

一、東京府

(一) 義務教育とは國家其のもの、存続發展から考へても、亦國民の福利を増進する上から考へても國民が總べて一様に或程度の教育を受け、或程度の道徳的知的修養を積む事が必要である。従つて國家は國民の教育を父兄の自由に任せず、之に干渉を加へ、兒童をして必ず國家の要求する最低限度の教育を受けさせる必要がある。之を義務教育といふ。義務教育は獨逸に始まり現今では苟も文明國と稱せらる國で此の制度を採らぬ國は無い。我國では明治五年學制の頒布以來幾多の改正を経て、明治四十年二月義務教育年限を六年に延長し、凡て保護者はこの期間兒童を市町村立小學校に入學させるか、又は市町村長の認可を受け家庭又は其他に於て尋常小學校の教科を修めさせねばならぬ事になつてゐる。而し六ヶ年の義務教育は之を歐米諸國に較べて尙短い爲に、之を八ヶ年に延長しやうとする意見が今盛に行はれてゐる即ち國民の誰もが六ヶ年の教育を受けるそれを義務教育といふ。

(二) 教授細目とは小學校に於ける教科課程教科用書及教授の期間などは、法令により劃一に制定されてゐるけれ共、尙實際の教授に當つては土地情況、兒童の發達、學校の編制等諸種の事情を

顧慮しなければならぬから、學校ではよく之等の事情を考量し、適切に其の學校の境遇に適應する様に教材を選択排列し一學年間の教育の進行を豫定せねばならぬ。此の校定の標準豫定案を名づけて教授細目といふのである。

教授細目といふ名稱は明治二十三年小學校令の發布に伴へる「小學校教則大綱」に始まり同時に此の制定を小學校長の職務に屬させたものである。

二、岡山縣

(一) 積極的養護身體の養護には積極的及消極的の二方面がある。積極的養護とは即鍛練の事である。身體各部の強固を増進させる作用をいふのである。體操遊戲、競技、水泳、擊劍等ひろく運動と稱せらるものは皆之に屬するのである。

(二) 選擇架設教科目現行小學校令第十九條及び第二十條の規定により、土地の狀況により加設し得べき教科目は尋常小學校にありては圖畫(尋一、二)及手工、高等小學校にありては手工、農業、商業、家事(女)圖畫、外國語其他である。之等を加設科目といふ而して第二十條の規定によりて、高等小學校の加設科目は隨意科目又は選擇科目と爲す事が出来る。選擇科目とは兒童をして二科目以上の中自由に選擇させ得る科目をいふのである。

(三) 粘液質は不動質とも云ふ。興奮する事遅く弱く謹直なれども薄志とある。膽汁質の反對に當る

三、熊本縣

(一) 示範とは教師が自ら模範を示して兒童に倣はせることである。故に示範は常に自然的でなくてはならぬ。範を垂れんがために殊更に飾れば兒童の鋭敏なる直覺は直ぐに之を直感し、教育者の行動に表裏ある事を認め引いては誠實の徳を失ふ事になる。

(二) 直觀教授直觀(注意を以てなされたる知覺)による教授を直觀教授と稱し、兒童の有する粗雜なる知識を補正すると共に、確實なる知識の根底を築く事を其の目的とするものである。

(三) 意識とは覺醒せる心の状態の總稱である。率到又は熟睡せる時の如き場合を無意識の状態といふ。又將に眠りに入らんとする瞬間の如く、この二つの状態の間に彷徨するを半意識の状態といふのである。人は絶へず身體の内外から種々の刺激を受ける。この刺激が神經を動かして種々の意識を起させる。然し單に刺激のみで意識の起らない時もある。即ち意識を成立させ條件として注意と記憶の作用を缺くことが出来ない。

(四) 教授段階教法は之を適當たる教授段階に區分しなければならぬ。現今最も適當と認められてゐる教授段階は左の如くである。

第一段豫備

1. 目的指示 具體的の内容を有し、繁簡宜しきに從ひ、兒童の理解力に適し興味を喚起するにある。
2. 既有知識の整理 舊觀念を整理して、新教授に對する基礎觀念を定め、期待心を喚起するにある。

第二段提示

1. 提供 分量は兒童の理解力に應じ、方法は教材の性質によつて斟酌する。
2. 復演 分節の復演と全體の復演とあり。
3. 深究 事物の關係を探らせるのが目的である。

第三段總括

此の段の任務は新に授けた事項の整理總合にある。

第四段應用

識得理解せしめた知識を、確實鞏固のものにすると同時に其運用を自在にし實際生活との聯關をはかり、又思想を統一するのがこの段階の任務である。

幾幾科受験準備講義

指導案の問題

- 一、一ツ身單衣衿附の指導を作れ但し尋常科第五學年。(奈良縣)
- 一、尋常科第五學年に於て一ツ身單衣を教授するに其の豫定を作り且つ最初の一時間の教案を作れ。(福井縣)
- 一、本術を教授する時の要領を説明し其の教授案を作れ。(香川縣)
- 一、尋常科第六學年に於て襟の部分縫を教授するものとしての教授案を作製し教授方法を附記すべし。(佐賀縣)

(備考) 指導案の解答は掲載を省く。故に第二編第二章、茨城縣女子師範學校の指導案を参照の事。

第二章 和洋服裁縫理論の部

第一節 男袴の問題並に解説

第一 男袴の問題

- 一、並巾の布を以て紐下八十五纏に仕立上ぐべき男袴の裁ち方を圖解し積り方算式を記せ。
(神奈川縣)
- 二、二丈四尺五寸の袴地あり之を紐下二尺二寸五分の男袴を裁たんとす裁切後丈は如何程となるか、裁方圖を示し之に各部名稱並に裁切寸法を記入すべし。(長崎縣)
- 三、幅七十五センチメートル、丈四メートル七十五纏の布にて男袴の裁ち方如何、裁方圖を描き各部寸法を記入せよ。(但し襠附)(埼玉縣)
- 四、二尺巾一丈二尺五寸の縞セル地にて男袴を裁たんとす、裁ち方圖解をなし中に寸法を記入せよ。(群馬縣)
- 五、セル地長さ一丈三尺の用布にて本裁男袴無袴裁ち方及び後襲の取り方を明記せよ。(福島縣)

六、四メートル五十五糎のセル地にて本裁男袴無袴を裁ち其の普通仕立上げ寸法及割り出し方も述べよ但し紐下は八十三糎とす。(鳥取縣)

七、並巾一〇五三糎(二丈七尺八寸)にて十布遣男袴を裁合せ雙取方を簡単に圖解せよ。尙十布遣男袴の良否につき意見あらば併記せよ寸法はなるべくメートル法によること。(愛媛縣)

八、十四五才用男袴(襠有)の裁方積り方を記せ。(富山縣)

九、セル地七尺を以て八九才用男袴を裁つ可し。但し紐下は出來上り一尺五寸とす。(福井縣)

一〇、並巾長さ一丈一尺五寸の布を以て七八才男子用袴を調製せんとす。左の事項につき答へよ
(大分縣)

(イ)裁方圖、(ロ)各所の裁切寸法、(ハ)後布の匔付方。

一一、男物單衣の古着一枚を以てなるべく大なる男子供袴を裁たんとす。その方法如何、

(鳥根縣)

一二、男袴を圖示し各部の名稱を記入し寸法の割出方を記せ。(和歌山縣)

一三、男袴裁方寸法。割出し方を記せ。(栃木縣)

一四、大人袴の普通仕立上寸法を左に記入せよ。(奈良縣)

イ紐下、ロ相引、ハ後巾、ニ後腰巾、ホ前脇巾、ヘ前腰巾、ト笹襷巾、チ寄襷巾、リ懷重前後、以上。

一五、男袴の後巾及前巾の標附方。(佐賀縣)

一六、男袴の腰立糸掛順序を圖解すべし。(長崎縣)

第二 男袴の解説

【問題概観】

全國試験問題中の理論の部に於いて男袴に就いての問題が其の數に於いて最高を示してゐる。即ち十六題で全體問題中の何割である。故に一般的に見て最も教師としての技術は其の中心を男袴に置かれるといつても決して過言ではない。従つて其の理論方面に就いても、細部に渡つて研究をする必要がある。其の男袴に就いての問題を一括して見ると、言語の終りや初めは異ふが期する所は。即ち左の通りである。

1. 大人より七八才及十五才迄のもの。
2. 裁方及圖解。(並巾の裁方、二尺巾の裁方)
3. 積り方算式。

4. 襟有、襦無。
5. 寸法の割出し方と縫の取り方。
6. 後巾前巾の標附方。
7. 裁ち方に際して寸法を名示しあるものとなきもの。
8. 裁切寸法及仕立上寸法。
9. 各部の名稱。
10. 腰立糸の順序。

故に以上に基きて研究の歩を進め、應用、自由、自在に確信のつく迄努力せねばならない。以下、各問題に就いて細かく解説をしよう。

一、神奈川県

裁方圖上の如し

【裁切寸法】

- | | |
|---------|-------------|
| 後丈、九九纏 | 後奥、九八纏 |
| 前布、九九纏 | 前奥布、九六纏 |
| 小襦、六〇纏半 | 腰布、二三纏(二枚分) |
| 紐布、六八纏 | 切上げ、一〇纏 |
| 襦丈、五二纏 | 乗間、三五纏 |

積り方中裁違とあるは、後丈を標準として後丈を八倍にしたが實際は後奥で二纏、前布で六纏、前奥布で六纏、後丈より短く、都合一四纏短く積つて布を裁切る時に前布と前奥とは裁違とするのである。故に其の分を裁違ひとして引き去つたものである。

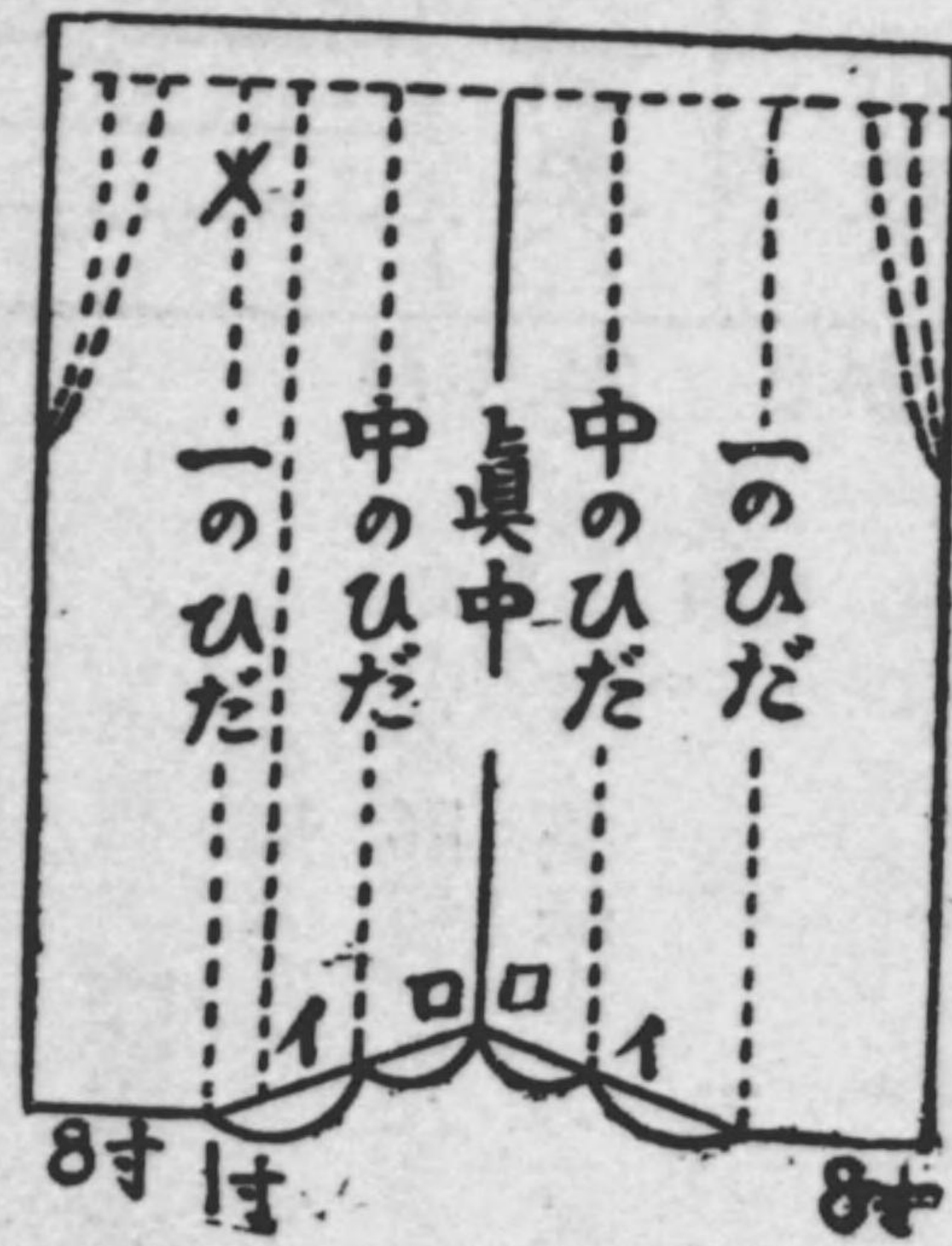
重巾男袴の裁方圖



後丈 小襦丈 腰布 紐丈 裁違
 $99.cm \times 8 + 60.5cm + 33.cm + 68.cm - 14.cm = 938.5cm$

3. 左脚は一の襷の所で標より四纏弱出して折りを折り重なり分として置き、中襷は右脚と同様折りを折る。
4. 中襷は両方の折目を真中の所に突合せて襷を掛けて置く。次に左脚の方重り分を真中に重ねて右脚の一の襷を印の所に重ねて雄針雌針の襷を掛けて出来上りとする。(女物袋襷に同じ)

後襷とり



六、鳥取縣

裁方圖及裁切寸法左の如し。

一、【裁切寸法】

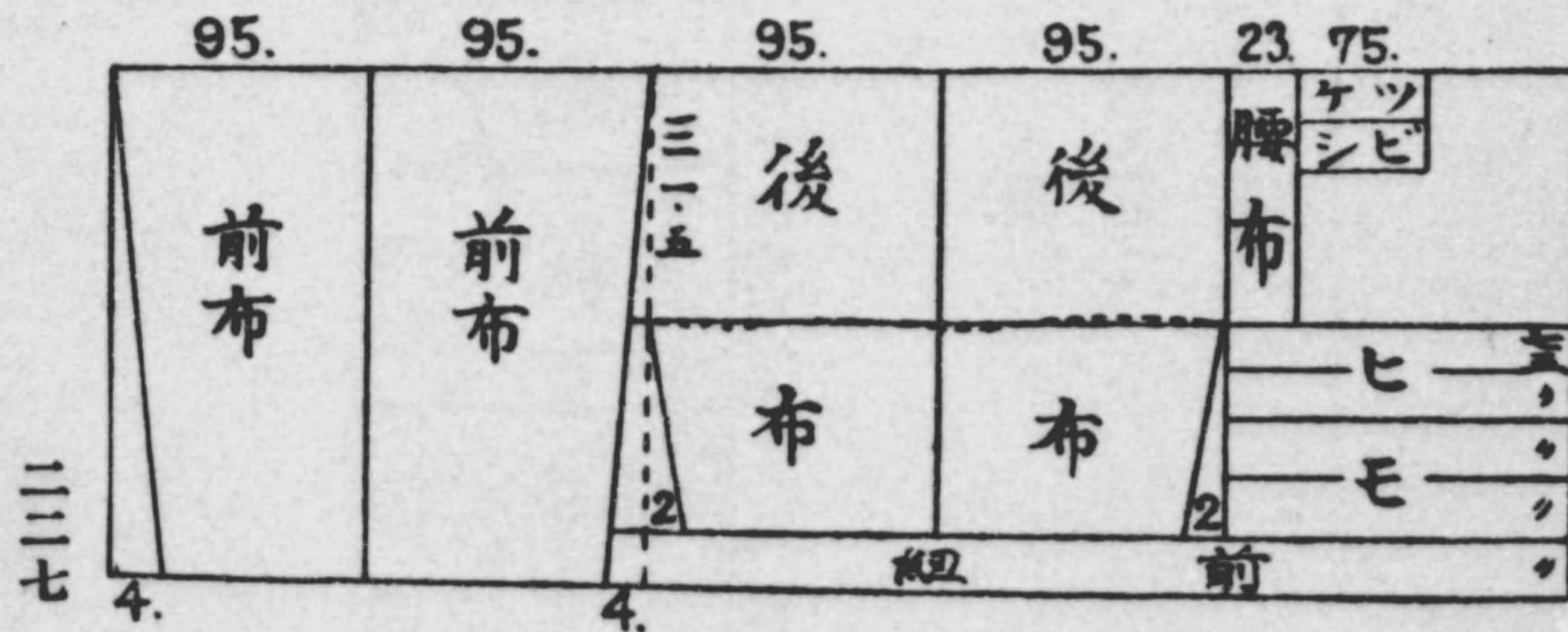
- 後丈、九五纏。 前丈、九五纏。
- 後紐丈、七五纏。 腰布丈、二三纏。
- 切上げ後、二纏。 同前、四纏。

二、【普通仕立上寸法】

- 紐下、八三纏。 相引、五五、五纏。
- 後巾三〇纏。 腰巾、二四、五纏。
- 後重ネ、三、五纏。 腰板巾、二四、五纏。
- 腰板高、八、五纏。 附菱高、二纏。
- 一ノ襷巾一八纏。 前腰巾、三〇纏。
- 前寄襷巾、三纏。 同下、六纏。
- 笹襷巾、四纏半。 切上げ後、二纏。

裁縫科受験準備講義

大巾(75cm)男襟無袴の裁方圖



総用布 紐丈 後丈
 $(455\text{cm} - 75\text{cm}) + 4 = 95\text{cm}$

同前、四種。

前重ネ、三、五種。

三、【割出方】

紐下、着丈の十分の六。

相引、紐下の三分の二。

後中、着物の後巾と同寸。

腰巾、後巾の四分の三に二種を加ふ。

腰板巾、上巾腰巾の六分の四腰板と同寸。

七、愛媛縣

十布遣の裁方圖上の如し。

【裁切方法】

後丈、九七種一。

後奥、九六種一。

前布、九三種一。

前奥、九三種一。

前檔、九〇種一。

襠丈、五三種。

腰布、一一種半。

後紐丈、七五種。

切上げ、六種。

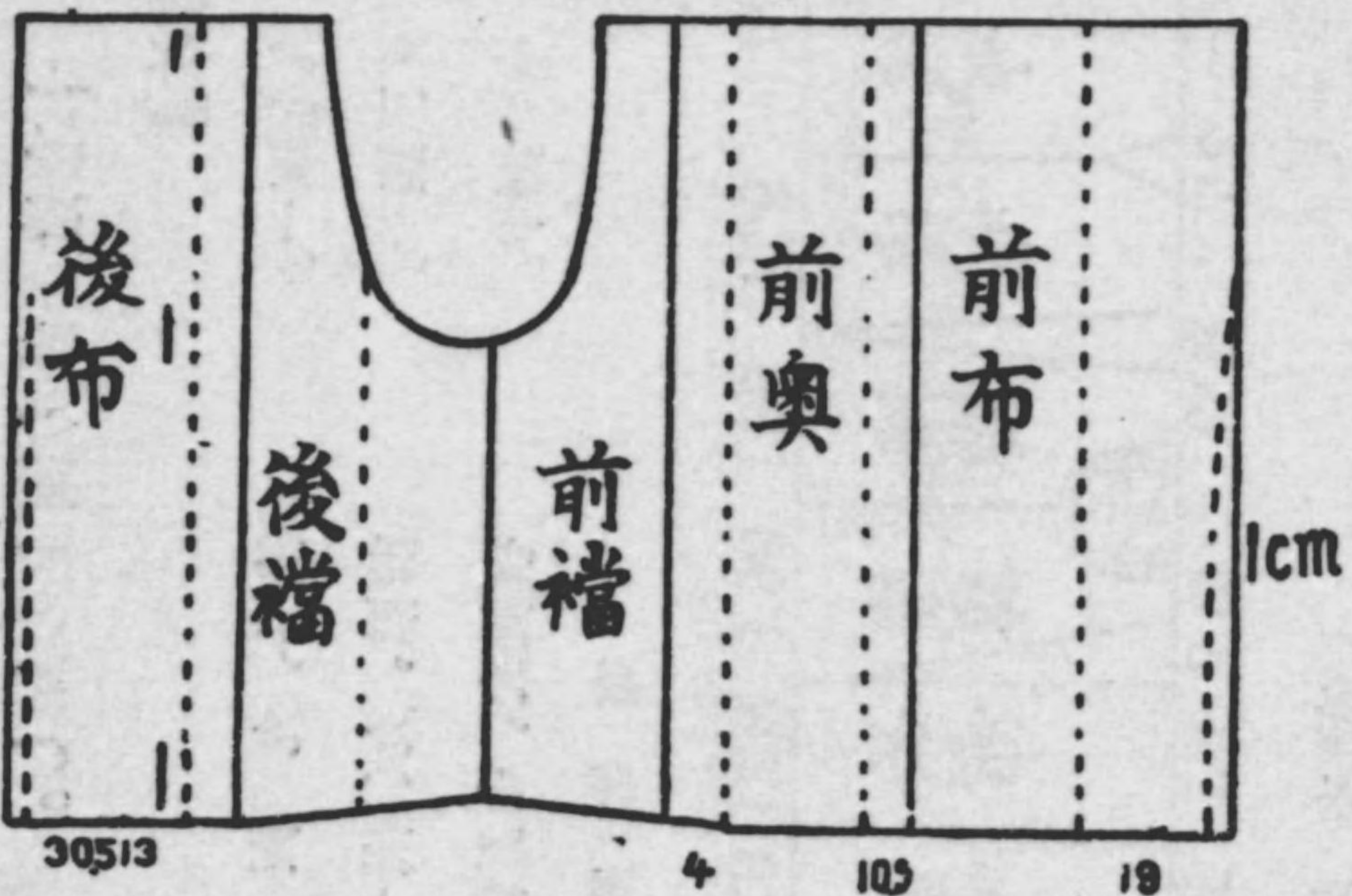
十布遣男袴の裁方圖



總用布 紐丈 腰布 丈違 後丈

1053.-(75+34)+27+10=97.1

同 上 後 襲 取 り 圖



十布遣の男袴は用布充分なる場合の裁方にして長所とする所は襲深く仕立てられる點にある。故に身體の肥大なるものには、着用後の形宜しく従つて、はき心地も宜し、されば普通の男子には十番袴にて充分なり。また十番袴にて多少襲淺き感を抱くものには、裁違ひ褶の裁方で充分である。故に身體特別に肥大なる人を除いては、十布遣を使用する必要を認めず。上述の如く十布遣の裁方の短所は用布不經濟の點にある、故に一般的の裁方ではない。

八、富山縣

十四才用男袴の裁方上圖の如し。

【裁切寸法】 (但し釧尺に依る)

後丈、二尺二寸五分。 後奥、二尺二寸二分。

前布、二尺二寸五分。
紐丈、一尺七寸。
切上げ、一寸四分。

前奥、二尺一寸八分。 褶丈、一尺一寸。
腰布、五寸七分 (裏表二枚) ツケピン、三寸。

十四才用男袴裁方圖



後丈 裁違 ツケピン 褶丈組に腰布總用布
 $22.5 \times 7 = 157.5 + 3 + 11 + 17 + 5.7 = 192$

九、福井縣

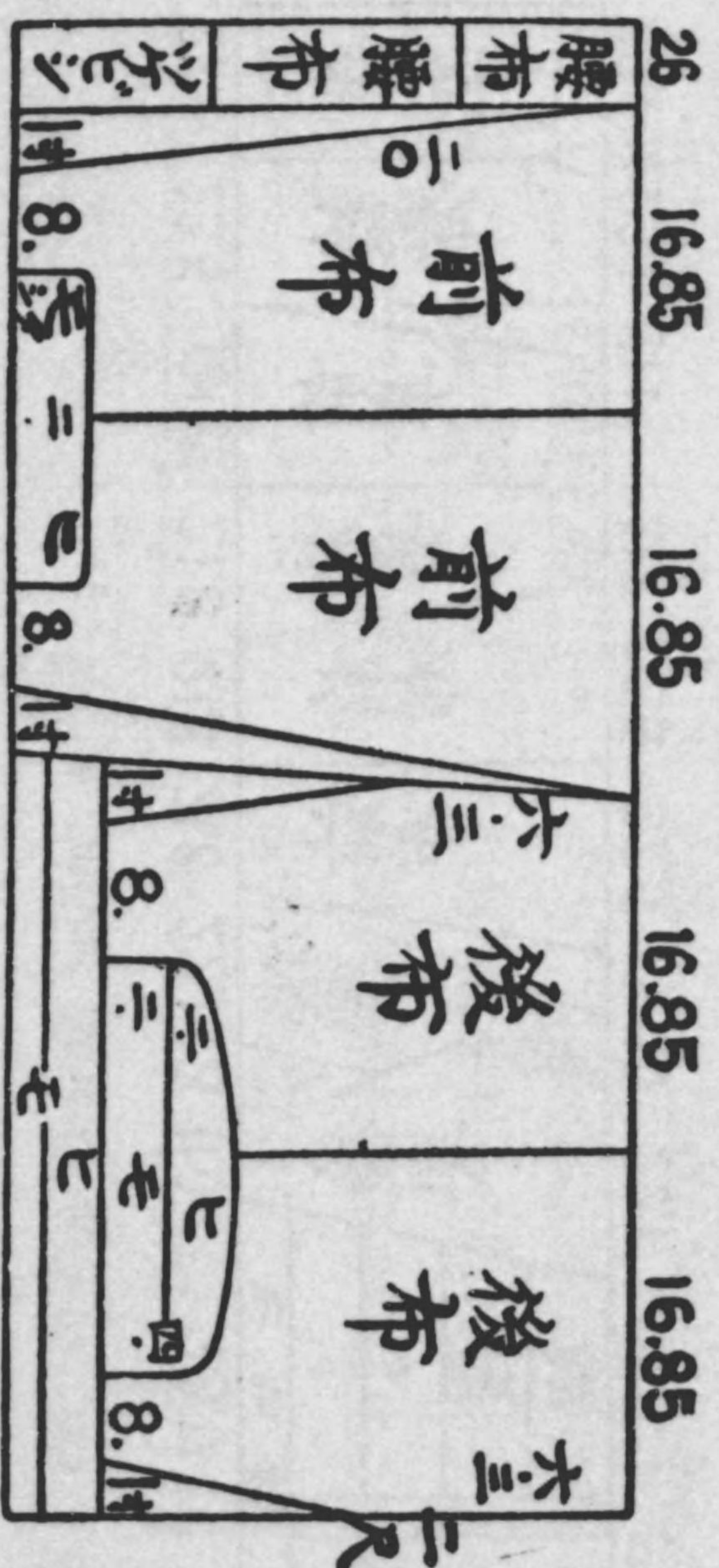
八九才用男袴の裁方上圖の如し。

【裁切寸法】

裁縫科受験準備講義

後丈、一尺六寸八分五厘。 後巾、六寸三分。 後紐丈、一尺七寸。
 前丈、一尺六寸八分五厘。 前紐丈、七尺。 襠ノ高さ、八寸。
 腰布巾、二寸五分。 腰布丈、七寸。 紐巾、二寸、
 切上げ、一寸。

大巾物八九才男児袴裁方



後丈 腰布 總用布
 $16.85 \times 4 + 2.6 = 70$

並巾にて八九才用男児袴を裁つには後布及び前布を一巾に裁ち後奥は半巾、小襠はなく、前奥の一部をくつて乗間とするのが普通である。故に大巾で之を裁つ場合は後巾と後襠をつまげて後の布として紐を二本取る。前は前布と前奥とをつまげて圖のやうに裁つ。

一〇、大分懸

裁方圖左の如し。

並巾にて七八才男児袴の裁方圖



總用布 後奥 腰布 裁違 後丈
 $\{11.5 - (11.5 + 5) + 6\} + 6 = 16.6$

【裁切寸法】

後丈、一尺六寸六分。 後奥、一尺一寸。
 前丈、一尺六寸六分。 腰布、五寸。
 乘間、七寸。 切上げ、一寸。

【仕立上寸法】

後巾、五尺五分。 紐下、一尺九寸。
 相引、一尺。 腰板巾、五寸。

後布の標をするのに右の仕立上寸法によつてする。投げは中折になる方出来上りの標より五厘狭くすると。

後襷は上下五分位斜にする方法があるが此所では眞直に柳條を通すこととした。

一一、島根縣

男物單衣の古着で男子(大きい)子供袴を裁つに先

づ男物單衣の普通裁切寸法を調べるに次の如し。

(十七八才用として)

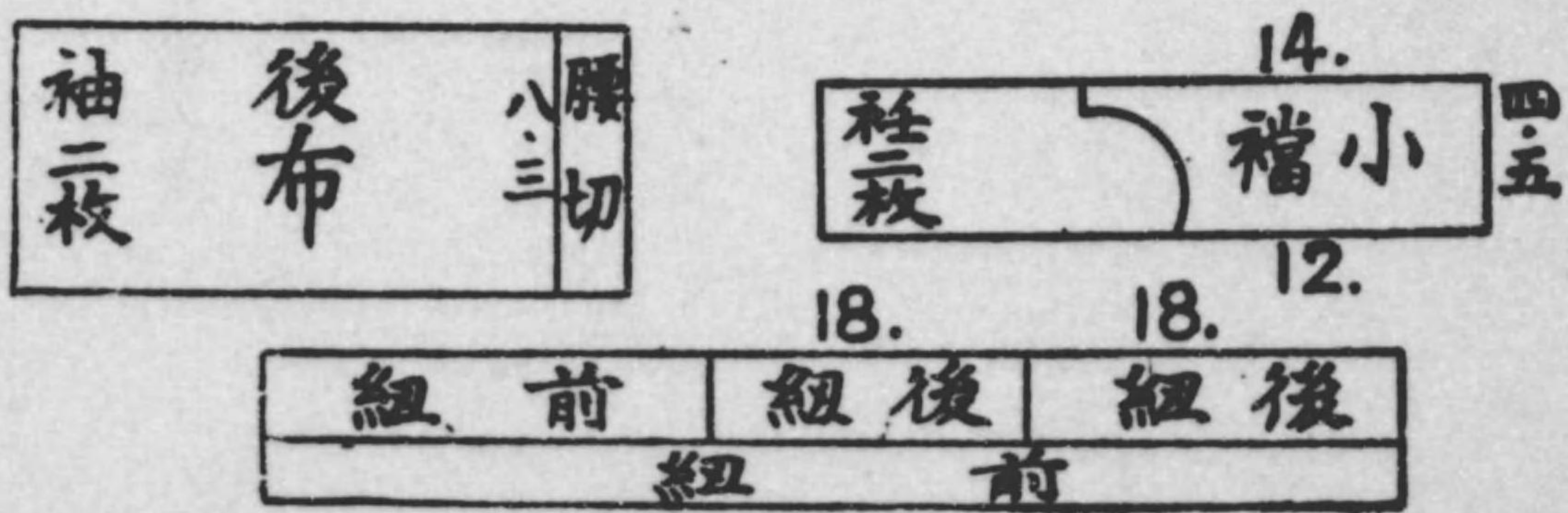
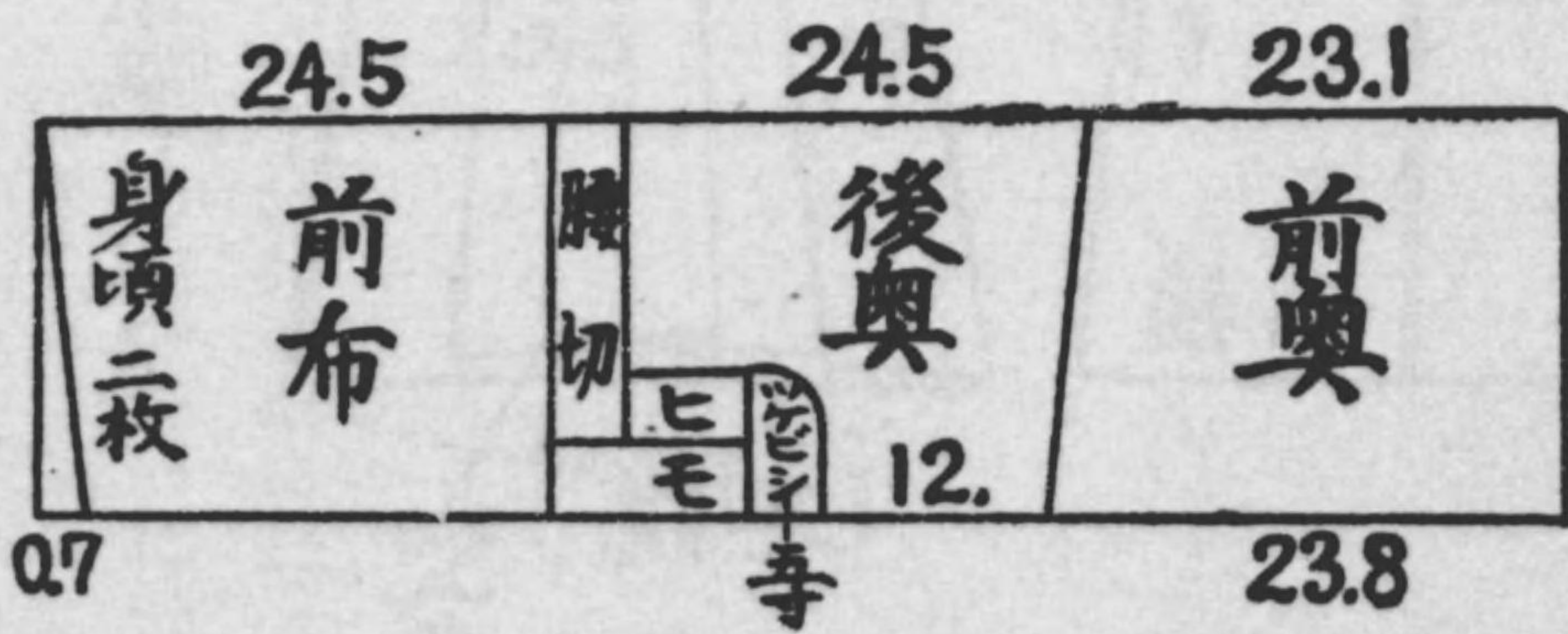
袖丈、一尺四寸。 身丈、三尺八寸位。
 衿は捧衿でも鈎衿でも宜し。

【袴裁切寸法】

後丈、二尺四寸五分。 切上げ、一寸四分。
 乘間、九寸。 後巾、八寸三分。
 襠丈、一尺二寸。 後紐丈、一尺八寸。
 前紐丈、八尺。 腰布巾、三寸。

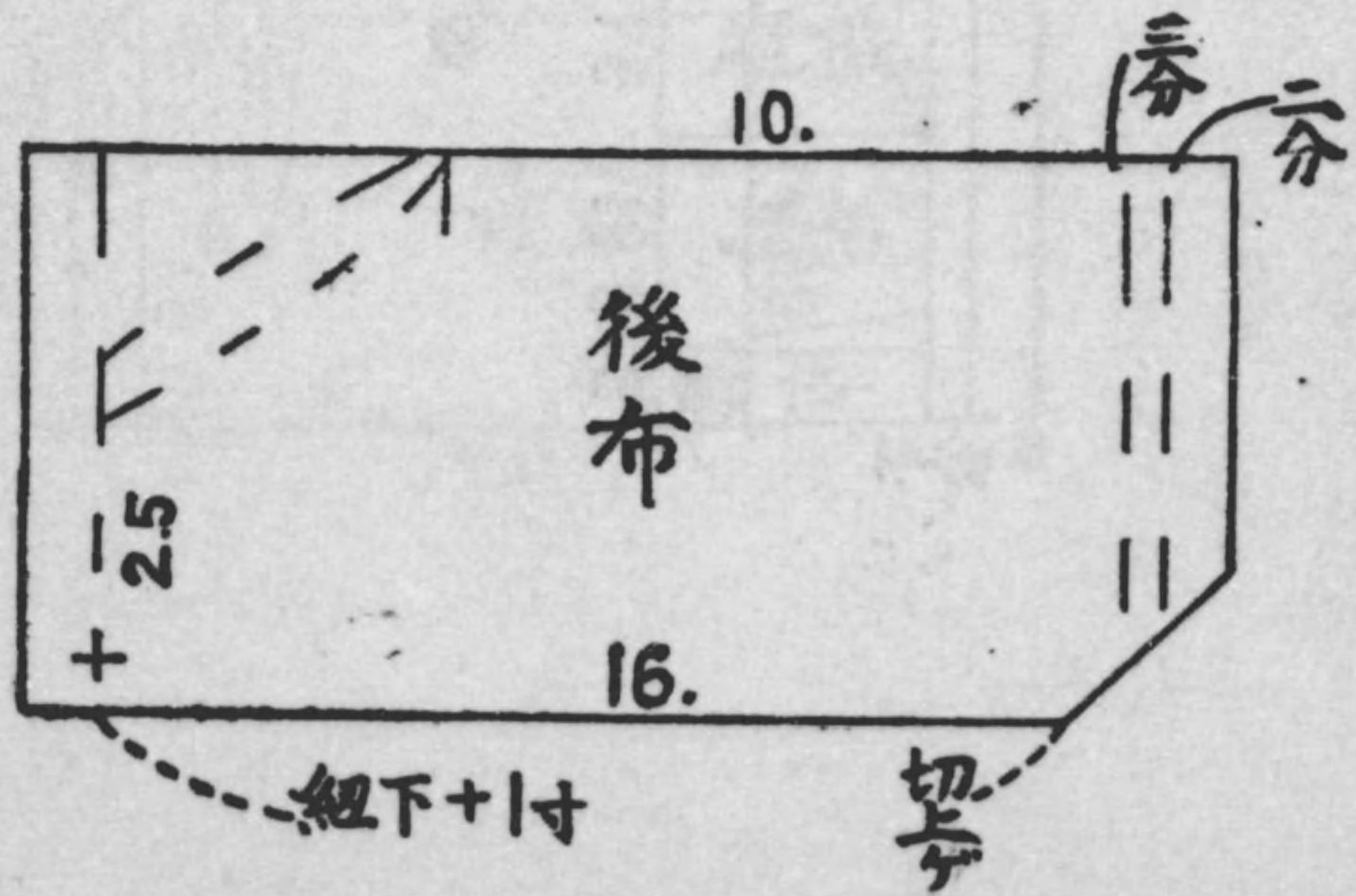
(備考)要するに應用の能力があれば左程困難な問題でない。袴そのもの寸法及裁方圖、各部名稱さへ確實に記憶して居れば必ず出来る問題である。同時男單衣の裁切寸法が基礎となりその上に解決される問題である。

裁縫科受験準備講義



二三五

後布標附方圖

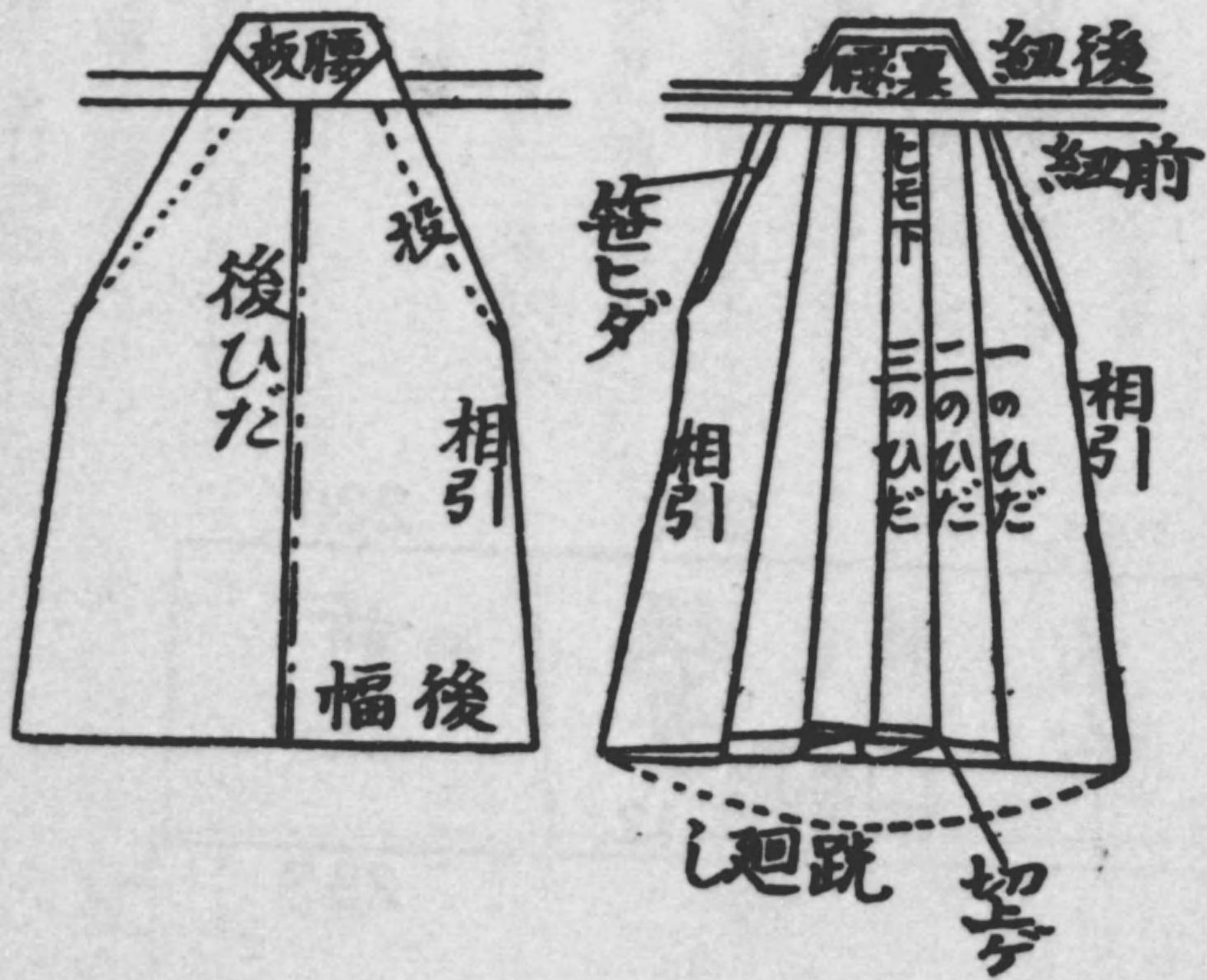


二三四

一一、和歌山縣

寸法割出方は栃木縣問題参照されよ。

男袴各部名稱圖



一三、奈良縣

問題には大人袴とあつて男女何れとも明示がない故に男袴仕立上げ寸法を記す。

紐下、二尺二寸五分。

相引、一尺五寸五分。

後巾、八寸。

後腰巾、六寸五分。

前脇巾、四寸八分。

前腰巾、八寸五分。

笹襷巾、一寸二分。

寄襷巾下、一寸五分。

同上、七分五厘。

懷重前、一寸四分。

同後、八分。

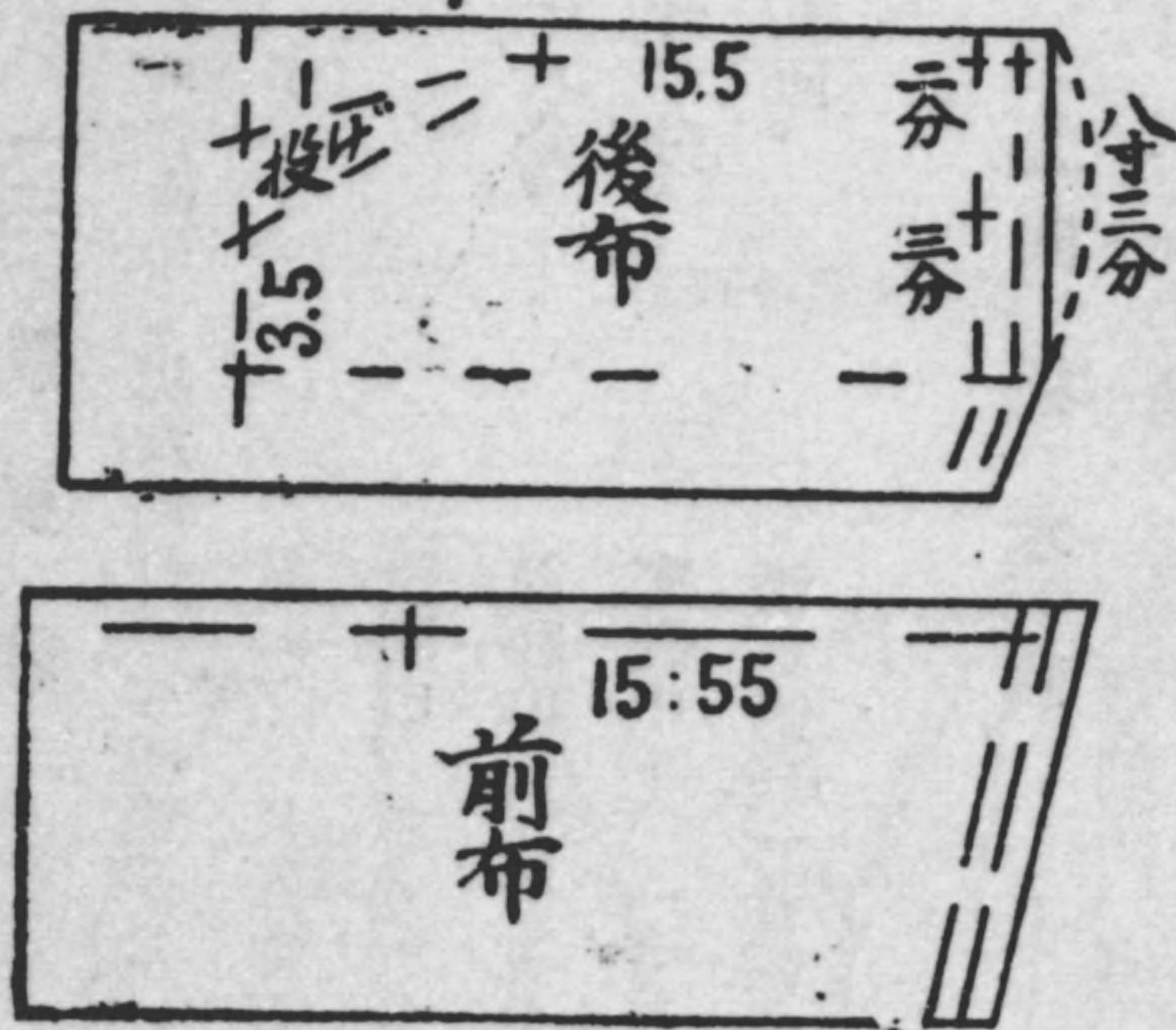
一四、栃木縣

男袴寸法割出し方次の通り。

1. 紐 下、着物の着丈の六割とする。
2. 相 引、大人物は紐下の三分の二に五分を加へ、子供物は單に紐下の三分の二とする。
3. 後 巾、大人物は着物の後巾に同じ。子供物は紐下の三分の一に一寸を加へる。
4. 後腰巾、後巾の四分の三に五分を加ふ。

5. 前腰巾、大人物は仕立上げの後巾と同じ。子供物は之に五分以内を加へる。
6. 脇腰巾、後巾の五分の三とする。
7. 寄せ腰巾、上は後巾の十分の一、下は五分の一より一分を減す。
8. 笹腰巾、脇腰巾の四分の一とする。

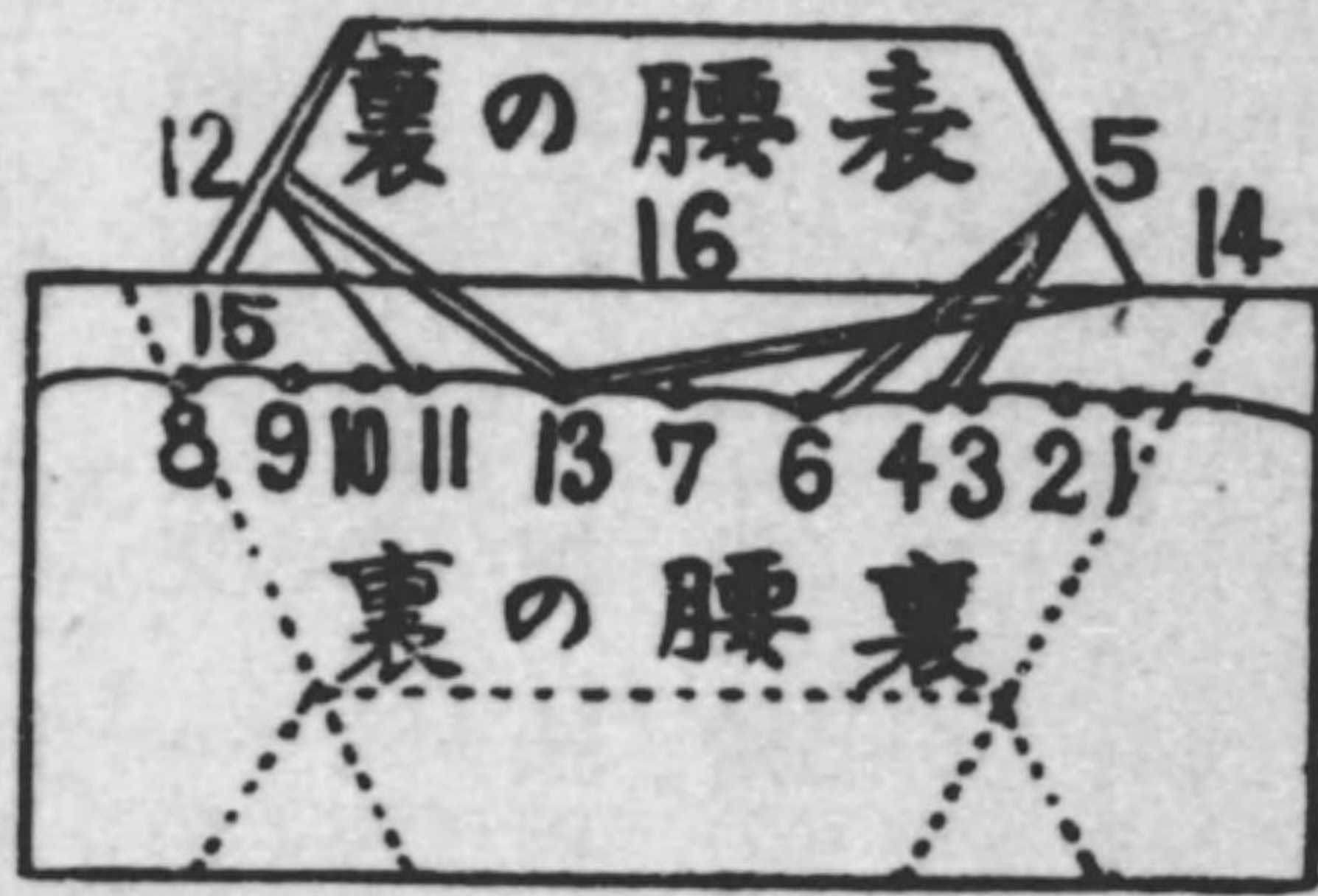
男袴標附圖



一五、佐賀縣

(備考) 後巾は上部で五分曲げる方法があるが此所では真直の方法を取る。

男袴腰立糸の掛け方圖



一六、長崎縣

男袴の腰立糸の掛け方は、流儀によつて多少其の掛け方順序即数が異つて二十又は十八で留める方法もあるがこゝでは十六回で留め終る方法を掲げた、裏腰點線は出来上りの際の折り方を示すものである。

第二節 洋服問題並に解説

第一 洋服の問題集

子供服及下着、シャツとツボン下

- 一、四五才用女兒簡單服裁ち方圖を描き各部寸法を記入し且つ縫方順序に従ひ縫ひ方を説明せよ
(但し胸圍は五十寸位を普通とす)(埼玉縣)

- 二、四五才女児用簡單洋服の型取り方を圖解せよ。(茨城縣)
- 三、五六才女児服を裁縫するに當り次の事項を明記せよ。(新潟縣)
 - (一)標準寸法、(二)割り出し方、(三)裁ち方圖解及寸法(用布の中七十二纏)
- 四、用布巾六十八纏。長一メートル三十六纏にて五六才用女児服を裁ち方圖にて示せ。(青森縣)
- 五、女児洋服身頃型の割出し方を詳細に圖解せよ。(千葉縣)
- 六、女児三才用簡單服の裁ち方を圖解せよ(但し出來上り圖記入の事)(石川縣)
- 七、巾七十五纏の布にて簡單服の裁方を圖解し各部の寸法をメートルにて記入せよ。(山口縣)
 - (イ)年齢三四才女児、(ロ)形狀隨意、(ハ)仕立上り圖隨意。
- 八、四五才用子供服身頃型割出し方を圖解せよ。(熊本縣)
 - 但、胸丈二十三纏、胸廻五十二纏、背巾二十二纏、前巾二十二纏、衿廻二十八纏。
- 九、十二三才女児洋服下着の裁方縫方を問ふ。(樺太廳)
- 一〇、尋常科三、四學年の男児に適當する運動シャツ及ズボン下裁方を圖解せよ。(山形縣)
- 一一、用布巾七十纏丈九十五纏を以て六七才用女児コンビネーションを裁つべし。(富山縣)
- 一二、大巾一丈一尺の布にて胯下一尺八寸のズボン下と後丈二尺のシャツとを裁つ圖解して寸法

を詳細に記入せよ。(長野縣)

- 一三、巾二尺長さ一丈七寸の用布にて大人物シャツ、ズボン下を作らんとすその裁方を如何にすべしか但し寸法隨意とす。(岩手縣)
- 一四、五六才用男児水兵服の上着を小倉地にて作らんとす裁方圖を記し寸法を記入せよ。

(北海道)

一五、女児用服地夏向のものを五種あげよ。(埼玉縣)

一六、下圖仕立上りのブラス各部の製圖をなせ。(岡山縣)



エプロンの部

- 一、五六才用エプロンの裁方を記せ、寸法はメートルにて記入せよ(但し形及用布は隨意) (福島縣)

二、五六才用位のエプロンの型を考案し其の仕上げ圖裁方圖を書け。(鳥取縣)

三、巾九十纏長さ八十七纏の用布にて四五才用前掛を裁つべし、圖解し各部寸法を記入すべし、 (岐阜縣)

四、キヤラコ五尺の布を以て大人割烹前掛の裁ち方を問ふ。(徳島縣)

五、大人用割烹前掛の仕立上圖を示して裁方をも圖解せよ。(京都府)

帽子の部

- 一、簡單なる三四才女兒の帽子を裁方圖解して仕上圖及地質も附記せよ。(但し夏物(長野縣))
- 二、頭圍五四、一七種(鯨尺一尺四寸三分)ある小學校女兒の運動帽を作らんとす。キヤラコ何程を要するかその裁方並に仕立方を圖解せよ。(奈良縣)

第二 洋服の解説

【問題概観】

全問題中男袴と相ならんで其の數に於いて、一二を争ふものは洋服裁縫の部である。時勢の進歩と小學校の教材に系統的に配列を見た(文部省要項)洋服は決して輕視する擇には行かない。むしろ今後の研究は洋服にあるといつても誤りではない。勿論、我が國狀より見て從來の和服も決しておろそかにすべきではないが、小學校の兒童の多くの日常着用する衣服は寒村をのぞいて殆んど洋服である。即ち日常の衣服が洋服である以上。どうしても之が研究に力を注がねばならない。本問題の多くは子供服である。そして其の基礎となる、原型より出發して型紙の取り方縫方といふ順序で和服に比較すれば極めて簡單であるがその簡單な所に工夫が入る。やはり一つの

洋服としての基本的知識を知らねば、種々應用へ迄腦力が及ばない、以下解答を通覽し、確固たる研究の中心點を把握されん事を希望す。

- (一) 四五才用女兒簡單服裁方及縫方。
- (二) 同、型取り方、原型割出し方。
- (三) 各部の名稱と寸法、圖解。
- (四) 下着。
- (五) ヅボン下シャツ。
- (六) エプロン。
- (七) 帽子。

以上中々に範圍が廣いが大人服は岡山縣のブラースのみで殆んど子供服と大人物としてはシャツとズボンがあるのみである。故に受験者はまづ子供服にその基礎を置いて、次に研究範圍を大人に及ぼしたらよからうと思ふ。

一、埼玉縣

四五才用女兒簡單服の形狀は千姿萬様であるが、子供服として比較的裁ち方簡單にして、然も

布地の配合よろしきを得ると、恰好のものであれば次圖にそれを示す。

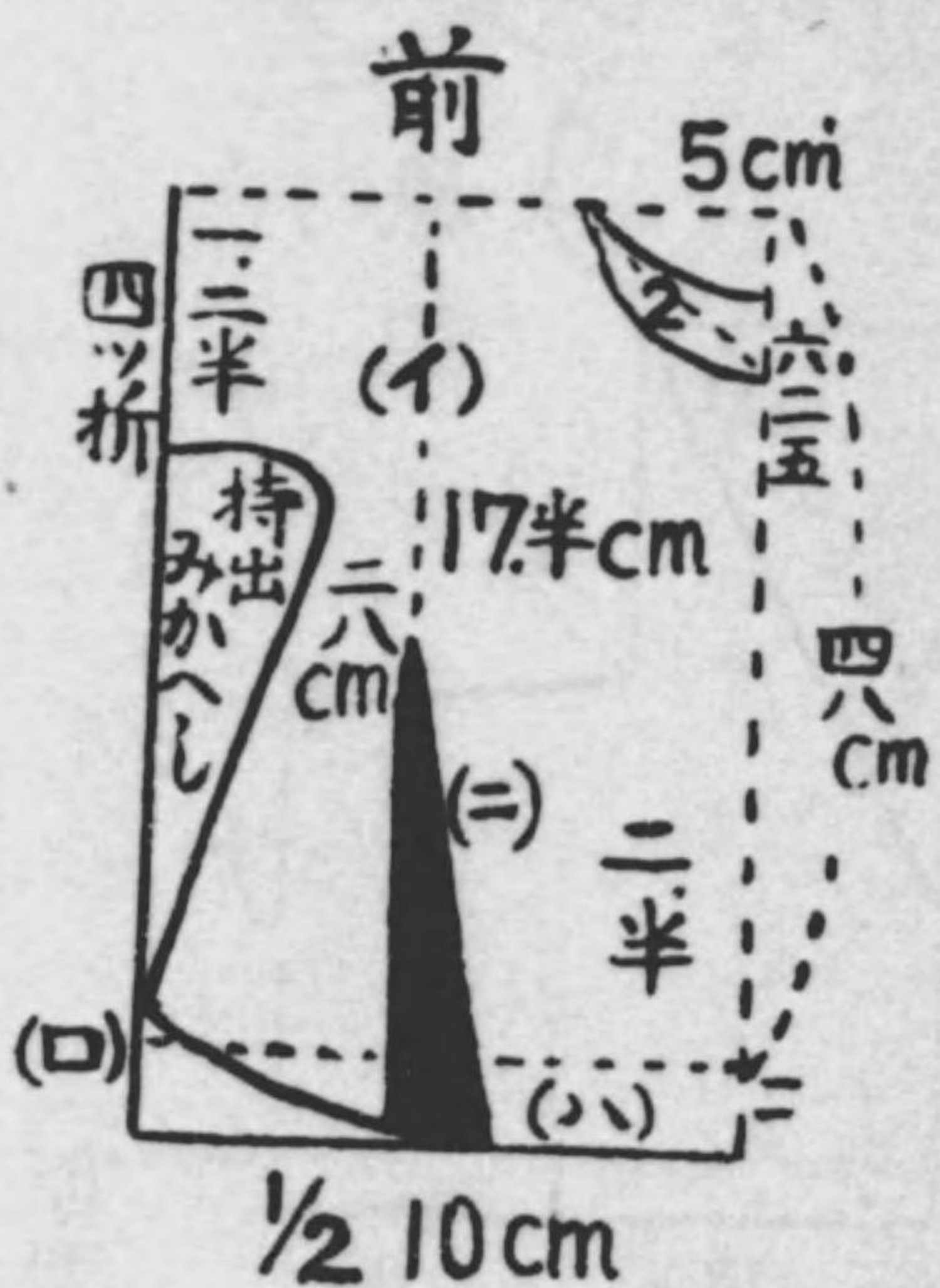
【裁方圖説明】

1. 型紙は使用せず直接用布に裁方圖を標附ける。
2. 用布巾六四纏、丈九八纏のものを、縦に二つ折とし更に横二つに折つて前丈を二纏長くする。
3. 衿肩明は半胸圍の五分の一、あご下は半胸圍の四分の一とし、圖の如く、あごぐりの線を引く後は一纏くるものとする。
4. 袖巾は半胸圍の二分の一とし(イ)の中は胸圍の四分の一の二四倍として圖の如く脇巾の裁切線を引く。
5. 次に脇縫の所(ロ)は點線より二纏上つて標をつけ前巾の三分の一に(ハ)と標をつけて少し丸みを持たして裾の裁切線を引く。
6. (ニ)は(イ)線の真中の處で脊丈より裾にかけ、下の中を一〇纏として切取線を引く以上の裁切線を形よく正して裁切り、肩又は後布にボタン掛の所を二〇纏裁切る。
7. 紐通しの穴は紐巾に應じて、肩明の真下二〇纏位の所に明ける。
8. 飾布は服地と配合よき色を選定し、裁切圖に縫代の分を廣くしたものを四枚とる。紐はリボン又はビロード等がよい。

【裁切方】

ン又はビロード等がよい。

簡單服裁ち方圖



出來上り圖



裁縫科受験準驗講義

後丈四八纏、前丈五〇纏、衿三二纏、袖布一二纏半、胸巾三五纏半、衿肩明五纏、あご下六纏二五。

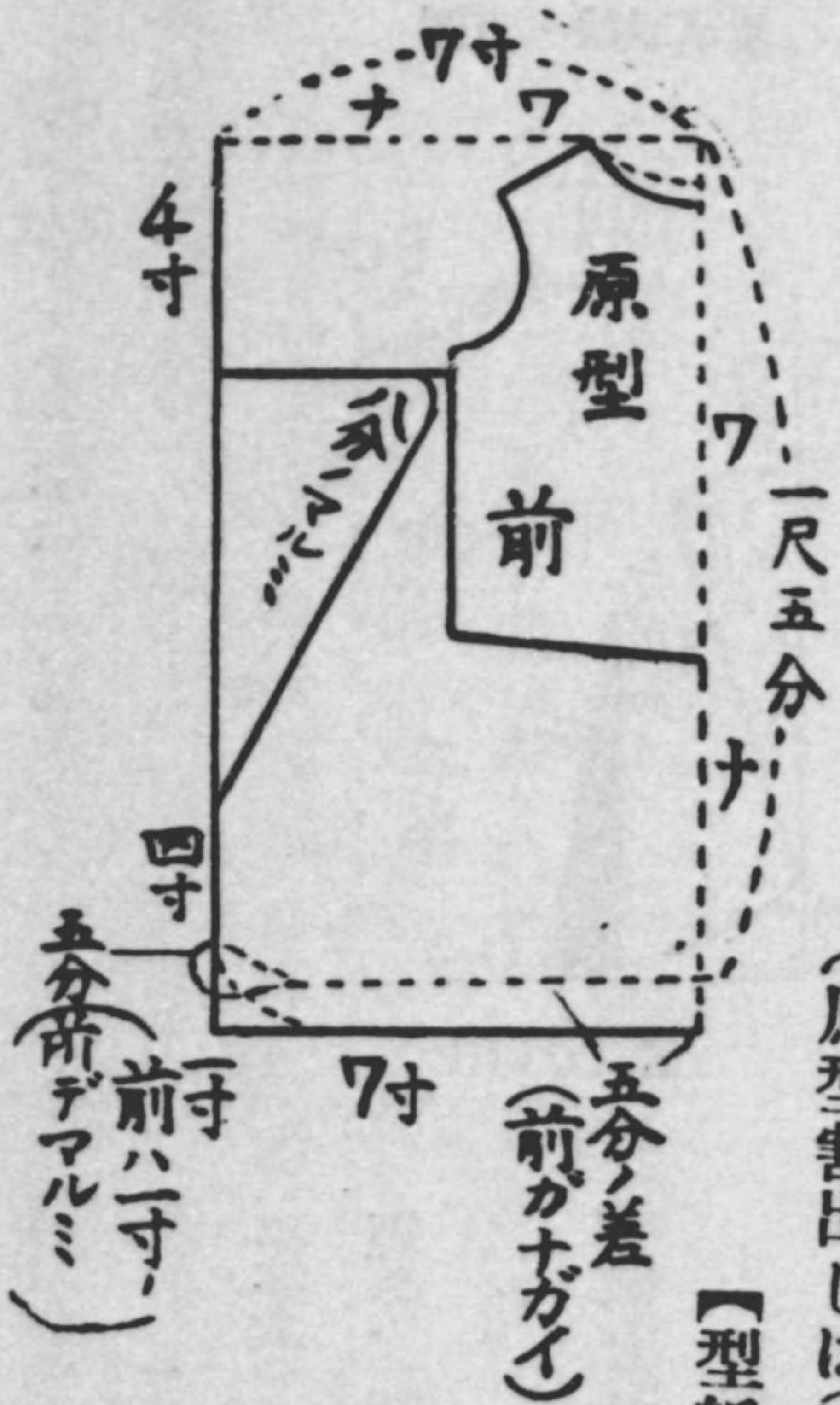
【縫方順序】

1. 後明にみかへし持出しをつける。飾布を前後に四枚逢合せ表よりミシンをかける。
2. 脇縫を袋縫として折は後に返す。
3. 袖口を三つ折ぐけとし裾を四・五纏折り返して細く三つ折紵とする。
4. 袖廻りはテープ又は斜切を表に縫ひつけ裏に返して細くまつりつける。
5. 後明にはホック又はボタンを四個つけ、ボ

- 6. 紐通しも穴かざりをなしアイロンを掛けて仕上をする。
- 7. 首廻り及袖口紐通しの所には圖の如くフランス刺繍をする。

二、茨城縣

女兒簡單服の型紙を正式に取るには、原型を取つて原型を基礎として取るものである。故に原型によつての取り方圖を示す。



(原型割出しは(十四)北海道のものを参照のこと)

【型紙の取り方説明】

1. 圖の如く四つ折にした用布に原型紙を乗せ原型通り衿くりの標をつける。次に袖丈を好みの寸法に取り、原型袖付の所で八分の丸味として圖の如く身巾の標をする。

2. 裾丈より四寸上つた所迄を真直にして、脇丈の所にては五分短くして圖の如く丸味をつける。
3. 身丈は脊丈の一倍半位として、前丈は後丈より五分長くする。故に脇丈の所では一寸の所丸味をつけるものとする。以上の方法によりて次に四五才女兒洋服の裁切寸法を記せば。

【裁切寸法】

- 衿七寸、 身丈一尺五分、
- 袖丈七寸、 衿肩明一寸二分、
- 顎下一寸五分、 標準脊丈七寸、

三、新潟縣

- (一) 標準寸注左の如し
 - 脊丈、二十八纏。
 - 胸圍、五十六纏。
 - 脊總丈、五十六纏。
 - 衿丈、十四纏。
- (二) 割出し方は男女とも同様なれば 北海道のを参照の事。
- (三) 問題には裁ち方圖解及び寸法

裁縫科受験準備講義

とあれど、裁方圖解は出来上りの形状によつて、初めて定まるものであるから、形隨意として

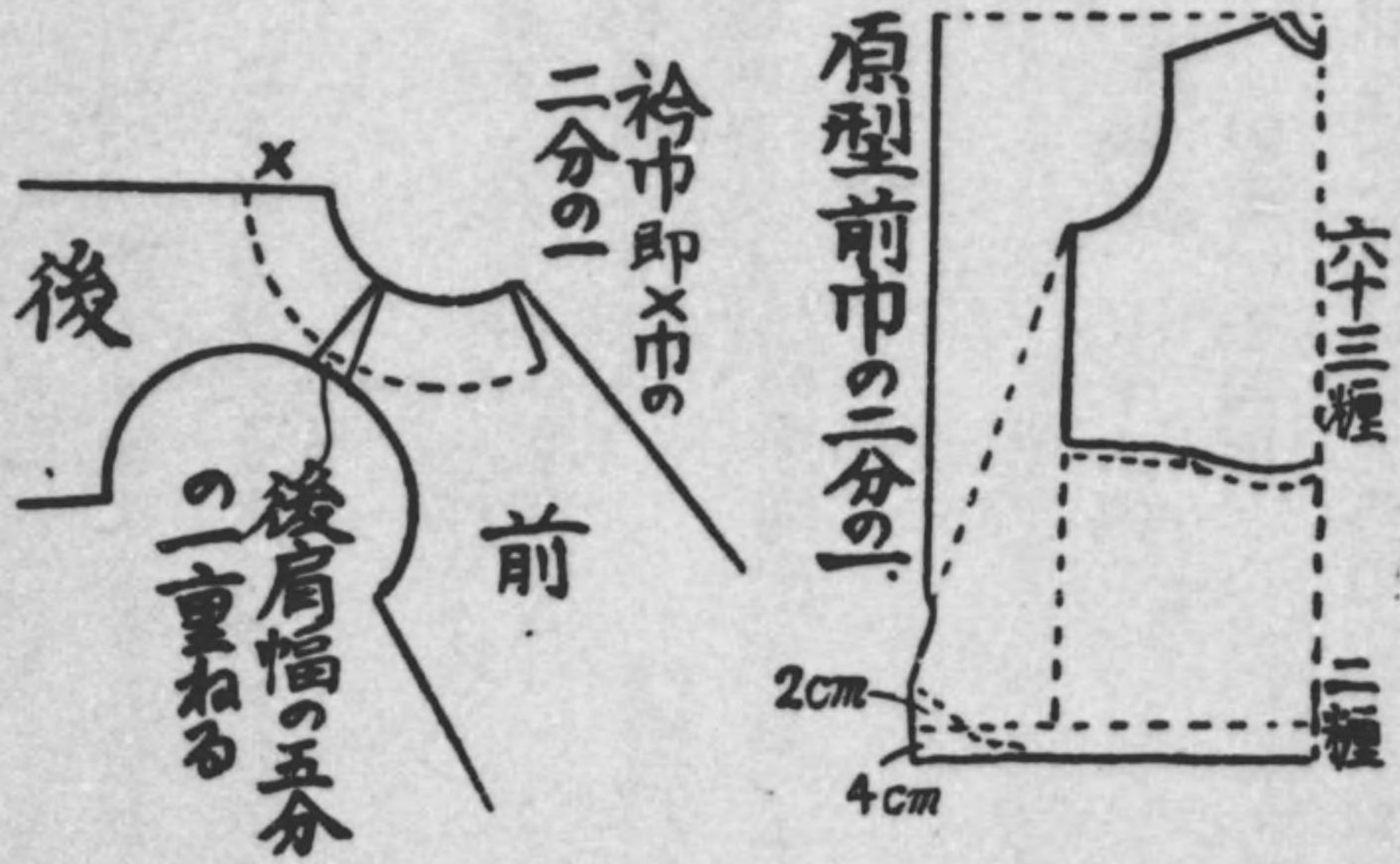
次の裁方圖解を記す。

但し袖は型紙と同様なれば略す。

(四) 裁方圖說明

總合圖の如く用布を縦二つ折として、原型をあて、總丈を脊丈の二倍と縫代と前下りとを加へて圖の如く裁切る。脇丈は總丈より二纏後にて上げ、前で四纏上げ丸味をつける。裾巾は原型の一倍半として脇ぐりの下より圖の如く擴げる。衿は丸形として型紙を圖の如く原型より割出し、巾は六纏又は

裁方總合圖



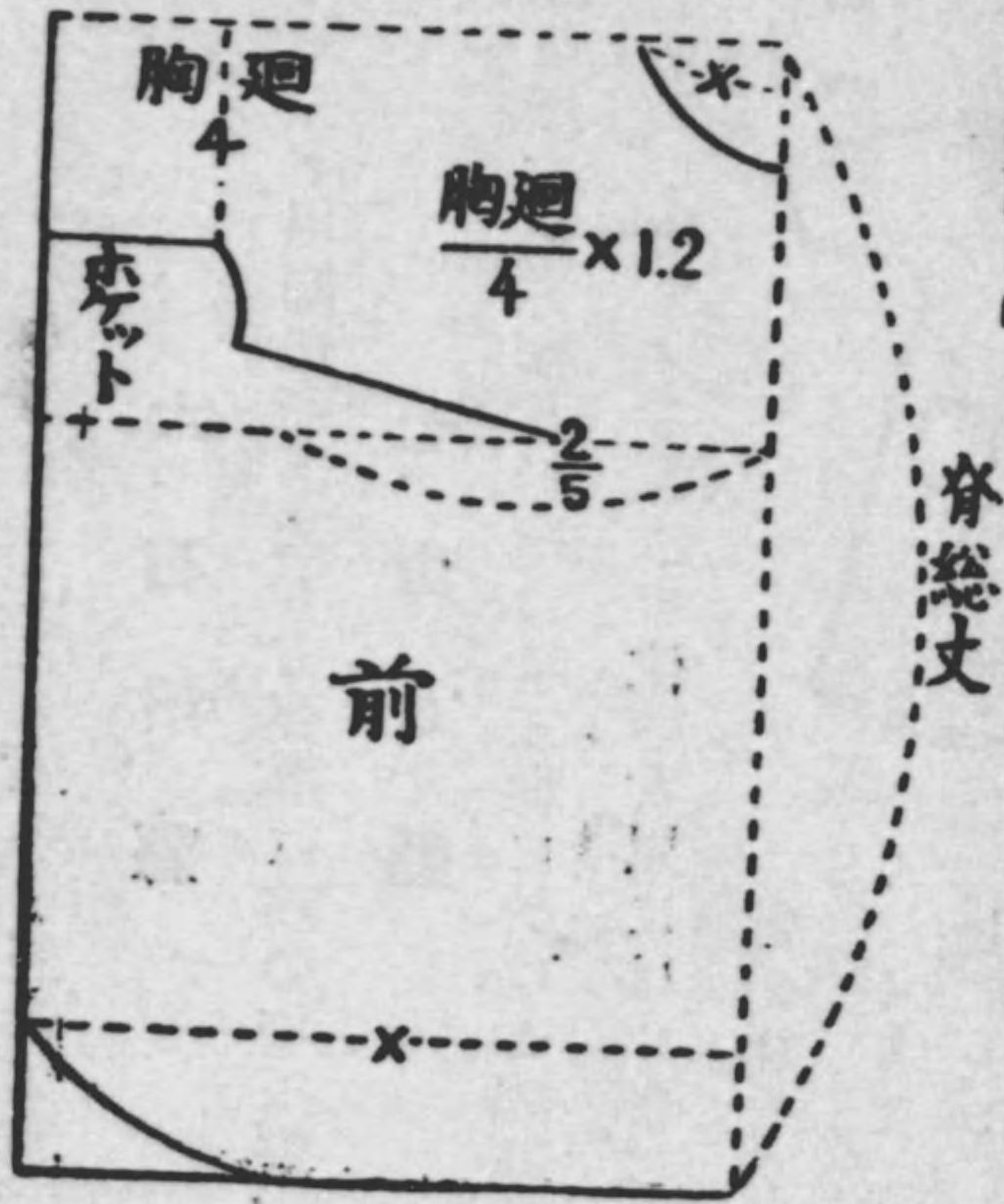
七纏とする。用布をとる場合は型紙に縫代半センチを加へる。上圖を参考されし。

四、青森縣

五六才女兒服の裁方及形も種々あるが、正確に裁つ時は原型より割り出すものなれど、こゝには簡単なワンピースを記した。袖は別に裁たゞに身頃よりつゞける。

【裁方圖說明】

五六才女兒簡單服裁方圖



1. 用布は縦二つ折、横も二つ折とする。
2. 前丈は後丈より二纏半長く前を上にして裁臺の上に置く。
3. 衿肩明は首廻の五分の一とする。アゴ下は四分の一とし他は好みに應じて廣くする。
4. 袖巾は胸圍の四分の一なれど好みによつて廣狹を定める。
5. 裁切込は任意の高さとするが普通脊丈位とする。前は後より一纏上つた所とする。

6. ボタンかけは肩又は後を十纏或は十五纏切る。

X印は後の裁切線なり
裁縫科受験準備講義

7. ポケットの形は随意にする。

五、千葉縣

女兒洋服の元型割出しは北海道のを照參の事。

六、石川縣

女兒三才用簡單服の裁ち方圖解は前の埼玉縣、茨城縣のを參照の事、出來上り圖は山口縣を。

七、山口縣

簡單服の裁方圖及形狀は埼玉縣に於ける問題參照の事。但し裾上の飾布をつけず頸圍りにギャダをよせて飾とするも三才位の女兒には相應はしい形狀であらう。

此の場合の裁方は單に衿肩明を所定の割出しより四・五纏多く、くりて、仕立方のときギャダをよせるものとする。

用布の巾は二尺とする、標準寸法を次に記して三才女兒服寸法割出しの參考にしたい。

1. 脊丈は一才を二三纏として、一才増す毎に一纏を加へる、但し十五才迄とする。

三才女兒服出來上り圖



- 2. 胸圍りは脊丈と同寸。
- 3. 脊總丈は脊丈の一倍半とする。

八、熊本縣(北海道の部を參照)

九、樺太廳

(一) 問題には女兒洋服下着の裁ち方縫方とあるも下着には、アンダーウエスト、シミーズ、スリツプ、コンビネション等の種類があるが、アンダーウエストと、ズロースとを結合したコンビネーションを女兒下着として最も適當と思ひ次に其の裁方縫ひ方を舉げた。

原型による裁方を此所には舉げた。原型の割り出し方は、北海道水兵形裁方の部を參照の事。

(二) 十二才標準方法

脊丈三二纏。胸圍六五纏。

(三) ズロース型紙の裁方圖説明

1. 圖中の分數は凡て半胸圍を標準としたもので $\frac{1}{6}$ は即半胸圍の $\frac{1}{6}$ 他も之に準ず。脇丈とは脊總丈より脊丈を減じた残りの丈を云ふ。

(四) 原型寸法

(イ)三二種半、(ロ)六種、(ハ)四九種、(ニ)二三種、(ホ)二六種半、(ヘ)六種、(ト)九種。
 アンダーウエストは上着の原型より衿ぐり及脇明を二種多く繰り取りたるものとする。コンビネーションの裁方にも種々あるが、出来上り圖のやうなものを選定した。

(五) コンビネーション型紙裁方

圖の如くアンダーウエストの前型とズロースの前型とを重ねて脇を線の如くに裁切る。後の上はアンダーウエストの後の型紙を用ひ胸の重りの分として四種丈を長くして置くズロースの後そのまゝを用ゐる。

(六) 用布の裁方

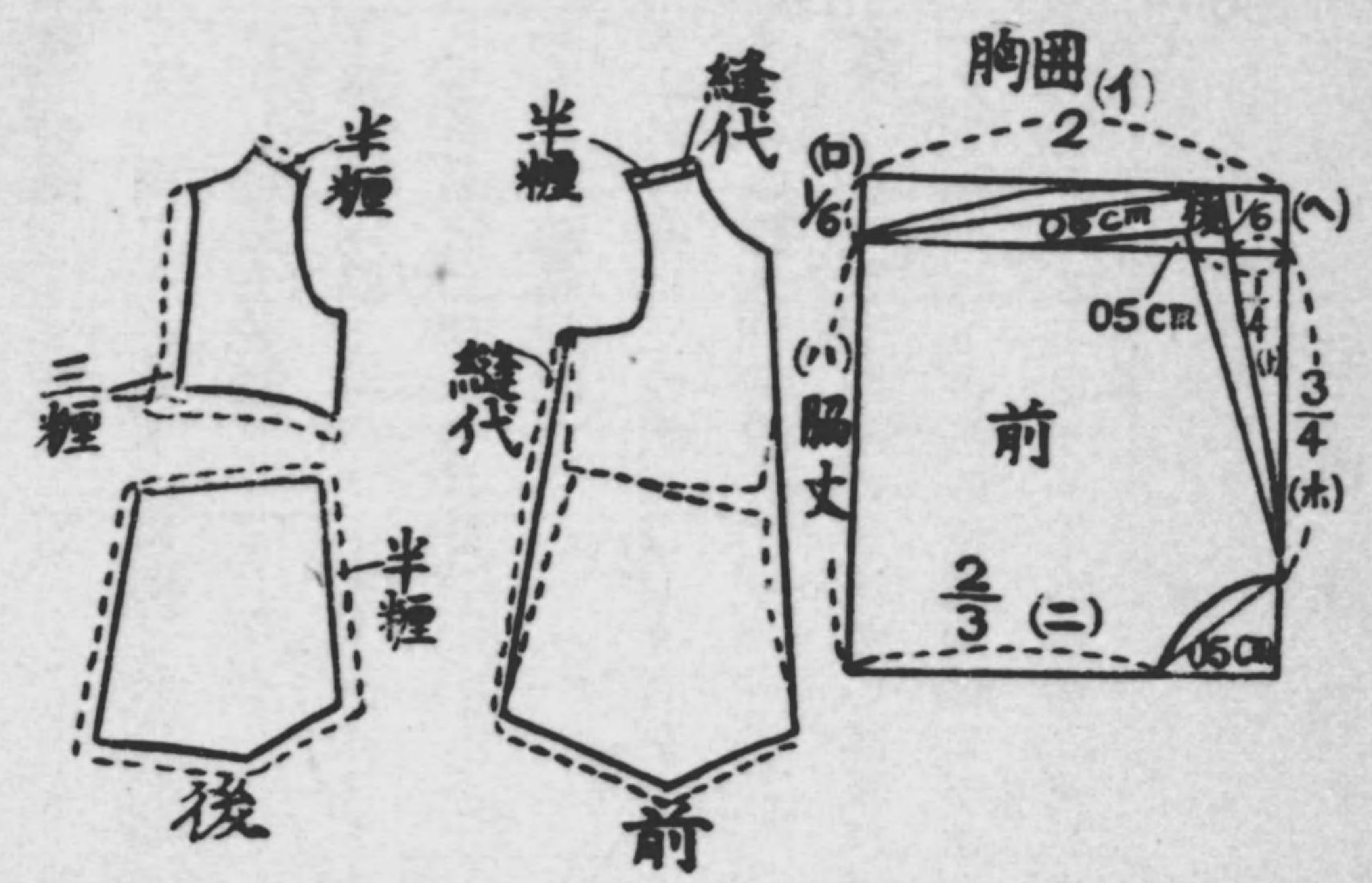
用布は圖の如く縫代を取つて裁切る。

(七) 縫ひ方順序

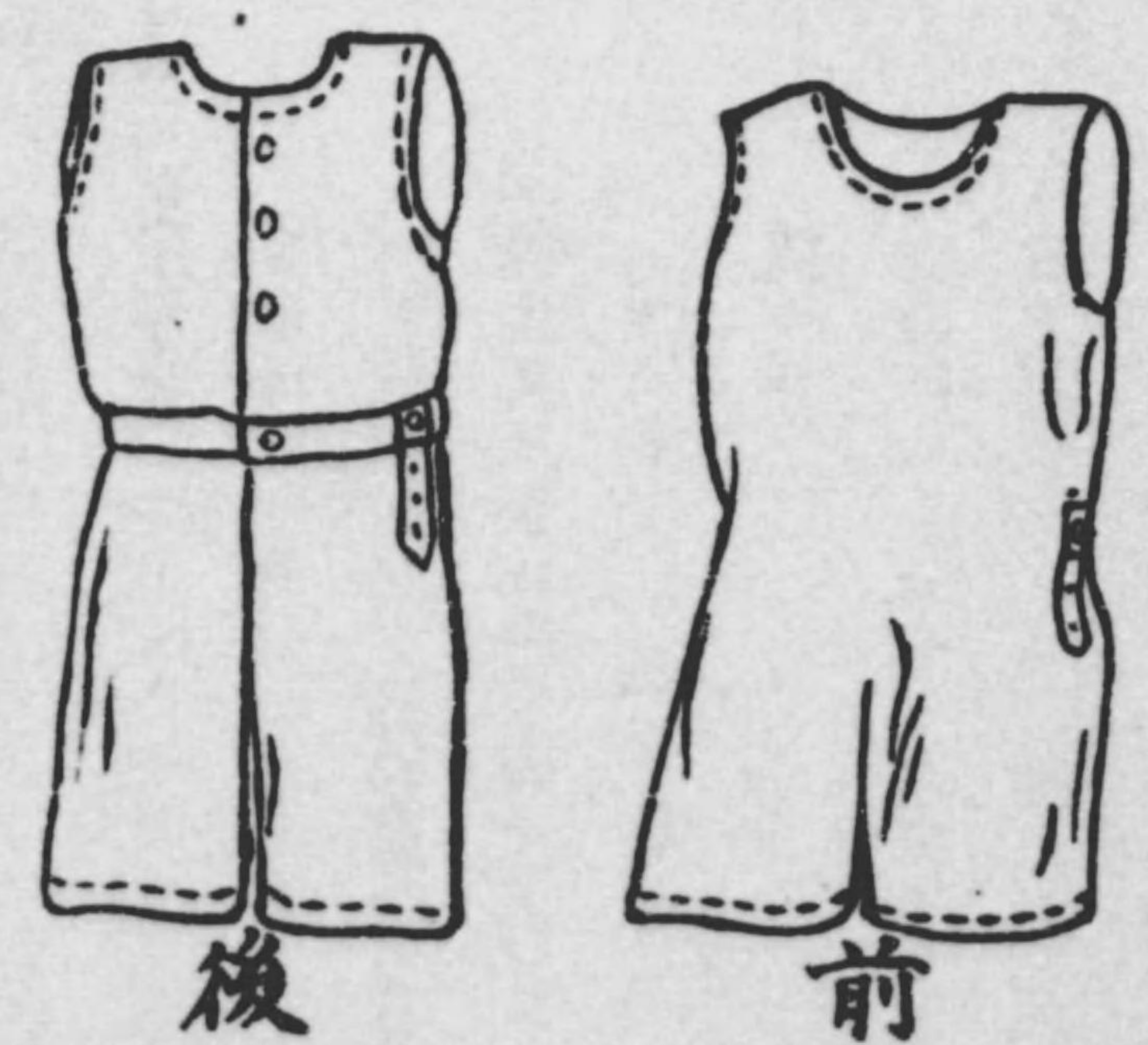
1. アンダーウエストの後に見返し持出しをつける。
2. アンダーウエストの後の裾を三つ折にする。
4. アンダーウエストの脇を袋縫(後の丈一ぱい)

コンビネーション型紙裁方及用布取り方圖ズロース型紙裁方圖

裁縫科受験準備講義

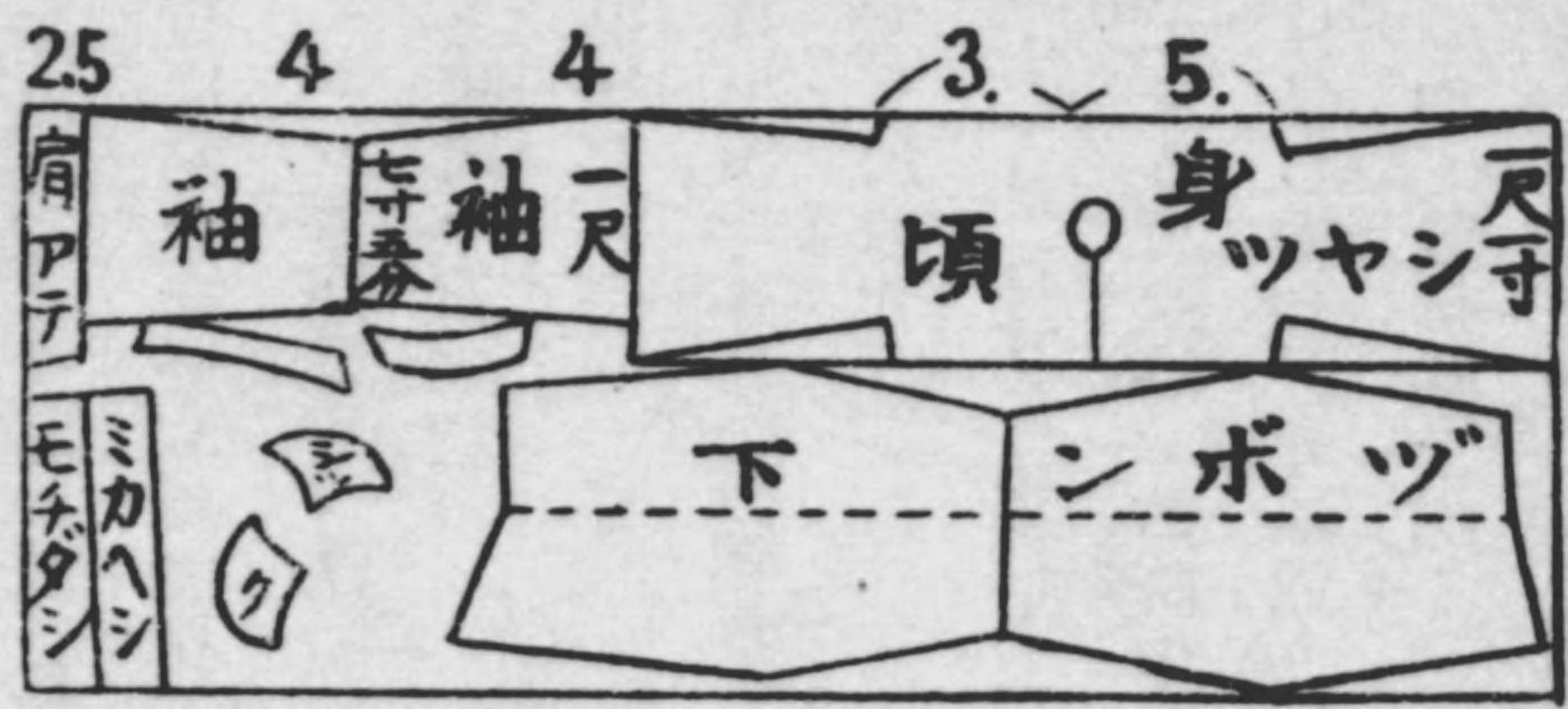


コンビネーション出来上り圖



4. 肩合、袋縫。
5. 衿ぐり、袖ぐりの始末、斜切、又はテープをつけて飾ミシンを掛け置く。
6. ヅロース後膝上袋縫。
7. ヅロースの兩脇上部のアンダーウエストと重なる分を三つ折とする。
8. ヅロースの後に帯をつける。
9. ヅロースの兩脇袋縫。
10. ヅロースの裾は三つ折又はレースをつける。
11. ヅロースの膝下は袋縫とする。
12. アンダーウエストの後に三四個の釦及び孔かざりをなす。
アンダーウエストの裾の位置兩脇にボタンヲつける。
13. この釦をかける孔をヅロースの帯にあけて孔かざりをする。
仕上げ。

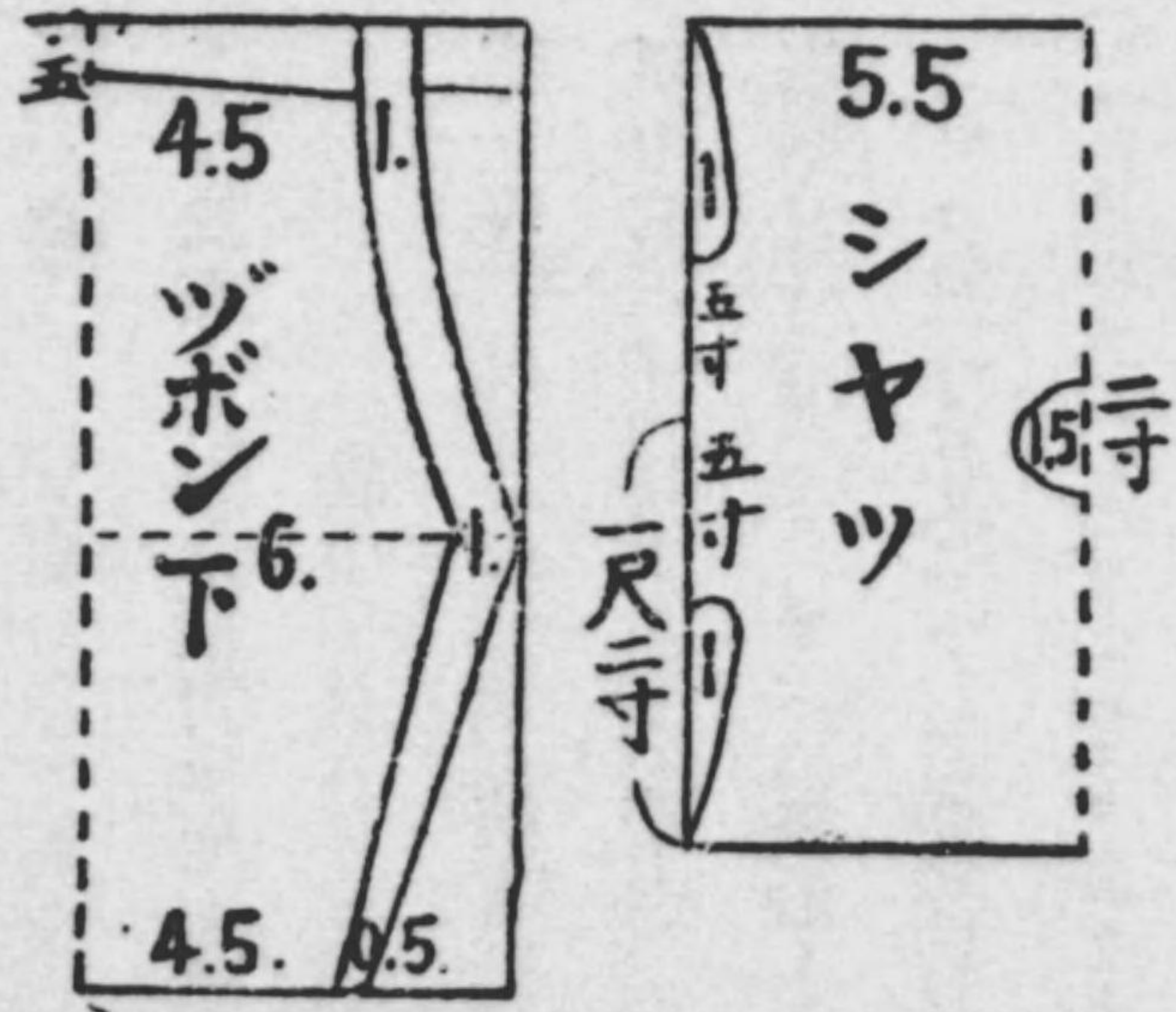
裁方總合圖及分解圖



裁縫科受験準備講義

一〇、山形縣

(一) 運動シャツ裁切寸法



身丈二尺二寸五分。身巾尺二寸。
袖付五寸。袖巾五寸。
袖丈四寸。袖口三寸五分。
衿肩明一寸五分。アゴ下二寸。
脇一寸。

(二) 同ツボン下裁切寸法

胯上後八寸五分。胯上前七寸。
胯下前後六寸。腰巾後五寸五分。
腰巾前四寸五分。裾口後五寸。
裾口前四寸五分。胯巾後七寸。
胯巾前六寸。

(三) 裁方上圖参照の事

一一、富山縣(九)樺太廳参照)

一一、長野縣

用布に割合餘裕あればツボン下は裁違にせず脇縫なしに裁つた。

(一) ツボン下裁切寸法

膝上前八寸。

膝上後一尺。

膝下一尺八寸(前後共)

腰巾後七寸。

腰巾前六寸。

腰巾、後九寸五分。

裾口中四寸五分(前後共)

裾明五寸。

紐巾一寸五分。

紐丈五尺七寸。

シツク三寸五分。

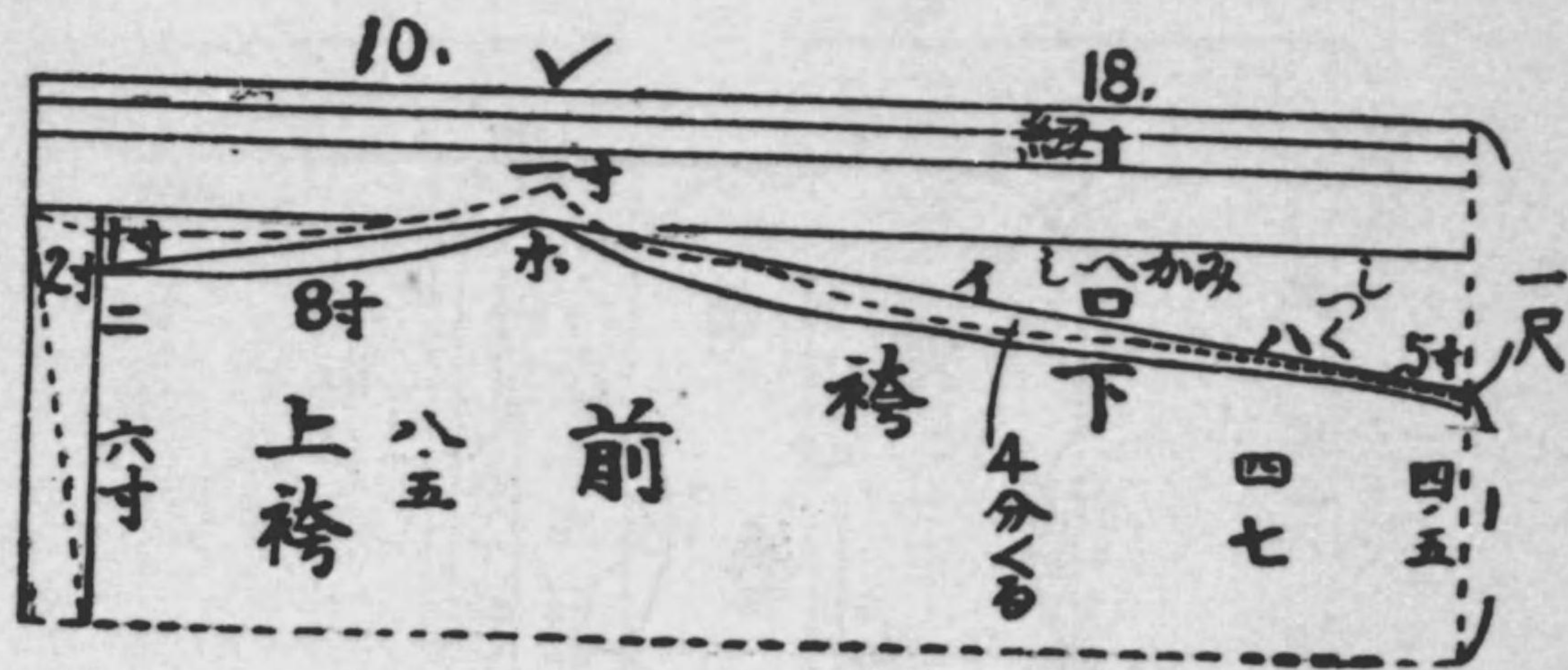
見返し一寸五分。

(二)

膝下一尺八寸に後膝上一尺の二倍即五尺六寸の用布をとり始めに横二つ折となし、更に縦二つ折とする。此時、前膝巾を八寸五分と定めて、其の部分より折るものとする。膝下一尺四寸と標付なし裾口を寸法通りに標付けをなし、それより五寸上つて即裾明の所で四寸七分と計つて圖の如く裁切線を引く。イは裾下の二分の一にして、ロは膝下の二十分の一以上を加へた所で直線より四分線つて裁切線を引く。

前膝上は腰廻りを六寸と定め、膝上を八寸として標をつけ、ニよりホまでの間を三分して、上三分のニは真直ぐ三分の一にて、圖の如く線を引く。

ツボン下裁方圖



裁縫科受験準備講義

膝上 膝下 總尺 10+18=2x56

以上を前裁切線として裁切る。後は膝上で前膝上より二寸長くし巾を一寸廣くして前にならべて圖の如く線を引きハの部分にて前後の廣さを同じにする。

(三) 裁切り方

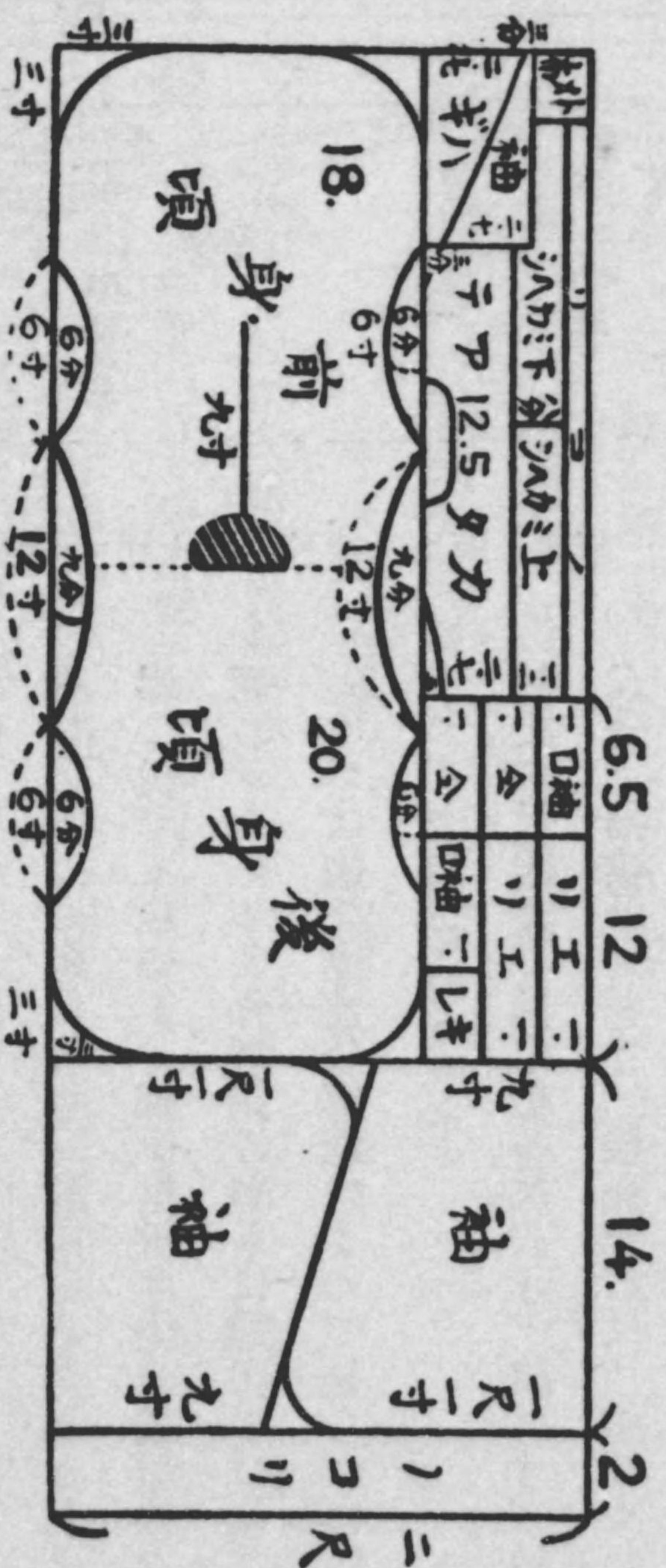
裾口より、ハ迄は四枚一緒に、それより上は二枚づゝ標に従つて裁切る。圖中點線は後の裁切線とする。見返しシャツ等は分解圖の通りに裁切る。

シャツは總合圖及分解圖によつて知られたい。

(四) シャツ裁切寸法

袖丈一尺四寸。袖巾奥一尺一寸。前九寸。袖口丈六寸五分。袖幅一尺一寸。後身丈二尺。前身丈一尺八寸。身巾一尺五寸五分。肩當中二寸七分。衿丈一尺二寸。裾丸み三寸。見返し長八寸五分。巾(上前一寸二分。下前一寸)裾切込(後六寸。前四寸)

シャツ裁方圖



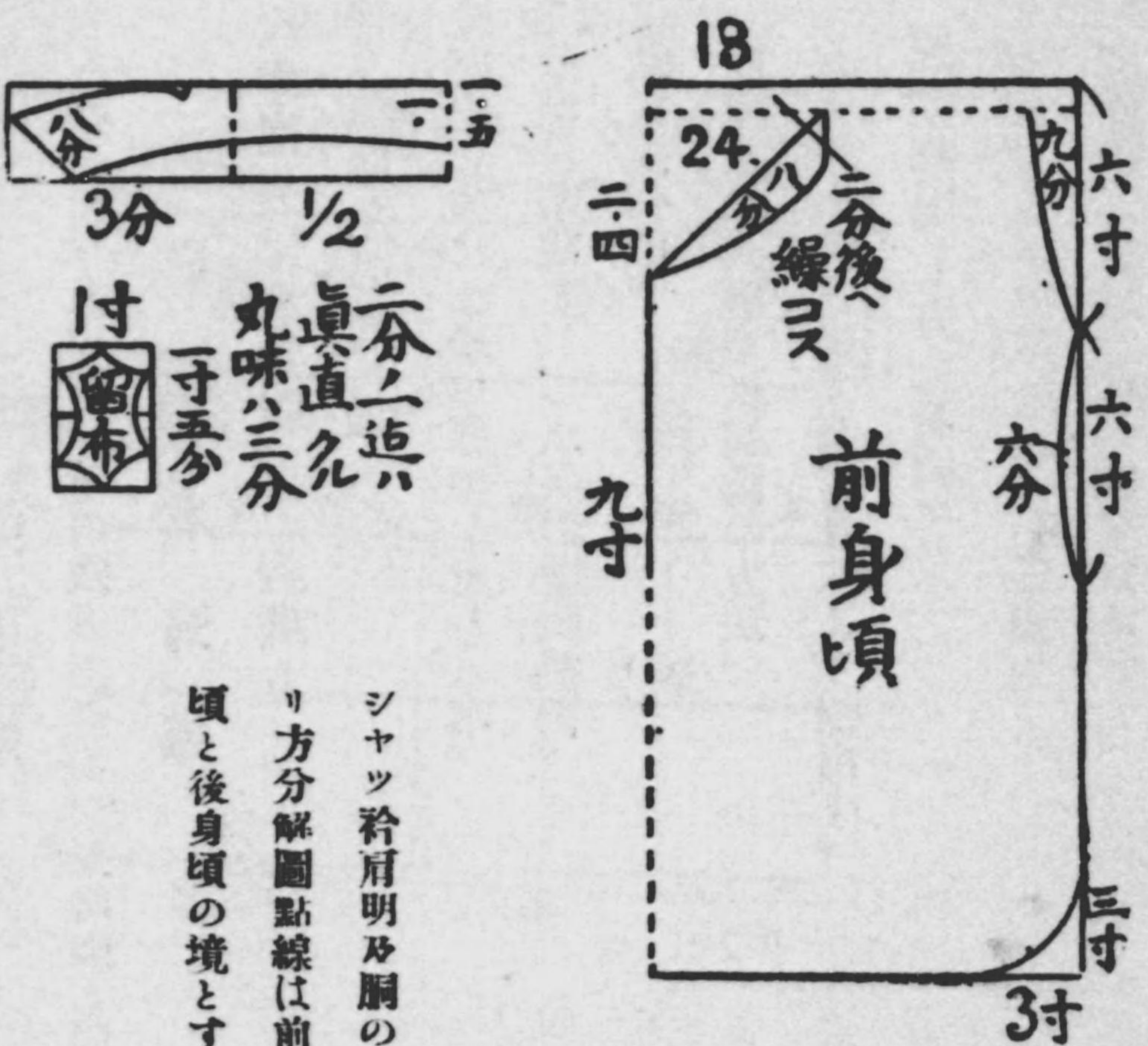
袖上 後身丈 前身丈 總尺

$$14. + 18. + 20 = 52.$$

ツボンド總尺シャツ總尺残布總用布

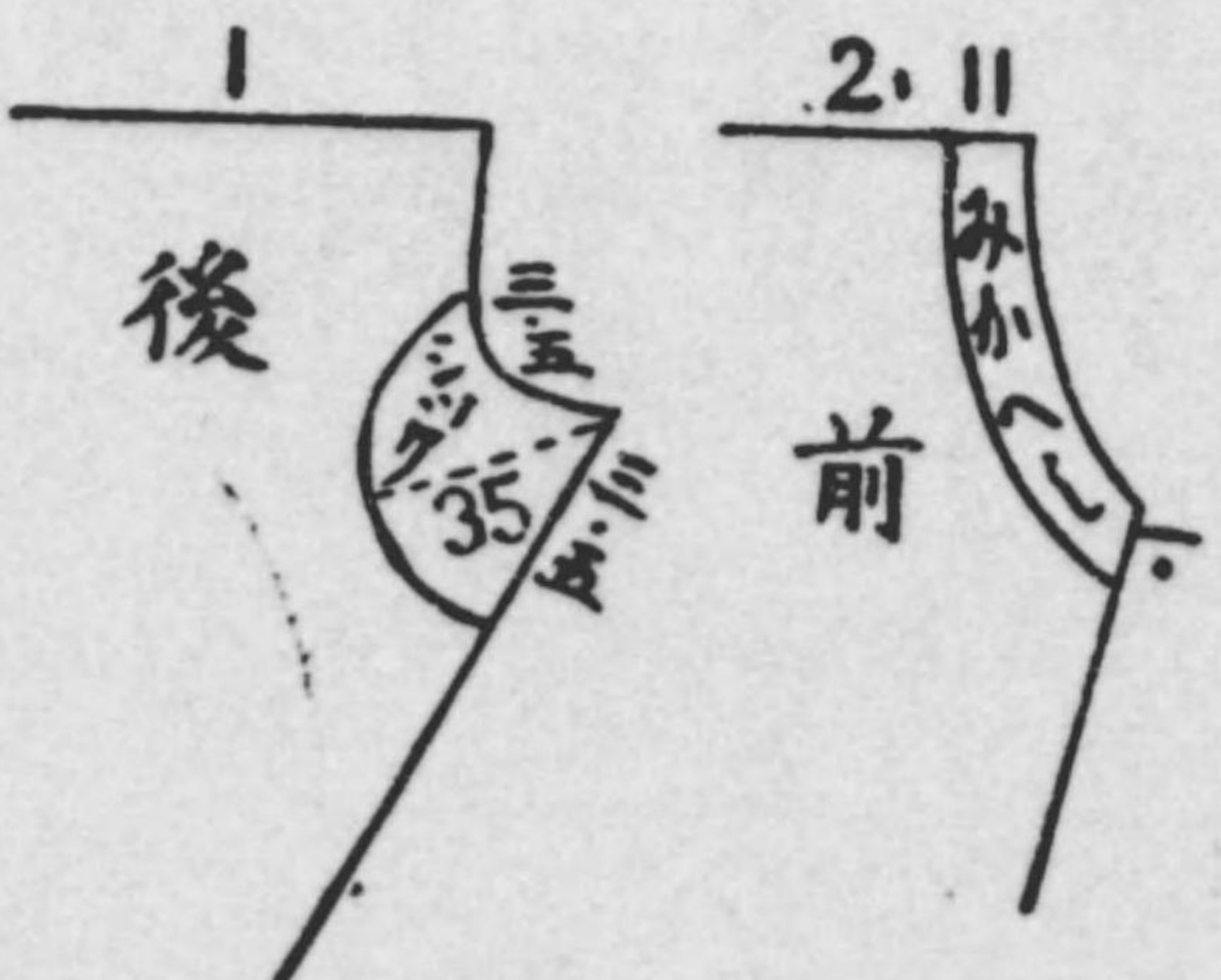
$$56. + 52. + 2. = 110$$

裁縫科受験準備講義



シャツ衿肩明及胸のク
リ方分解圖點線は前身
頃と後身頃の境とす

ツボンドミカヘシ及び
シャツの裁方解圖



一三、岩手縣

大人物シャツ及ズボン下の裁方であるが長崎縣と同様であれば長崎縣のを参照の事。

一四、北海道

五六才用男兒水兵服の上着裁方

【裁方順序左の如し】

1. 割出し方によつて原型を求むる事。
2. 原型を基礎として水兵形型紙製圖。
3. 裁方總合圖。

原型及水兵形型紙製圖の方法。

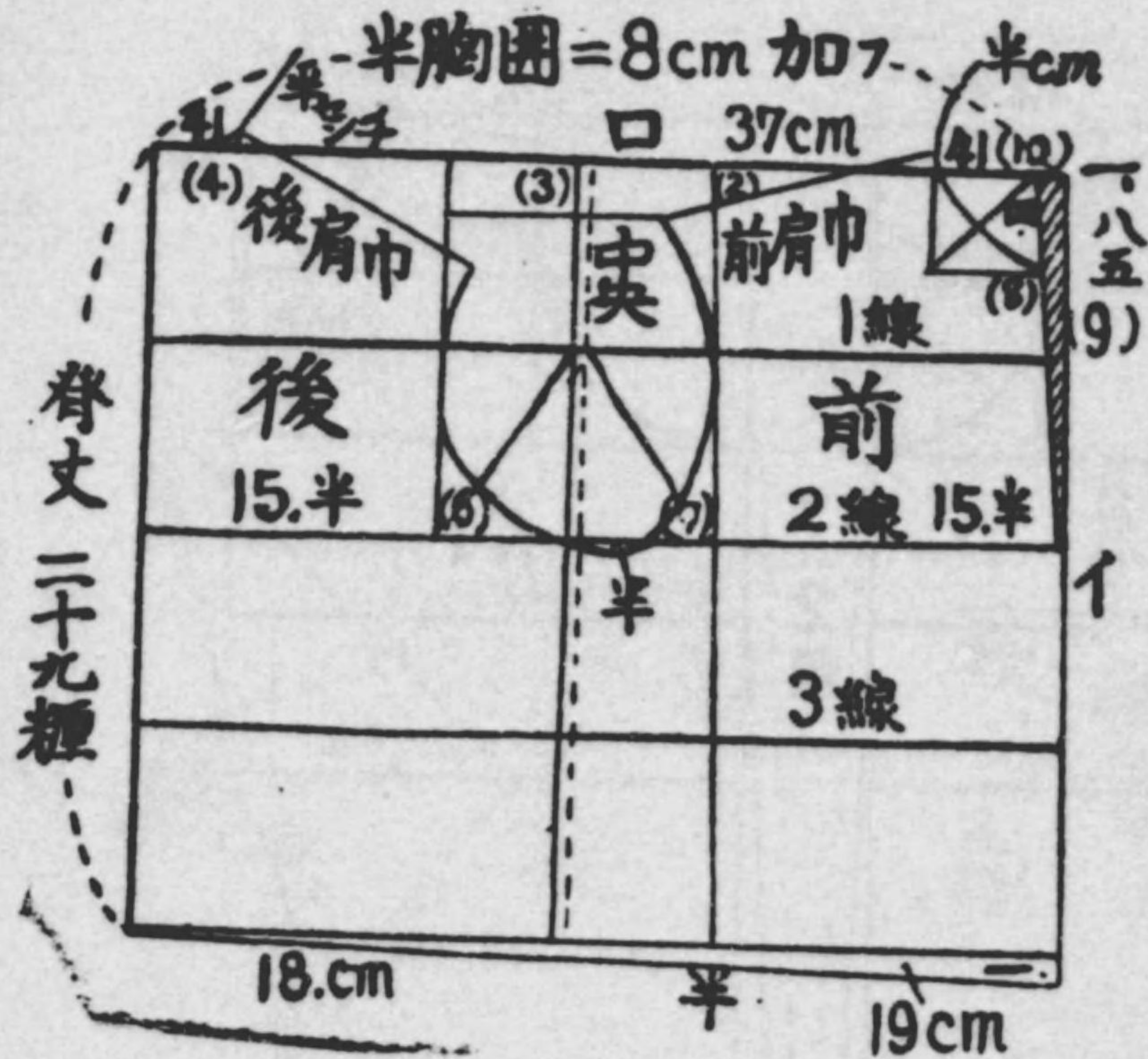
脊丈三十糎として凡て脊丈より割出す。

(一) 原型割出し方(身頃) 脊丈。

(ロ) 胸圍の二分の一に八糎を加ふ。

(イ) 脊巾口線の $\frac{1}{3}$ 縫代半糎を加ふ。

原型圖第一圖



裁縫科受験準備講義

2. 胸巾脊巾と同寸。
4. 衿肩明口線の $\frac{1}{8}$ にして線上に $\frac{1}{16}$ を出す。脊丈を四分して二三を引く

3. 中央より一糎脊巾の方による。

5. 一線の中央にて口線の $\frac{1}{16}$ を出す。

6. 對角線の $\frac{1}{4}$

7. 對角線の $\frac{1}{6}$

8. 後衿肩明と同じ。

9. 口線の $\frac{1}{20}$ 胸グセ。

10. 後衿肩明に同じ。

(二) 同(袖の割出し方)

(イ) 袖丈衿より脊巾を減ず。

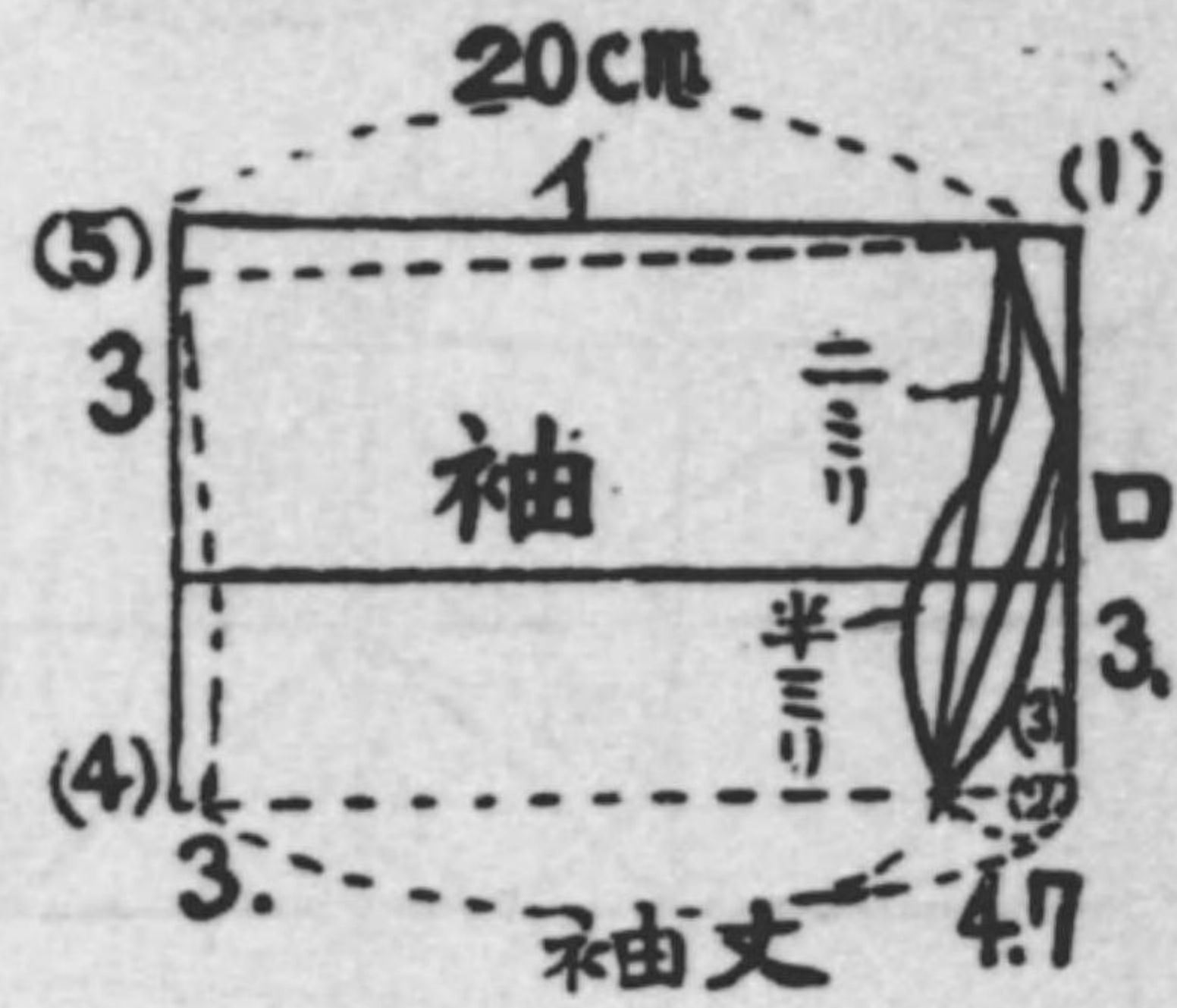
(ロ) 袖マハリの $\frac{1}{2}$

1. 袖丈 $\frac{1}{10}$

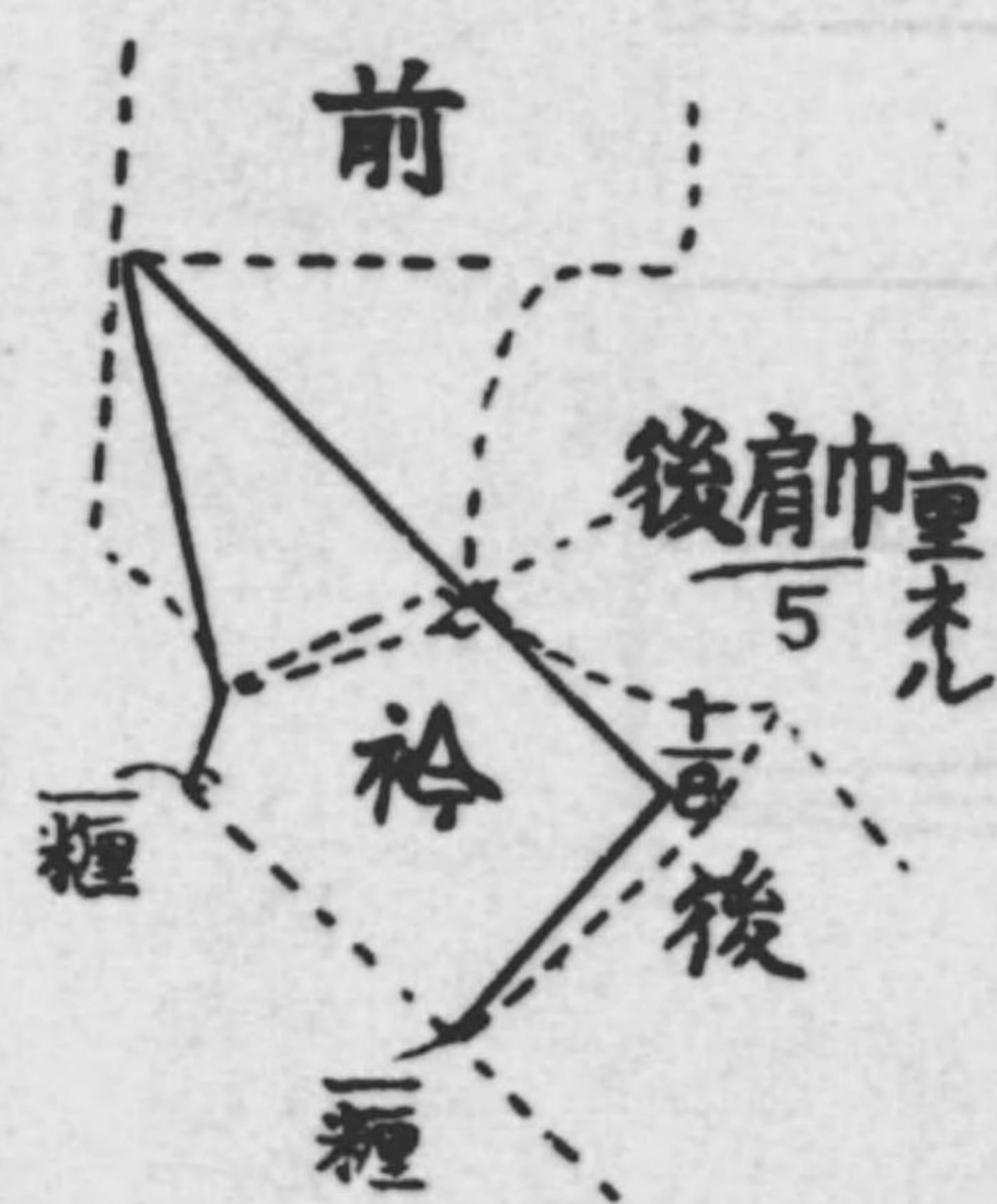
2. 袖丈の $\frac{1}{6}$

3. 袖丈の $\frac{1}{10}$

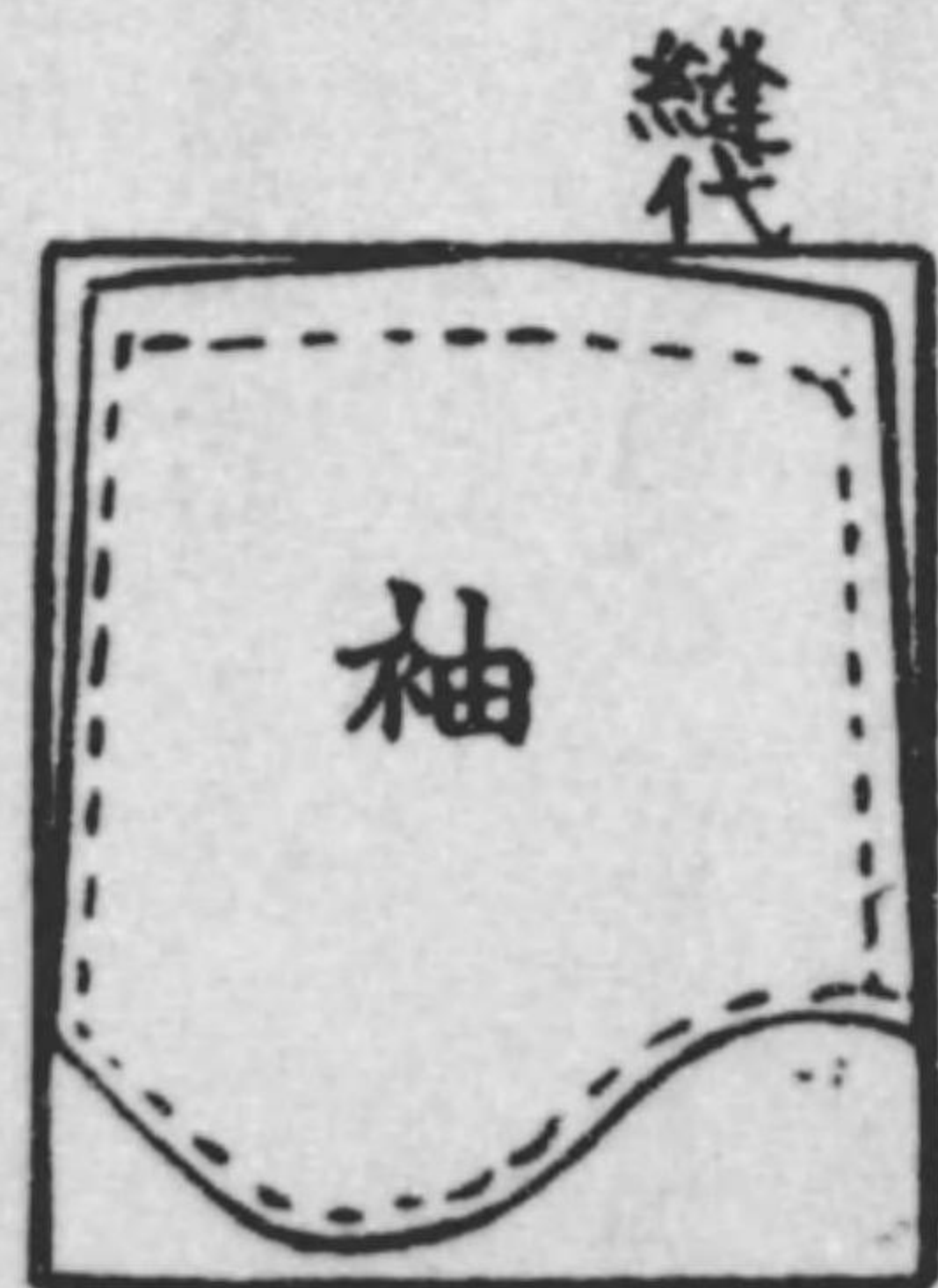
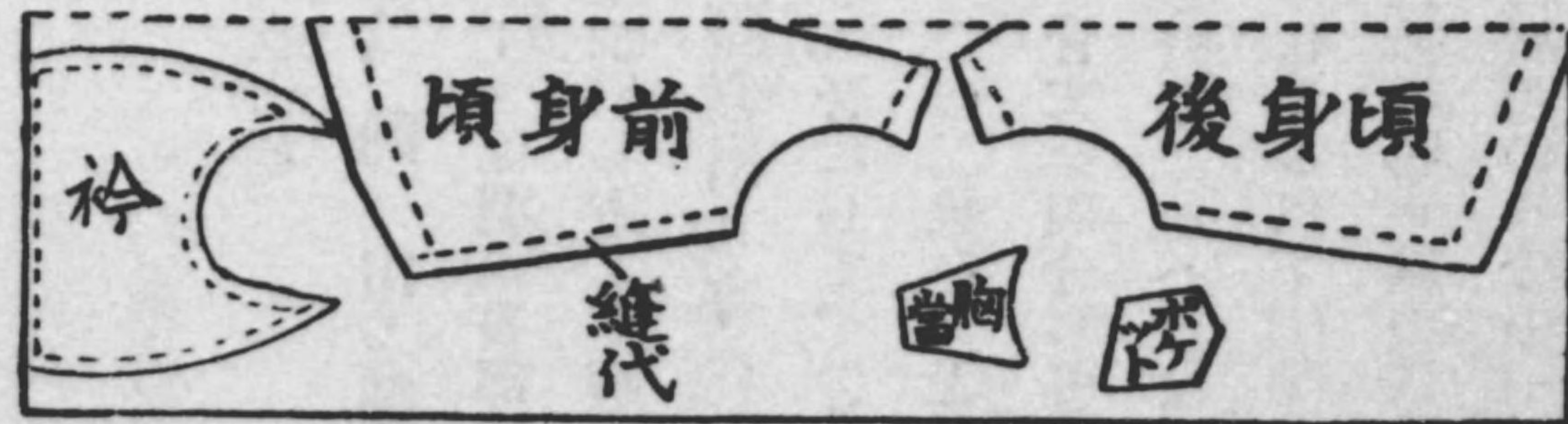
袖 (第一圖ノ2)



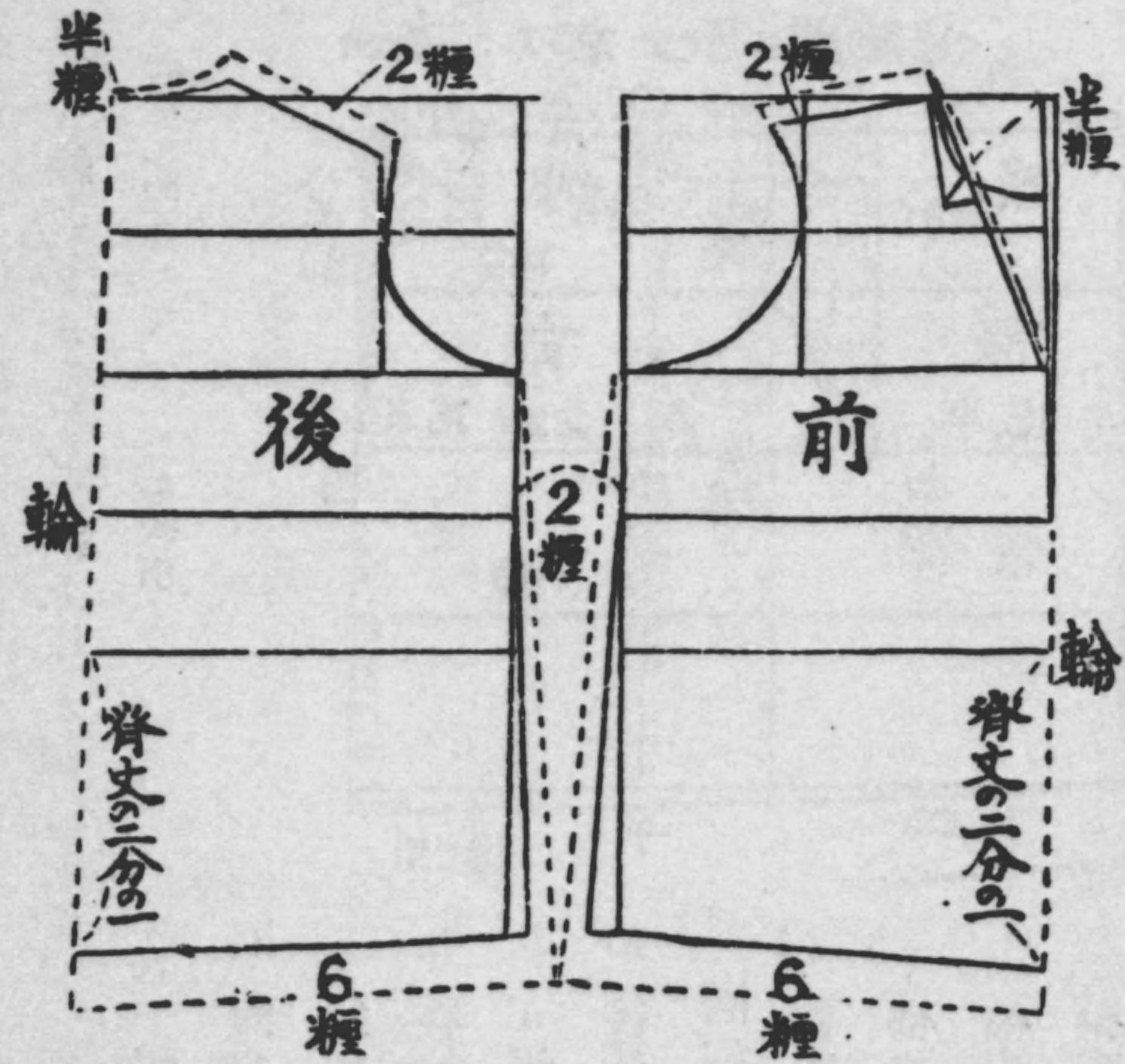
衿 (第三圖)



布の取り方圖



水兵形濟型裁のとり方圖 第二圖



4. 5. 袖丈の $1\frac{1}{10}$

(三) 水兵形、型紙製圖

原型を基礎として身丈を三分の一延長し衿明はアゴ下をニ線迄斜線を引く。

(四) 裁切寸法

身丈四三纏半、袖丈二〇纏、前中二纏後中一九纏、衿肩明四纏一、アゴ下同前脊中 五纏半。

(備考)

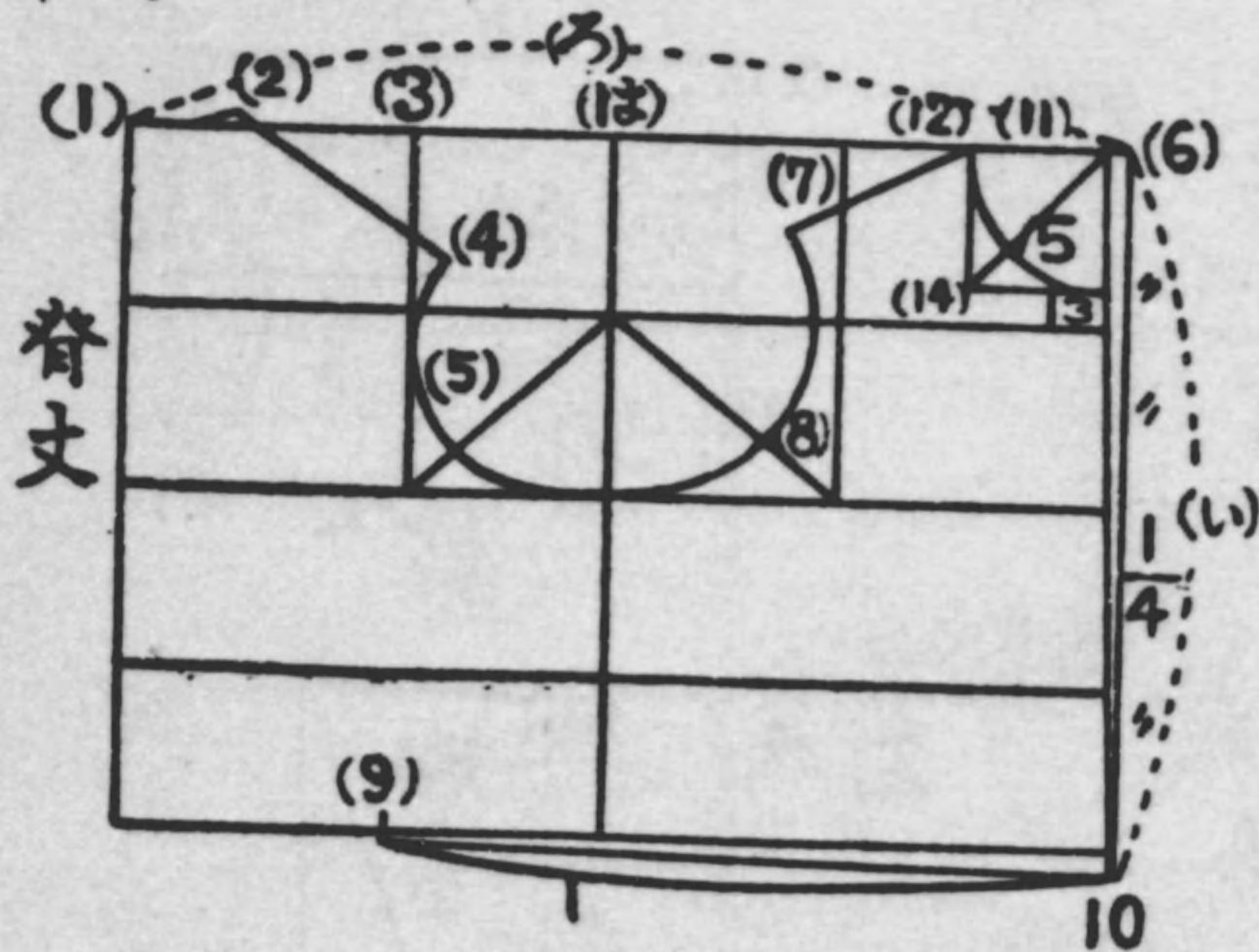
布の取り方總合圖を参考の爲めに記したが實際の場合には型紙の全部を用布にあて、都合よく裁切る方が布の經濟である。

一五、埼玉縣

女児用服地夏向のもの五種

- (一)ギンガム、(二)モグサ、(三)ゼツバー、(四)ポイル、(五)富士絹。

婦人ブレースの原型割出し方第一圖



一六、岡山縣

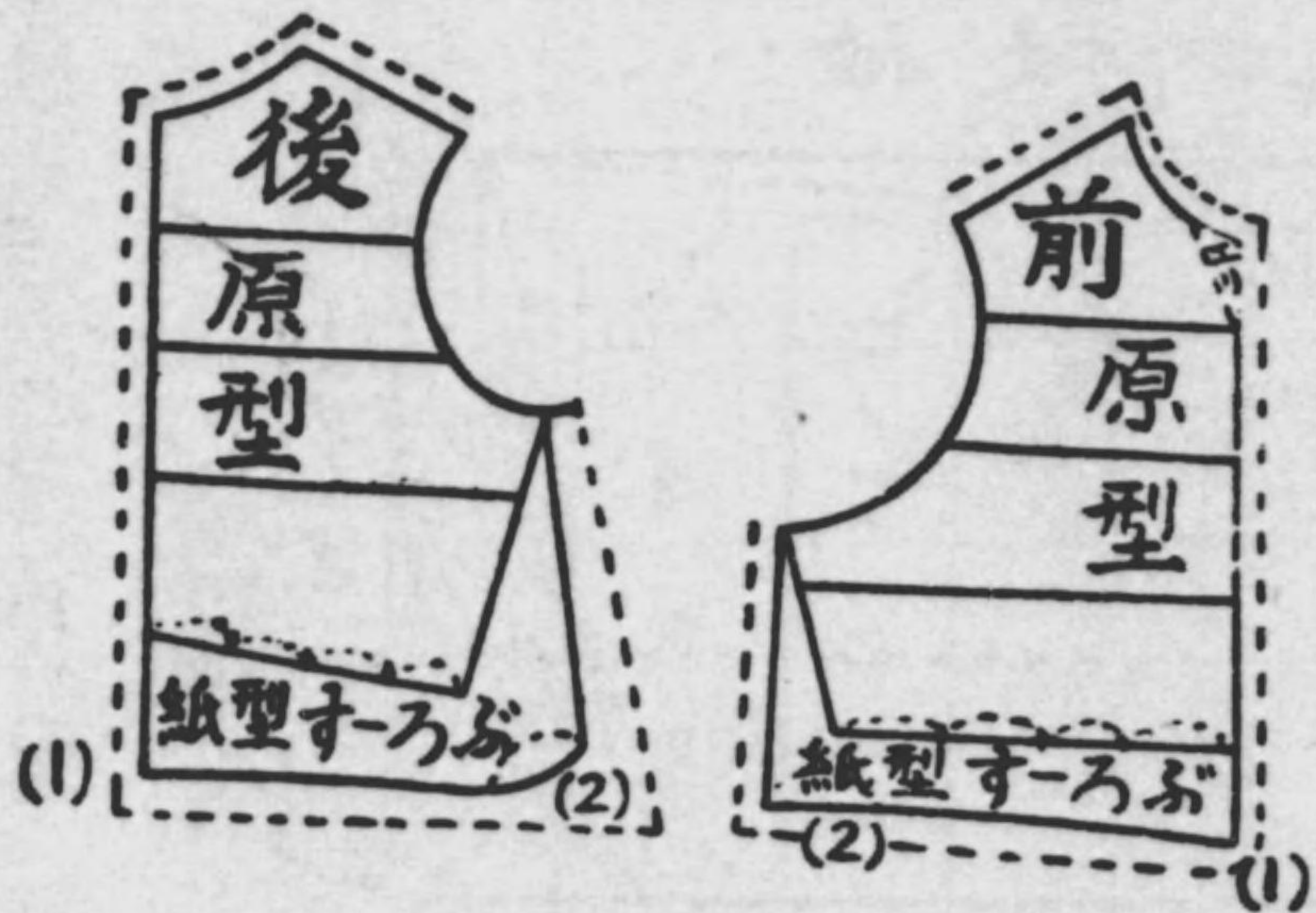
ブレース原型及各部割出し方圖次の如し。

原型割出し方より順を追ふて説明する。

(一) 原型割出し方

- (イ)は背にして、(ロ)は半胸圍の十分の一を加ふ。この二線を元として圖の如く四角をつくる次に背丈を四分して第一線より第三線までの横線を引く。(ハ)は中央より一纏左即ち背巾の方による以下(1)(2)(3)の番號によつて解説す。
- 1. 後衿肩明口線の八分の一。
- 2. 衿肩明の八分の一。

ブレース型紙及布の取扱方圖 第二圖



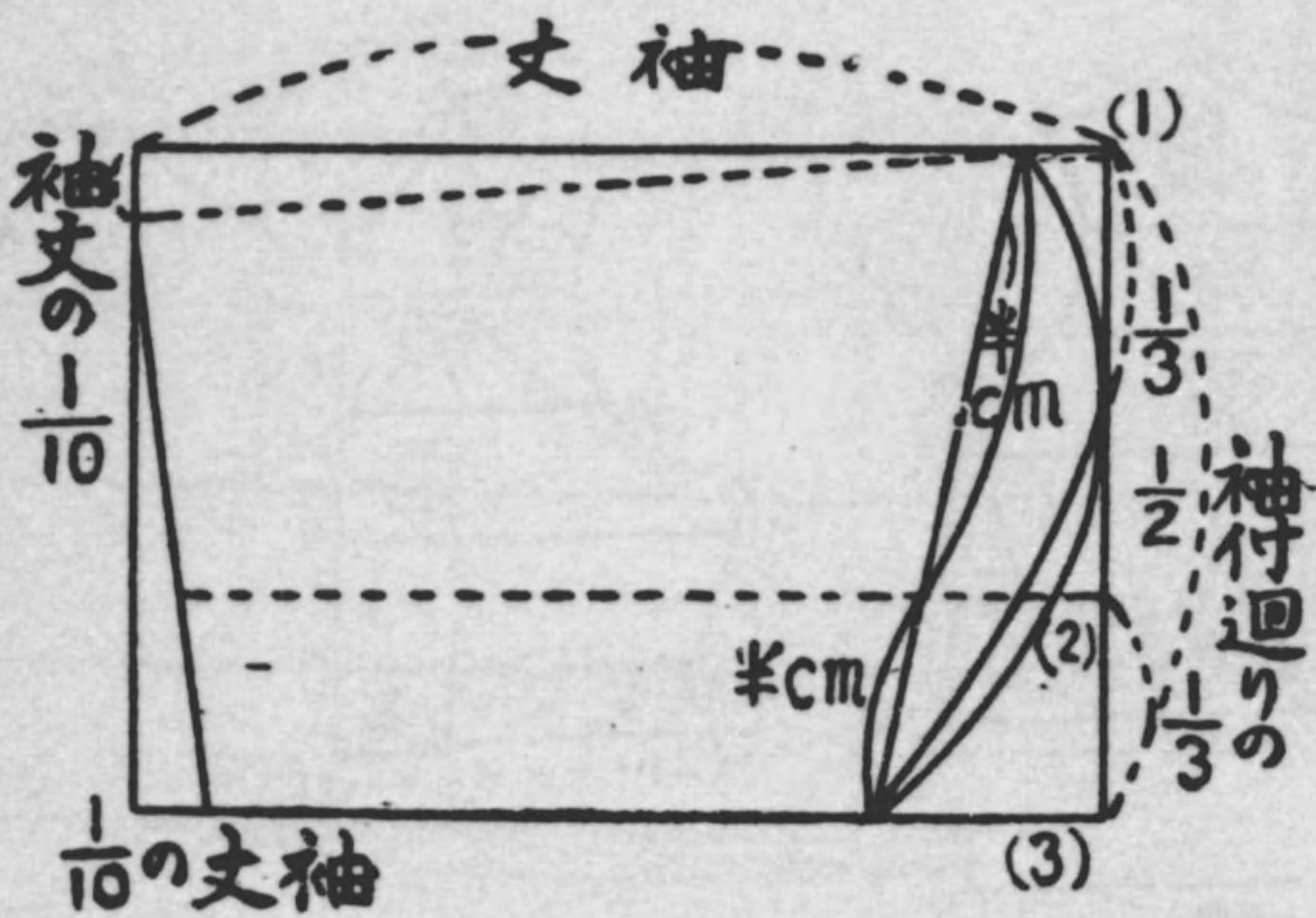
裁縫科受験準備講義



- 3. 背巾口線の三分の一に一纏の縫代を加ふ。
- 4. 肩下り第一線の二分の一にして(2)と同様に衿肩明の八分の一を出す。
- 5. 對角線の四分の一。
- 6. 胸癖口線の二十分の一とし第三線にて消す様に斜線を引く。
- 7. 後肩巾と同寸にして肩下りの標準を第一線の四分の一にする。
- 8. 對角線の六分の一。
- 9. 背巾の二分の一。
- 10. 背巾の十分の一を出し(9)より少々丸みを保ちて圖の如く線を引く。
- 11. 後衿肩明と同寸。
- 12. (2)同様。
- 13. (11)と同寸。

14. (11)と同寸。15. 対角線の四分の一。

袖原型割出し方 第三圖



をよせたものと推察する。故に身丈は腰丈まで延長するものとする。

(二) 袖の割出し方

袖丈は衿より脊巾の二分の一を減じカフあるものはカフ丈を引き、一センチの弛みを加へるものとする。袖巾は袖付け廻りの二分の一とする。以上二線を元として割出するものである。

1. 袖丈の十分の一。2. 袖丈の十分の一。3. 袖廻りの六分の一。

(三) ブロース型紙の割出し方

型紙は凡て原型を基礎として割出すものとする。第二圖の如く原型を型紙の上のせ、身丈を定めるものであるが出来上り圖によれば身丈は腰までにして、下部にゴムテープを入れてギャダ

1. は即原型より腰丈迄。
2. 原型より原型の四分の一を出して廣くす。後型紙も前も同様。
3. 衿出来上り圖によれば衿は前身頃を第一線より折返し、(第二圖前型點線の折り方参照)他は第三圖の如く後原型前原型をつき合せて衿巾を第一線の十分の八として圖の如く丸形になり、前身頃の折り返しにつき合せるものとする。衿型紙は圖によつて見られたし。圖中型紙の周圍の點線は縫代の標である。

エプロン

一、福島縣(鳥取縣及岐阜縣も之を参照のこと)

五六才用エプロンの形状には種々あるが一般的のものを擧げた。次第である。劍形も廣く用ゐられる。然し次圖に示したものは、之に種々の變化をつけて、面白い形となれば此の裁方を示す。

(一) 裁方圖明説

(二) 用布キヤラコ巾八十六糎

丈より十一糎を斜切及ポケットとなす爲に裁切り置き残りの用布を第二圖の如く、二つ折りト

裁縫科受験準備講義

なして、寸法通りにヘラをつけて裁切る。ポケットの形状は各自の好む様にするも、角形の衿肩明の場合はポケットの形も角形とした方が調和がとれてよい。斜切及ポケットの裁方は圖参照のこと。

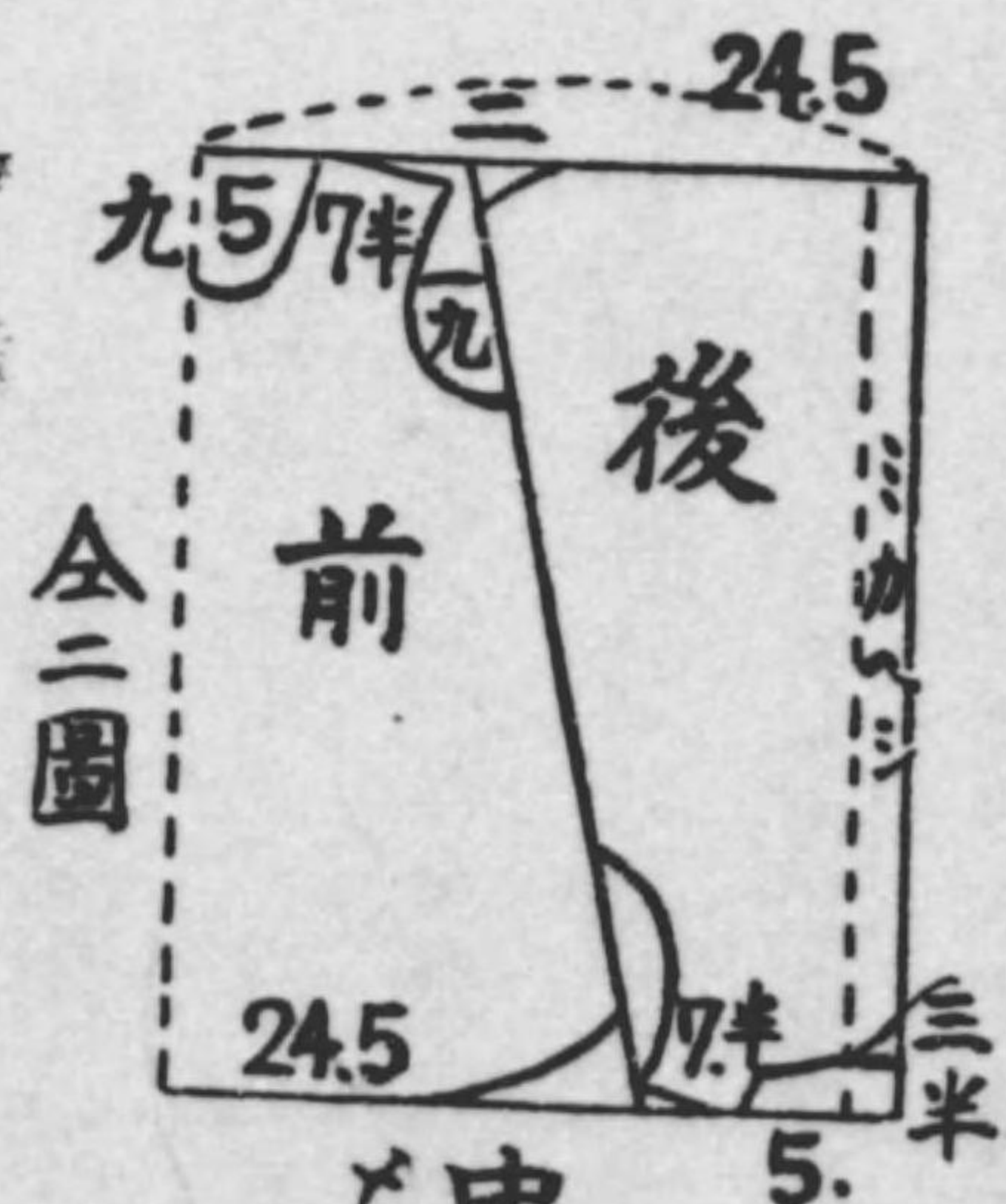
エプロン裁方總圖 (第二問の一圖)



出来上りの圖



分解圖



中央まで斜線と直角

ポケット
縦は三分の二横は三分の二より斜まなす

★三分の一
二分の一

(三) 裁切寸法

丈七五纏、肩巾七、五纏、前後巾下四九纏。
ミカヘシ二纏半、アゴ下八纏、ポケット丈一三纏。
衿肩明五纏、同巾一一、五纏。

四、五、徳島縣及京都府

大人用割烹前掛の形状及裁方には種々の方法がある即ち衿明を三角に裁つたもの、袖接ぎをするもの等多種多様であるが次圖の形状及裁方は比較的一般的のもので、裁方も簡單にして仕立易いものを選定した。

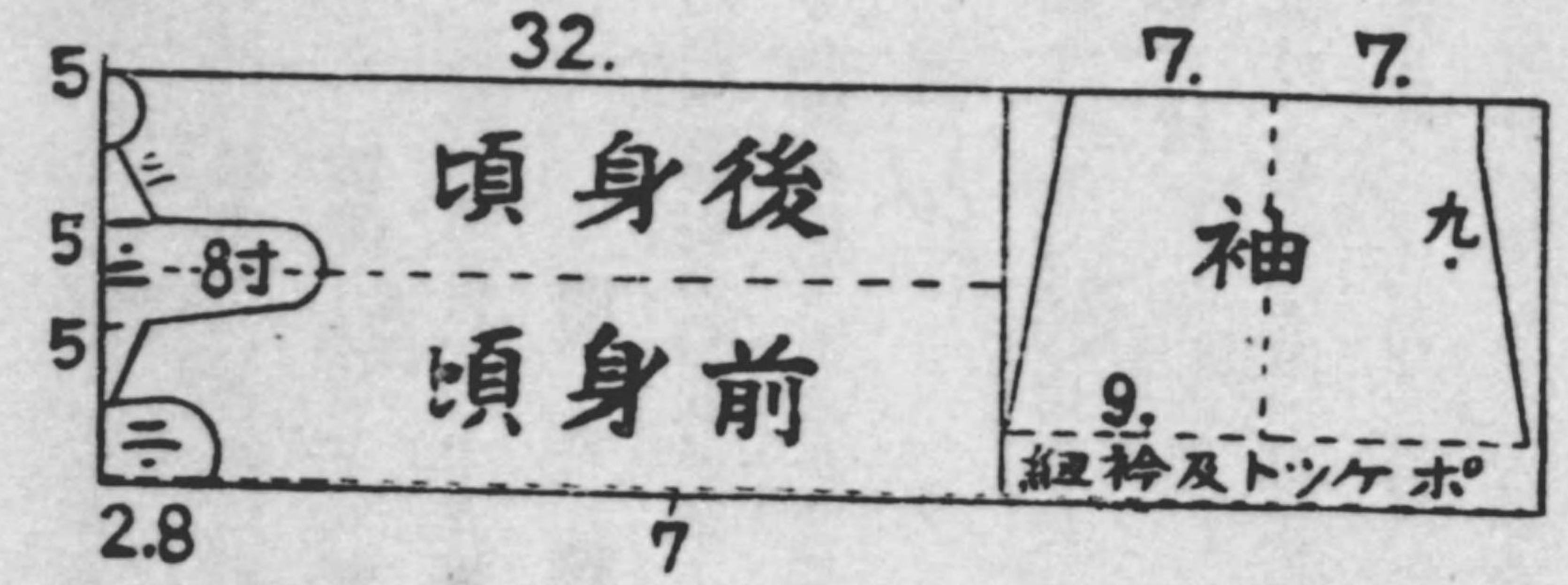
(一) 用布キヤラコ大巾五尺
(二) 裁切寸法

袖丈九寸、袖口七寸、袖巾九寸、後身丈三尺二寸。
衿肩明二寸、アゴ下二寸八分(又は三寸五分)肩巾三寸。
肩下り五分、袖付明、八寸、後衿繰り五分。

(三) 用布は縦二つ折として裁つ

裁縫科受験準備講義

割烹前掛裁方圖



$$32 + 9 \times 2 = 50$$

身丈 袖丈 總用布

出來上り圖



帽子の部

一、長野縣

四五才女兒帽子取寸、頭圍四〇三厘
型紙の裁方

- (一) 頭布、帽子取寸(頭圍にゆるみ一厘を加へたるもの)の $\frac{1}{3}$ を半徑として圓を描きたるもの、
- (二) つば頭圍に一、厘加へたものを丈とし、巾は八分の一をとり、上になる方二つを半に割つて形よく切込を入れる。切込あまり深い時は裁縫しにくい。

(第三圖参照)

【布の裁方】

- (一) 頭布、周圍に一センチの縫代を加へて裁つ。
- (二) つば周圍に一センチの縫代をとる。此外に飾紐として一、半厘位のリボン一三〇センチ。バックロン巾五センチ、丈帽子取寸より五センチ(重なるの分)長きもの針金、バックロンの上と下。つばに入れる心地キャンバス。

裁縫科受験準備講義

裏布幅一五厘、丈つばの長さ。

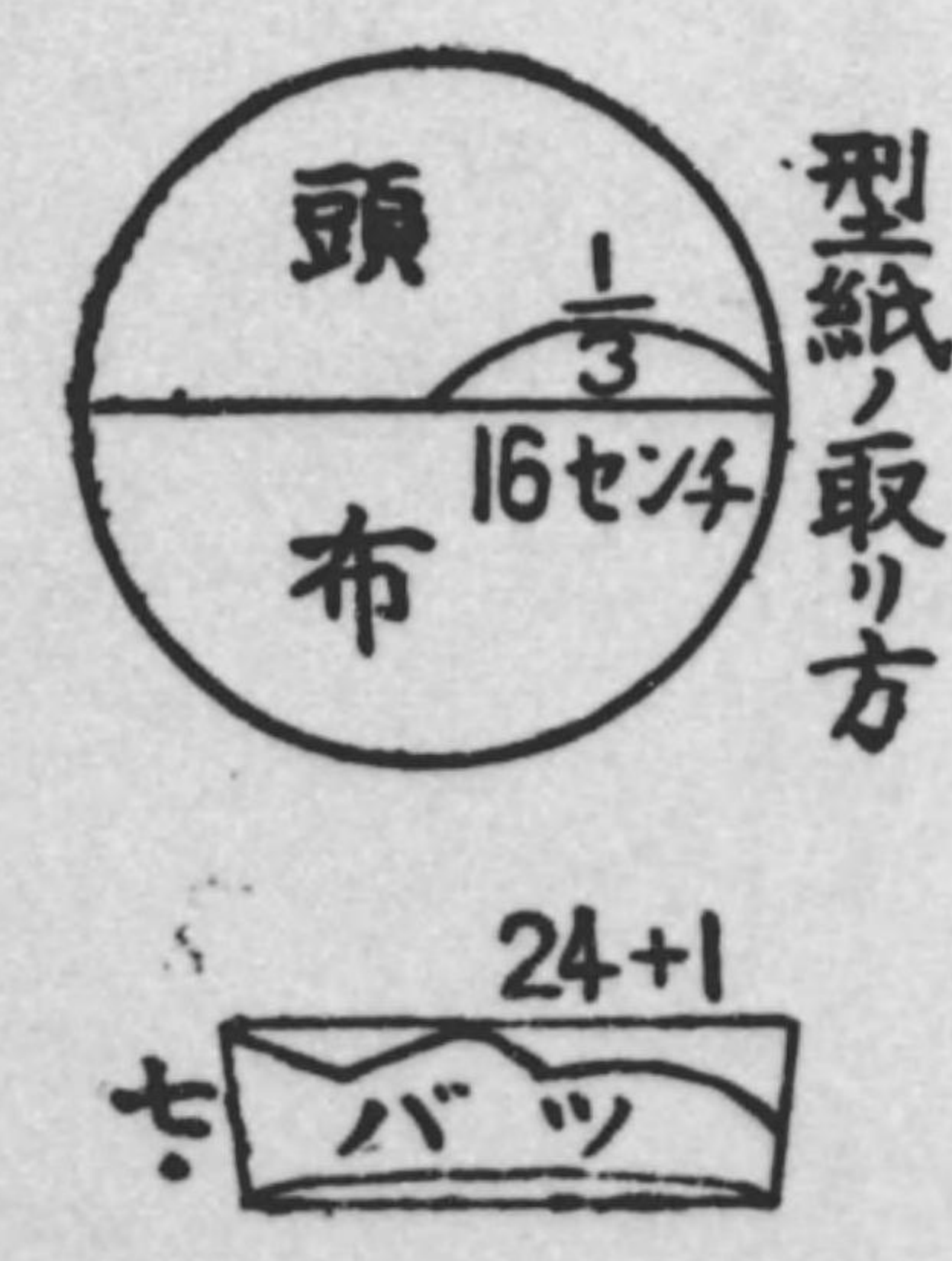
【縫方】

- (一) つばの表に心地を綴ちつけ裏と合せて花形の方を縫合す
(表をゆるませ加減にして)表に返して、〇、五センチの深
さに押へミシンをかける。
- (二) 紐通しの所にミシンをかける。
- (三) つばの附の方にミシンをかけ表の中を充分ゆるませて、
バックロンを重ね合せ針金を上と下につける。
- (四) バックロンにつばを返し縫にてつける。
- (五) 頭布の端を折りて縫縮めバックロンに返し縫にてつける。
- (六) 裏布の上部を縫縮め小さき布をつける。
- (七) 裏布の端を折りて周圍にまつりつける。
- (八) 穴をあけて紐を通す。
- (九)

女兒帽出來上り圖



第一圖 第二圖



第三圖 型紙ノ取り方

二、奈良縣

女兒運動帽としての適當な要件は、仕立方簡單にして烈しき運動の際にも取れない事と、極めて軽い事を條件として考案されねばならない左にその條件をくんで裁方を示す。

裁方圖 (第一圖)



縫方圖 (第二圖)



出來上り圖 (第三圖)



(一) 材料

用布キヤラコ三七厘三の正方形二枚、
白テープ四分巾位のもの七五厘、

裁縫科受験準備講義

カタン糸五十番のもの一個。

(二) 用布の積り方公式

$$\text{頭圍} + 3:416 + 2 = \text{半徑}$$

$$\text{半徑} + \text{袖丈} + \text{裾圍} + \text{裾} + \text{縫代} = \text{用布の半徑}$$

$$\text{半徑} \times 2 = \text{用布直徑}$$

故に用布は三七、三纏の正方形を要す。

裁方は第一圖の如く用布を折り一八、六五纏と標をつけ弧を描きて裁切る。縫ひ方順序は最初二枚合せて縁を浅い縫代で縫合せ、四、五纏入つた所を紐通しの分として、一五纏の縫代を取つて圖のやうに細く縫ひテープ通しの穴を明け穴かざりをしてテープを通すものとす。

第三節 本裁男羽織の問題並解説

第一 本裁男羽織の問題

單羽織

一、並巾九米七十二纏の單羽織を以て男單羽織の裁方を圖解せよ。(長崎縣)

但し出來上り身丈一米二纏、袖丈五十四纏。

二、幅二尺四寸、長さ九尺五寸五分(片面物)の布にて男單羽織の裁方を圖解し、各部の名稱寸法及積り方を記せ。(栃木縣)

三、並巾長さ、九八四、八四纏(鯨尺 丈六尺)の用布にて男單衣羽織を裁つに袖丈五六、八二纏(鯨尺一尺五寸)の裁切とせば身丈及衿丈は何程か。(奈良縣)

四、並巾長九米七十二纏(二丈五尺六寸)の布を以て本裁男單羽織裁ち方圖及裁ち切り寸法を記せ。(山梨縣)

但し袖丈出來上り五十五纏、後身丈出來上り一米二纏。

五、並幅長さ九米八十七纏六耗にて本裁男四年羽織の裁方を圖解し、寸法を記入せよ。(沖繩縣) 但し袖丈裁切七十五纏、身丈仕立上り一米四纏。

六、羽織地一反二丈六尺五寸を以て本裁男物單羽織を裁たんとする裁方を圖解し、積り方算式を記せ。(山形縣)

但し仕立上寸法、(鯨尺)袖丈一尺四寸、身丈二尺七寸。

七、並幅長さ二丈五尺八寸の用布にて男單衣羽織を裁たんとす。袖丈一尺五寸、裁ち切とせば身

八、イ、大幅一〇七五種のセル地を以て男單衣羽織一枚を裁たんとす。裁方圖を示し裁切寸法を

記入せよ。但し仕立上りは普通寸法とす。

九、並幅長さ九米八十種の反物を用ひて男物單羽織の(角襦)裁方積り方を問ふ。但し仕立上げ

寸法、袖丈五十三種、身丈一〇五種とす。(宮城縣)

一〇、本裁男單羽織の標附方を説明し尙縫方の順序をも記せ。(高知縣)

一一、男物單羽織の前、身頃及び襦の標附法。(島根縣)

一二、二尺巾セル地にて男物羽織の裁方。

仕立上身丈二尺七寸五分、(一〇五種)袖丈一尺四寸五分(五五種)に仕立つには用布何程を要するか。(尺は米突、尺何れにても可)

裁方圖を示して各部に名稱寸法を記入し、積り方公式をも記すべし。(滋賀縣)

裕羽織

一三、並幅長さ十一米の布を以て左の寸法に仕上ぐべき本裁男物羽織の裁ち方を圖解し各部の積り方及裏地用布の積り方算式を問ふ。仕立上寸法。袖丈五十三種、身丈一米、其の他普通。

(神奈川縣)

第二 本裁男物羽織解説

【問題の概観】

裁縫科理論問内中其の數に於いて第三位を占めてゐるものは即ち男羽織である。特に單衣羽織に就いては、随分共同的に其の要所に向つての要求があると見て決して過言ではなからう、十三問題中、裕羽織に就いてはただの一問題である裁方に就いては長さを明示するもの又明示せぬものとのあるが、多くは圖解、寸法等は殆ど一済的に、解答を求めてゐる左にその裁方問題の共通的研究部分を擧げて見やう。

1. 單羽織の裁方及圖解、積り方算式。
2. 各部名稱。
3. 裁切寸法及出來上り寸法。(普通)
4. 標附方及縫方の説明。(以上單衣の部)

裁縫科受験準備講義

5. 衿羽織の裏地積り方。

要するに単衣羽織全體に渡つて部分的にも總括的にもよく研究して理解あれば、部分的の問題に對しても決して不可解の事はないと思ふ。要は確實に其の基礎となる部面の研究が出来てれば應用は此所より生れるものであれば如何なる問題でも決して心配はないと思ふ。

單衣羽織

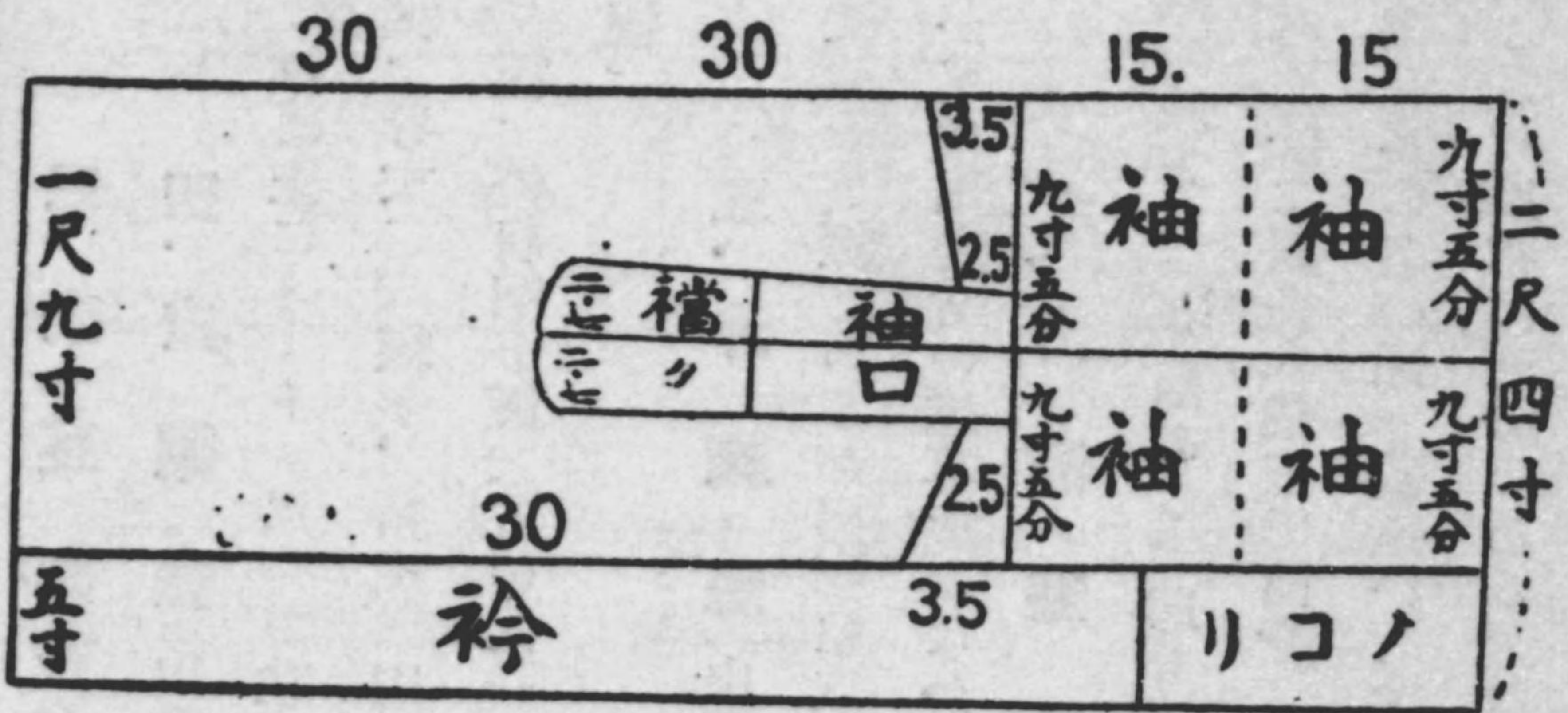
- 一、長崎縣(山形縣の部参照の事)
- 二、栃木縣

(一) 用布の關係上衿巾を半巾として巾よりかき取り残りを以つて圖の如き裁方をなす。

(二) 裁切寸法。

- 袖丈一尺五寸。
- 袖口丈一尺八寸。
- 衿丈六尺六寸。
- 袖巾九寸五分。
- 身丈三尺前下り一寸。
- 衿肩明二寸七分内五分廻し。

片面物の單衣羽織裁方圖



袖丈 身丈 衿の補切 總用布
 $15 + 30 \times 2 + 3.5 = 95.5$

裁縫科受験準備講義

三、奈良縣(山形縣の部参照の事)

四、山梨縣(山形縣の部参照の事)

寸法鯨尺なれば左にメートル尺にて裁切寸法を記す。

袖丈五七纏、身丈二八纏半、衿丈二四二纏半、

袖口丈七二纏、衿肩明十纏二五の内一纏の丸味、

前下り四纏。

五、沖繩縣(山梨縣の部参照の事)

問題に袖丈七十五纏とあるが男物は五十五纏が普通で七十五纏といへば鯨尺二尺である。故に

問題の誤りか又は出題者の違算ではなからうか。

六、山形縣

(一) 單衣羽織の裁方に二種類ある。即ち用布の長短によつて角襦及裁違ひ襦とする。

角襦は用布充分な場合の裁方で前身に、一尺のキレをとりて襦丈を十分にする。裁違ひ襦は用布短い場合襦を其の名の通り裁違ひとする方法である。

問題を見ると、用布は充分である。故に角襦の裁方にする方が至當である。

單衣羽織角襦裁方圖



出穿上り袖丈 裁切袖丈
 $14. + 1 = 15.$

出来上り身丈 衿 丈
 $27. + 6 \times 2 = 66$

總用布 袖丈 衿丈キレ 身丈裁切
 $265. - 15. \times 4 + 66 + 10 + 4 = 300$

(二) 裁切寸法

袖丈一尺五寸、身丈三尺、衿丈六尺六寸、衿肩明二寸七分内五分廻し、前下り一寸袖口丈一尺八寸。

七、石川縣

(一) 裁方圖は山形縣のを参照の事、但し裁切寸法釧尺にて所定の寸法たよつて記せば次の通り。

總用布—(袖丈+襟ノ補)+衿丈=身丈

25R—(15.×4.+10.+64.)+4=31.

出來上り身丈 總代 衿丈

衿丈ノ米メ方 27.5.×2=64.

(二) 袖丈一尺一寸、袖口切一尺八寸、袖口中二寸七分、身丈三尺一寸、前下り一寸、衿肩明二寸七分内五分廻し、衿丈一尺四寸、襟丈一尺八寸。

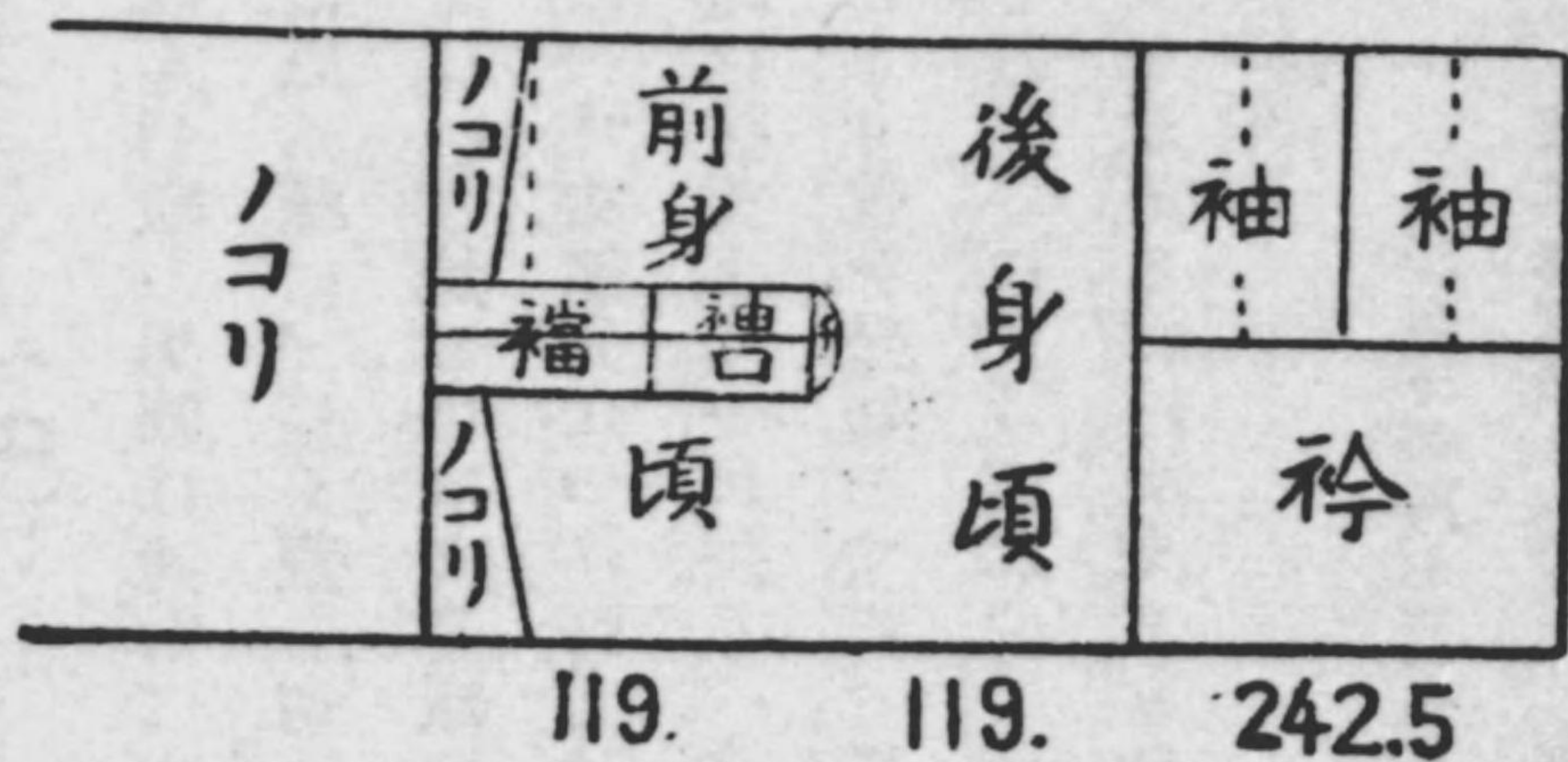
八、福岡縣

(イ)

(一) 大幅一〇七五種セル地を釧尺に換算すれば二丈八尺三寸七分となる。單衣羽織は普通並巾二丈五尺五寸より六尺五寸位の用布にて十分裁つ事が出来る、故に本問題は残り切を出すものと考へ裁方圖の如く大巾裁にして襟に補ひ布を取つて角襟裁にした。

(二) 裁切寸法

大巾にて男單衣羽織の裁方圖



袖丈七七種、身丈一一九種、前下り四種、衿肩明一〇種、半内一種半の廻し、襟丈八九種半、袖口丈六七種半、衿丈二四二種半。

【積り方】

身丈 襟ノ補 衿丈 總用布

119×2+19+242.5=499.5

總布 羽織總尺 残り切

1075-499.5=575.5

(口)

(一) 袷羽織、綿入羽織の男物は通常二丈八尺以上の用布を用ひ前後の差を五寸以上つけるものであれば前丈は思ふ様に、長く裁ち切れるもの故如何に袖口丈を長く使用するもの襦丈に不足を生ずることがない。然るに單衣羽織は折返しの関係上、用布に制限があり又前後の差も單に前下りのために一寸丈餘分につければ袖口丈を十分にとる時は自然襦丈に不足を生ずる。故に角襦裁とする時は後丈より一尺長く、前丈を定めて前巾をかき、袖口丈襦丈等を取り、残りより前下りを斜にとり他を殘切とする。又裁違ひ襦と云つて一尺の補ひ切をとらず、襦を鈎衿の如く不足の丈を裁違ひにする方法の二つがある。裁違ひは兩面ものの時のみに限られる。羽織の衿丈を求めるには出來上り身丈に五寸を加へ之を二倍する。式で表はせば、

$$\text{出來上り身丈} + 5 \times 2 = \text{衿丈}$$

襦丈
前下り 襦丈

$$5 = 0.4 + 2.4 + 1.0 + 0.8 + 0.4$$

九、宮城縣(山形縣の部参照のこと)

一〇、高知縣

(一) 寸裁は普通仕立上げ寸裁に依る

袖丈一尺四寸、袖口七寸五分、袖巾八寸七分、衿一尺七寸五分、
後巾八寸、乳下り八寸五分、繰越し二分、前下り一寸、

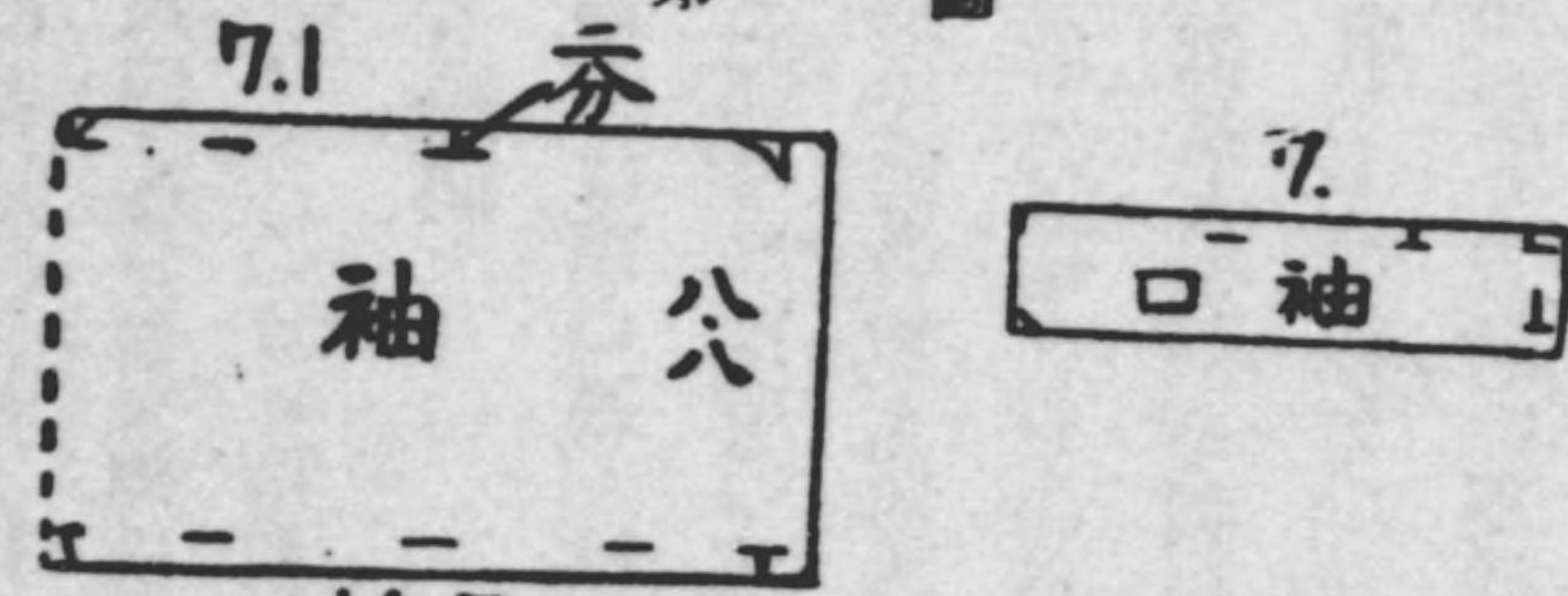
(二) 標付方説明

1. 袖。袖丈は圖の通り出來上りに五厘を加へ巾は一分多くする、袖口切は口を表袖より一分狭くする。他は圖中の寸法の通り。
2. 身頃第一圖の如く後丈は身丈出來上りに三分加へ繰越しは二分とす、前丈は後丈に一寸一分を加へる。残りの布は二分して中折を五厘狭くする、前は前下り一寸一分の標をつけて置く後、裾折りを三つ折にして待針をうち、後布、肩巾、袖附等の標をつける、次に後を開いて、乳下りの標をつけて置く。襦は下巾を二寸とし、上は三分中心をづらして一分の標付とする。曲り方多い方は前身頃につけるものとする。

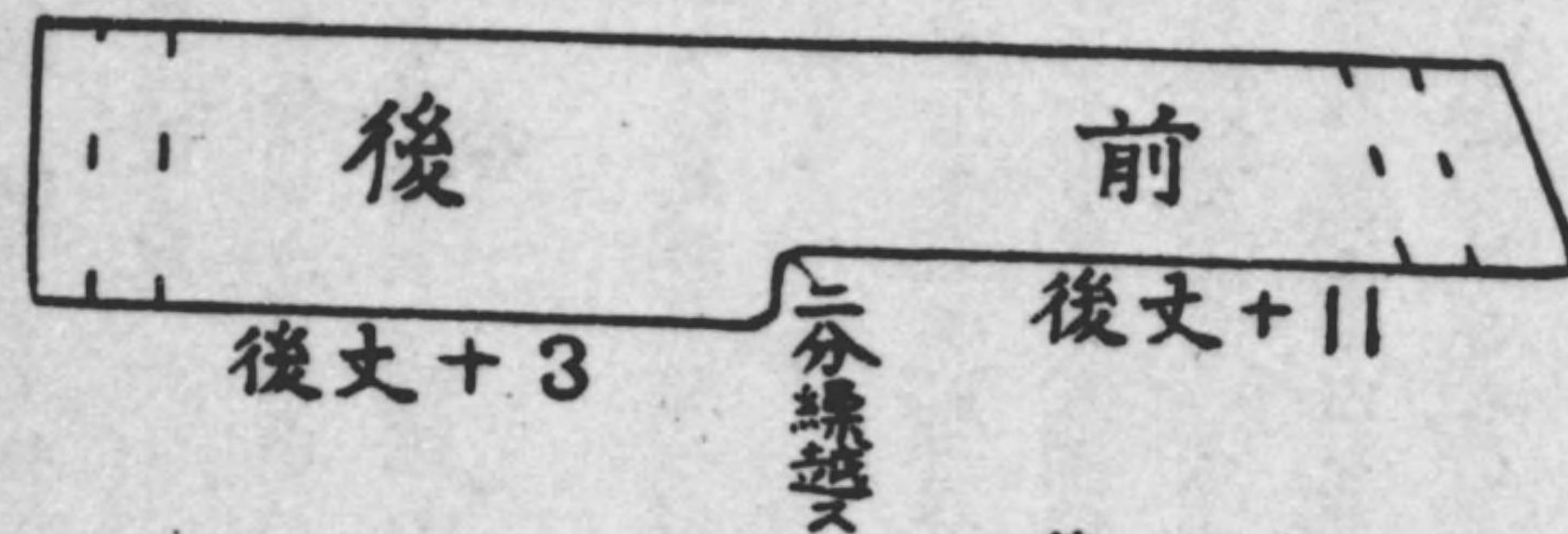
襦丈は後身頃につく方にのみ標をつけおく。前下りは襦を圖の如くにのせ、前丈一寸一分の標と後襦標とを合せて、四圖の如く前下りの標をつける。即ち前下りは襦より前身頃にかけてつ

女單衣標附圖

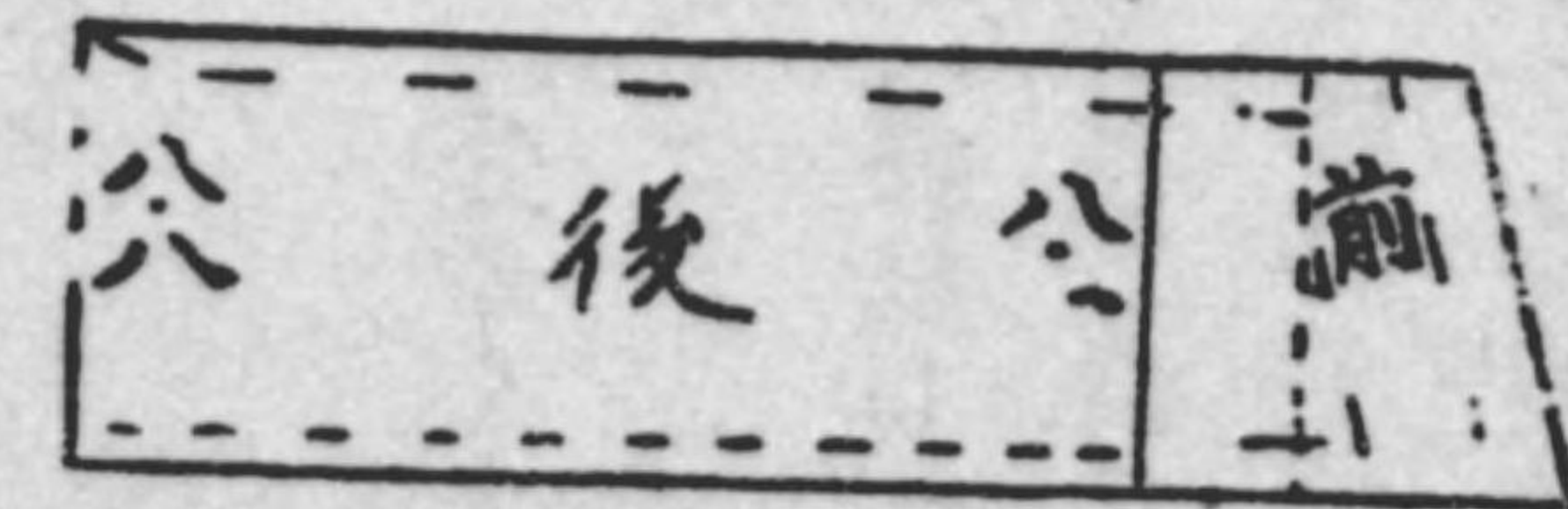
第一圖



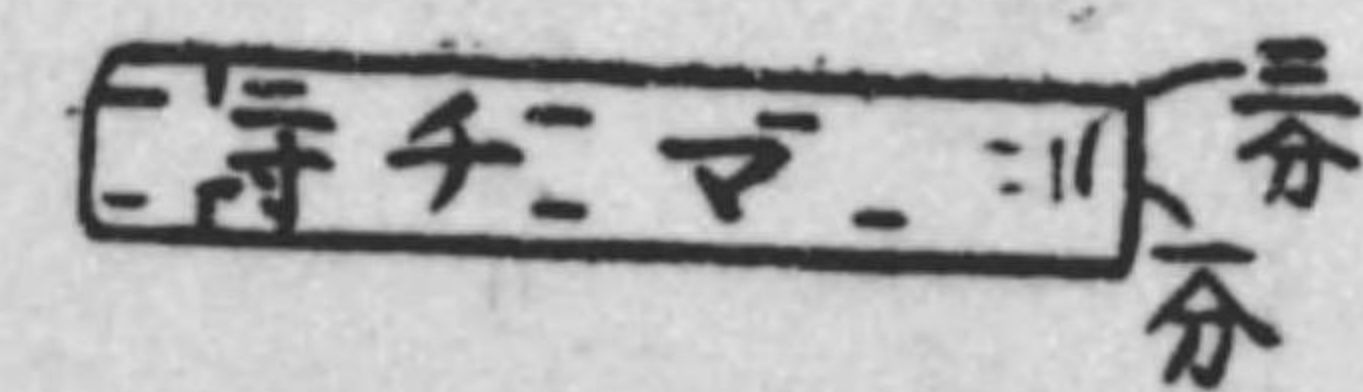
第二圖



第三圖



第四圖



上記ノ如キモノハスベテ
天地四寸五分 以內
左右二寸七分

けるものとする。折込のとり扱ひは後と同様である。

(三) 縫方順序

1. 袖。最初袖口切の端を折つて伏せ縫となし表袖と袖口に切とを合せて袷袖の如く縫ふ。袖口下は四つ留とし、袖口切のある所迄半返し縫にして、其の他は單衣袖と同じ、袖口切の奥は針目を極く細かく耳を折つて表袖にとちつける。
2. 身頃。背縫は標付の前に縫ひおくものであれば最初裾の上部を三つ折衿とし、前裾をつける。次に前裾を三つ折にして躰をかけて、前下りを調ひ、乳を付けて後衿を袋附にする。衿先を縫ひ引き返して残りの部分を細かく衿け飾躰を掛ける、次に後裾を付け袖を付けて後裾の縫込を身頃の縫込にとちつけ、裾を衿けて仕上げをする。肩當をする場合は衿付の前にする。

一一、島根縣(前高知縣の部参照の事)

一二、滋賀縣(前福岡縣の部参照の事)

袷羽織

(一) 裁切寸法

袖丈六五纏

後身丈一四六纏半

前身丈一六九纏半

衿丈二三八纏

袖口丈六八纏

袖口巾一〇纏

(二) 裏地積り方説明

次の式の如く、袖丈を八倍し身丈を十倍して之に縫代として九十五纏を取り、以上を合すれば裏表全體の總用布を得る。之より表總尺を除けば求むる裏用布を得る。

(三) 縫代内譯

袖十五纏

衿三十八纏

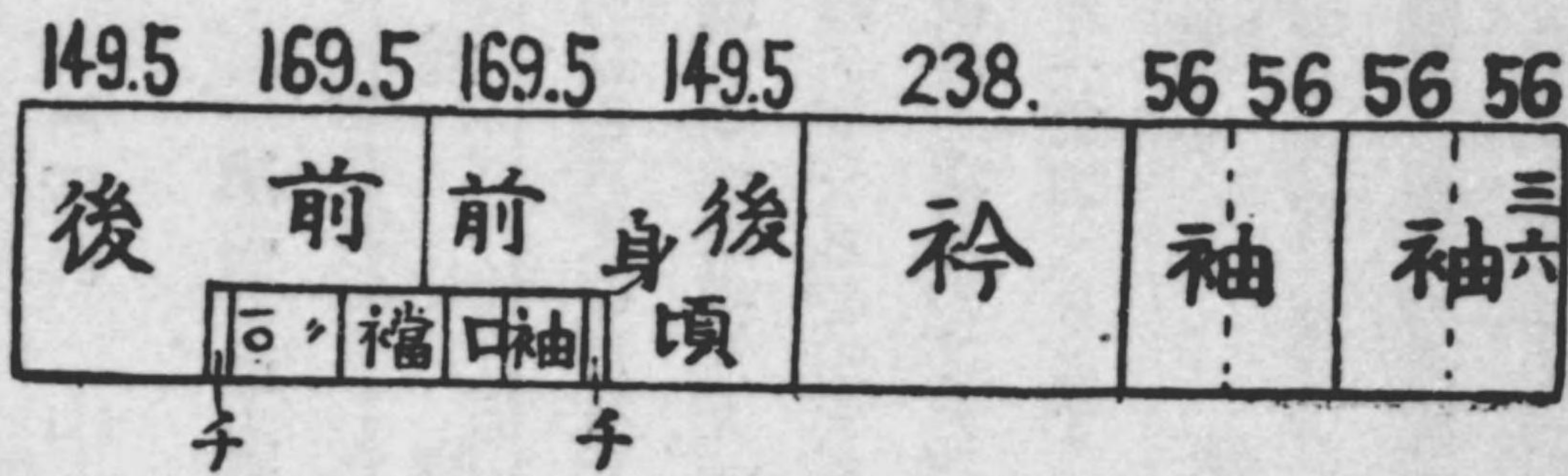
衿附四纏半

残り胴接ぎ

即ち四四三纏となる。

(四) 衿丈の積り方の場合縫代として一九纏を取るは衿肩明と前下りと、衿先の縫代を合せたものである。

男袷羽織裁方圖



裁縫科受験準備講義

【表地積り方】

總用布 袖丈 衿丈 前後ノ差 後身丈
 $1100\text{cm} - (56\text{cm} \times 4 + 238\text{cm} + 20\text{cm} \times 2 + 4) = 149.5\text{cm}$

後丈 前後ノ差前丈 出來上リ身丈 縫代
 $149.5 + 20 = 169.5\text{cm}$ $100\text{cm} + 19\text{cm} \times 2 = 238\text{cm}$

【裏地積り方】

袖丈 出來上リ身丈 縫縫代 表總用布 裏總用布
 $56\text{cm} \times 8 + 100\text{cm} \times 10 + 95\text{cm} - 1100\text{cm} = 443\text{cm}$

第四節 中裁小裁問題並に解説

第一 中裁小裁の問題

着物

- 一、幅二尺長さ八尺の用布にて中裁元祿袖の裁ち方積り方を示せ。(岩手縣)
但し裁ち切寸法袖丈九寸、身丈三尺一寸とする。
- 二、二尺幅メリンスの四ツ身摘み衿の裁方及裁切り寸法を問ふ。(島根縣)
但し袖は、袂袖のこと。更に之に要する胴裏の總尺を裾廻し布大中二尺として算出せよ。
- 三、英ネル一丈四尺を以て十四五才兒及三四才兒の衣服を調整せんとす如何なる裁ち方に依るか。(徳島縣)
- 四、幅七七、七六纏(鯨尺二尺)長九〇、九一纏(鯨尺二尺四寸)の布を以て四ツ身拾裾廻しの裁方を圖解し各部の名稱並に普通裁切り寸法を記入せよ。(奈良縣)
- 五、並幅三米五十纏にて一ツ身單衣を裁て。(廣島縣)

- 六、幅一ツ身單衣筒袖及濁袖(袖口附)の標附方を圖解せよ。(京都府)
- 七、子供長着揚の仕方を詳記せよ。(廣島縣)

羽織

- 一、用布長さ四米三十七纏、幅三十八纏の片面物を以て三ツ身裁元祿袖の羽織の表一枚を裁つに袖丈の裁切りを二十九纏とすれば身丈は何程となるか、積り方の算式と裁ち方圖を記し、圖中には各部の名稱と寸法を記入せよ。(東京府)
- 二、幅二尺長さ五尺五寸の片面物にて小裁羽織の裁方並に裁切寸法を記せ。(和歌山縣)
- 三、二尺巾七尺五寸の布を以て十二三才用の羽織の表を裁つべし。裁方圖を示し、各部の名稱寸法、積り方を記せ。(高知縣)
- 四、一ツ身袖無羽織及四ツ身被布の裁方。(佐賀縣)

第二 中裁小裁の解説

【問題概観】

本問題中、中裁小裁の問題もその數に於いて中々に多い、之は小學校の裁縫に於いて小裁中心

主義を採用してゐる所が中々に多い關係上か、又、一般受験者が中裁、小裁等は左程困難視しせずおろそかにする點からか、兎に角、數も多く、問題も中々基礎となる部面の多い事は誰もが氣のつく所であらう。そして又、實際小學校の裁縫教師として中裁小裁が自由自由に取扱はれなくては、全く教師としての資格がないといつても決して過言ではなからうと思ふ。理論に於いて實際に於いて非常に重要な教材であれば細部の研究を要する事である。

- (一) 着物及羽織。
 - (二) 一ツ身、三ツ身、四ツ身。
 - (三) 單衣、袷綿入。(従つて裏地の研究を要する)
 - (四) 小供物獨得の腰揚及肩揚。
 - (五) 片面物、兩面物、大巾物、並巾物。
 - (六) 裁切寸法 仕立上寸法、積り方算式、圖解、裁方。
 - (七) 寸法の名示せるもの、なきもの、各部の名稱。
 - (八) 袖無羽織、被布。(特別なもの)
- 要するに、應用的部面が中々に多い一つの規範より範圍を擴張して推理し、判斷し、考案する

所に受験者のなやみがある苦心がある又楽しみも湧く。確實な知識として自己化して置かねばならない。

大巾にて(二尺)八尺四寸身元祿袖ノ裁方圖



袖丈 身丈 總用布
 $(9 + 31) \times 2 = 80$

中裁小裁 (着物)

一、岩手縣

中裁元祿袖の裁方積り方

(一) 裁方圖に示せる通り、衿は袖と後身頃にかけて真中より取るを最も至當とする。即身頃及袖巾の一方を耳とする爲である。衿巾は袖巾を普通寸法に裁つた爲、三寸五分としたが、四寸にする場合は袖巾を少々狭く、衿巾を廣くかき取りても差支ない。

(二) 裁切寸法

袖丈九寸、袖巾八寸五分、身丈三尺一寸、後巾八

大巾にて三ツ身並に四ツ身長着裁方圖

裁縫科受験準備講義



總片布 身丈 袖丈 身丈
 $140 - 26 \times 2 - 8.5 \times 2 + 2 = 35.5$

- (一) 十四五才の長着を裁つには、着用者發育の狀況如何に依つて本裁又は前衿裁にする場合と、四ツ身裁にてもよい場合とある。故に單に十四五才用とある時は前衿裁にするのが最も適當とするも本題所定の用布にては、前衿裁は稍々困難であれば大形の四ツ身裁とした。三四歳用は一つ身裁にして身巾をや、廣くし衿巾を半巾として着用するか又は三ツ身裁を相當とする。今此所では三ツ身裁として、衿接ぎの方法によつた。圖中右は四ツ身左は三ツ身の裁方である。
- (二) 四ツ身裁切寸法 (十四五才用)
 袖丈八寸五分、 袖巾八寸五分、
 身丈三尺五寸五分、 後巾八寸五分、
 前巾六寸、 衿巾四寸(摘衿)

大巾にて四ツ身首物の裁方圖



【積り方】

袖丈 身丈 總用布
 $17.5 + 32 \times 2 = 99$

【胴裏積り方】

表身丈 裾廻丈 縫込衿 胴裏丈
 $32 - 10 + 3.2 \times 2 = 19.6$

胴裏丈 胴裏地尺
 $19.6 \times 4 = 78.4$

大巾一丈四尺を以て四ツ身と三ツ身との裁方

三、徳島縣

- (一) 袖丈一尺七寸五分、袖巾八寸五分、
 身丈三尺二寸、 後巾八寸五分、
 前巾六寸五分、 衿巾三寸五分、
 衿肩明二寸、 衿巾三寸、

(二) 裁切寸法

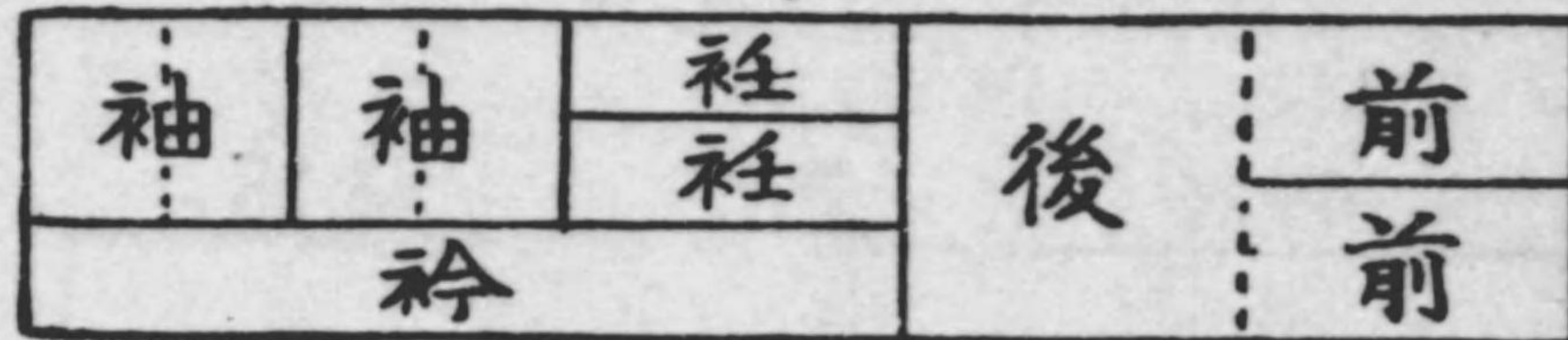
- 四ツ身摘み衿の裁方及裁切寸法次の如し。
 (一) 衿巾は三寸五分としたが四寸にした場合は衿肩明を二寸五分として、脊縫を深く縫ひ込むか又は袖巾を二分五厘つめて、衿巾を廣く裁つものとする。

二、島根縣

寸五分、前巾六寸五分、衿巾三寸五分、衿巾三寸衿肩明二寸。

全國裁縫科實地試驗問阿並に解答

並巾3メートル50種にて一ツ身單衣の裁方圖



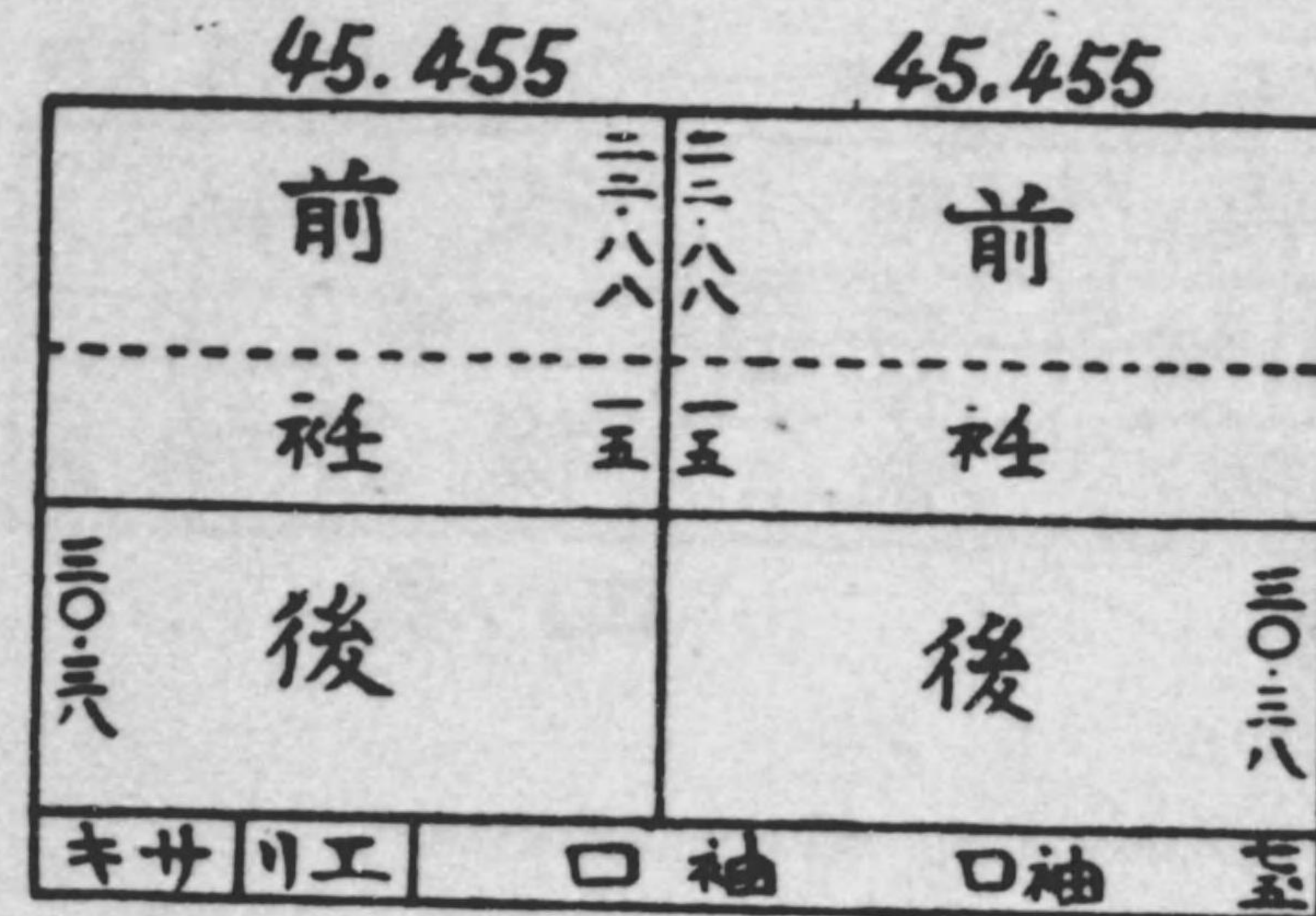
【積り方】

袖丈 身丈 衿下り 總用布
 $27\text{cm} \times 4 + 8\text{cm} \times 3 - 7\text{cm} = 350\text{cm}$

- (一) 一ツ身單衣の裁方
 (一) 裁切寸法 (筒袖)
- | | | |
|-------|---------|-------|
| 袖丈二七纏 | 袖巾五纏 | 身丈八三纏 |
| 衿丈七六纏 | 衿巾一七、五纏 | 衿下り七纏 |
| 衿巾一〇纏 | 衿肩明三、五纏 | |

五、廣島縣

大巾にて四ツ身裾廻しの裁方圖



- (一) 裁切寸法
 大巾にて四ツ身裾廻しの裁方
- | | |
|-----------|--------------|
| 裾丈四五、八八纏 | 後裾巾三〇、三八纏 |
| 前裾巾三七、八八纏 | 内十五纏空衿の分とする。 |
| 袖口丈四〇纏 | 袖口巾七、五纏 |
| 衿先丈五、四五五纏 | |

四、奈良縣

- (三) 三ツ身裁切寸法 (三四才用)
- | | | |
|--------|--------|--------|
| 袖丈七寸 | 袖巾七寸五分 | 身丈二尺六寸 |
| 前巾四寸八分 | 衿巾三寸五分 | 衿巾一寸七分 |
| | | 後巾六寸二分 |

衿巾三寸

全國裁縫科實地試験問題並に解答

六、京 都 府

筒袖及潤袖標付方

(一) 筒袖標付寸法

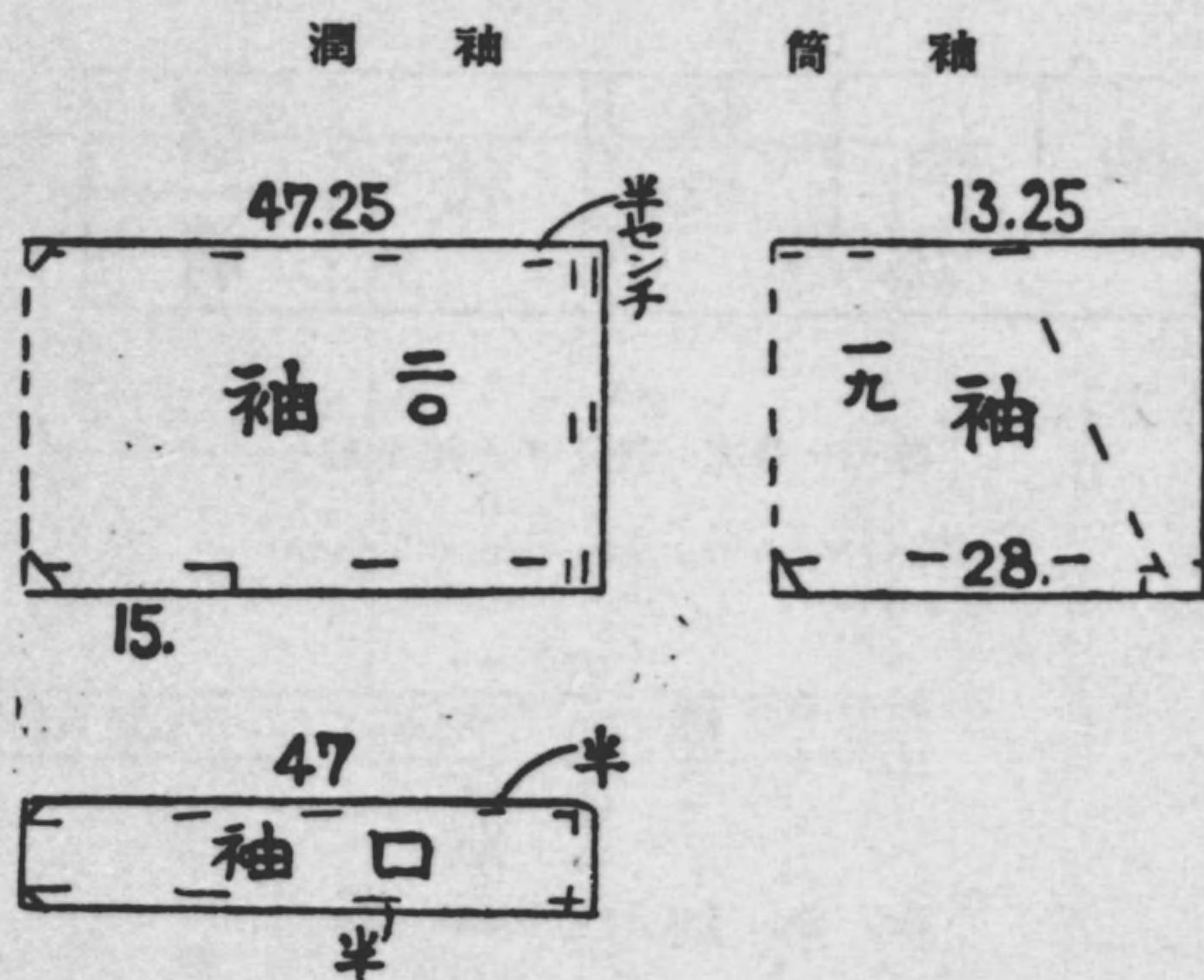
袖丈二八纏・袖口一三纏二五、袖巾一九纏袖口新代一纏。

ヤツロを明ける場合は袖附を十五纏とする袖口新代及袖付縫代は折り返して袖下の標をすると、出来上りの手際よろし。

(二) 潤袖標付寸法

袖丈四七纏二五、袖巾二〇纏、袖附一五纏袖口縫代半纏、同袖口丈四七纏、同巾一ばい。袖巾を筒袖より一纏廣くしたのは長袖の爲多少實際寸法より狭く見える關係上である。袖口巾の標を身頃にする場合は篋を使用せず糸

潤袖及筒袖の標附圖



標のみを用ふる事。

七、廣 島 縣

子供長着の揚の仕方

長着の揚には腰揚と肩揚げとある次にその方法を記す。

(一) 肩揚の仕方

1. 先づ衿の仕立上寸法より其の衿丈寸法を減じその残りを二分して肩揚の深さときめる。
2. 肩揚の中央を揚山として所定の深さを以て前身後身共に袖附標の所まで縫ふ。
3. 後身は肩山に於ける揚山の布目を辿つて眞直ぐに折山をつけて所定の深さを計つて待針をす
4. 前身は後身と同様にしてつけた折山の下端を二分袖附の方へすべらして、折山を少し斜につけ、裏より見て肩山に於ける揚の深さの待針の布目を眞直ぐに辿つて揚の深さを定めて待針を打つ。
5. 後身の揚の下端よりその裏を見て縫ひ初め留め結びをして一針返し二目おとしに縫ひ、肩山及其の前後二分の處で必ず表に一針出す。

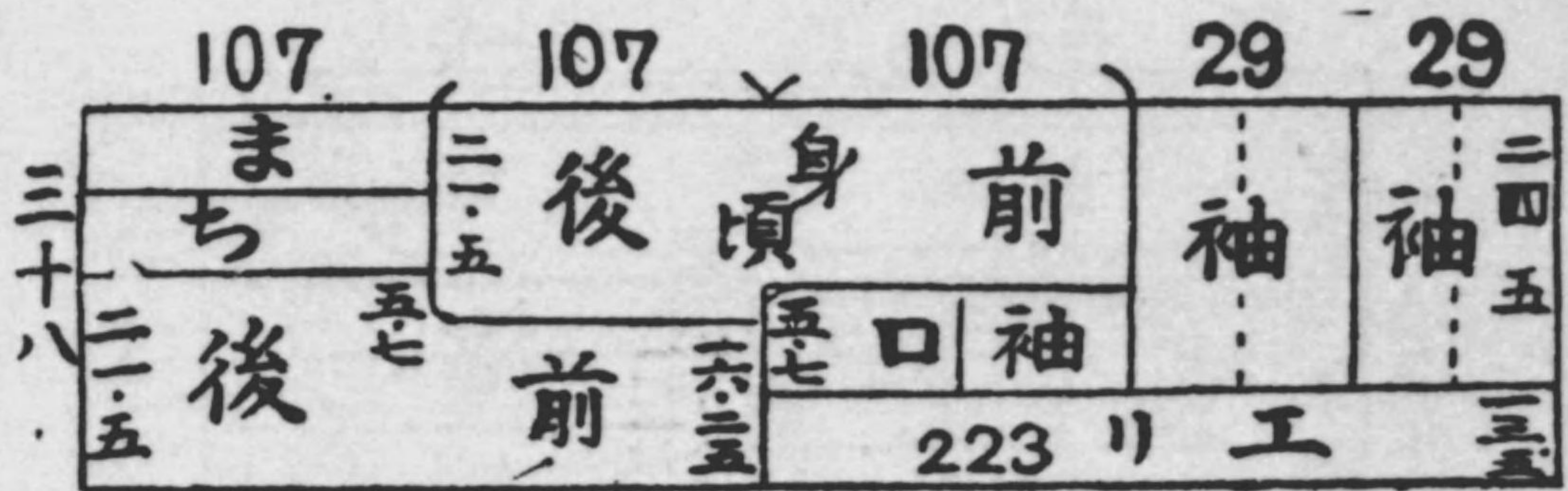
裁縫科受験準備講義

- 6. 前身は上より下に縫ひ下げ終は一針返して打留とする。但し右身頃は前より縫ひ上ぐるものとする。

(二) 腰揚の仕方

1. 腰揚の仕方は先づ身丈の仕立上寸法よりその着丈の寸法を引きその残りを二分して腰揚の深さとする。
 2. 衿附の脊縫に裾の方を一二寸長くして合せ丈を二つに折つて揚の折山とする。
 3. 先の所定の深さを計つて待針を打ち、衿は端を揃へ衿巾の廣き部分は適當の襷となして、その襷は衿の方へ向けて待針をする。
 4. 縫方は二目おとしに縫ひ各縫目の所で返し縫をし、兩端は表にかけて打留をする。但腰揚の山は前を後より稍々低くする。
- 注意、肩揚、腰揚共に二重糸で五六分の針目にする。

裁方圖 (三ツ身片面物)



總用布 袖丈 身丈
 $437 - 29 \times 4 \div 3 = 107$

羽織

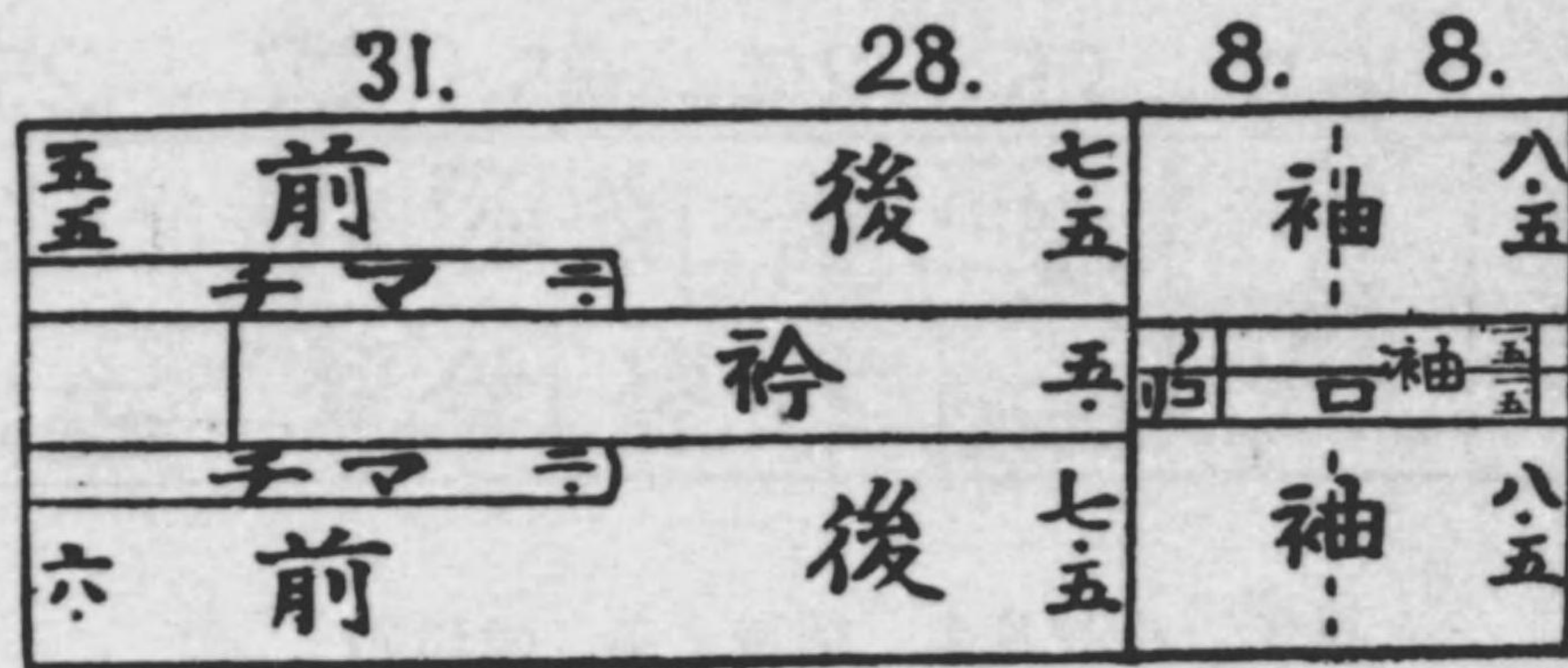
一、東京府

片面物三ツ身元祿袖の裁方

(一) 裁切寸法

- 袖丈二十九纏、 身丈百七纏。
- 衿丈二百二十三纏、 袖巾二十四纏半、
- 衿巾一三纏半、 後巾二十一纏半、
- 前巾十六纏二耗半、 衿肩明五纏七耗内一纏廻し、

大巾(2尺)にて四ツ身羽織の裁方圖



【積り方】

總用布 袖丈 前後ノ差 後丈

$$270 - (8 \times 2 + 3) + 2 = 28.$$

後丈 前後ノ差 前丈

$$28 + 3 = 31$$

(二) 裁切寸法

- 袖丈八寸、袖巾八寸五分、
- 後身丈二尺八寸、前身丈三尺一寸、
- 衿巾五寸、
- 袖口巾一寸五分、
- 襦巾二寸、

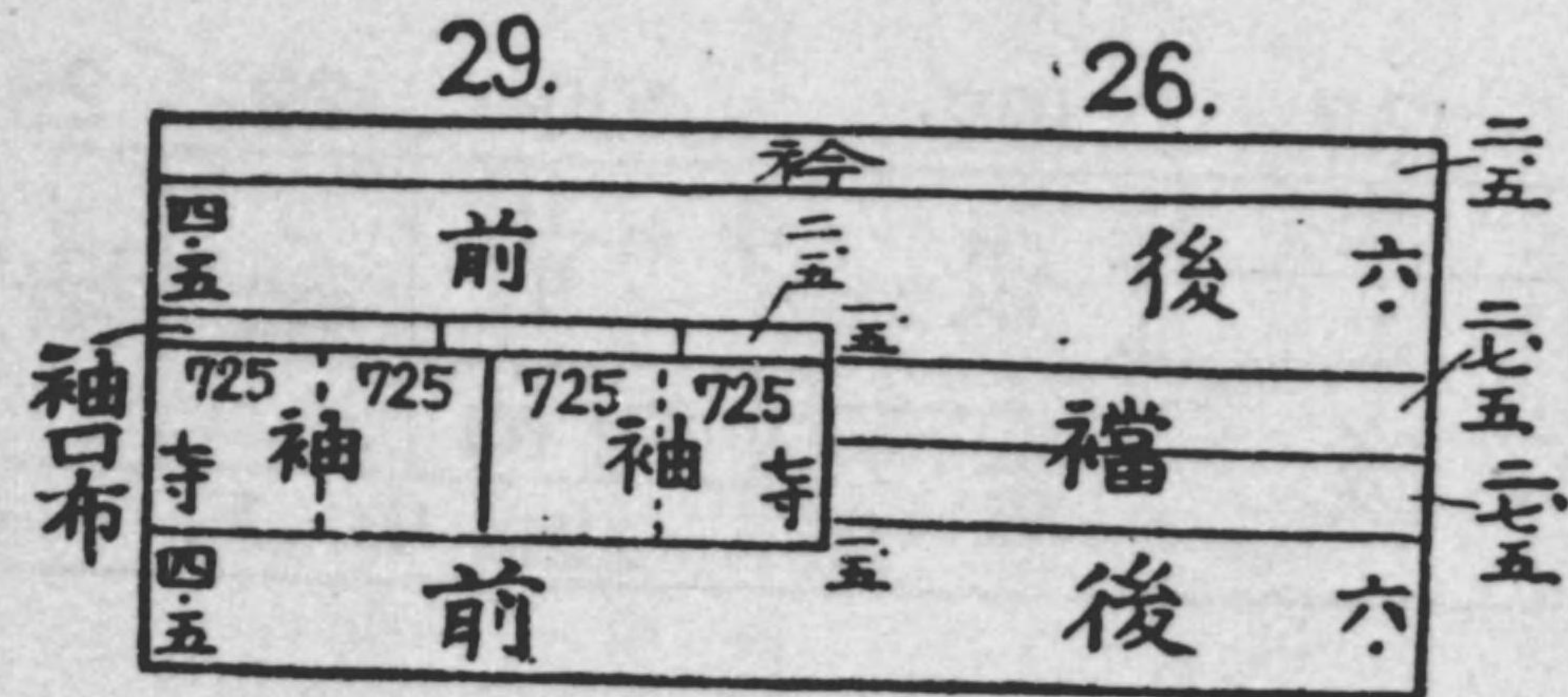
(一) 十二三才用の羽織を所定の用布にて裁つに

は袖は筒袖又は元祿袖なりと思はる。故にメ
リンス大巾にて女兒の羽織を仕立上げるもの
として、元祿袖の裁方に依つた。衿巾の五寸
は少々廣すぎる傾があるから身巾に二分五厘
づゝ加へても差支ない。

大巾にて四ツ身羽織の裁方

三、高知縣

大巾(2尺)にて小裁羽織の裁方圖



前身丈 後身丈 總用布

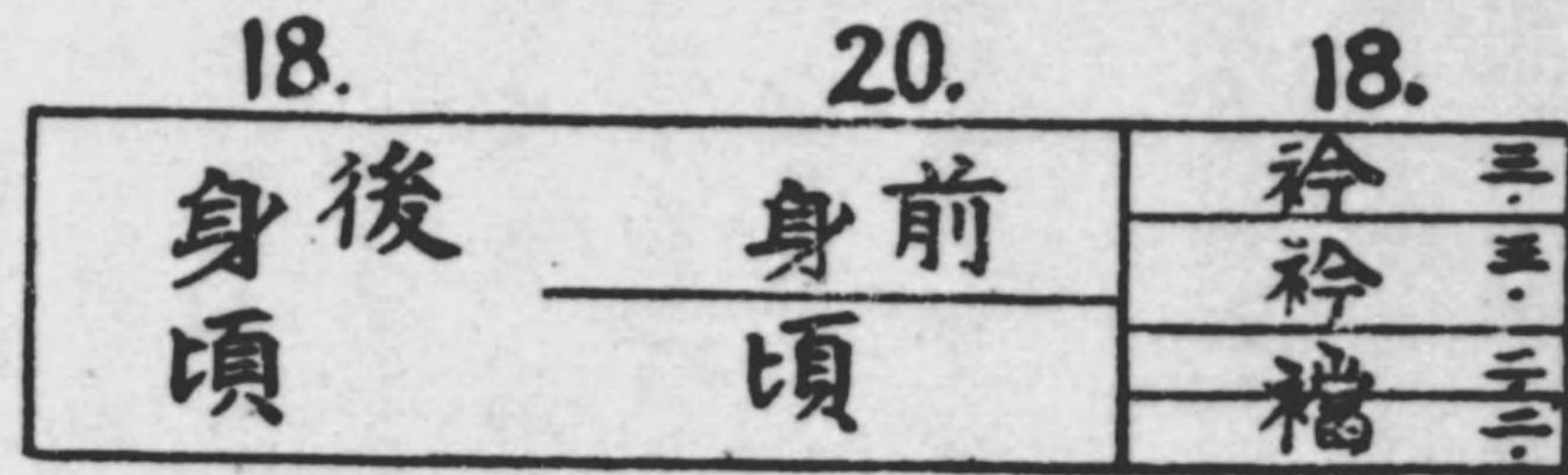
$$29 + 26 = 55.$$

(一) 大巾にて小裁羽織の裁方(三ツ身) 裁切寸法

- 袖丈七寸二分五厘、袖巾七寸、
- 袖口布巾一寸五分、身丈前二尺九寸、
- 身丈後二尺六寸、後巾六寸、
- 前巾四寸五分、
- 衿巾二寸五分、
- 襦巾二寸七分五厘、
- 衿肩明二寸三分三内分廻し、

二、和歌山縣

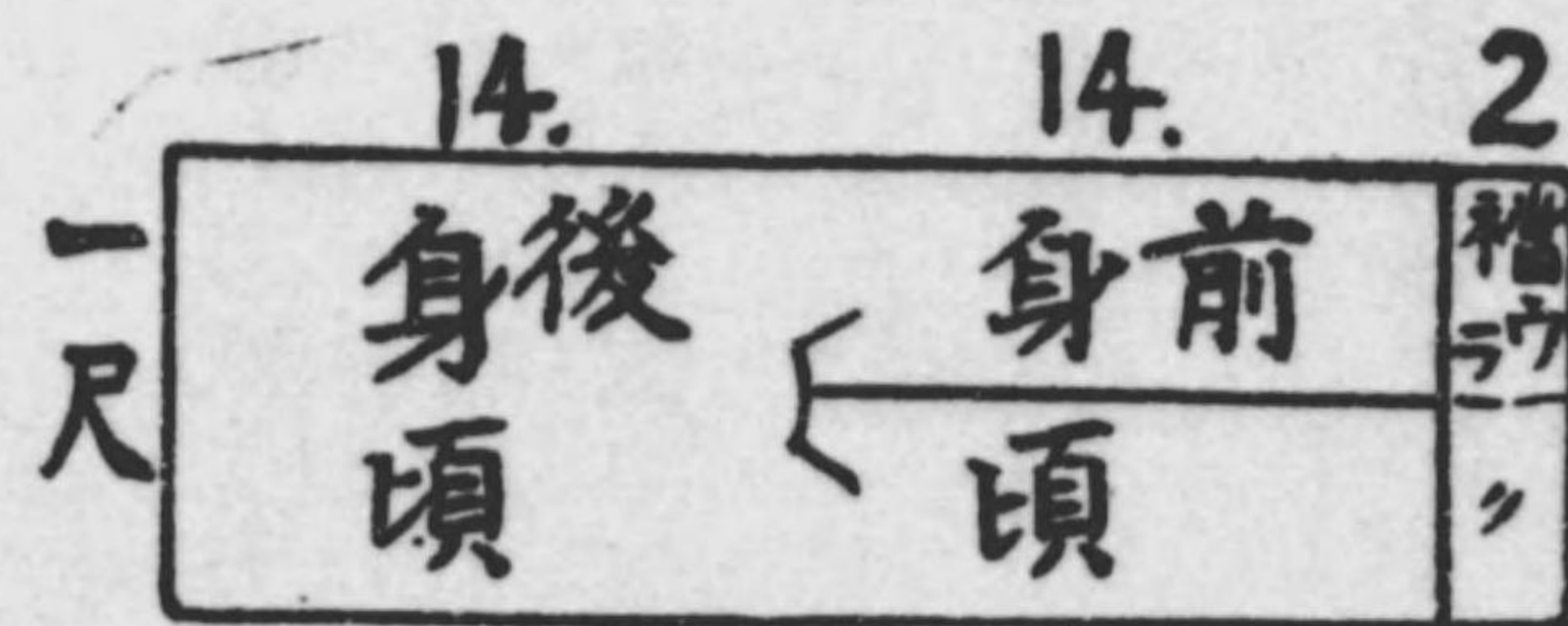
一ツ身袖無羽織表裁方圖



後身丈 前身丈 襦丈 總用布

$$18. + 20. + 18. = 56$$

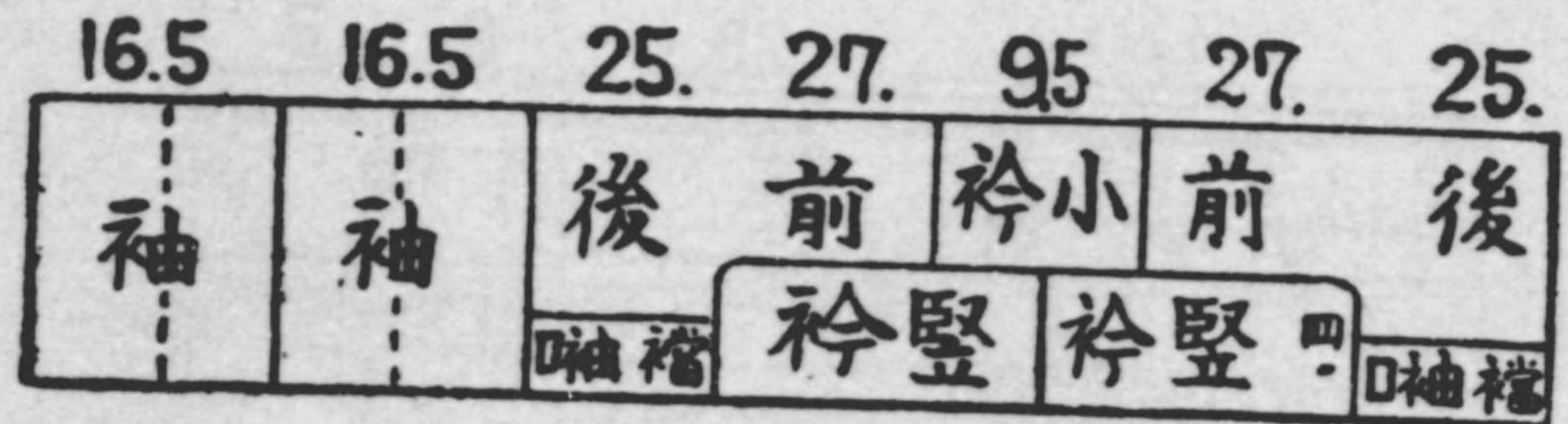
同裏裁方圖



身丈 襦 總用布

$$14 \times 2 + 2 = 30$$

四ツ身被布裁方圖



袖丈 小衿身丈 前後ノ差 總用布
 $16.5 \times 4 + .5 + 2.5 \times 4 + 2 \times 2 = 180$

同裏の裁方圖



肩明二寸一分内三分廻し

- 四、佐賀縣
- 袖無羽織裁方
- (一) 裁切寸法
- 後身丈一尺八寸、 前身丈二尺、
 襦丈一尺八寸、 衿丈三尺六寸、
 衿巾三寸、 襦巾二寸、
 衿肩明一寸一分内二分廻し、
- (二) 四ツ身被布裁切寸法
- 袖丈一尺六寸五分、(但長袖)
 後身丈二尺五寸、 前身丈二尺七寸、
 小衿丈九寸五分、

第五節 本裁女物衣單の問題並に解説

第一 本裁女物單衣の問題

- 一、長さ十米半の反物にて本裁女物單衣（鈎衿）の裁ち方積り方を記入せよ。袖丈は仕立上げ六十糎とする。（東京府）
- 二、幅七十二糎長さ五米五十四糎の布にて本裁女物單衣を裁つべし。但し裁切身丈、一米四十八糎。（京都府）
- 三、二尺巾セル地一丈四尺五寸を以て本裁女物單衣を裁つべし。但し裁切りは普通寸法にすべし
- 四、本裁女物單衣仕立寸法をメートルにて記せ。（群馬縣）
- 五、本裁女物長着に就きて左記仕立上げ標準寸法をメートル寸法にて記せ。（千葉縣）
衿巾。衿肩明。袖口。後巾。衿。
- 六、鈎衿の標付方を圖解説明せよ。（岐阜縣）
- 七、用布並幅長十米六十糎にて本裁女物單衣を裁たんとす。その裁方圖を示し裁ち切り寸法を記

入せよ。（青森縣）

（但し袖丈六十二糎とする）

八、單衣衿付待針の打ち方。（秋田縣）

九、片面物並幅二丈七尺四寸にて本裁單衣を鈎衿裁とし尙、共衿を充分に取らんとするには如何なる方法によるべきか。但し、袖丈一尺六寸五分、出來上り、同身丈三尺八寸五分とす。

（鳥取縣）

一〇、並幅長さ二丈八尺（一〇六〇糎）の反物を以て本裁女物の單衣を裁たんとす袖丈裁切一尺五寸（五六、八二糎（身丈は三尺九寸（一四七、七三糎）なりといふ如何なる裁縫によるべきか但し片面物とす。（熊本縣）

一一、幅一尺二寸（四五、四五糎）長さ二丈三尺（八七一、二四糎）の用布にて本裁女單衣の裁ち方圖及び積り方を記せ。（熊本縣）

（但し裁切の袖丈一尺七寸五分（六六、二九糎）

一二、女物單衣重ね縫方順序を記せ。（樺太廳）

第二 本裁女物單衣の解説

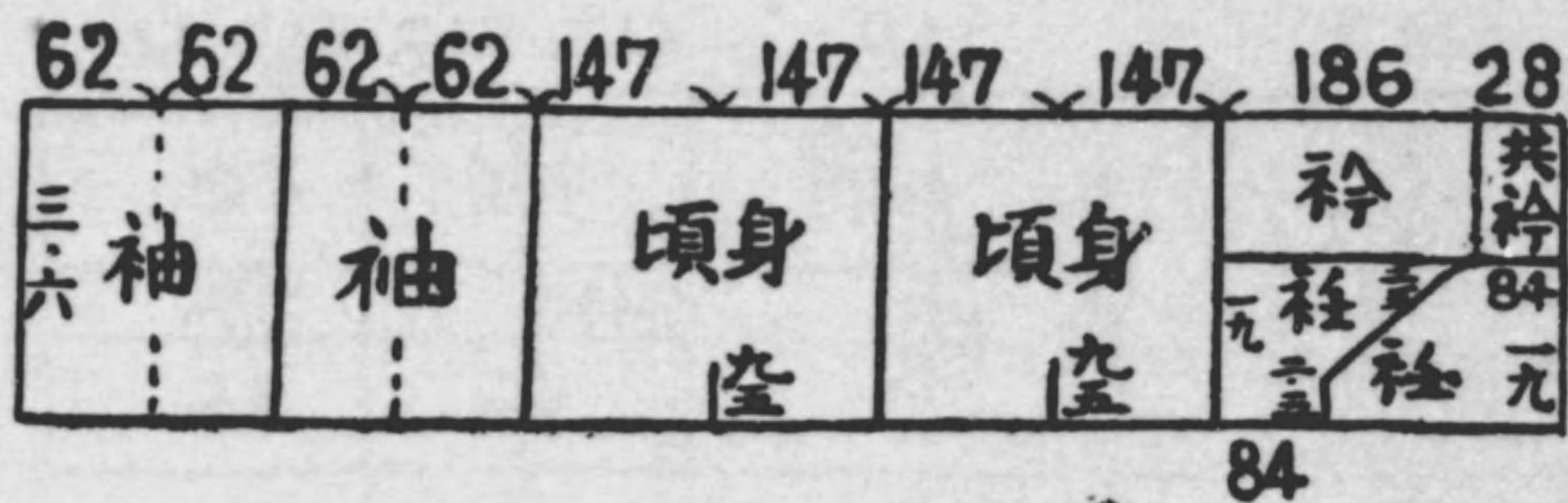
【問題の概観】

問題提出数より見て第四位を占める女物單衣は、衣服の基本教材と迄重要視されてゐるものである以上、誰もが細部に渡つての研究は一應せねばならない。全體を通覽するのに、やはり裁方が最も多い即ち鈎衤裁衤裁、と指摘したのもあり又、或る一定の用布の尺数より何裁にすべきかを推理させる等。一つの基本的知識より應用能力を試験されるといつた所に受験者の困難があると思ふ。以下部分的に問題について考へて見やう。

1. 一定の長さによつての鈎衤裁方及圖解・積り方算式。
2. 裁切寸法と、仕立上寸法。
3. 標附方及縫方順序。
4. 衤付待針の打ち方。
5. 單衣の重ね縫方順序。(一寸特殊なものであるが)

要するに問題は部分のもあるが一つの基本的知識、技能より出發して、只範圍を寸法裁方等を限定して試験されるのであるがやはり全體的にその基礎的事項を確得する事が研究上大切な事である。

鈎衤裁方圖



裁縫科受験準備講義

總用布 袖丈 鈎下 衤下 身丈

$$\{1050\text{cm} - (62\text{cm} \times 4 + 84\text{cm}) + 17\text{cm}\} + 5 = 147\text{cm}$$

$$\{總用布 - (\text{身丈} \times 5 + \text{鈎下}) + \text{衤下}\} + 4 = \text{袖丈}$$

$$\text{身丈} \times 5 + \text{袖丈} \times 4 + \text{鈎下} - \text{衤下} = \text{總用布}$$

あらねばならぬ、半身半疑の腦力こそ自信のない答案を書く基であれば着實に自己化する迄研究を積む事が最も大切な受験者の研究ある心得である。

一、東京府

本裁女物單衣鈎衤裁方圖及積り方次の如し。

二尺巾にて本裁女物單衣の裁方圖

39	39	16.75	16.75	16.75	16.75
後	前	袖	袖	尺	
	前	衿	衿	寸	
		衿共	衿	寸	4.8

裁縫受科檢査備講義

總用布 衿下 身丈
 $(145 + 5.5 \times 2) + 4 = 39$

- 【裁切寸法】
- 袖丈 一尺六寸七分五厘、
 - 袖巾 一尺、
 - 身丈 三尺九寸、
 - 衿丈 三尺三寸五分、
 - 衿巾 五寸、
 - 衿丈 四尺八寸、
 - 衿肩明 二寸五分、
 - 衿下り 五寸五分、

二尺巾セル地にて本裁女物單衣の裁方圖左の如し

三、長崎縣

大巾(72cm)に女物單衣裁方圖

148	148	64.5	64.5	64.5	64.5
後身頃	前身頃	袖	袖	三六	
		衿	衿	三	
		衿	衿	一九	

全圖裁縫科實地試驗問題並に解答

總尺 身丈 袖丈

積り方 $\{554\text{cm} - (148\text{cm} \times 2)\} + 4 = 64.5\text{cm}$

- 【裁切寸法】
- 袖丈 六十四厘半、
 - 袖巾 三十六厘、
 - 身丈 百四十八厘、
 - 後巾 七十二厘、
 - 前巾 三十六厘、
 - 衿巾 十七厘、
 - 衿巾 十九厘、
 - 衿肩明 九厘半、
 - 共衿丈 八十厘、

裁ち方圖上の如し

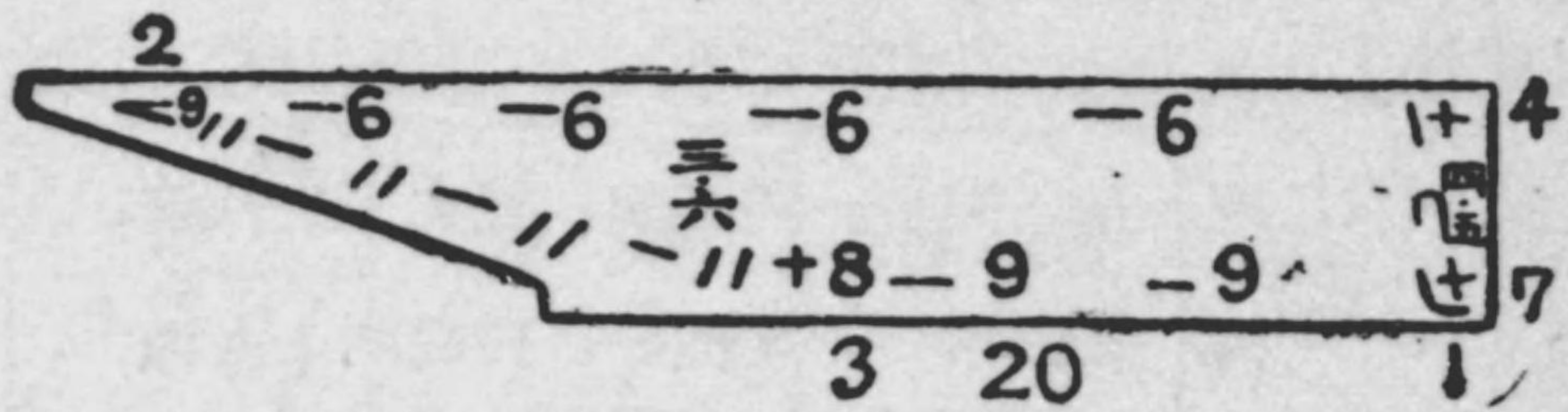
二、京都府

四、群馬縣

本裁女物單衣仕立上寸法

- 袖 丈 六一纏、袖巾 三二、五纏、袖口 二三纏、
 - 袖 附 二五纏、後巾 二八纏、前巾 二二、五纏、
 - 身八ツ口 一二纏、衿肩明 九纏、衿巾 一五纏、
 - 衿下り 二三纏、合襟巾 一三、五纏、衿下 七六厘、
 - 衿巾 一一纏、
- 五、千葉縣
- 衿巾 一一纏、衿肩明 九纏、袖口 二三纏、
 - 後巾 二八纏、衿 六二纏、

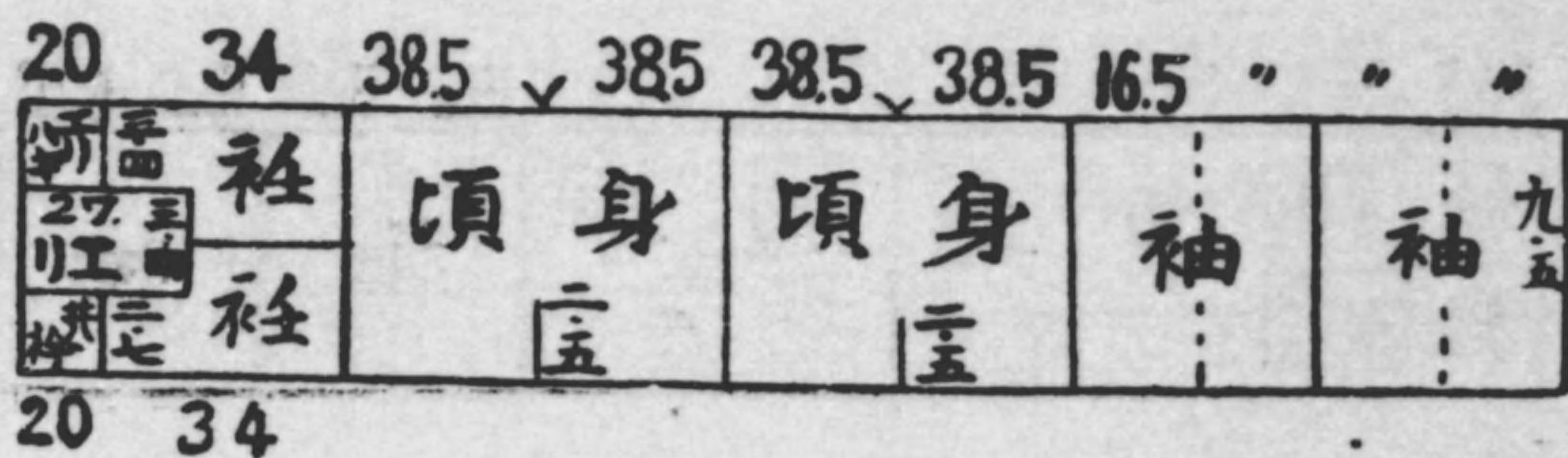
鈎衿標附方圖



六、岐阜縣

鈎衿の標付方次の如し。123の番號は標付の順序を示せるものなり。鈎衿の標付順序は圖に示す様に123は棒衿と同様456にて直に衿付の標を附した後に定めるといふ順序にする方よろし。何となれば衿下の衿代を先きに定める時は、衿附の縫代比較的深く、爲めに劍先きの所で如何ともする事が出来ない結果に陥る恐れがある。故に先づ衿附の標を普通の縫代即一纏となし、劍先即5の標にて鈎の裁目より一纏半として斜に衿附の標をなす。一纏半は衿附の縫代にきせの分を半纏とつたものである。7は衿巾で8は合襟巾である。かゝる順序によつて標附をなせば劍先に到つてかへつ布目反對に外に出で、見苦しき結果となる患が少ない。

並巾片面物にて本裁單衣の方圖



總尺 袖丈 共衿 衿下り 身丈
 $\{274 - (16.5 \times 4 + 20) + 4.5\} + 5 = 38.5$

所定の用布にて所定の身丈袖丈にして、然も片面物とすれば衿接ぎの裁方による外方法がない。故に衿接ぎの裁方として次に裁方圖を記した。共衿は二尺としたが今少し長くなさんとしたら衿先にも接ぎをなす方法にしたらよからうと思ふ。

袖丈一尺六寸五分、身丈三尺八寸五分、
 衿丈三尺四寸、衿丈四尺七寸、
 共衿二尺、

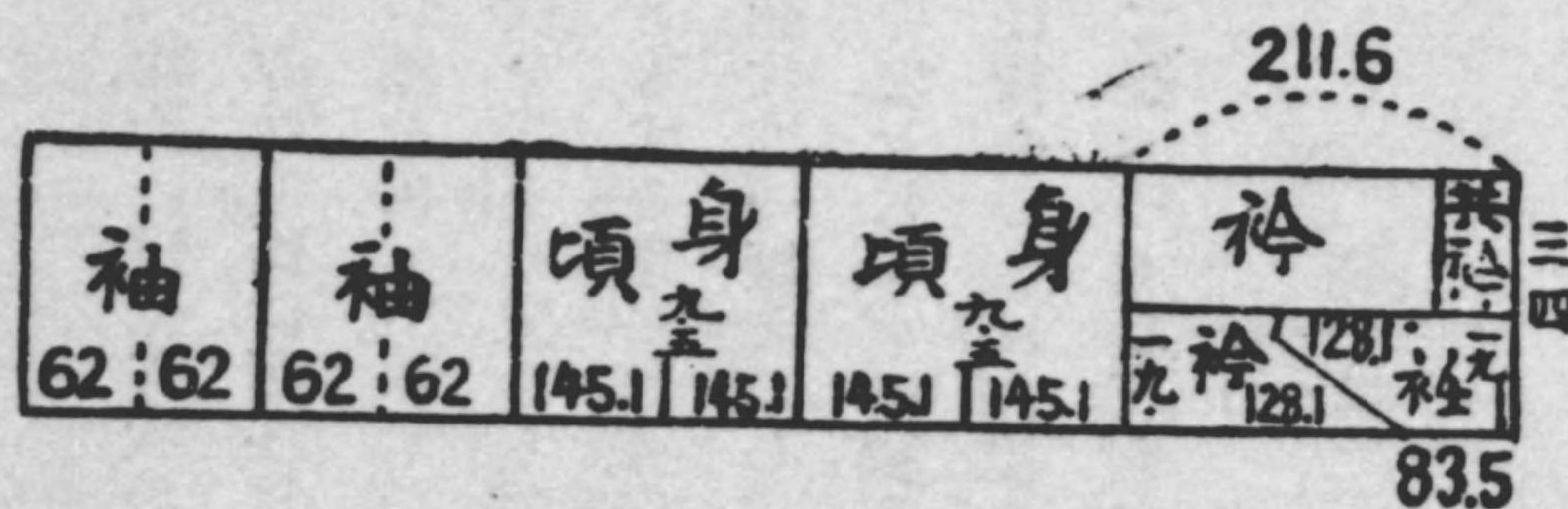
九、鳥取縣

七、青森縣

【裁切寸法】

袖丈 六二糎、身丈 一四五糎、衿丈一二八糎、
 衿下り 一七糎、衿巾 一九糎、衿肩明 九糎半、

用布10メートル6糎にて女物單衣衿の裁方圖



總尺 袖丈 衿下 衿下 身丈

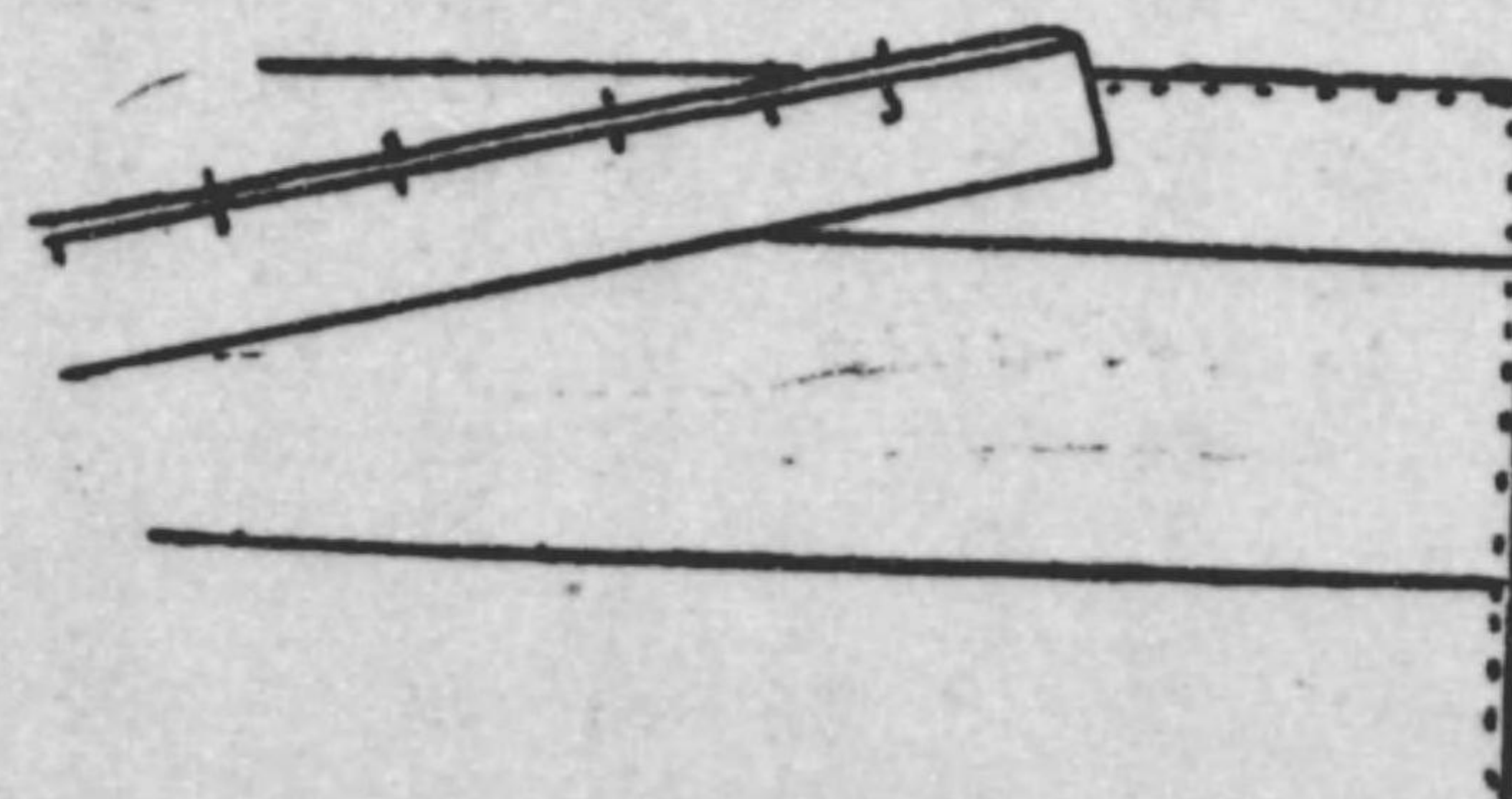
$1060\text{cm} - (62 \times 4 + 83.5) + 17\text{cm} + 5 = 145.1\text{cm}$

八、秋田縣

待針の打ち方次の如し

1. 待針の根元の線は縫代の折線を表はしたものの。
2. 圖の衿第二線は折である。

衿付待針の打ち方圖



本裁女物單衣衿接きの裁方圖

33.5	30.5	39.	39.	39.	39.	15.0	15.0	15.0	15.0
衿	衿	頃	身	頃	身	袖	袖	袖	袖
衿	衿								

袖丈 身丈 衿丈 衿丈 總用布

$$15. \times 4 + 39. \times 4 + 33.5 + 30.5 = 280$$

並巾長さ二丈八尺にて袖丈一尺五寸身丈三尺九寸裁切りの女物單衣を裁つには、衿衿になせば最も都合のよい裁方であるが片面物であれば衿衿にするには、うば衿にして衿の形悪くなるがやむを得ない。

所定の用布と寸法にて積り方計算をなす時、衿丈に二寸の不足が出来た故に今仕立上の上に於て又仕立直しの不都合を生じないやうにするには左圖の如く衿丈にハギをなし、共衿にてハギの部分をかきし、外見を損じない裁方にするを以て最も至當であると思ふ故にその裁方によつた。

【裁切寸法】

- 袖丈一尺五寸、 身丈三尺九寸、
- 衿丈三尺五寸、 衿丈三尺三寸五分、
- 衿肩明二寸五分、 共衿丈二尺二寸、

一〇、熊本縣

中巾(1尺2寸)にて本裁女物單衣裁方圖

40.0	40.0	40.0	40.0	17.5	17.5	17.5	17.5
七	後	後	前	七	袖	袖	九
五	衿	衿	衿	五	衿	衿	五
衿	衿	衿	衿	衿	衿	衿	衿

總尺 袖丈 身丈

$$(230 - 17.5 \times 4) + 4 = 40.$$

一一、熊本縣

裁方圖及裁切寸法次の如し

【裁切寸法】

- 袖丈 一尺七寸五分、 身丈 四尺、
- 衿巾 三寸五分、 共衿丈 二尺二寸、
- 後巾 八寸五分、 前巾 七寸、
- 衿巾 五寸、 衿肩明 二寸五分、
- 袖巾 九寸五分、

一二、樺太廳

單衣重ね縫方順序次の如し

1. 袖、上着と下着とは別々に袖口布を縫合せ、袖口下に四つ留をし、袖口布のある間半返し縫に四つ縫をする。袖口布の奥を紮けつける。次に下着の袖は袖口布の終つた所に切り込みを入れ、縫代を表に出し、上着の袖と合せて、衿袖の如く四

つ縫をする。但し振りの所二寸位の間は上着、下着別々に縫ひ折をつけて表に返す。振は袷袖の如く袖巾の所より折り、折り込みの布の端一つばいの所を縫ふ。

2. 身頃、上着は脊、脇を縫ひ、裾を三つ折紵とする。

下着は裾を三つ折紵となし、次に脊及脇を縫ひ裾口縫ひ込を斜に折つて綴ち置く。下着上着の脊縫、脇縫を袷の如く綴ち合せ、八ツ口の留をなし、それより身八ツ口を袷の如く縫ふ。

3. 袖附、袖にて身頃を決みて四つ留をして、次に上着、下着袖を袷の如く縫ひ附ける。上着、下着の前幅を揃へて、衿附の標をあらく袷にて綴ちおく。上着下着の衿にて前身頃を挟み四つ縫をして、裾口、及、衿下五寸位を三つ折紵とする。

4. 衿附、身頃衿附の所を袷にて綴ち置き、下着の衿先も縫ひ、正しく衿を作り置き、之に上着裏衿を合せて綴ち合せ、表衿と共に身頃を挟みて、一針抜に縫ひ附ける。

上着衿先を縫ひ、縫ひ込みを始末して衿を紵ける。

上着の衿と下着の衿との裾口五寸程離れた所にて額縁角より左右三寸五分位の所を斜に雄針縫針にてとちおく脇縫脊縫等の裾口上の縫込も三角に折りてとち置く。

第六節 本裁女物コート問題並に解説

第一 女物コートの問題

- 一、縞セル一丈四尺四寸を以て本裁女物コートを裁つ可し但し堅衿は全部續きものとすべし。
(福井縣)
- 二、大幅セル(七五纏巾)丈五米四五纏にて女物單衣長コートの裁方及積り方を問ふ。但し仕立上寸法、身丈一米三〇纏、袖丈六〇纏とし肩迂りの用布と其裁方をも記せ。(茨城縣)
- 三、並巾長さ十米六十纏の用布にて本裁女物單合羽(道行仕立)を裁つべし。裁ち方を圖解し各部寸法を記入せよ。(岐阜縣)
- 四、身長一、六〇米の婦人の着用する單半コートを仕立てんとせば其の裁方及積り方如何。裁方圖及積り方算式を要す。(香川縣)
- 五、セル地一反を以て女物コートを作る場合の裁方圖を記せ。(鳥根縣)
- 六、イ並幅二丈八尺(一〇六〇纏)の布にて本裁女半コートを裁つべし。但し袖裁切一尺六寸五分(六五纏)とす、裁方圖を示し積り方を記せ。

七、並幅物にて裁ちたる衿半コートの身頃及び堅衿の標附け方を記し圖解し寸法を記して説明せよ。(東京府)

ロ、右標附方圖を示し説明すべし。(熊本縣)

第二 女物コート問題解説

【問題概説】

全問題中七題を占めてゐる女物コートを通覽するに長コート。半コート。衿物。單衣物。合羽(別にとり出さずこゝへ入れた)等範圍も中々擴範に渡つてゐる。然し要は、やはり裁方、積り方を中心としての問題が一番多い。故にコートとしての特徴を適確につかんで研究の歩を進めることが肝要であらう。左に部分的の問題に就いて記せば、

- (一) 女物コートの裁方及積り方、圖解、
- (二) 裁切寸法と仕立上寸法、
- (三) 標附方圖、

要するに以上の三點にまともと思ふ。寸法を示して裁方を限定した所に工夫せねばならぬ點がある。こゝに注意して受験者は問題の解答を考察せねばならない。

大巾(2尺)にてコートの裁方圖



總用布 袖丈 堅衿下り 身丈
 $(144. - 16.6 \times 2 + 5.) + 3 = 38.6$

身丈 堅衿下り 堅衿丈
 $38.6 - 5 = 33.6$

一、福井縣

(一) 【コート裁切寸法】

- 袖丈一尺六寸六分、袖巾一尺、
 - 袖口丈一尺五寸、袖口巾二寸五分、
 - 後丈三尺八寸六分、前丈三尺八寸六分、
 - 堅衿、下り六寸五分、
 - 衿肩明二寸四分内マルミ四分、
 - 小衿巾一寸五分、下前堅衿巾八寸、
 - 上前同裏四寸五分、同丈三尺三寸六分、
 - (二) ポケットは残りの布より巾四寸、丈八九寸とる。
- もし布不足の場合はポケット用布は口先のみ同切を用ひ他は裏地を使用する。

二、茨城縣(福井縣の部参照)

本裁女物合羽の裁方圖



〔積り方〕

總用布 袖丈 豎衿下り 身丈
 $1060\text{cm} - (62\text{cm} \times 4) + 22\text{cm} + 6 = 139\text{cm}$

(一) 【裁切寸法】

三、岐阜縣

- 袖丈 六二纏
- 袖口布巾 一〇纏半
- 豎衿丈 一一七纏
- 袖口布丈 五七纏
- 身丈 一三九纏

(二) 並巾にて女物合羽の裁方圖次の如し

四、香川縣

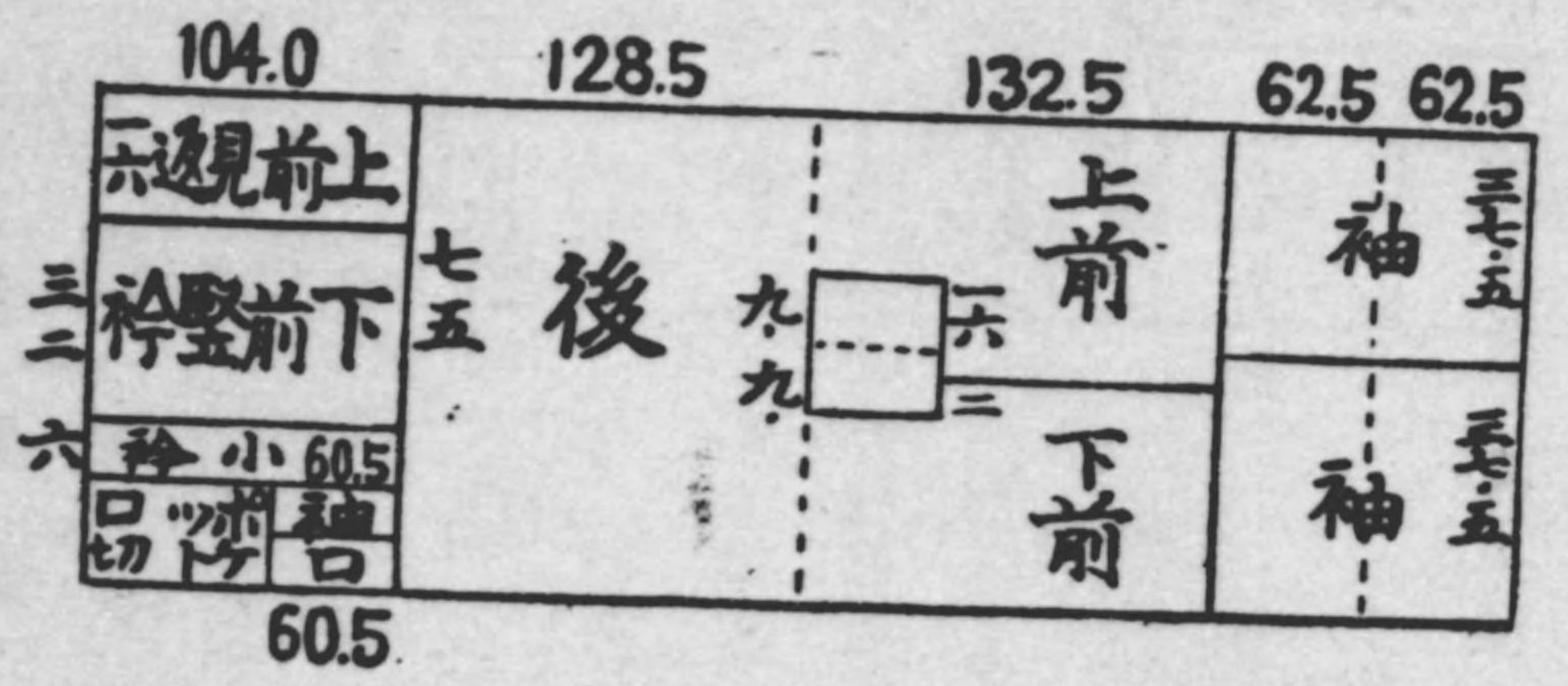
(一) 身長一米六〇纏は之を曲尺に換算すれば五尺二寸五分となる、故に普通仕立上げ寸法より一寸乃至一寸五分長くなすものとする。羽織丈二尺六寸を着用する身長普通の人で三寸長く二尺九寸位にするのが普通である。

故に所定の身長の人とすると、三尺より三尺五分位が適當である。米突尺に換算すれば三尺五寸五分は一一五、五三纏となる故に袖丈を六二、五纏とし、豎衿下りを二四、五纏とし、前後の差を四纏として積り方をして、後丈一二八、五纏と算出する。裾折りは二つ折として紵ける方がセル地の如き厚地のものは宜しい。前後の差は肩繰越し二纏前下り二纏とする。

(二) 【裁切寸法】

- 袖丈 六二、五纏
- 後身丈 一二八、五纏
- 前身丈 一三二、五纏
- 豎衿丈 一〇四纏
- 上前見返し巾 一六纏
- 下前豎衿巾 三二纏
- 小衿巾 六纏
- 袖口丈 六〇、五纏
- 衿肩明 九纏内二纏の廻し
- 豎衿下り 二四五纏

大巾(75cm)女物単衣コート裁方圖



〔總用布〕 袖丈 前後ノ差 聖衿下リ 後身丈

$$\{490\text{cm} - (62.5 \times 2 + 4) + 24.5\} + 3 = 128.5$$

後身丈 前身丈 後身丈 聖衿下リ 聖衿丈

$$18.5 + 4 = 132.5 \quad 128.5 - 24.5 = 104$$

(三) 裁方圖積り方算式次の如し

五、島根縣(福井縣の部参照)
六、熊本縣

(一) 【裁切寸法】

袖丈一尺六寸五分、 身丈三尺七寸五分、 聖衿丈三尺二寸、
袖口丈一尺五寸、 袖口中二寸七分、 聖衿下り五寸五分、

(イ) 並巾にて本裁女半コート裁方

(二) 【仕立上寸法】

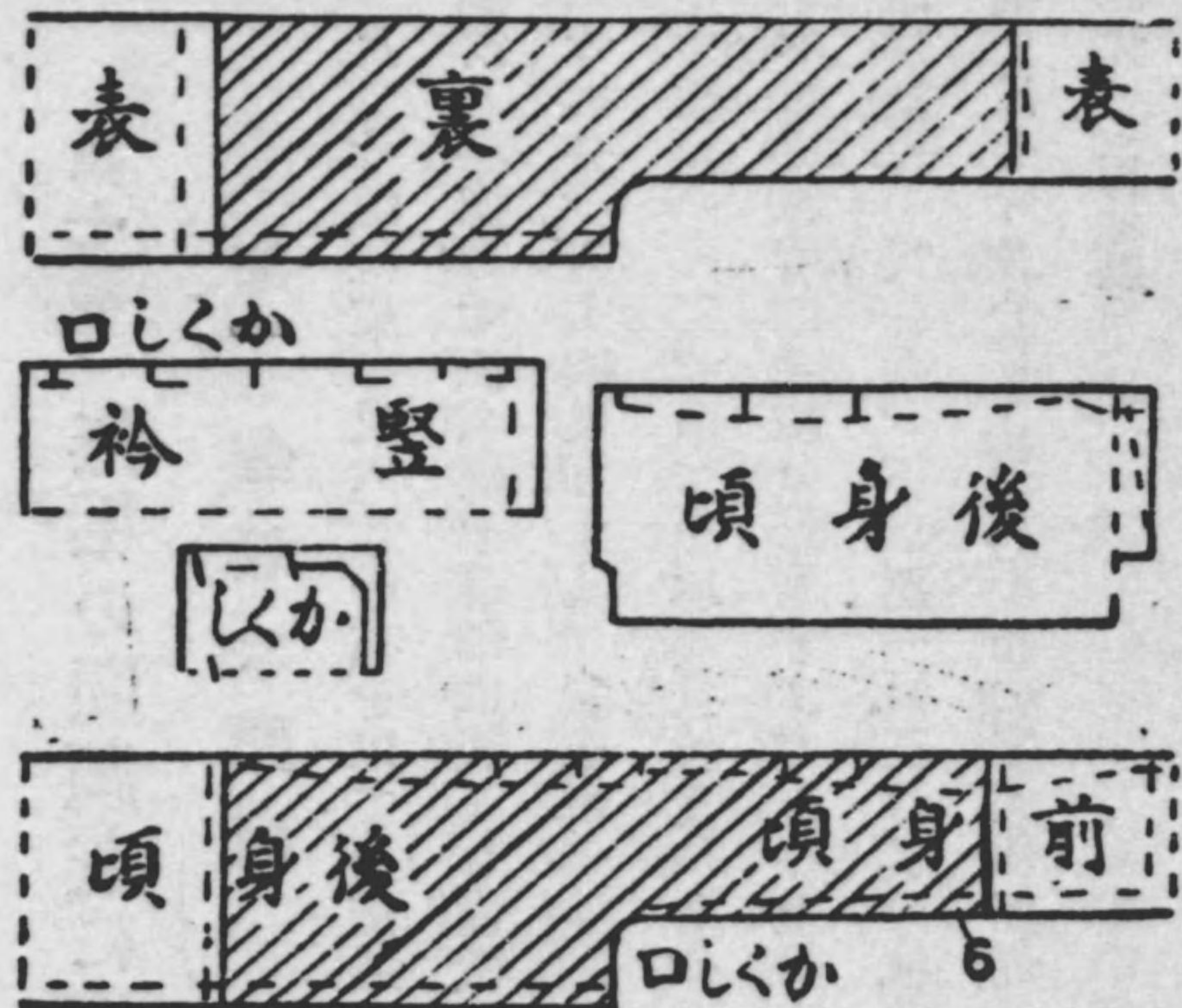
袖丈一尺六寸、 袖巾八寸五分、 身丈二尺九寸、 前下り五分、
後巾 上七寸五分、 前巾五寸二分、 衿巾四寸、 聖衿下り六寸五分、
下八寸、 繰越し二分、

聖衿巾五分、

(三) ポケットは四寸下りに四寸口とする

縫製科受験準備講義

拾半コート標附圖

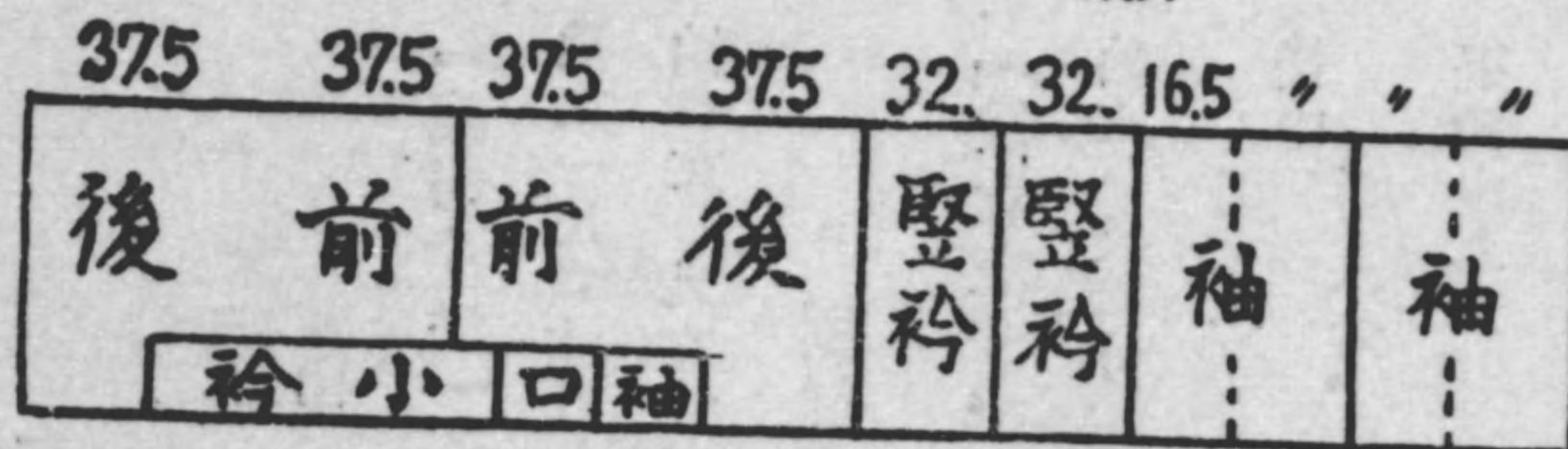


七、東京府
拾半コート身頃及堅衿標附方

(一) 【普通仕立上寸法】
身丈一〇六糎、後巾三〇糎半、
抱巾二八糎半、前巾一ばい、
堅衿下二四糎半、前下り二糎、
肩線越一糎、堅衿巾一五糎、

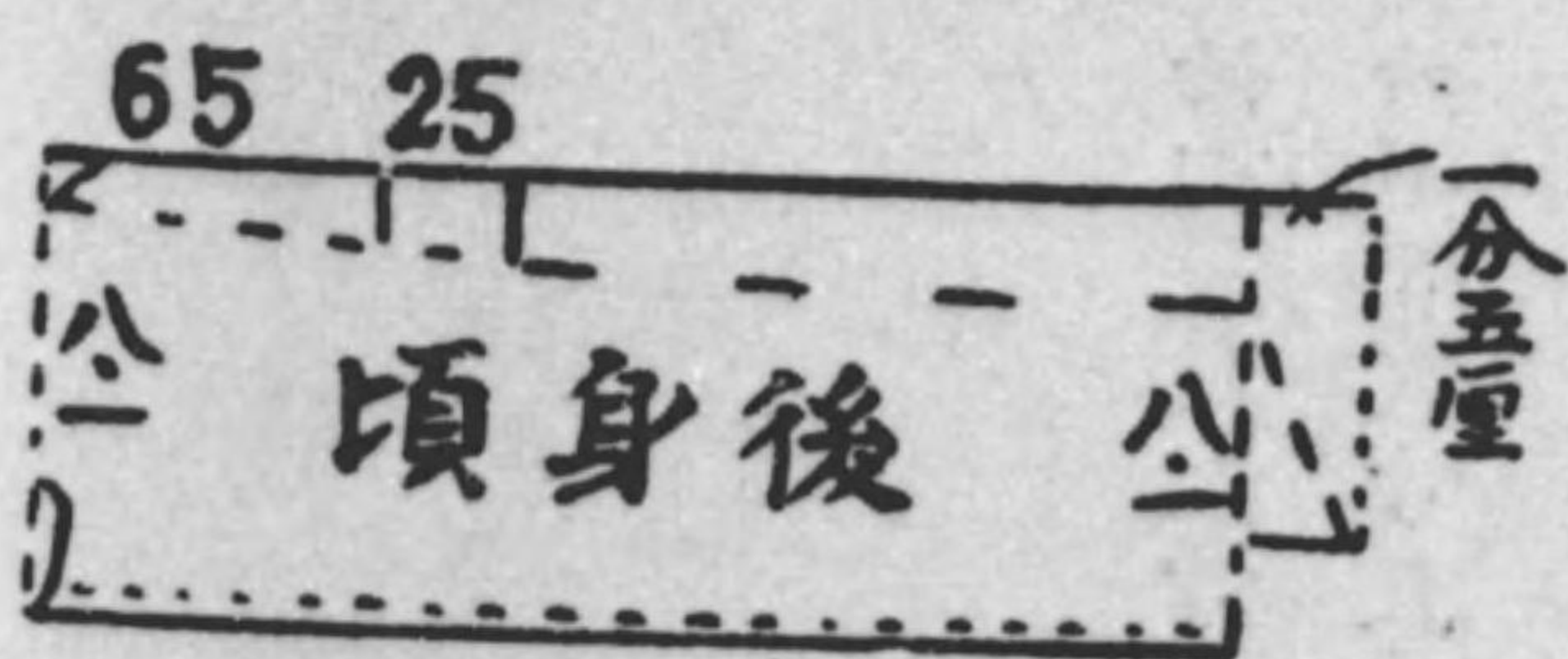
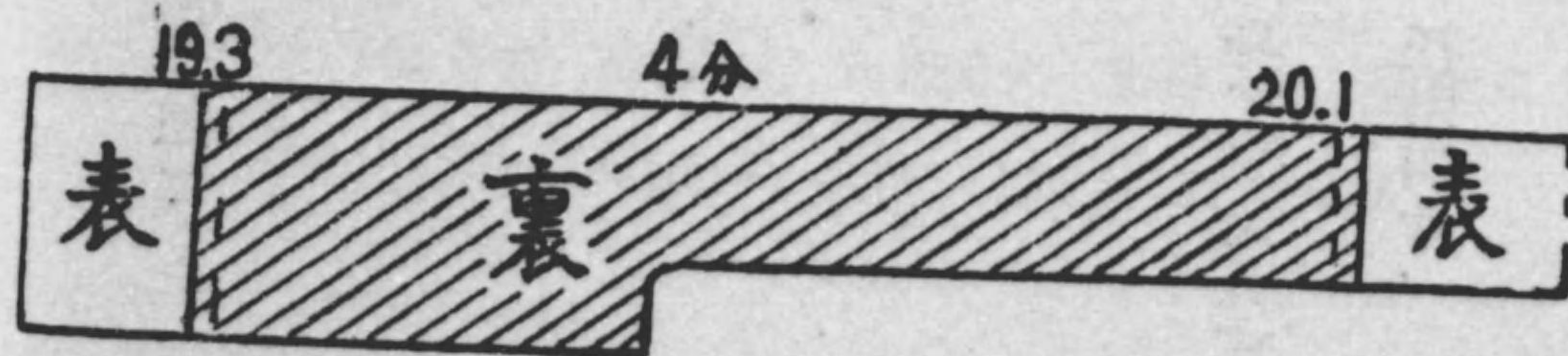
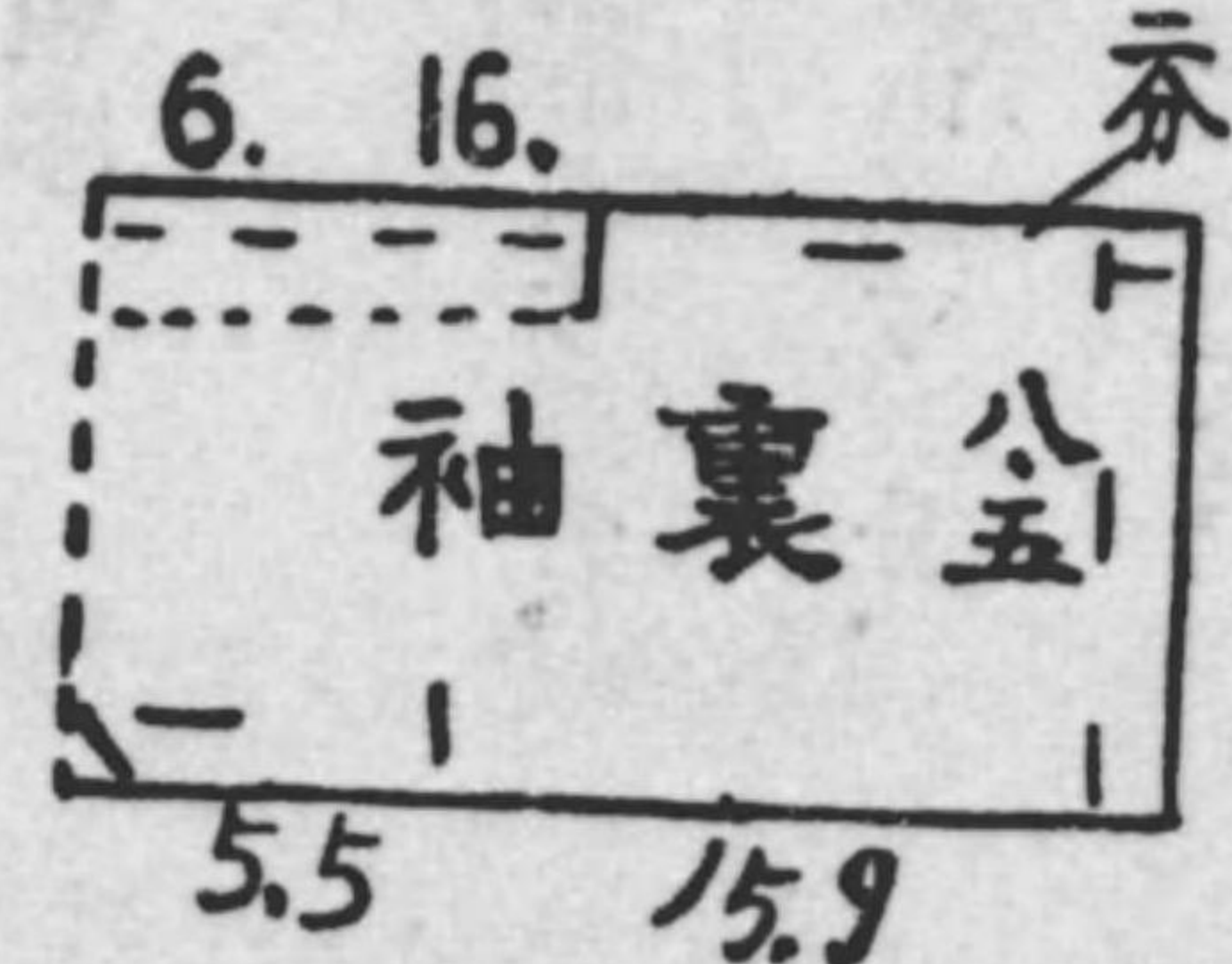
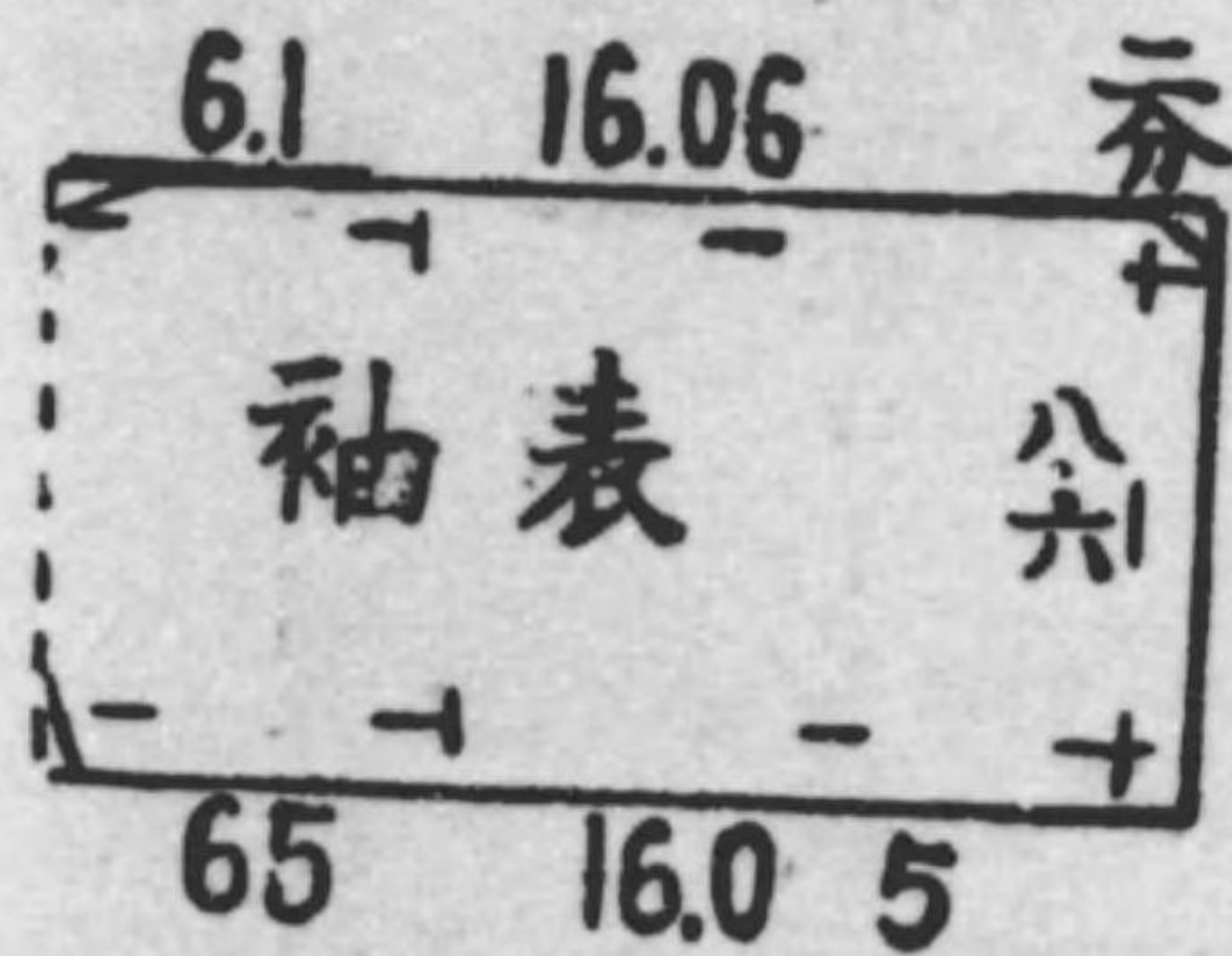
(二) 【標附順序説明】
身丈は流行と好みによりて多少の長短あれ共、普通羽織丈より七糎半位長いのが普通である。身巾は抱巾より裾口を二糎廣くして斜に標附けをする。堅衿巾は上下共十五糎とする。カクシは右前堅衿につき、堅衿下よりも十五糎下りて口を十五糎にするのが普通で

並巾にて本裁女半コート裁方



總用布 袖丈 堅衿下り 身丈

$$\{(280. - 16.5 \times 4) + 5.5 \times 2\} + 6 = 37.5$$



ある。

第七節 無垢の問題並に解説

第一 無垢の問題

- 一、一尺二寸幅四丈二尺六寸の布を以て上着無垢一枚と下着廻り無垢を裁たんとす。其裁ち方を圖解し各部の寸法名稱を詳細に記入し尙積り方公式をも記せよ。(但し裁ち切、袖丈、一尺六寸五分、身丈四尺とす。(新潟縣))
- 二、中巾物(一尺二寸巾)を以て二枚重ねを作らんとす。表地用布幾尺を要するか。其の裁方圖を示し、各所に寸法を記入せよ。但し上着は無垢とし下着は廻り無垢とす。裁切寸法、身丈四尺袖丈一尺六寸、下着廻り一尺三寸其の他普通。(大分縣)
- 三、幅一尺七寸五分長さ二丈の布にて女服無垢一枚の裁方を圖解し各部の名稱寸法及び積り方を記せ。(栃木縣)
- 四、用布二尺巾二丈二尺二寸の片面物で普通本裁女物の無垢一枚を裁ち残りにて一ツ身一枚を裁たんとす。裁方圖解を記し寸法名稱を記入せよ。(但し一ツ身は元祿袖)(長野縣)

- 五、並巾の縮緬を以て本裁女物上着無垢一枚と下着廻り無垢一枚とを裁合はし圖中に寸法を記入し別に總用布の積り方を示すべし。(愛媛縣)
- 六、本裁女物上着無垢下着廻り無垢に二枚重の裁ち方積り方。(佐賀縣)

第二 無垢の問題解説

【問題概観】

全問題中六問を占めてゐる無垢は現今の歴史的服裝の全廢にならぬ限り禮服として、廣く一般社會に用ゐられてゐる。直接小學校の教材には取材してなくも、教師としての資格を具へる者は無垢に對しても相等の知識と縫方上の技術に對する習練とがなければならぬ事は當然であるが故に實習の部に又理論の部に解答を求めた次第であらう。

- (一) 無垢の裁方及圖解。
- (二) 無垢一枚又は下廻無垢の裁方積り方。
- (三) 各部名稱と寸法。
- (四) 大巾物、並巾物、片面物。
- (五) 裁合せのもの。

無垢は一枚の裁方積り方が完全に出来れば之を基礎として下廻りは考察される筈であるが、寸法及用布の尺數等各示されてあると、その用布と裁切寸法や仕立寸法の關係をよく吟味せねば誤差を生ずるものであれば其の點深く注意して研究したい。

一、新潟縣

上着無垢一枚と下着廻り無垢の裁方及圖解次の如し

【裁切寸法】

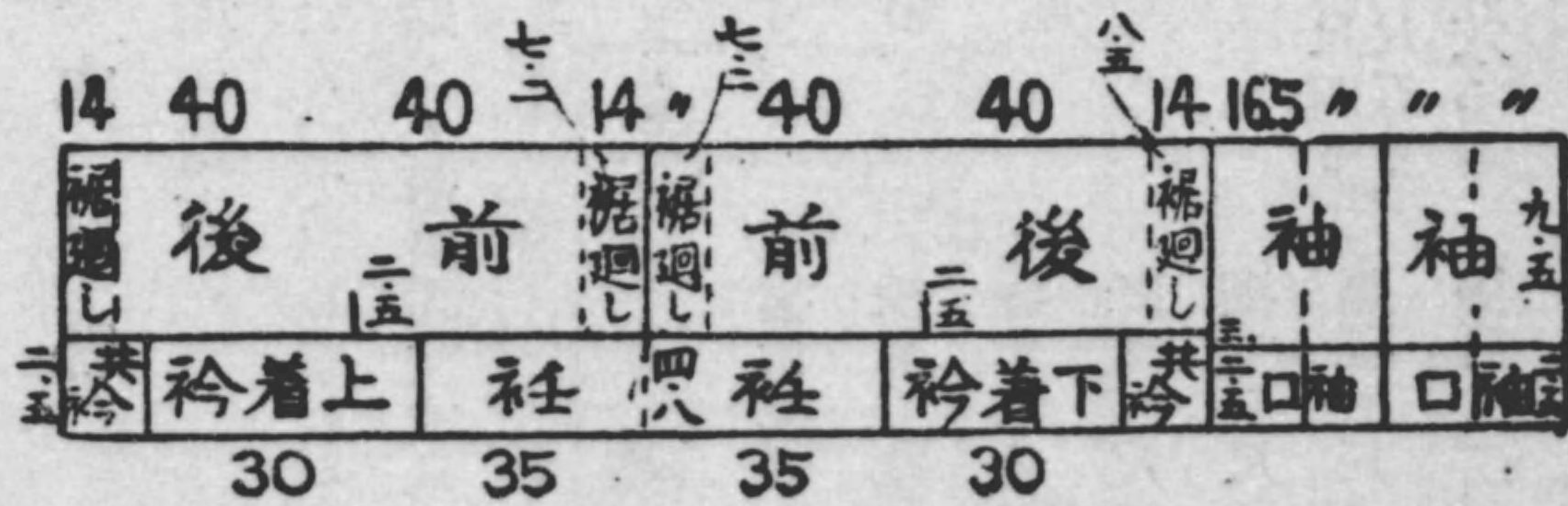
- 袖丈、一尺六寸五分、
 - 裾廻丈一尺四寸、
 - 前巾七寸二分、
 - 衿丈五尺、
 - 衿肩明二寸五分、
 - 同裏丈一尺四寸、
 - 豎袷表丈二尺四寸、
 - ふり丈一尺三寸、
- 身丈四尺、
 - 後巾、八寸五分、
 - 衿丈三尺五寸、
 - 衿巾三寸五分、
 - 下着表裾丈一尺三寸、
 - 袖口丈一尺五寸、
 - 同裏丈二尺五寸、

中巾(12寸)にて上着無垢下着廻り無垢の裁方圖



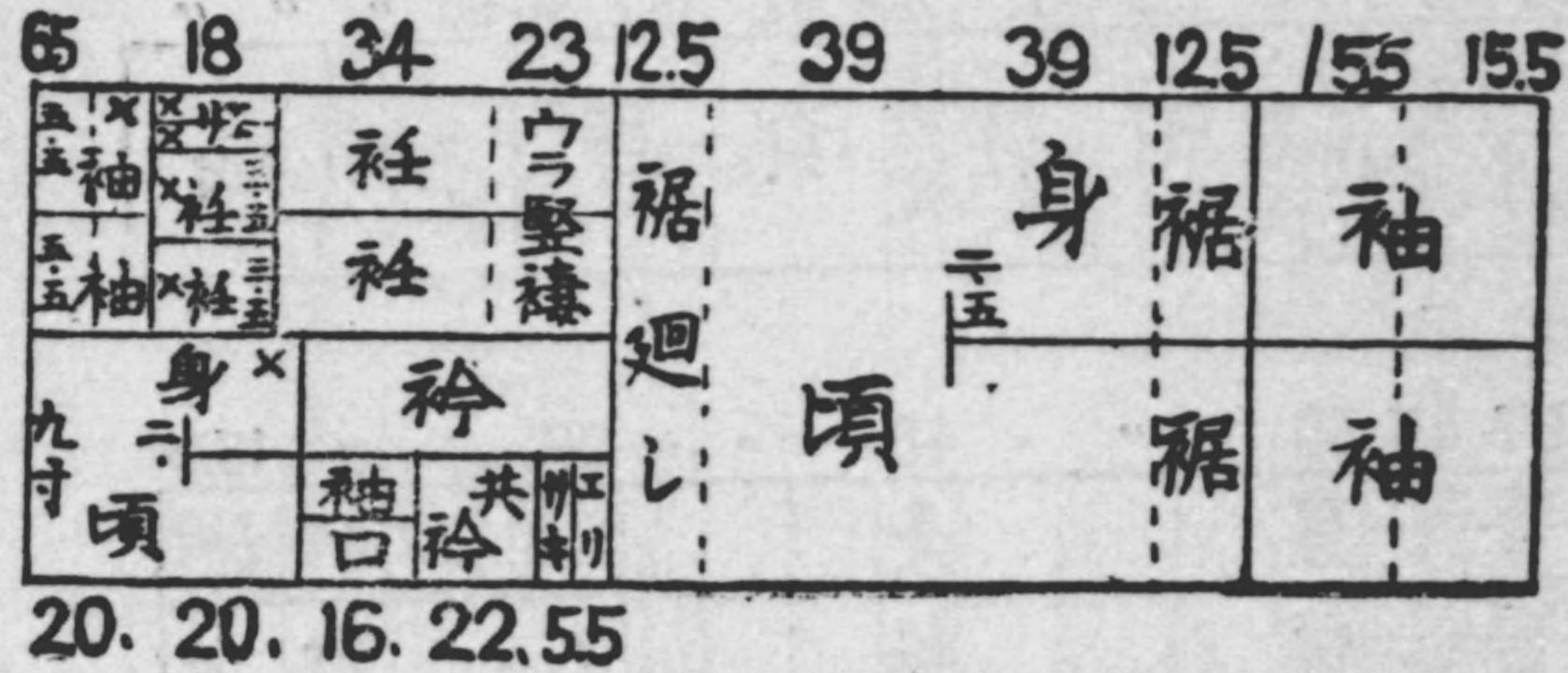
袖丈 身丈 裾丈 上着用布
 $16.5 \times 4 + 40. + 14. \times 4 = 282.$

下着裏裾 同表裾 フリ衿先 下着用布 上着用布 下着用布 総用布
 $14 + 13 \times 4 + 13 + 5 \times 2 = 144 \quad 52. + 144 = 426.$



無垢及一ツ身合裁方圖

裁縫科受験準備講義



(×印あるは一ツ身の用布なり)

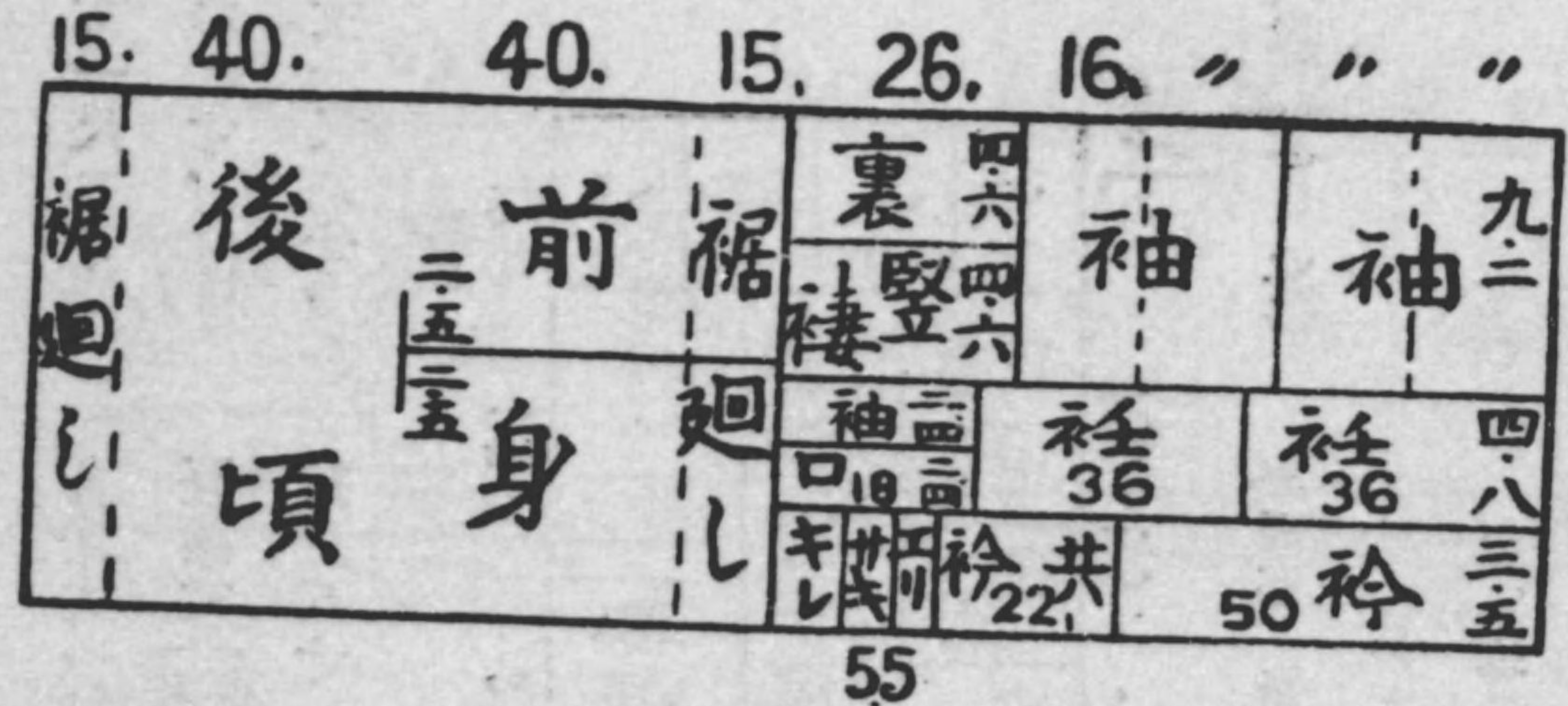
袖丈 裾廻丈 身丈 袖丈 衿丈 衿丈 裏堅袂 總用布

$$(15.5 + 12.5 + 39 + 6.5) \times 2 + 18. + 34. + 23. = 222.$$

- 女物無垢と一ツ身との裁合せ次の如し
- (一) 【女物無垢裁切寸法】
- 袖丈一尺五寸五分、身丈三尺九寸、
 - 衿丈四尺八寸、裾廻丈一尺二寸五分、
 - 裏衿丈二尺三寸、袖口丈一尺六寸、
 - 共衿二尺二寸、衿先丈五寸、
- (二) 【一ツ身裁切寸法】
- 袖丈六寸五分、身丈二尺、
 - 衿丈一尺八寸、袖巾五寸五分、
 - 衿巾三寸五分、衿丈三尺六寸、
 - 衿巾二寸、

四、長野縣

大中物にて女物無垢裁方圖



袖丈 身丈 總用布

$$16 \times 4 + 40. + 15. \times 2 = 200$$

- 女無無一枚の裁方及圖解次の如し
- (一) 【裁切寸法】
- 袖丈一尺六寸、袖巾九寸二分、
 - 袖口丈一尺八寸、身丈四尺、
 - 衿丈三尺六寸、衿巾四寸八分、
 - 衿丈五尺、衿巾三寸五分、
 - 共衿丈二尺二寸、裾廻丈一尺五寸、
 - 裏堅袂二尺六寸、衿先丈五寸、
 - 衿肩明二寸五分、

三、栃木縣

全國裁縫科實地試験問題並に解答

無垢裁方圖

178	178	57	50	152	152	50	50	152	152	50	60	"	"	"
衿	衿	袖	袖	上着	上着	身	身	上着	上着	身	身	袖	袖	
衿	衿	袖	袖	上着	上着	身	身	上着	上着	身	身	袖	袖	

57	45	50	"	"	"	48	"	"	"	96	"	"	15	半
袖	袖	裏	裏	表	表	表	表	表	表	表	表	表	衿	衿
袖	袖	裏	裏	表	表	表	表	表	表	表	表	表	衿	衿

〔積り方〕

袖丈 身丈 表裾丈 衿丈 袖口丈 總尺
 $(60\text{cm} + 152\text{cm} + 50\text{cm}) \times 4 + (178\text{cm} \times 2) + 57\text{cm} = 1461\text{cm}$

上着總尺 下着總尺 總用布

$1461\text{cm} + 811\text{cm} = 2272\text{cm}$

並巾にて本裁女物無垢一枚
 と下着廻り無垢の裁方及圖
 解決の如し

〔一〕【裁切寸法】

- 袖丈六〇纏、袖口布五七纏、
- 身丈五三纏、衿丈一三一纏半、
- 衿丈一七八纏、上着裾五〇纏、
- 下着表四八纏、上着裾五〇纏、
- 裏裾九六纏、表裾九四纏、
- 八ッ口四五纏、衿先一五纏半、
- 衿肩明九纏半、

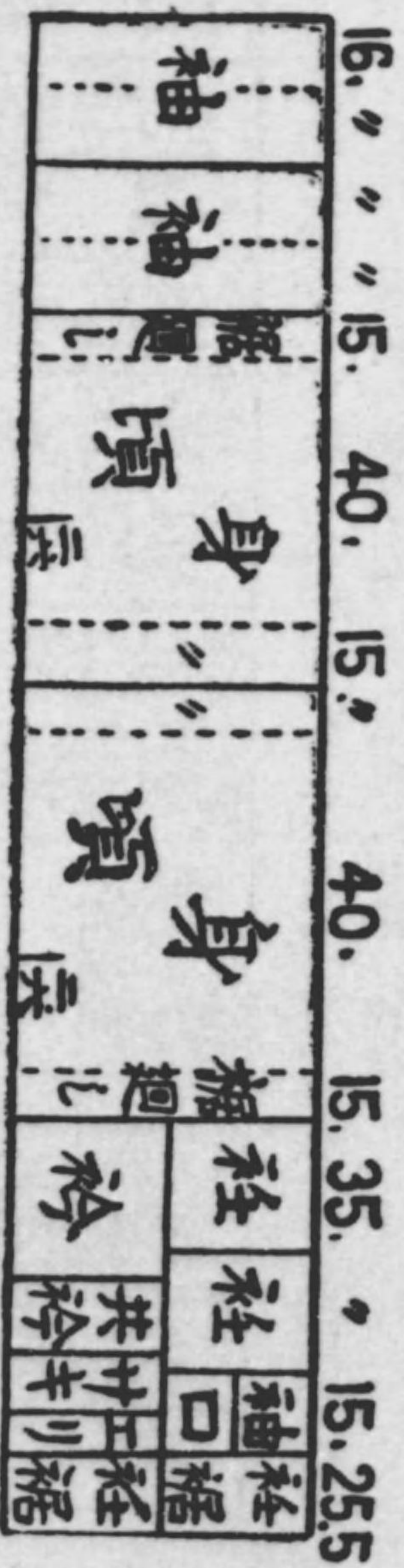
六、佐賀縣

本裁女物無垢並に下着廻り無垢裁方及圖解決の如し

【裁切寸法】

- 袖丈一尺六寸、 身丈四尺、 裾丈一尺五寸、
- 衿丈五尺、 表裾丈一尺四寸五分、 衿裾丈二尺五寸五分、
- 袖口一尺五寸、 共衿二尺、

無垢裁方圖



〔積り方〕

袖丈 身丈 裾丈 衿 袖口 衿裾 用布

$16 \times 4 + (40 + 15) \times 4 + 35 \times 2 + 15 + 25.5 = 394.5$

裁縫科受験準備演義

表裾	表裾	表裾	表裾	裏裾	裏裾	裏裾前口	衿	共衿	裏社	振
裾	裾	裾	裾	裾	裾	袖口	袖口	振	振	振
4.5	4.5	4.5	4.5	15	4.5	4.5	50	2.5	25.5	4

表裾 裏裾 衿口 共衿 裏社 用布
 $14.5 \times 4 + 15 \times 4 + 50 + 25 + 25.5 \times 2 = 194.0$

1圓用布 2圓用布 雜用布
 $394.5 + 194.0 = 588.5$

第八節 本裁女物羽織問題並に解説

第一 本裁女物羽織の問題

一、並幅二丈九尺の用布にて女物綿入羽織を裁つに袖丈一尺六寸、身丈二尺六寸の出来上りとせ

ば裏地何程を要するか。其の積り方及裁方を記せ。(長崎縣)

二、大幅物、五百二十五纏(一丈四尺)を以て、本裁女物袷羽織表の裁方を示し、並幅物にて、其れに要する裏地總丈を求めよ。

但、仕立上袖丈、五十三纏、身丈一米一纏。

右表裏共に裁方圖解をなして各部へ名稱寸法を記入し、積り方を示せ。(三重縣)

三、本裁女物袷羽織の標附方を圖解説明せよ。(岩手縣)

四、本裁女羽織の普通仕立上り寸法をメートルにて記せ。(山口縣)

五、並幅二丈七尺四寸五分の布地にて本裁女物單衣羽織を裁たんとするに、布の元端より一丈〇二寸入りたる巾の中央に二寸大位の織疵あり、之を全く除きて裁つには、如何になすべきか圖解せよ。(上り寸法、身丈二六五袖丈一六、)(千葉縣)

第二 本裁女物羽織の解説

【問題概観】

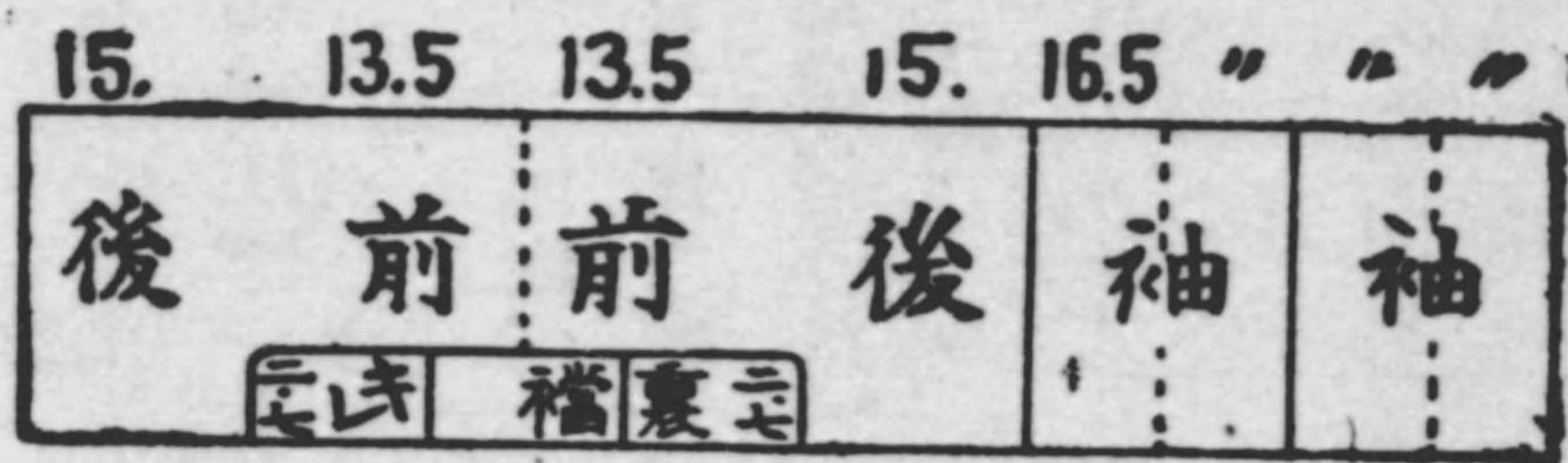
問題は五題に過ぎないが範圍は相等廣い綿入羽織袷羽織單衣羽織に渡つてゐる。そして裁方、圖解、寸法と、前問題通り、女物羽織に對して全體的知識がなければ解答が出来得ない故に細部

に基礎的事項を研究する事が肝要である。

- (一) 羽織の裏地を求むること。
- (二) 裁方及圖解・各部名稱。
- (三) 裁切寸法及仕立寸法。
- (四) 大巾物と並巾物の裁方。
- (五) 綿入・袷・單衣の三種類。
- (六) 織物に疵のある場合の裁方。

要するに特殊的問題として織物に疵のある場合の裁方上の工夫があるが之は全く應用方面の力量を試験されるもので教科書の暗記や何かでは到底解決のつかぬ問題であれば、よく問題を吟味し、應用自由自在に解答なし得るやうな確信ある研究が望ましい。

羽織裏地裁方圖



出来上り袖丈 出来上り身丈 縫代 表總用布 裏總用布
 $(16.5 \times 8 + 26.0 \times 10 + 25.) - 290.0 = 123.0$

一、長崎縣

裏地裁方及び裏用布の積り方次の通り

- (一) 後身丈より前身丈を一寸五分短く裁切つたのは、表身頃に前後を差をつけるものとして積つたものである。
- (二) 縫代内譯
袖四寸。衿一尺。
衿附一寸二分、残り胴接ぎ
- (三) 左の積り方の結果裏地總用布は一丈二尺三寸を要する。

二、三重縣

大巾物にて女物袴の裏用布の求め方

(一) 表用布を七五纏巾として次に裁方圖を示した。

(二) 【裁切寸法】

袖丈五五纏、

後身丈一三四纏、

衿肩明二二纏内廻し、一纏半づゝ、

(三) 【裏地裁切寸法】

袖丈五五纏、

身丈一二九纏、

裏地の積り方算式に於て表總用布を所定の寸法の二倍としたのは並巾物として計算した爲である。

(四) 縫代の九四纏の内譯は神奈川縣の羽織の部参照のこと

袖巾三七纏半、

前身丈一五三纏半、

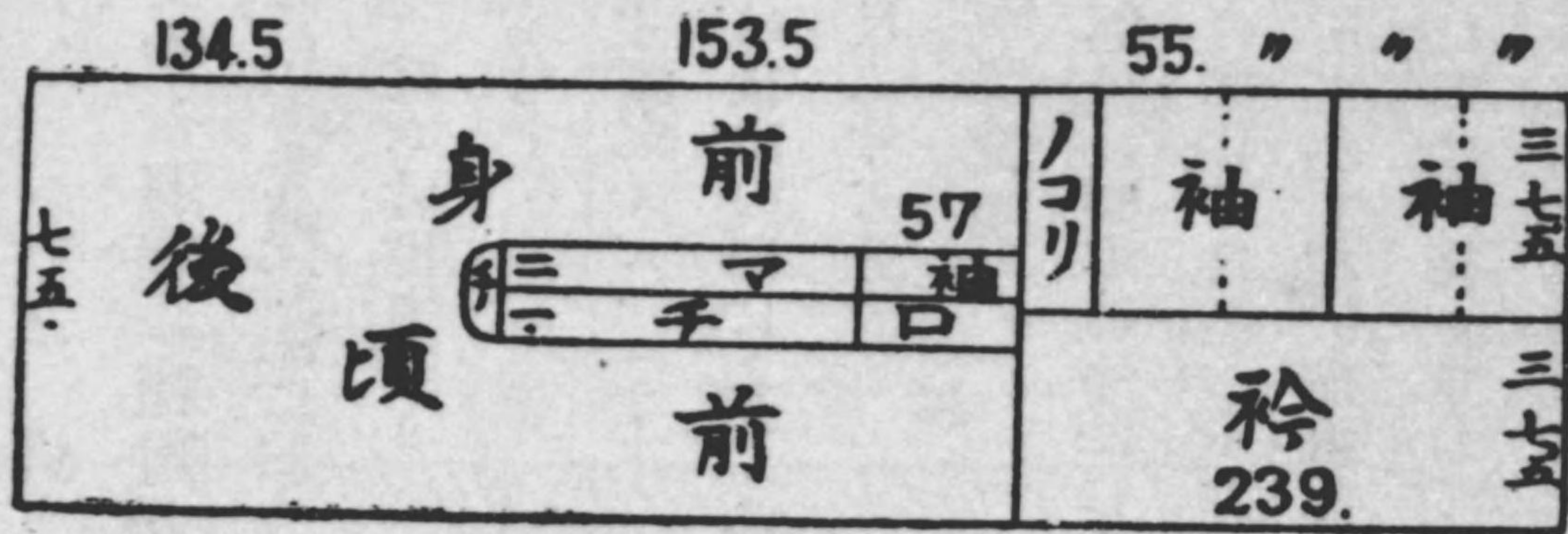
衿丈二三九纏、

袖口丈五七纏、

衿肩明一〇纏半内廻し一纏半、

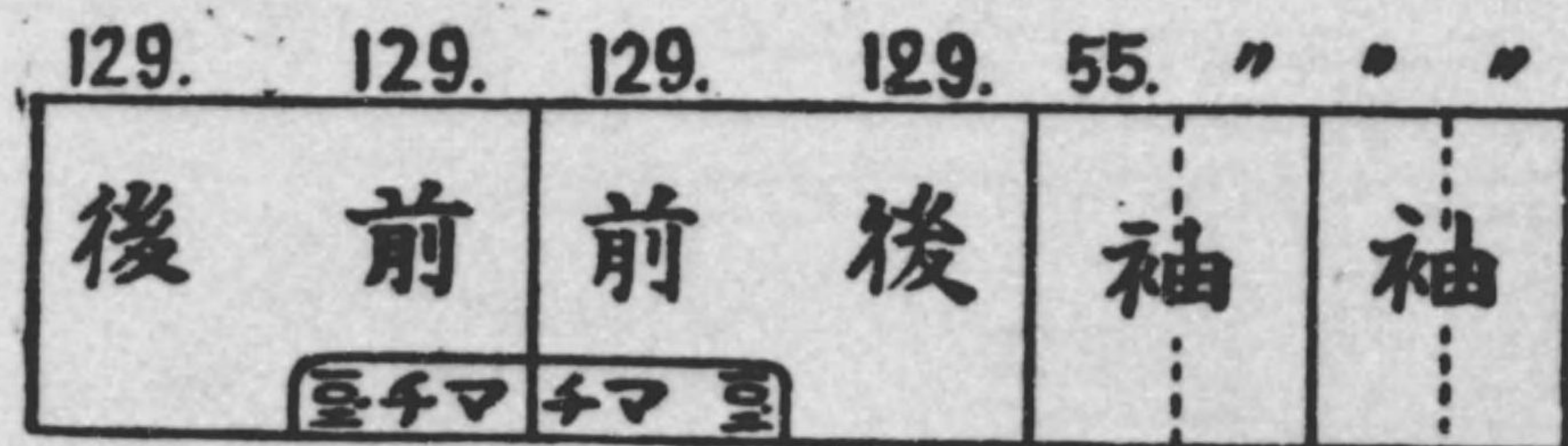
大巾(75cm)にて女羽織の裁方圖

裁縫科受験準備講義



總用布 袖丈 ノコリノ前後ノ差 後身頃
 $525\text{cm} - (55\text{cm} \times 4 + 19\text{cm} + 19\text{cm}) + 2 = 134.5$
 後身丈 前後の差 前身丈
 $134.5 + 19 = 153.5$

同高地の裁方圖



【裏地積り方】

出来上り袖丈 出来上り身丈 縫代 表總用布 裏地
 $(53\text{cm} \times 8 + 101\text{cm} \times 10 + 94\text{cm}) - 1050\text{cm} = 478\text{cm}$

【積り方裏地總尺】

袖丈 身丈
 $(478\text{cm} - 55 \times 4) + 4 = 129\text{cm}$

三、岩手縣

本及女物袴羽織の標附方圖解

(一) 次の如き普通寸法に依つて標附をした。

袖丈一尺六寸出來上り、

袖口六寸、

身丈寸法定メズ、

前巾は後巾の標によつて定める、

裾一尺六寸五分、

袖巾八寸五分、

袖附六寸七分、

後巾七寸五分、

前下り一寸、

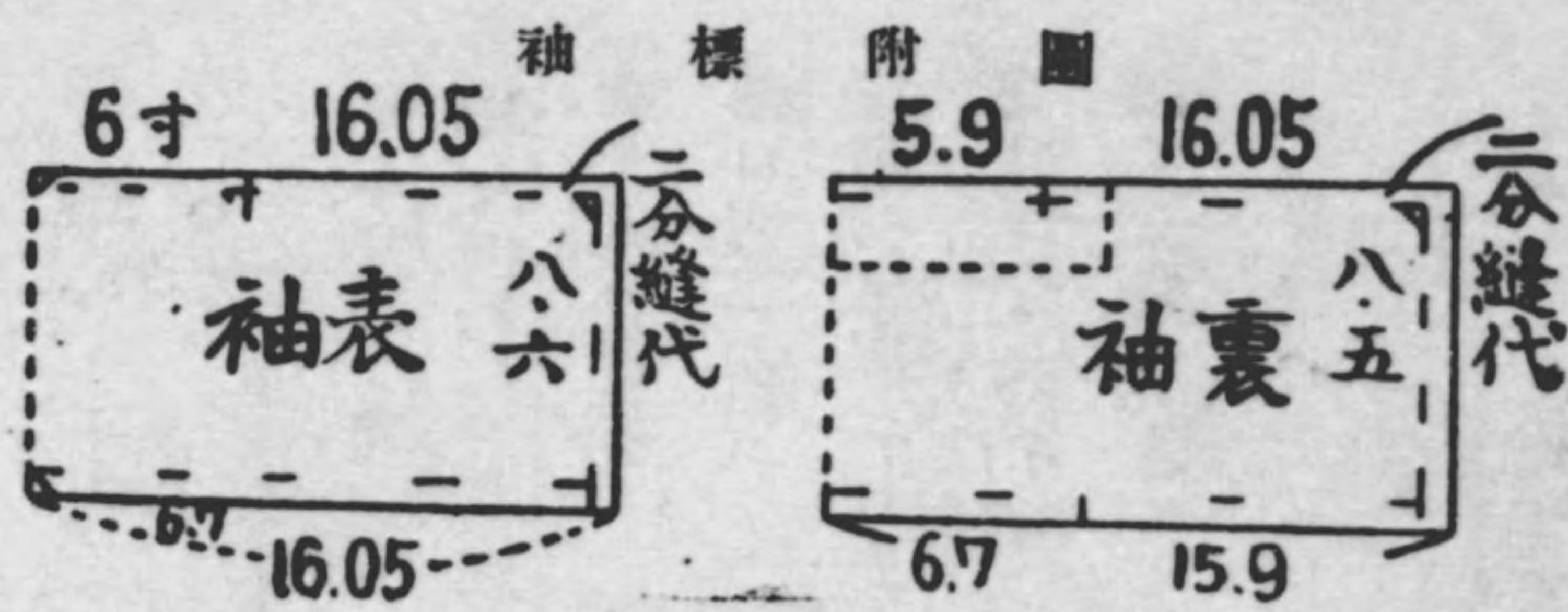
裾巾(上五分 下一寸八分)

(二) 標附圖説明

袖の標付は圖中の寸法によつて表袖に對する袖裏の寸法のツメ方を知られたし。

身頃の部にては稍、やせ氣味の人は後巾と前巾との標付を別々になし、前巾は裁切の所より計つて五寸とするを普通とする。

此所にては前後を重ねて標付をした。裾は下は真中より九分づゝに寸法を取り上部は前裾の傾斜を多くする爲に最初に三分をのぞきその残りを二分してその部より双方に二分五厘づゝ取つ



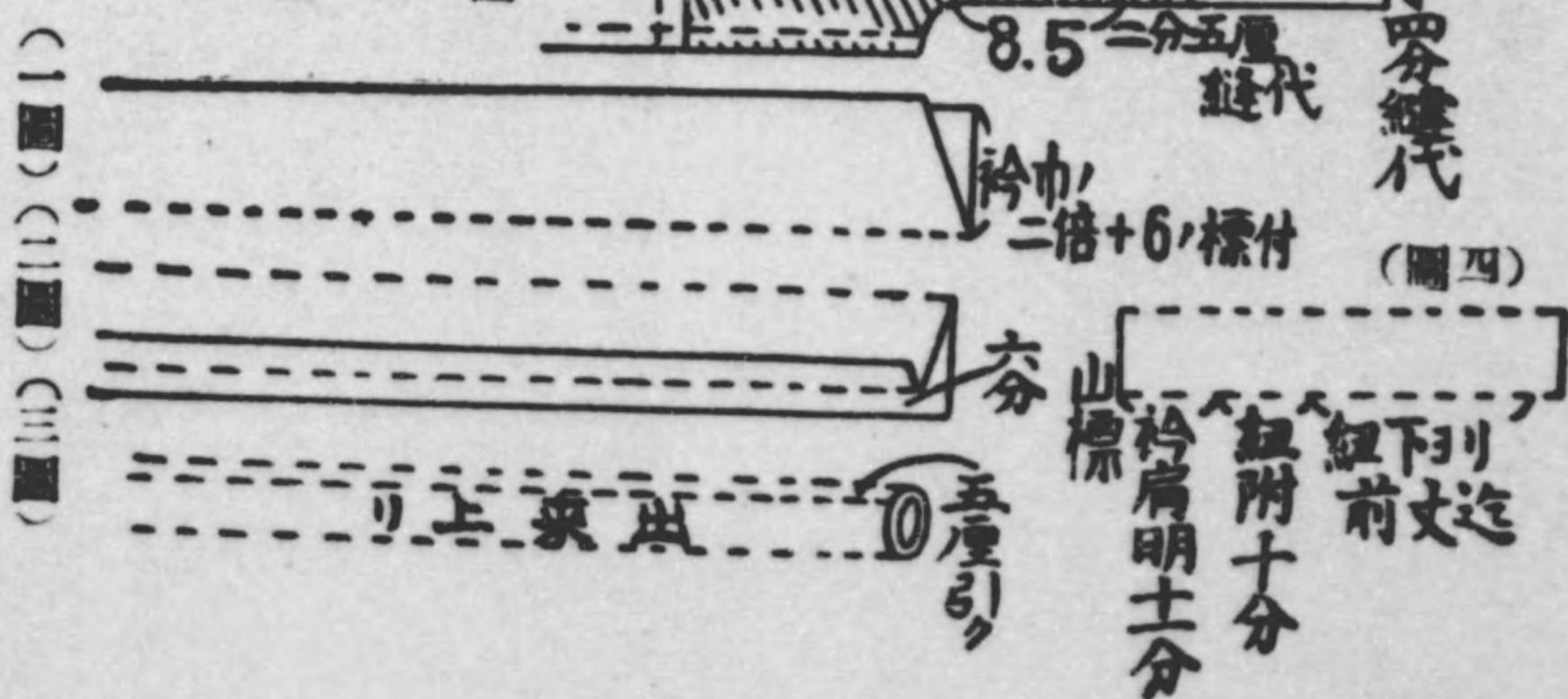
身頃標附圖



襟標附圖



袴標附圖



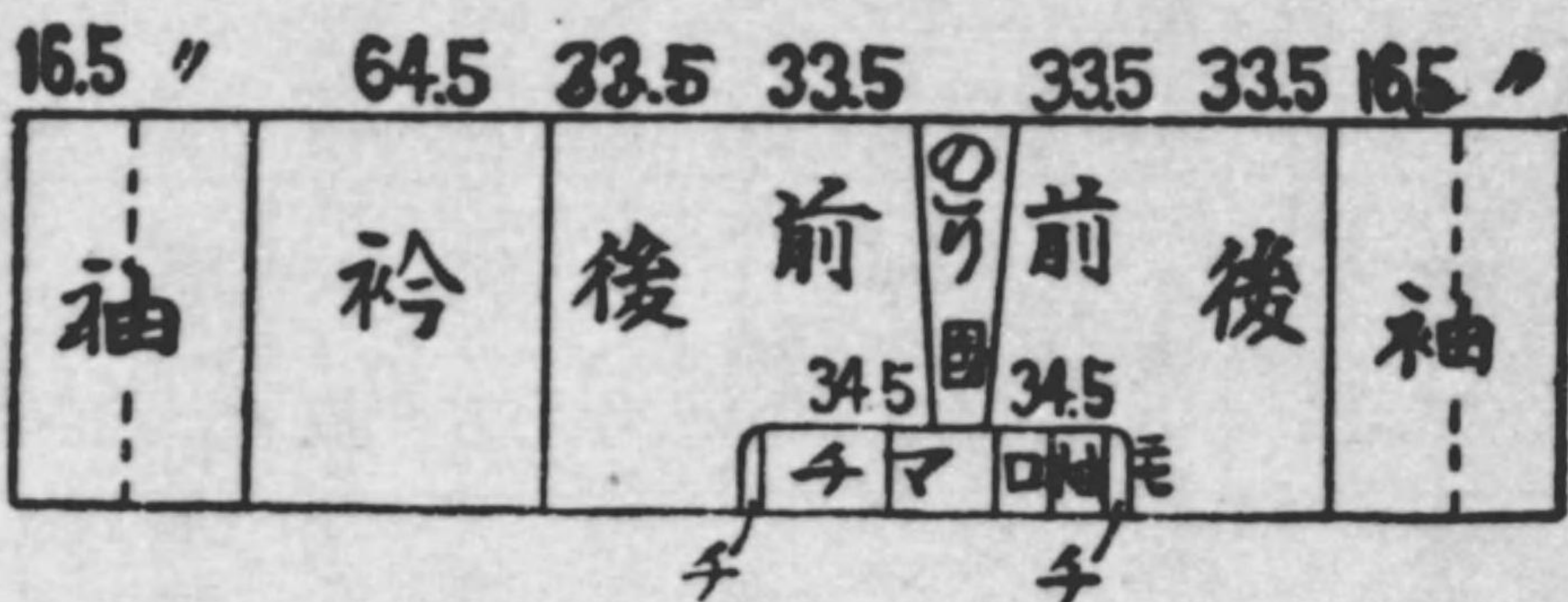
即ち中心を三分づらす。袖附を六寸七分と定めたのは着物を六寸五分と假定して二分多くしたのである。

四、山口縣

本裁女物羽織普通仕立上寸法次の如し

- 身丈九六纏、
- 袖口明二四、
- 後幅二八纏、
- 襦巾(上二、五纏、下六、五纏、
- 衿六二纏半、
- 前下り四纏、
- 袖附二四纏、
- 前幅一八纏、
- 衿幅六纏半、
- 肩巾三〇纏、
- 袖丈五九纏、
- 身八ツ口九纏半、
- 紐附三四纏、
- 繰越一纏、

女物單衣羽織の裁方圖(疵アリ反物)



總用布 袖丈 衿丈 襦補 身丈
 $(274.5 - 16.5 \times 2 + 64.5 + 10) \div 4 = 33.5$

五、千葉縣

織疵ある反物で女物單衣羽織の裁方

- (一) 問題に依れば用布の元端より一丈〇二寸入つた巾の中央に二寸大の織疵があるとの事。袖丈の二つ即ち片袖分を元端にて取り、次に身頃を圖の様に裁ち、疵は襦補ひの爲に一尺の餘分を取りて其の部の残り切とした。即ち袖丈へ身丈の二倍を加へて袖身丈の總丈となり一丈二寸入つた所の疵であるから完全に襦補ひの布の中に這入つて取り去ることが出来る。

(二) 【裁切寸法】

- 袖丈一尺六寸五分、
- 袖口丈一尺五寸、
- 身丈三尺三寸五分、
- 前下り一寸、
- 衿丈六尺四寸五分、
- 衿肩明二寸七分内四分廻し、

第九節 本裁男物單衣問題並に解説

第一 本裁男物單衣問題

- 一、本裁男物單衣の裁ち方を知れるだけ記せ(各部寸法を記入せよ)。(北海道)
- 二、本裁棒衤の積り方三公式を述べよ。(青森縣)
- 三、用布大巾八尺八寸を以て男子大人物の簡單なる着物を作らんとするには如何なる裁方をなすか。但し袖は筒袖。(和歌山縣)
- 四、高等科第一學年に教ふる目的にて男單衣(腰揚あり)の仕立籠の付け方を圖解せよ。(臺灣)
- 五、並幅十米九十纏の反物にて棒衤を裁たんとす。袖丈裁ち切寸法六十纏とせば身丈何程となるか圖解算式を記すべし。(石川縣)

第二 本裁男物單衣解説

【問題概観】

全問題中五問題ではあるがやはり男物單衣其のもの、特徴に向つての要求點が見出される。次にそれをあげて見ると、

- (一) 本裁男物單衣の裁方
- (二) 裁方圖、積り方公式
- (三) 仕立籠の付け方(腰揚あるもの)

以上簡單ではあるが決して輕視する譯には行かない。細部の研究を要す。

一、北海道

男物本裁單衣の裁方の種類次の如し

1. 並幅にて棒衤の裁。
2. 同衤裁方。
3. 大巾(二尺)の裁方。
4. 中巾(一尺二寸)裁方。

【裁切寸法】

袖丈一尺五寸五分、 身丈三尺八寸五分。

1. 並巾にて棒衤裁方圖



袖丈 身丈 衤下り 總尺

$$14.5 \times 4 + 38.5 + 6 - 5 \times 2 = 279$$

(1) 総尺の求め方

$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 6 - \text{衿下り} \times 2 = \underline{\underline{\text{総尺}}}$$

(2) 身丈の求め方

$$\text{総尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿下り} \times 2) \div 6 = \underline{\underline{\text{身丈}}}$$

(3) 袖丈の求め方

$$\text{総尺} - (\text{身丈} \times 6 + \text{衿下り} \times 2) \div 4 = \underline{\underline{\text{袖丈}}}$$

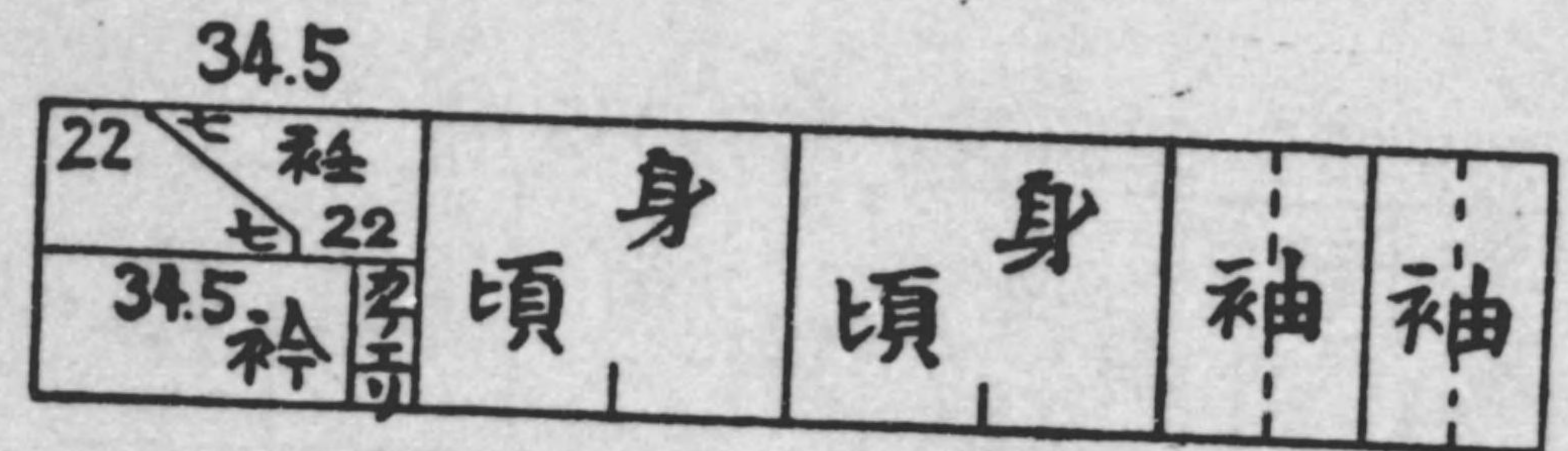
本裁棒衿の積り方三公式を述べよ(男女共通なり)

二、青森縣

衿肩明二寸五分

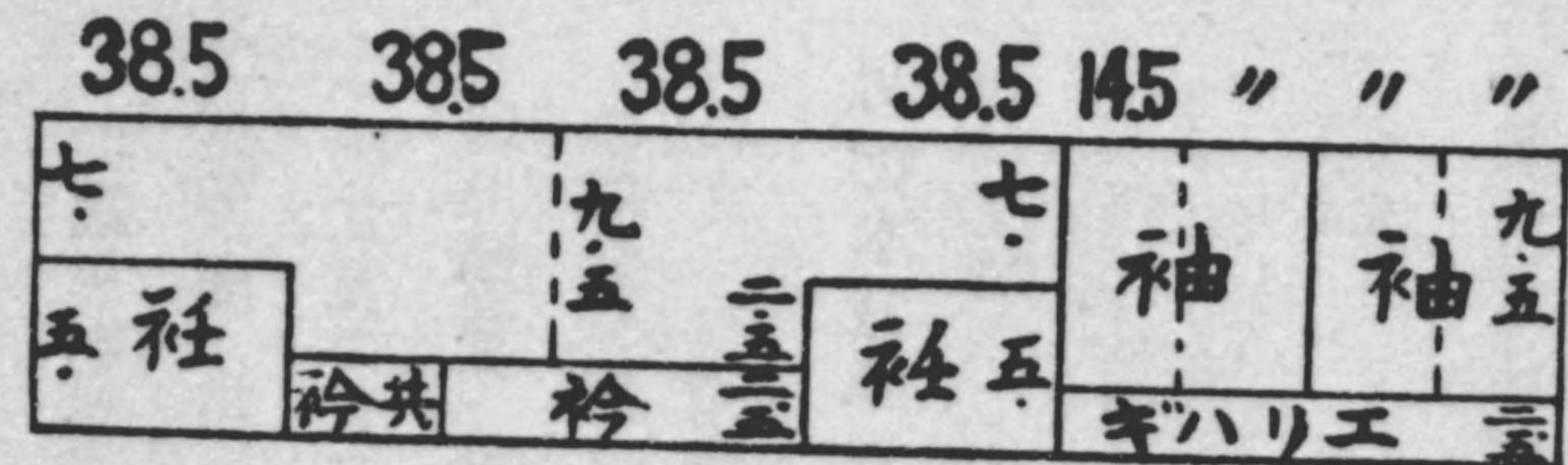
衿下二尺二寸

2. 衿裁寸法上圖と同じ



袖丈 身丈 衿下 衿下り 総尺
 $11.5 \times 4 + 33.5 \times 5 + 22 - 4.5 = 268.5$

3. 中巾(一尺二寸)にて男物單衣裁方圖



袖丈 身丈 総尺
 $14.5 \times 4 + 38.5 \times 4 = 212$

二尺巾にて男物裁方圖



袖丈 身丈 エシキアテ 総尺
 $14.5 \times 4 + 38.5 \times 2 + 8 = 143$

二尺巾八尺八寸にて男子單衣の裁方圖



身丈 袖丈 總用布
 $36.5 \times 2 + 8.5 \times 2 = 88$

三、和歌山縣

所定の用布を用ひて男子大人物の簡單なる着物と云へば恐らく寢卷用のものと思はれる、依つて次圖の如く衽無しの方とした。もし脊縫を必要とするならば衽は中央より取つて身頃の兩脇を耳とする方が好都合であらう。

四、臺灣

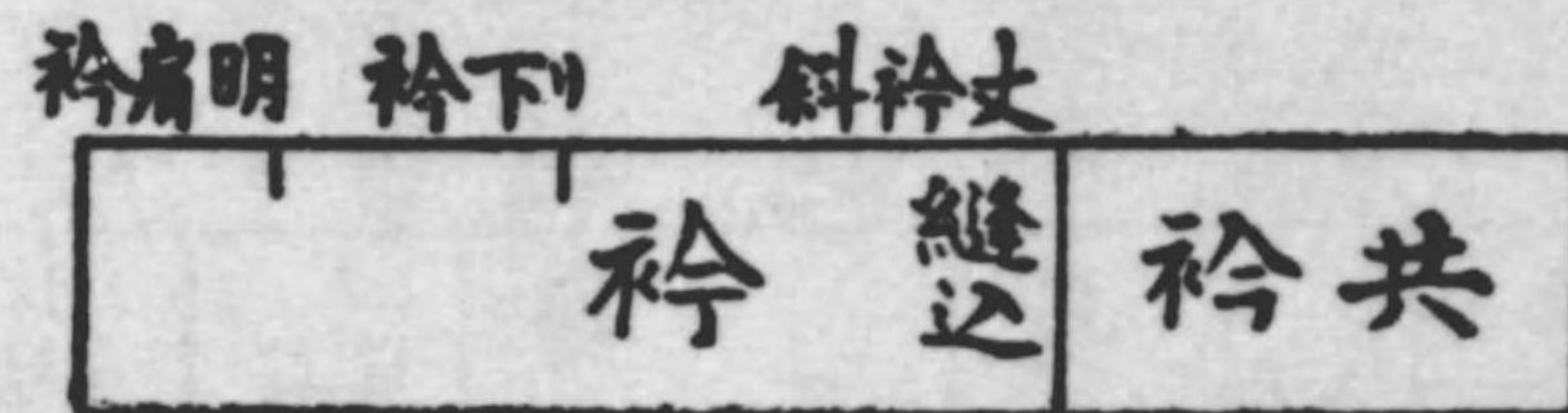
(一) 裁方を授くる前に實物の觀察を充分にさせ、腰上げの位置、前後の相違人形等、男物單衣の特徴をよく理解させて後、標付を授くる方法を取るを至當とす。故に先づ裁切身丈と仕立上げ身丈との關係を知らせ腰上げの算出法を授けて標付の板書説明をする。

1. 袖の標付は圖の如く人形をつける點を考察させ他は既習女物と同様。
2. 身頃第一圖の如く裾衿、山標袖附、後巾等を標し、次に第二圖に示す如く、腰揚げの標付をする。

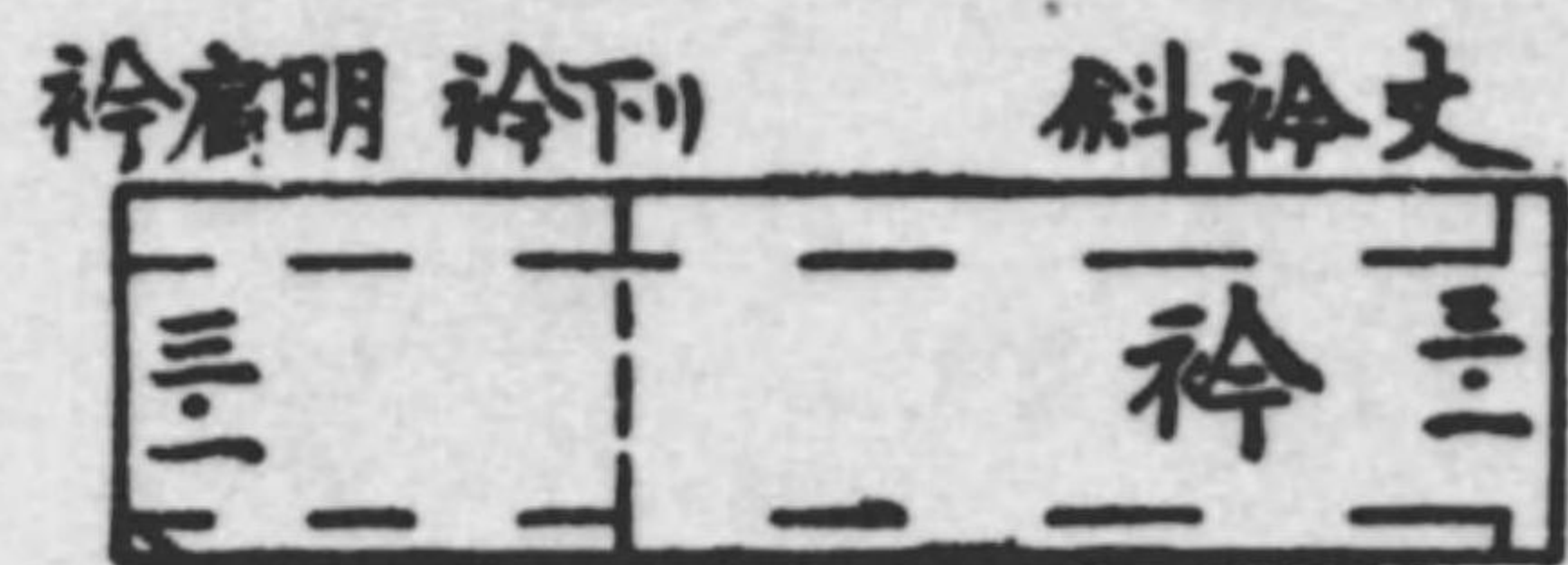
その方法は先づ第一に後と前とは腰揚げの位置に相違がある前身頃は後身頃より一寸下るものであれば前身頃を肩にて五分繰り越し、山標の所より一尺三寸五分を標付をする。次に腰揚げ丈は裁切身丈より出來上身へ九分を加へたものが腰揚げ丈である事を授け、普通寸法によつて算出させる、九分は裾衿代五分と衿附縫代三分ときせの一分を加へたものである事も理解させたい。この算出した寸法によつて標付をする。

(ア) 第三圖前身頃は後身頃を除いて、前巾を定め、衽下りをつけ衽下りの所で衿肩より一分狭く

共衿取り方圖 (第五圖)



衿標付圖 (第六圖)

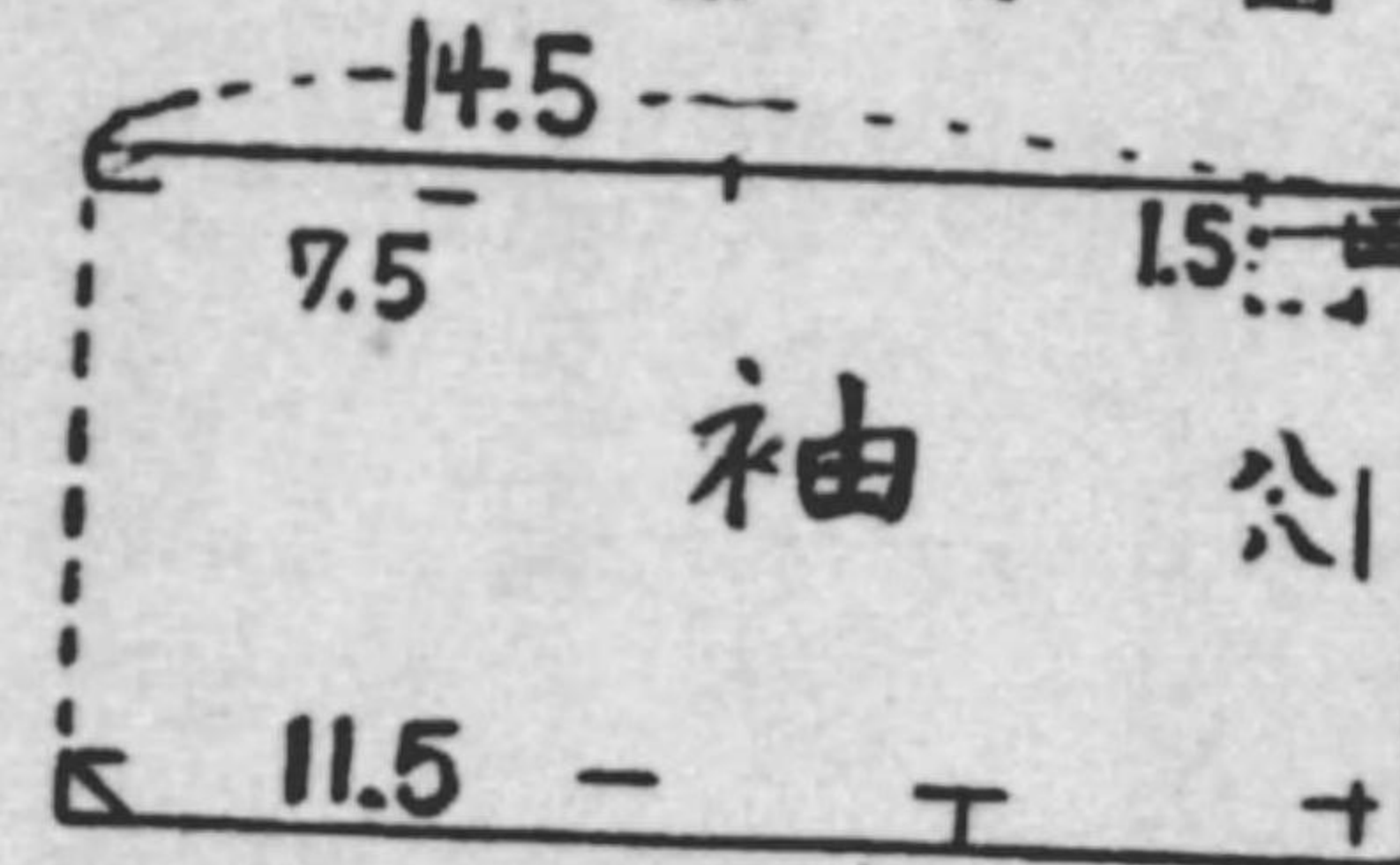


共衿標付圖 (第七圖)

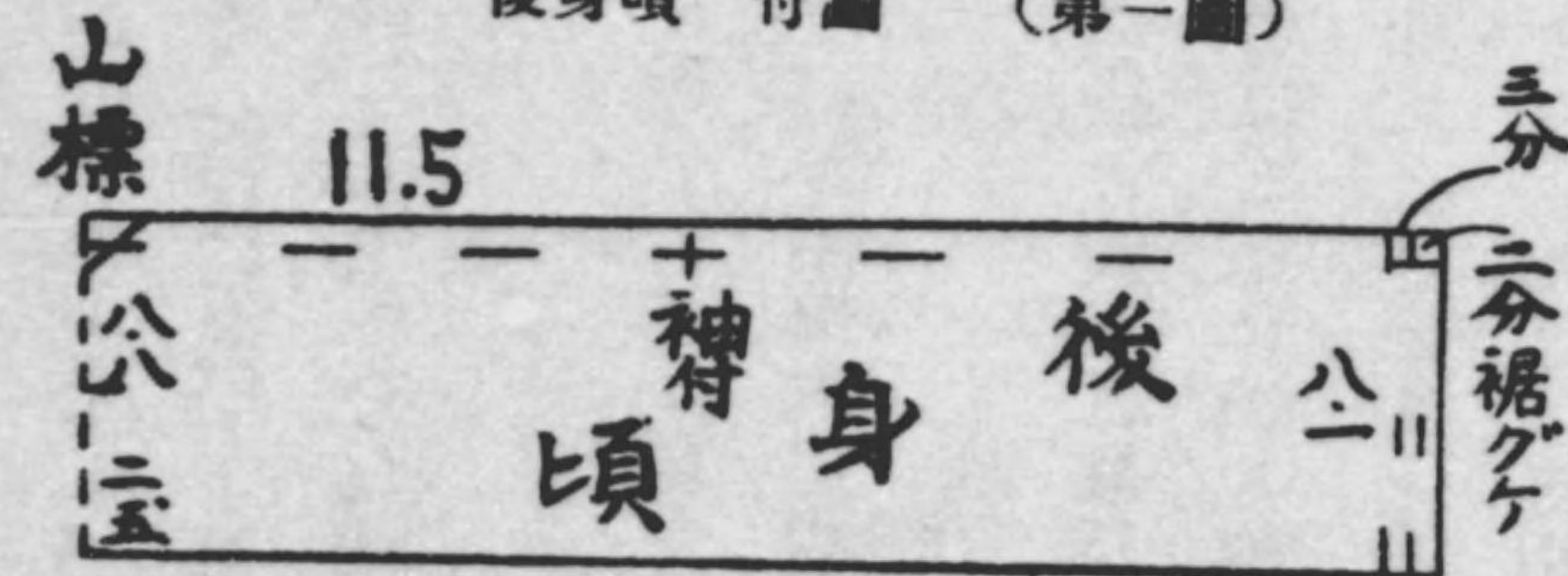


- 標をなし前巾の標より此の部分に糸を張つて圖の如く前巾の標付をする。
- (イ) 第四圖衿は前身頃の標付終つた後、衿丈をはかり置き、裾桁代を除いて圖の如く、衿丈衿巾、合襖巾等の標をつけ他は女物と同様。
 - (ウ) 第五圖は共衿の取り方で衿下りユルミ衿肩明等順次標をつけ山より二つ折として残り切を共衿とする。
 - (エ) 第六圖は衿の標付でその順序は、(1)山標、(2)衿肩明、(3)衿下り、(4)ゆるみ、(5)斜衿丈、(6)衿付、(7)衿巾、(8)共衿丈より二分短く衿の方に標を附けて出来上りとする。

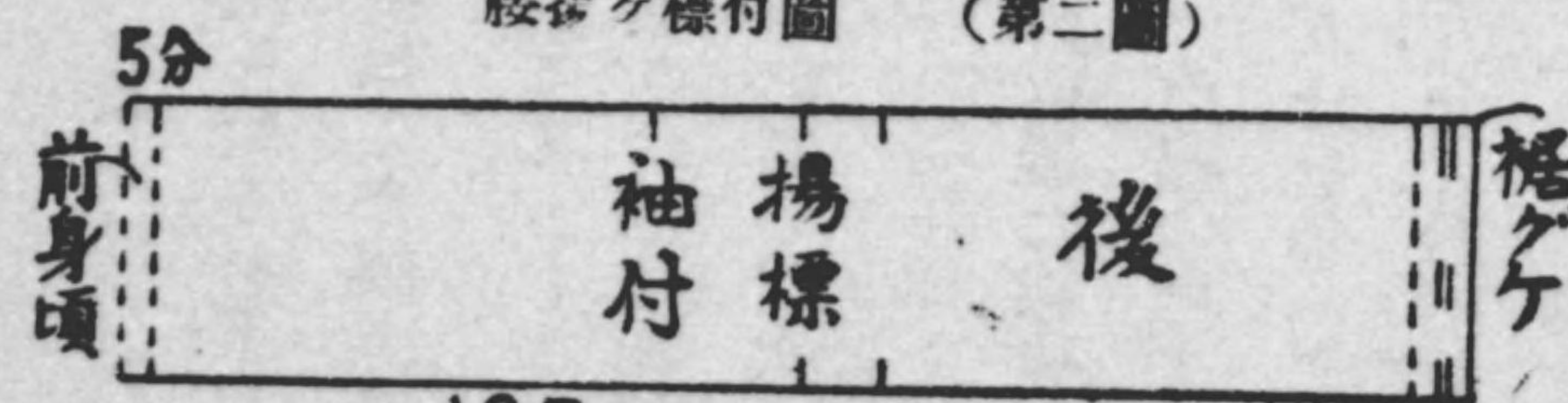
袖標付圖



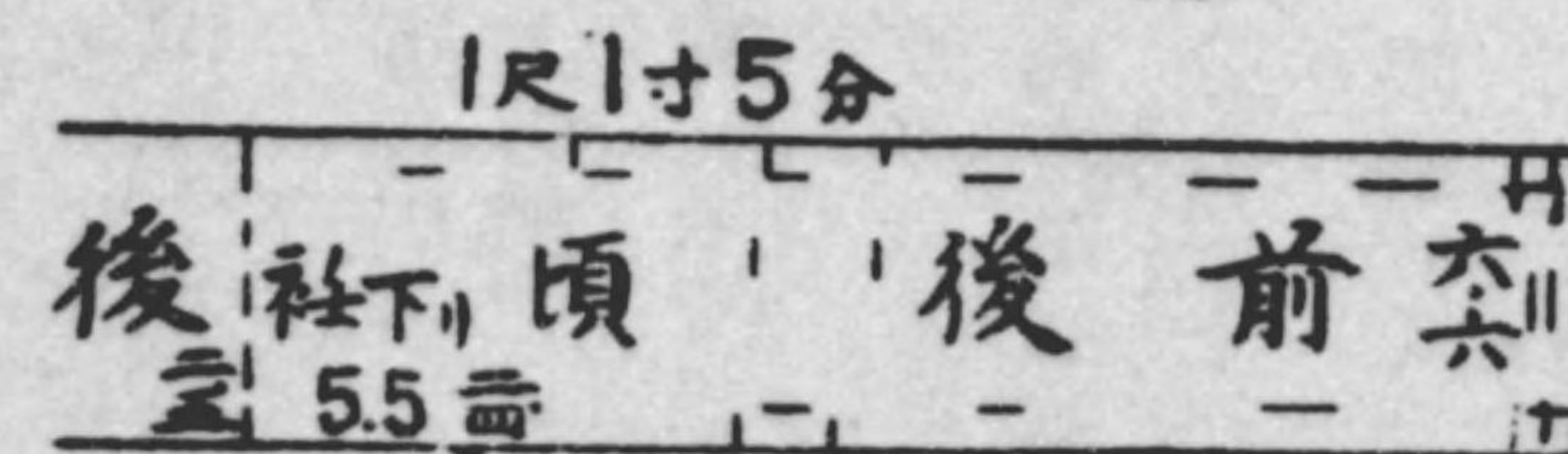
後身頃付圖 (第一圖)



腰掛ケ標付圖 (第二圖)

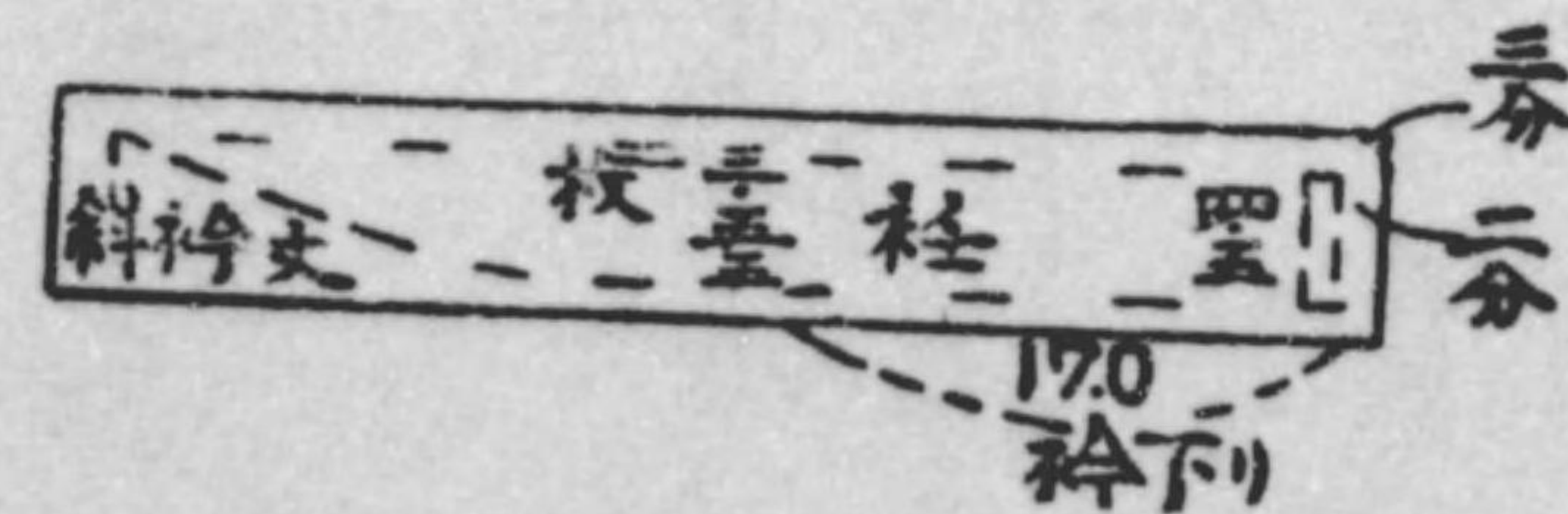


前身丈標付圖 (第三圖)



(揚が丈引ク)

衿標付圖 (第四圖)



女物袴裁方圖



〔積り方〕

總尺 袖丈 衿下り 身丈

$$\{1090\text{cm} - (60\text{cm} \times 4) + 20\text{cm}\} + 6 = 145\text{cm}$$

五、石川縣
裁方圖及算式次の如し

【裁切寸法】

- 袖丈六〇纏、
- 衿丈一二五纏、
- 衿肩明九纏半、
- 身丈一四五纏、
- 衿巾一九纏、
- 共衿丈七五纏、

第十節 女袴問題並に解説

第一 女袴の問題

- 一、女袴仕立上に要する襷の割り出しを説明すべし。(沖縄縣)
- 二、女袴の寸法割出し方を詳細にのべよ。(北海道)
- 三、本被女袴の襷取標附(前布及後布)を圖によりて説明すべし。(群馬縣)
- 四、地質カシミヤ及綾セルにて大人女袴の裁方。(佐賀縣)

第二 女袴の解説

【問題概観】

問題中四問題ではあるが一般家庭に於いて女學生のある以上女袴の裁方及仕立方については知らねばならぬ、且又、高等小學校の教材として配當されてゐるのを見ても輕視する事は出来ない。即ち、裁方、及此の材料獨得の襷の割出し襷の取り方といった基本的の知識を確實に得て置くと同時に一方技術の方面についても練習を要する事は論をまたない事である。

- (一) カシミヤ三尺巾、綾セル二尺巾の裁方

裁縫科受験準備講義

- (二) 寸法の襷取り寸法の割出し方
- (三) 標付方

やつぱり基礎的事項が中心となつて解答を求めてゐる。此の點受験者は深く研究を要す。

- 一、沖繩縣(次の北海道を参照の事)
- 二、北海道

女袴寸法割出し方

- (一) 紐 下 着物丈の十分の七。
- (二) 相 引 紐下の三分の二に一寸を加へる。
- (三) 後 巾 着物巾に五分を加へる。
- (四) 後一の襷 後巾の四分の三。
- (五) 寄 襷 $\left\{ \begin{array}{l} \text{上後巾の八分の一。} \\ \text{下後巾の四分の一。} \end{array} \right.$
- (六) 腰 巾 後巾に同じ。
- (七) 袴襷巾一の襷の四分の一。

三、群馬縣

本裁女袴の襷取標附方圖次の通り

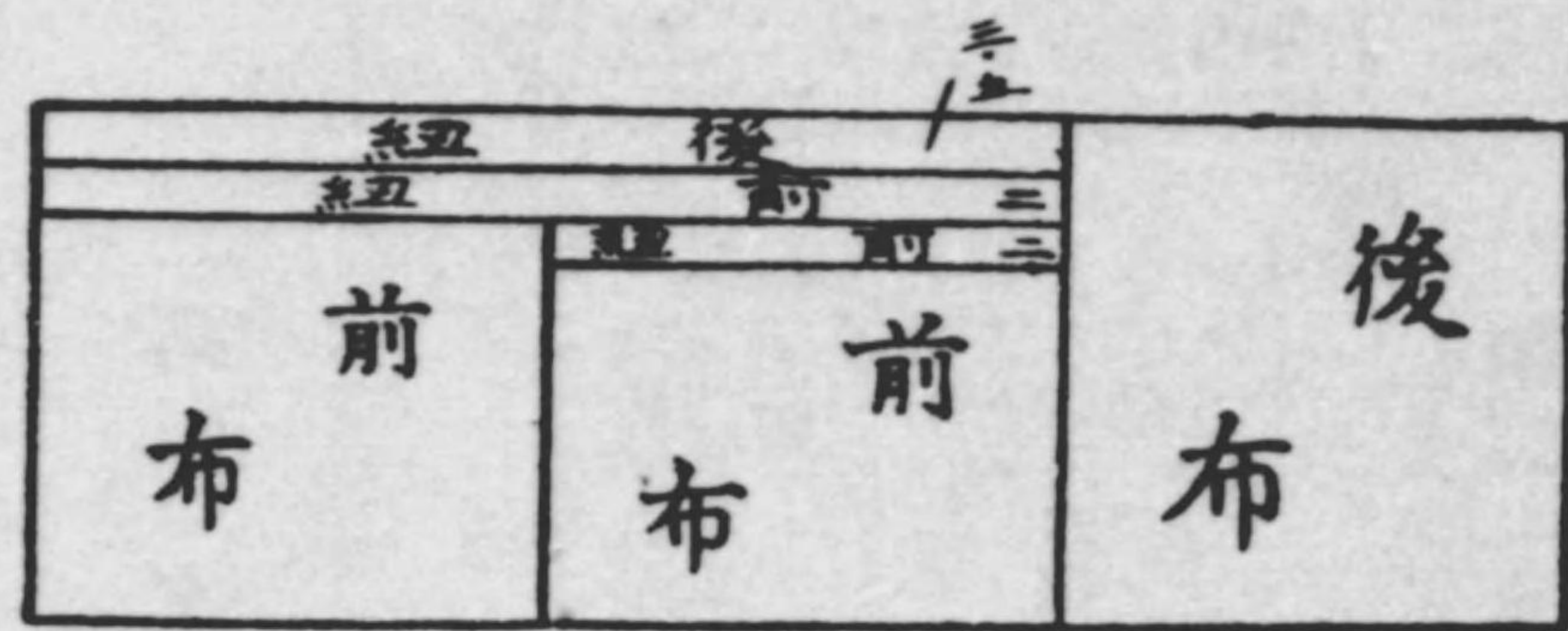
(一) 【女袴仕立上寸法】

- 紐下二尺三寸、 後巾八寸、 後腰巾八寸、
- 前腰巾八寸五分、 後袴襷一寸五分、 前袴襷一寸二分、

(二) 【襷取り標附方説明】

1. 後標附 \parallel 真中より二つ折として裾衿の標をつけ次に脇縫代を三分とる。一の襷六寸と標つけ残りを二分して五分減じたものを二の襷即袋襷とする。即ち
圖中の \times 印の所である。左側の方は標より一寸内側に入った所に標附をして重り分とする。紐下を定めて、糸標をなし相引の標をして置く。紐下の部分にて出来上り一寸五分と襷襷を定めるものであるから最初に中折を一寸三分と標し、次に一寸五分又一寸五分と標附をする。
2. 前標附 \parallel 全部縫合せた前布を二つ折として裾くけ代縫代、相引の標は後布と同様。一の襷は四寸八分と標をつけ、残りを三分して五分減じたものを三の襷即前袋襷とする、右側の方標附より一尺内側に入った所に標をつけ、袋襷の重り分とする。三の襷及一の襷の標附の真中を二の襷と定めて標をつける。

カシミヤ(三尺巾)にて女袴裁方圖

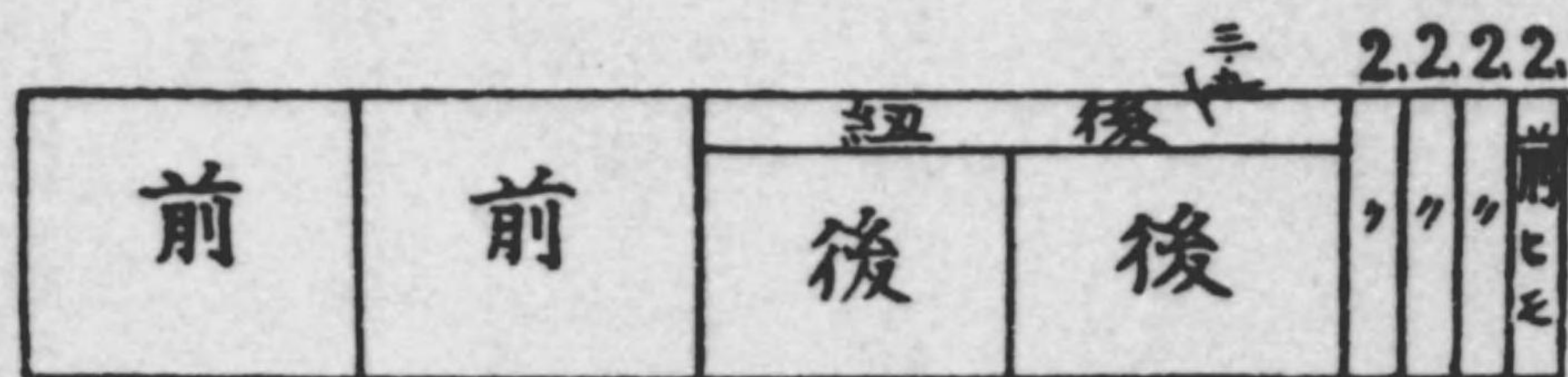


[積り方]

(出来上り紐下+縫込)×3=總用布

紐下は普通着物の身丈に7割をかけ縫込は3寸内外とす

綾セル(二尺巾)にて女袴裁方圖



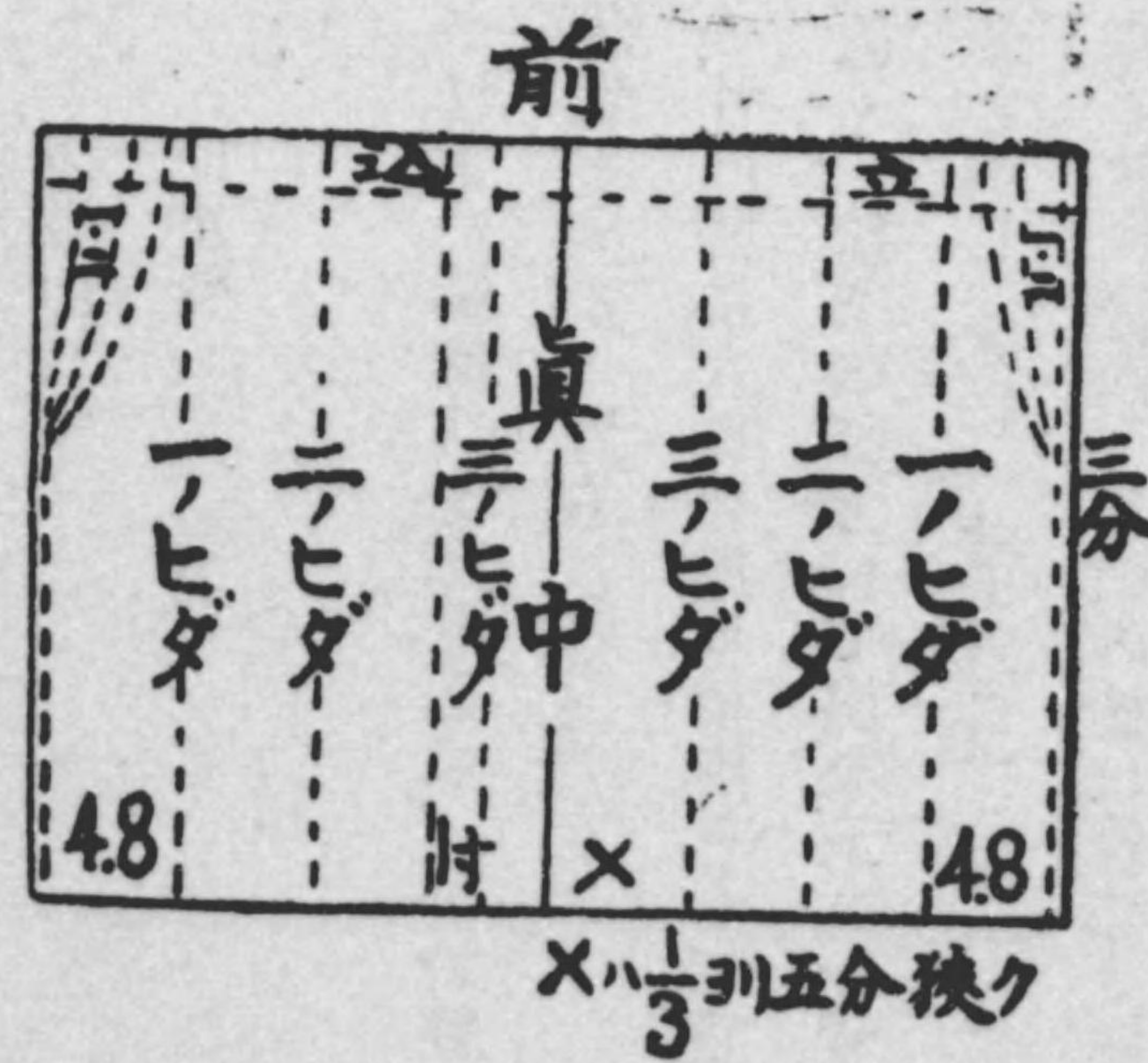
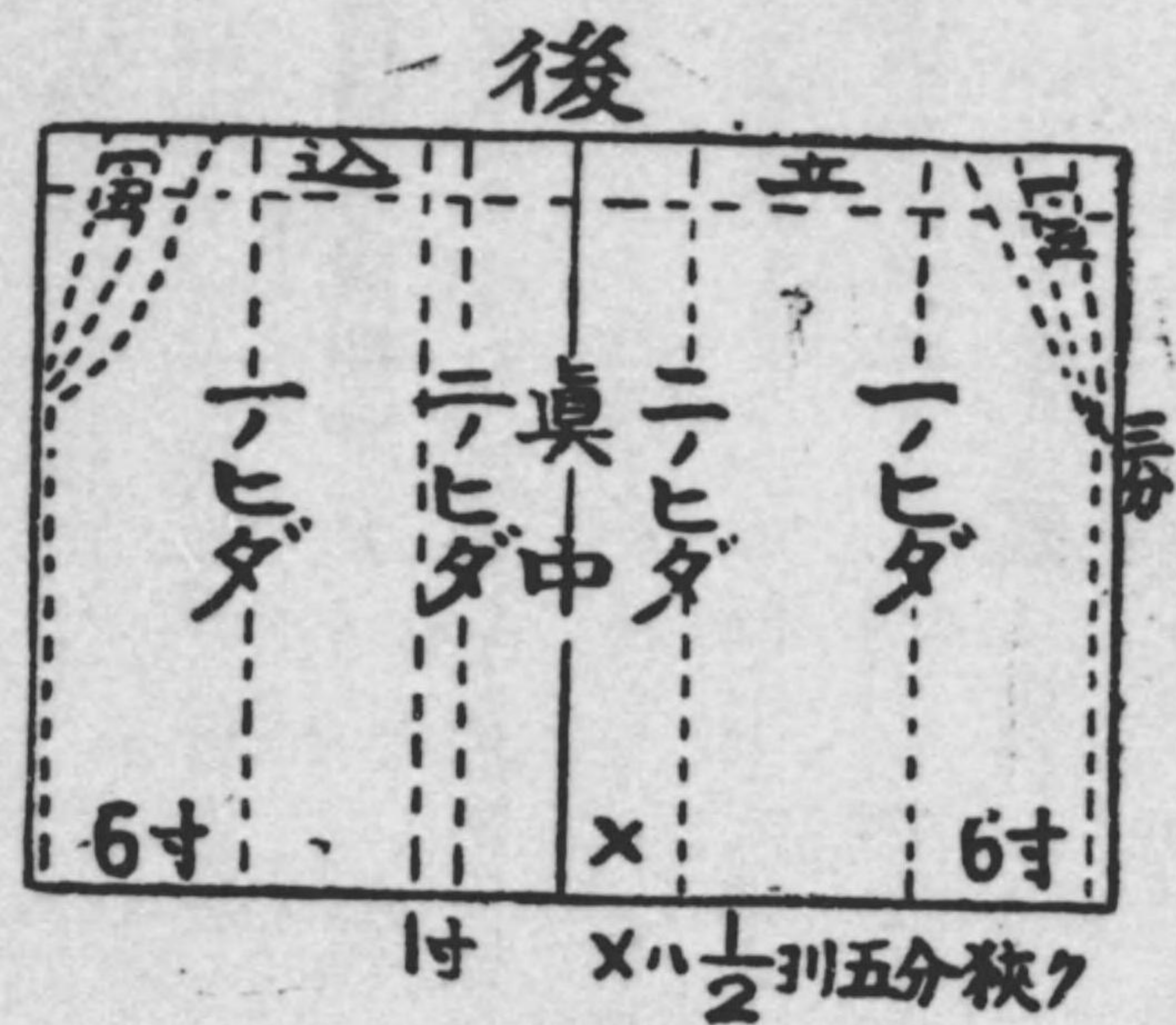
[積り方]

紐下+縫込×4+2×4=總用布

カシミヤ及綾セルにて大人袴の裁方
カシミヤは三尺巾で綾セルは二尺巾を普通とする依つて左に兩方の裁方を示した。

四、佐賀縣

女袴の襲取り標付方



3. 笹襷II最初に中折を出来上り巾より二分狭く斜に標付けをなし、次に一寸二分即笹襷巾出来上りの標を三回つける。紐下を定める事は後布標附と同様である。

第十一節 本裁長襦袢問題並に解説

第一 本裁長襦袢の問題

- 一、幅七五厘 長さ四米を以て本裁女物長襦袢を作らんとす如何なる裁方にすべきか圖解し之に各部寸法を記入し併せて裏地（裾廻し共）何程要するか。（北海道）
- 二、本裁女物長襦袢の裁方數種を圖解し其の得失につきて説明せよ。（但し各々裁切寸法を記入すべし。（熊本縣）
- 三、本裁女物長襦袢の裁方を圖解し各部の名稱及寸法を鯨尺にて記入せよ。（但し寸法は凡て普通寸法による。（沖繩縣）
- 四、並巾メリンスで仕立上袖丈一尺四寸、身丈三尺六寸の男物長襦袢を仕立るには用布幾尺入用ですか圖解しなさい。（秋田縣）

第二 本裁長襦袢の解説

【問題概観】

問題中四點だけではあるがやはり和服裁縫全般から眺めて、決して不必要視する譯には行かぬ

い、殊に女物に於いて大切である。四問題中一題は男物であるが、女物長襦袢がよく理解されて居れば男物は應用的に考へても不可能の事ではない。只女物は胴袖無双の場合もあり又胴と裾の上部とを別々の布を用ゐる場合が多いが比較的男物は袖が無双の場合多い。

- (一) 女物及男物（袷）
- (二) 大巾物及並巾物。
- (三) 裁方及積り方圖解。
- (四) 裁切及仕立上寸法。

四問題を通覽するに共通の要求點が多々ある。故に長襦袢の特徴を確實に理解して居れば何れの問題に出逢つても決して狼狽はしない筈である。故に基礎的事項を深く研究して置き度い。

一、北海道

(一) 所定の用布を以て本裁女長襦袢の裁方圖及各部方法次の如し
 (一) 裁切寸法

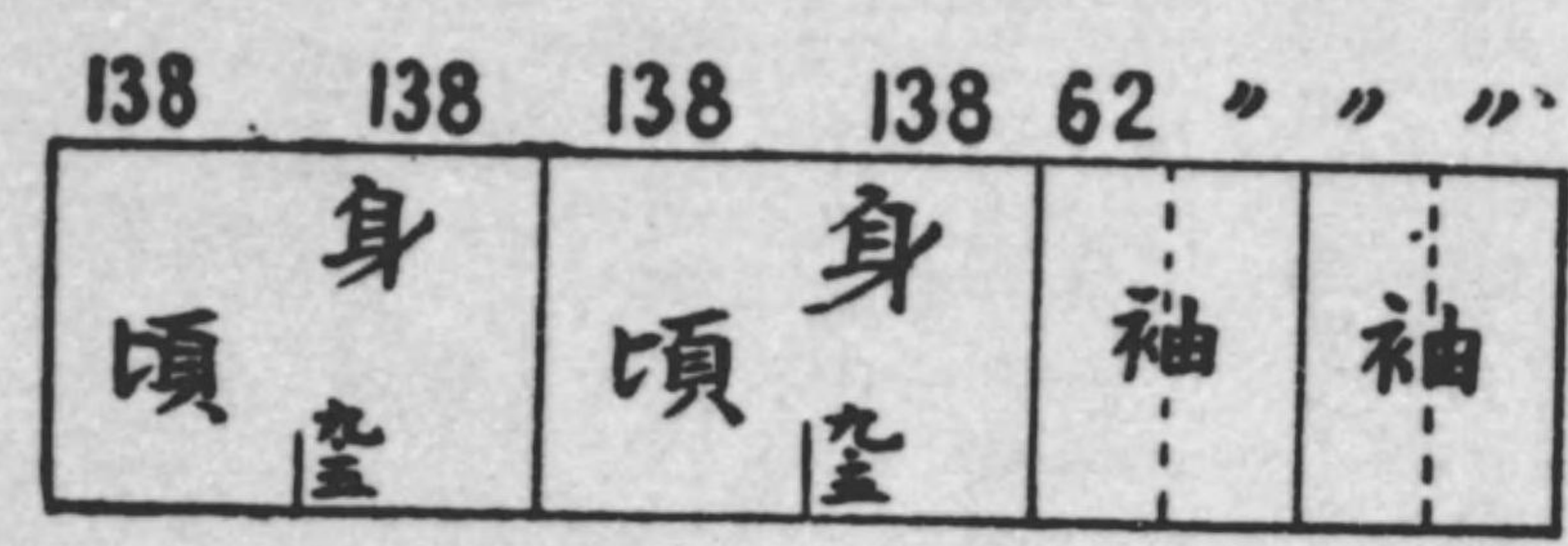
袖丈六二纏、

身丈一三八纏、

衿肩明九、五纏、

裾廻丈一九纏、

女物長襦袢裁方圖



身丈 袖丈 總用布
 $(138\text{cm} + 62\text{cm}) \times 4 = 800\text{cm}$

同裏裁方圖



裾丈 總用布
 $19\text{cm} \times 4 = 76\text{cm}$

二、熊本縣

本裁女物長襦袢裁方

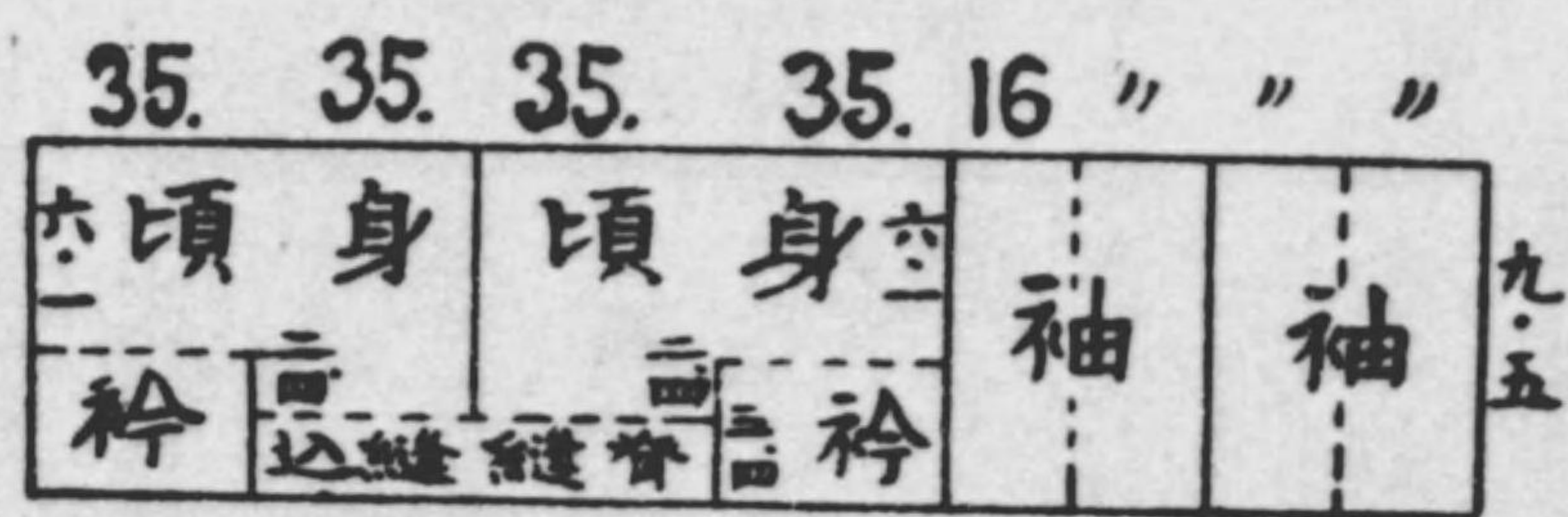
(一) 本裁女長襦袢裁方として次に三種をあげた。即並巾にて別衿、裁、同じく摘み衿裁の二種と、大巾物の裁方である。

並巾にて女物長襦袢の裁方(第一圖)



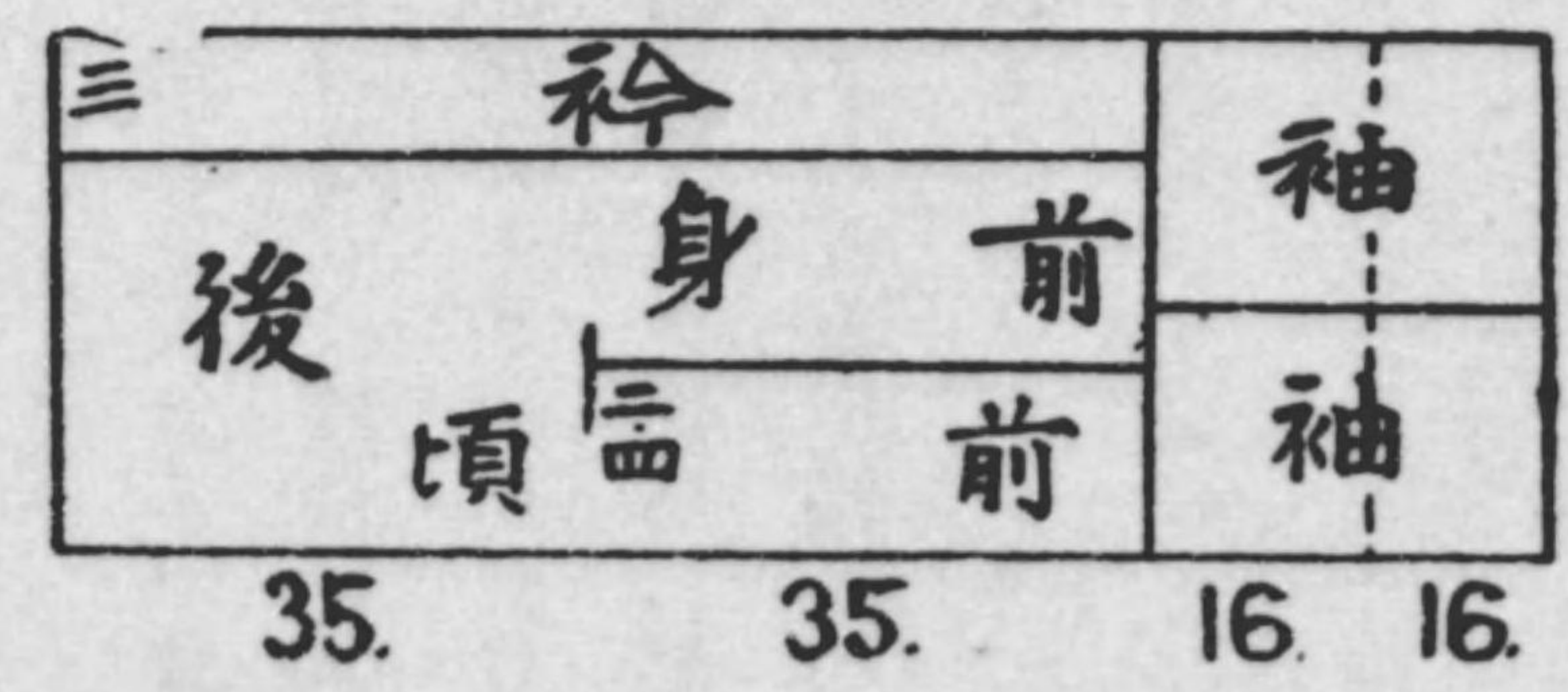
[積り方] 袖丈 身丈 衿丈 總用布
 $(16. + 35) \times 4 + 39. = 243.$

同ツマミ衿裁方 (第二圖)



[積り方] 身丈 袖丈 總用布
 $(35 + 16) \times 4 = 204$

大巾にて同長襦袢裁方(第三圖)



[積り方] 身丈 袖丈 總用布
 $(35. + 16.) \times 2 = 102$

裁縫科受験準備講義

この外中巾物の裁方もあるが使用する事少い爲省く。

(二) 今三種の得失について考察するに、第一圖は別衿裁とした爲、衿芯を入れる必要なく従つて仕立の手續を多少省くことが出来る便利がある。第二圖ツマミ衿の裁方は衿丈を別に取らず前身つきにとり、あたかも四ツ身空衿の如き裁方なれば、用布は前者より衿丈だけ經濟となる然し仕立直しの際前後の交換出來ず従つて觸れ易き箇所が早く痛んで良き使用に絶えない。第三圖即廣巾の裁方によれば用布は摘み衿と同尺で衿は巾よりかきとる事を得るので摘み衿に於けるが如き缺點は免れ、經濟上最も有利である。只廣巾物は目下の所メリンス、輸出羽二重、鑽絹等の數種に限られ居るを以て一般の布帛に適用しがたい憾がある。

三、沖繩縣

本裁女衿長襦袢の裁方圖解次の切し

(一) 本裁女衿長襦袢であれば表及裏の裁方圖を記した。

(二) 袖裏は胴裏と別布にするのが普通であれば此所には袖裏別布とし裾廻しは表用布と共布にとるものとして、裁方及積り方算式をした。

(三) 【普通裁切方法】

本裁女衿長襦袢の裁方圖



袖丈 身丈 裾丈 衿丈 總用布

$(15.7 \times 4) + (35. + 5) \times 4 + 39. = 261.8$

裏身頃裁方圖



身丈 總用布

$35. \times 4 = 140$

裏袖裁方圖



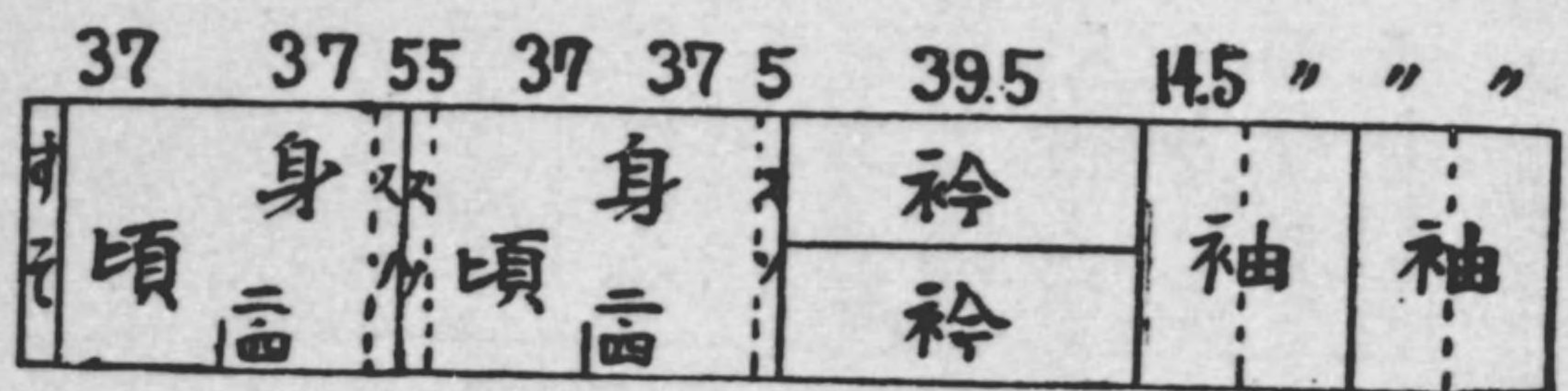
袖丈 總用布

$15.7 \times 4 = 62.8$

袖丈一尺五寸七分、
身丈三尺五寸、
衿丈三尺九寸、
衿肩明二寸四分、
裾廻丈五寸、
裏身丈三尺五寸、
裏袖丈一尺五寸七分、

四、秋田縣

男物長襦袢の裁方圖



袖丈 身丈 裾丈 衿丈 總用布
 $(14.5 + 37 + 5) \times 4 + 39.5 = 265.5$

男物長襦袢の裁方及圖解次の如し

(一) 男物長襦袢には袖を無双とする場合と、袖裏を別布とするか、或は袖口の方に半巾共切を使用する場合の三つの仕立方がある。今袖裏を別布とするものとして左の裁方に依つて用布の總尺を積つた。裾は表布を折返すのが本式である。

(二) 裁切寸法

- 袖丈一尺四寸五分、 身丈三尺七寸、
- 衿丈三尺九寸五分、 裾丈五寸、
- 衿肩明二寸四分。

尙無双の場合は、袖丈は八つ取り袖口の方のみ共切を使用する時は袖丈を六つ取るものとする。

第十二節 帯の試験問題並に解説

第一帯の試験問題

- 一、絞り羽二重と襦子との腹合帯の仕立方について。(佐賀縣)
- 二、絹又は紗の丸帯の仕立方を説明せよ。(山形縣)
- 三、絹織の丸帯心の入方を如何にせばよろしきや。(樺太廳)
- 四、男帯の縫方を文章にて書き表せ、但し地質は博多なり。(和歌山縣)

第二帯の問題解説

【問題概観】

全問題中四題ではあるが我が國狀より見て決して不必要な材料でない尋常科の教材(文部省尋五)にも小供帯が取り入れられてゐる以上教師として相等の研究を持たねばならない。帯の仕立については理論も大切ではあるが非常に技術の習練を要するもので帯皮と芯との調和によつてよく仕上つたり又失敗に終つたりするものであれば如何なる材料を如何に取扱つたならば、理想的に仕上がるかの根本研究が大切である。殊に男帯に就いて大切である。

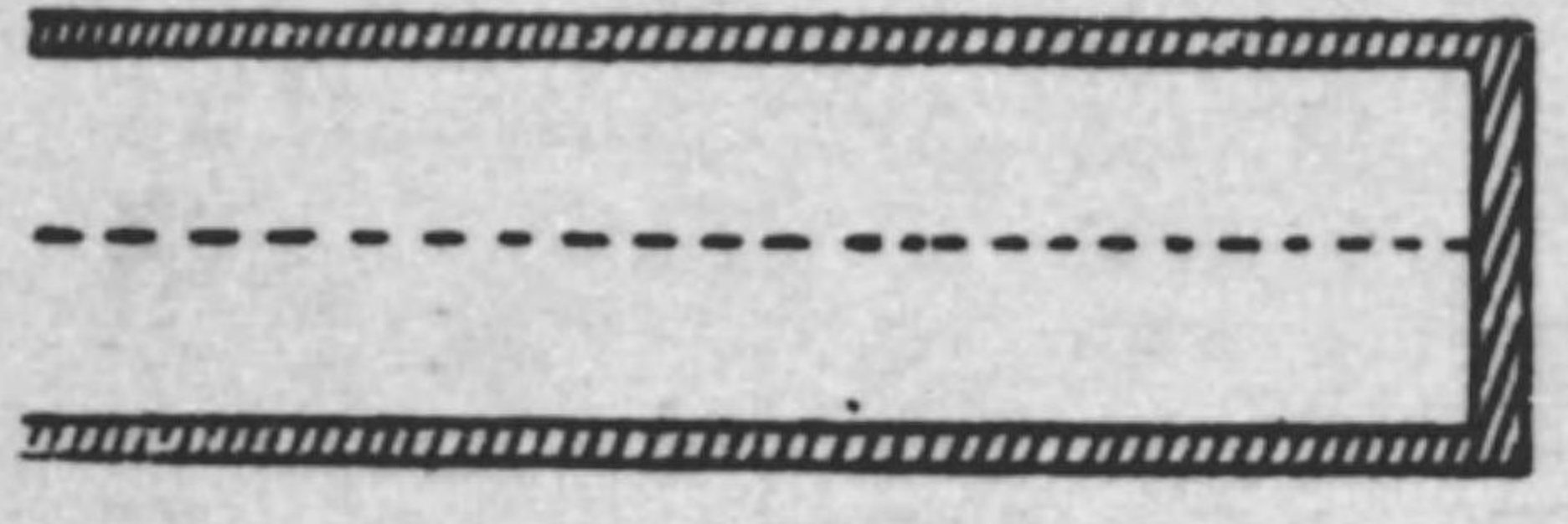
- (一) 地質の各種類による仕立方、
- (二) 芯の入れ方、
- (三) 男帯の縫方、

三項共大切な然も帯そのものについての仕立上げ上、注意を要する基礎問題である。

一、佐賀縣

絞り羽二重と襦子との腹合帯仕立方次の如し

第一圖 襦子の掛け方

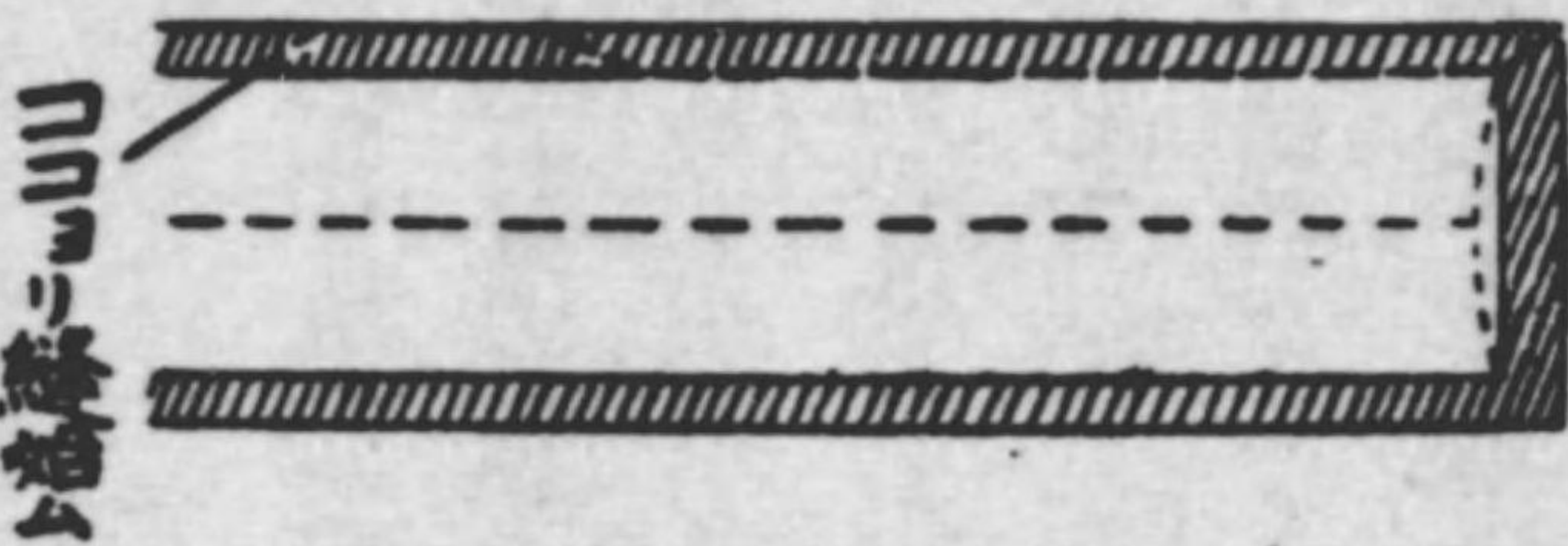


- (一) 地直し
 1. 襦子 之は兩耳を烙熨にて伸し全體に火熨斗をかけ平に伸し置く。
 2. 絞り羽二重、は裏より全體に火熨斗を掛け絞りの部分を九分通りに伸す。あまりに伸しすぎて平にする時は絞りの特徴を害し絞り羽二重の價値を失ふことになる。といつて伸さぬ時は仕立に困難なばかりでなく。しめくづれして見苦しいものであれば適當の地直を必要とする。又伸した後薄き新モスにて裏打をする事も一方法である。
- (二) 襦子の掛け方

(三) 縫方

第二圖の如くに針を出して縫つて行く。

第二圖 縫方



1. 針目は極めて細かく兩端及手タレ等は一尺五寸位返し針とする。
 2. 芯は三河木綿を用ひ、一夜水に漬けて後陰干としてアイロンをかけて地直をする、(芯地を水に漬けるは伸びたる兩耳をつめ平にする爲である)
- (四) 芯の綴ちつけ方
 芯巾は表巾より一分つめて裁切り表布を下に芯を上のにせ表布を兩手で強く引く時芯地は多少弛む故えを芯のゆるみ加減として待針をうち後とちつける。
- (五) 仕上げ
 表に返して角を調へ縫残した部分を細かく緝け全體に襦子をかけて着せを

裁縫科受験準備講義

調へ火熨斗をかけて仕上げをする。

二、山形縣

絹又は紗の丸帯仕立方説明次の如し

- (一) 地直しは普通織の帯地と等しく耳を烙熨にて伸し織目を調へ必要に応じて切目を入れ、後全體に弱い火熨斗を二三度かける。
- (二) 地質痛み易ければ返し針を避け細かく一針抜として糸振りを防ぐこと。
- (三) 芯は狭芯即ち二枚の芯地にて双方より縫目を挟みて綴ちつけ仕上げした後縫代の表に現はれる不體際を防ぐこと。
- (四) 芯地は概して褐色を帯びて居れば表地白色の場合には白新モスにて芯地の一方を包んで後綴ちつけること。
- (五) 綴ち糸は同色のものを使用すること。

三、樺太 鹿(山形縣の部参照の事)

四、和歌山縣

男帯の縫方とは仕立方の事と思はれる。故に新仕立と、つき芯仕立との二種を記す事にした。

(一) 新仕立 (仕立上げ寸法)

巾丈共に一ばい。裁切り帯丈は普通一丈五寸位、巾は六寸位。

1. 布の整理、博多織は兩耳共に織つりかしてゐる故縫代より端にかけて熨をあて、十分に伸した後全體に火熨斗をかけて布の伸縮を正す。もし熨で耳が未だ直らぬ時は五寸置位に兩を揃へて鉄を入れおく。
2. 芯拵へ。芯地は熱い火熨斗で伸縮を正し仕立上げ帯幅に裁ち切りおく。
帯地の表を中にして丸帯の如く二つに折り帯幅を定めて標をなし一方へ芯を置きよく釣り加減を見て羽二重糸又は割糸にて表へ針目の出ぬやう芯を表地にとちつける。兩端を半返しにして一分のきせで縫ひ込み、表と芯をとちつけ、表に返して角を整ふ。帯の兩側とも帯幅の標の通りに折り、ねじれぬ様に注意して兩側を合せ、待針を打ち、五厘位の針目で極めて小針に緋け上げる。
3. 仕上げ、火熨斗又は熨をかけ全體を八つに折り疊んで壓を置く後中央は幅一寸兩端は五分の紙にて三個所を封じて仕上げをする。

(注意) 二枚芯の時は一枚は仕立上げ帯巾に切り一枚は表地縫込みの寸法だけ狭くして入れる

のがよい。

(二) つき芯仕立

1. 帯地の整理及芯拵へは前と同様。

帯地の表を中にして堅に二つに折り縫代を假縫し兩端三寸位残して、其の他は半返し縫とする。縫目を開いて熨をかけ表に返す。芯は位立上げ帯幅に裁ち切る。他に仕立上げ帯幅長さ二寸位の厚紙と帯の長さ位の紐とを用意しておく。

原紙を二つに折つて芯を挟みよく緩ちつけ次に厚紙の端に紐を付け、その紐を帯に通して一方より引けば芯は次第に帯の中に入る。紐及び厚紙を取り、帯の兩端を持つて芯を十分に帯の中に落ちつけ。兩端を半返し縫として、一分のきせにて折をつけ、芯の端を縫ひ込みにとちつけ表に返して角を整へ残つた部分は細かく紵ける。

2. 仕上げは前と同様。

第十三節 説明的事項の問題並に解説

第一 説明的事項の問題

一、左の中を以て衣服を調製するに當り特別なる取扱方あらば記せ。(福岡縣)

(イ)セルのコート地。(ロ)博多絞りの單衣地。(ハ)金銀糸通しの帯地。(ニ)絹の帯地。

二、左の事項を問ふ。(福島縣)

(イ)大人物紋所の位置。(ロ)無垢二枚重に要する用布。(但し下着廻裾とす)。(ハ)肩揚。腰揚。附紐の位置。

三、左の事項を簡単に説明せよ。(山梨縣)

1. 大紋腰袴。2. 江戸褌模様。3. 女子洋服下着着方順序。4. コンビネーション。

四、左の事項につき知れるを記せ。(福井縣)

無垢、熨斗目、小袖。

五、左につき知れる所を記せ。(岩手縣)

1. 本裁男袴腰立糸の掛け方。2. 本裁男物長着普通寸法。(但し米突尺)

六、左の事項を説明せよ。(青森縣)

1. 色紙襷。2. 三つ衿。3. 道行。

七、布帛を裁ち切る以前に於て注意すべき事項を問ふ。(宮城縣)

裁縫科受験準備講義

- 八、裁方につき特に注意すべき事項を挙げ其の理由を記せ。(高知縣)
九、衣服仕立方の心得につき知れる事を記せ。(愛媛縣)

第二 説明的事項解説

【問題概観】

説明的事項の問題は中々に多い、何れも大切な問題であると思ふ。理論的なや、常識的なや、又、一般的に見れば可成り、前記したのと重複して居る感もないではないが、各府縣別に考へた時は決してそうではない。各府縣とも裁縫教師としての脳力を見るのに中心問題として選定したものである以上何れにも精通する事が教師として力量ある教師といはねばならぬ。小學校の教材を教授するにはその幾倍かの程度の高い教材に精通し又それが自己化されて、具體的に理解ある徹底を見る所に教師の力が現はれるのである、故に、正確な然も力強い説明が出来得るやうな解答をするには、充分、各方面に修養を積む事が肝要である。

一、福岡縣

左の事項に對して衣服を調製する際特別な取扱ひ方について

- (イ)セルのコート地 (雜の部滋賀縣の部参照)

(ロ) 博多絞りの單衣地

絞り地のものを仕立てるには湯伸し又は火熨斗にて絞りを伸して、後裁切る。伸し加減は人々の好みによつて一様でないが身巾及衿丈との關係、絞りの特色を失はぬ程度を考慮することが大切である。

(ハ) 金銀糸通しの帶地

地質非常に厚く且つ剛きものなれば多くは織耳釣れて眞中の部分弛みがちのものである。故に地直しを十分にすること。即ち耳を烙熨にし伸し、火熨斗を二三回かけて平にする。此の際あまり熱き火熨斗を掛ける時は地質痛み易く金銀の艶を失ふ恐れあれば弱き火にて幾度も繰りかへすこと。縫目は一針返しに極めて細く糸は同色の細き絹糸を用ひ、縫目を割つて角の厚味を防ぎ芯は割つた縫目の間に縫ちつける。

- (ニ) 一組の帶地 (帶の部山形縣の部参照のこと)

二、福島縣

左の事項に就いて

- (イ) 大人物絞所の位置

衿肩明の下より一寸八分の所。

袖、袖山より二寸下つた所。

前肩山より四寸下つた所。

(ロ) 無垢二枚重に要する用布 (下着廻裾)

用布六丈を要するを普通とす。

(ハ) 肩揚腰揚、附紐の位置

肩揚は袖附と脊縫とを合せて折山となつた所を肩揚の山となし、袖附の所迄揚げる。

腰揚げは身丈を二つ折とし、下半身を上半身より一寸五分長くした折山を腰揚げの山とするのが普通である。

但し腰揚げ及肩揚の多少及び身丈等によつて幾分加減するをよしとする。

附紐はミヤツロより上に向つて附ける。

三、山梨縣

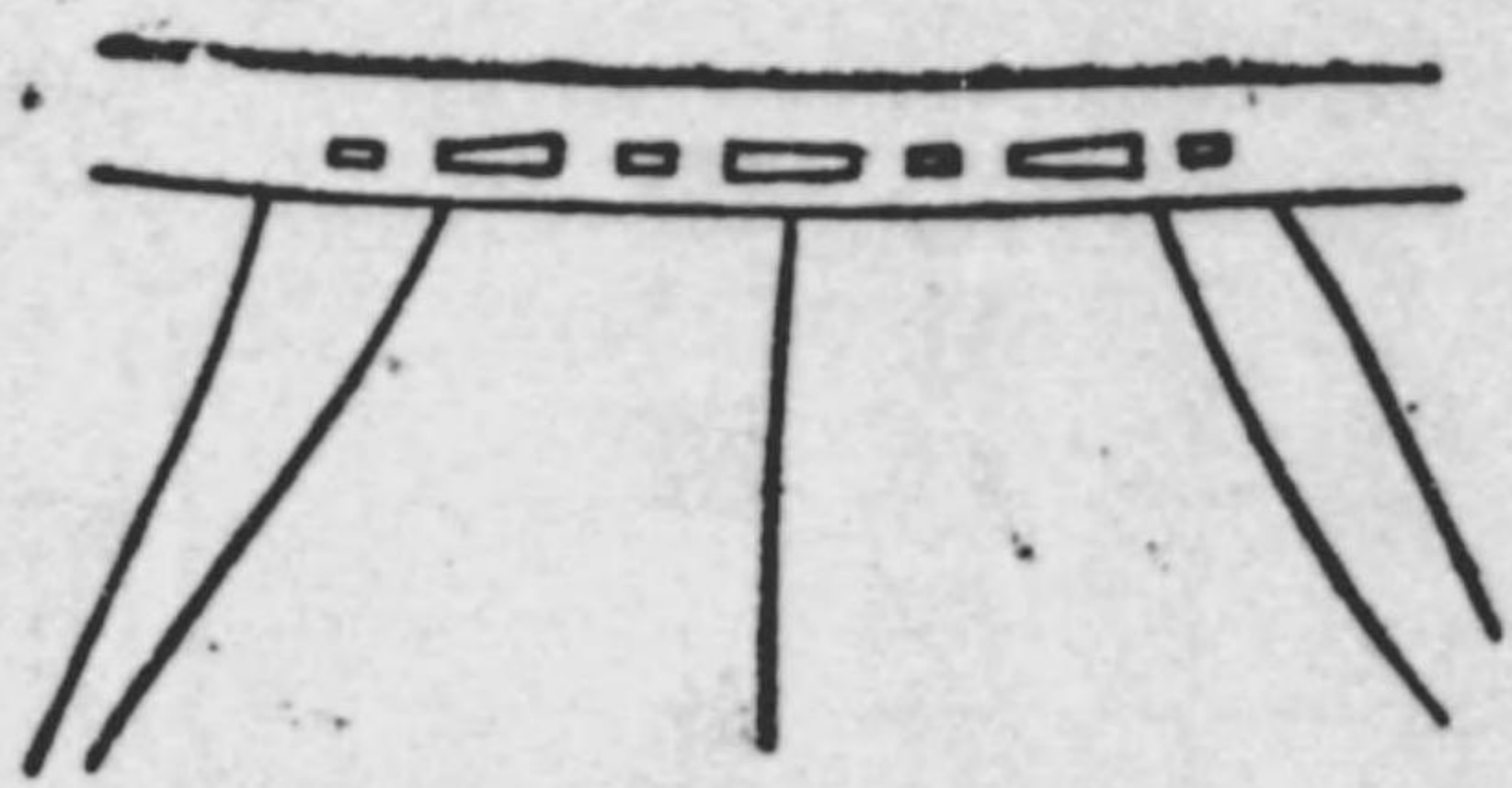
左の事項を簡単に説明せよ

1. 大紋腰袴

普通女袴は大人、小裁中裁を問はず後襷は三つあるのが普通である、即ち袋襷及び兩脇襷である。

大紋腰は後襷が袋襷一つあるばかりである。

大紋腰の圖



2. 江戸棲模様 (雜の部島根縣の部参照のこと)

3. 女子洋服下着々方順序

ズロース。シュミーズ。ブルマー。スリツプの順であるが本式にはコーセットを着用する。

4. コンビネション

裁縫科受験準備講義

之は結合といふ意味で即ち上下一つゞきになつてゐるとの意味で通常アンダーウエストの下にヅロースを結合させたもの。

コンビネーションの圖



四、福井縣

左の事項について知れる所を記せ

1. 無垢、とは衣類の裏より下着まで表裏共に無地の同色の帛で作つたものを云ふ。
2. 小袖、は装束の下の衣の大袖なるに對して袖の小なる常着の衣をいつたものであるが後世絹の綿入を小袖といふやうになつた。
3. 熨斗目、徳川時代の男子禮服で、經を練糸、緯を生糸で織つた小袖で、袖の下部と腰とに縞を織り出したものである。

麻上下の下に着し五つの家紋を附ける。近頃にては男兒初着のお宮参りに用ふる模様ものを熨斗目模様といふ。

五、岩手縣

1. 本裁男袴腰立糸の掛け方。(男袴部参照のこと)
2. 本裁男物長着普通仕立上寸法。

但し身長五尺三寸位の男子とする。

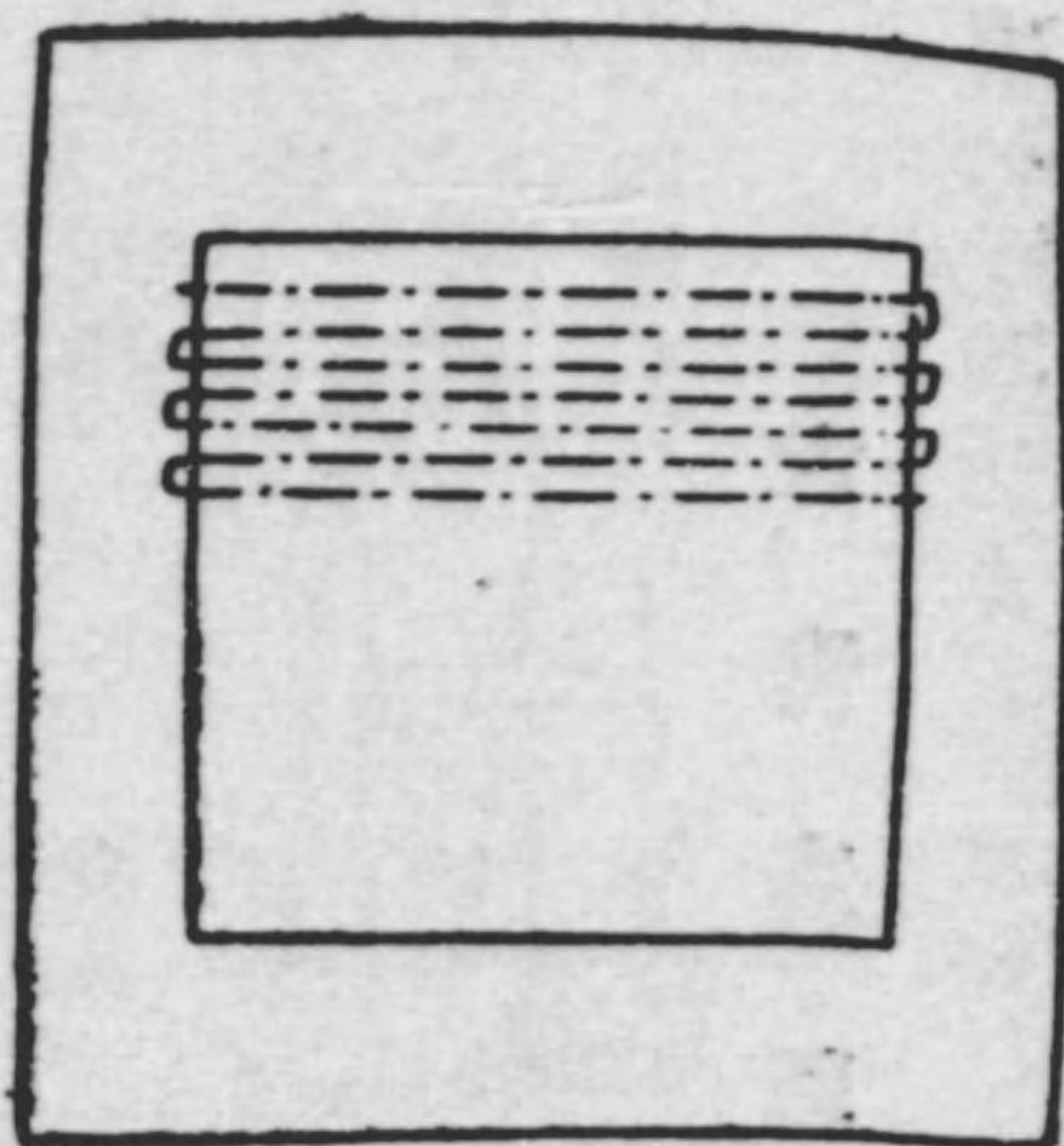
袖丈五三纏、	袖巾三四纏、	袖口明二七五纏、
袖附四三、五纏、	身丈一三五纏、	後巾三〇纏、
前巾二四纏、	衤巾一五、五纏、	衤下り一九纏、
衤肩明八、五纏、	衤下六三、五纏、	衤巾六纏、
合衤巾一四纏、	衤六六纏、	

六、青森縣

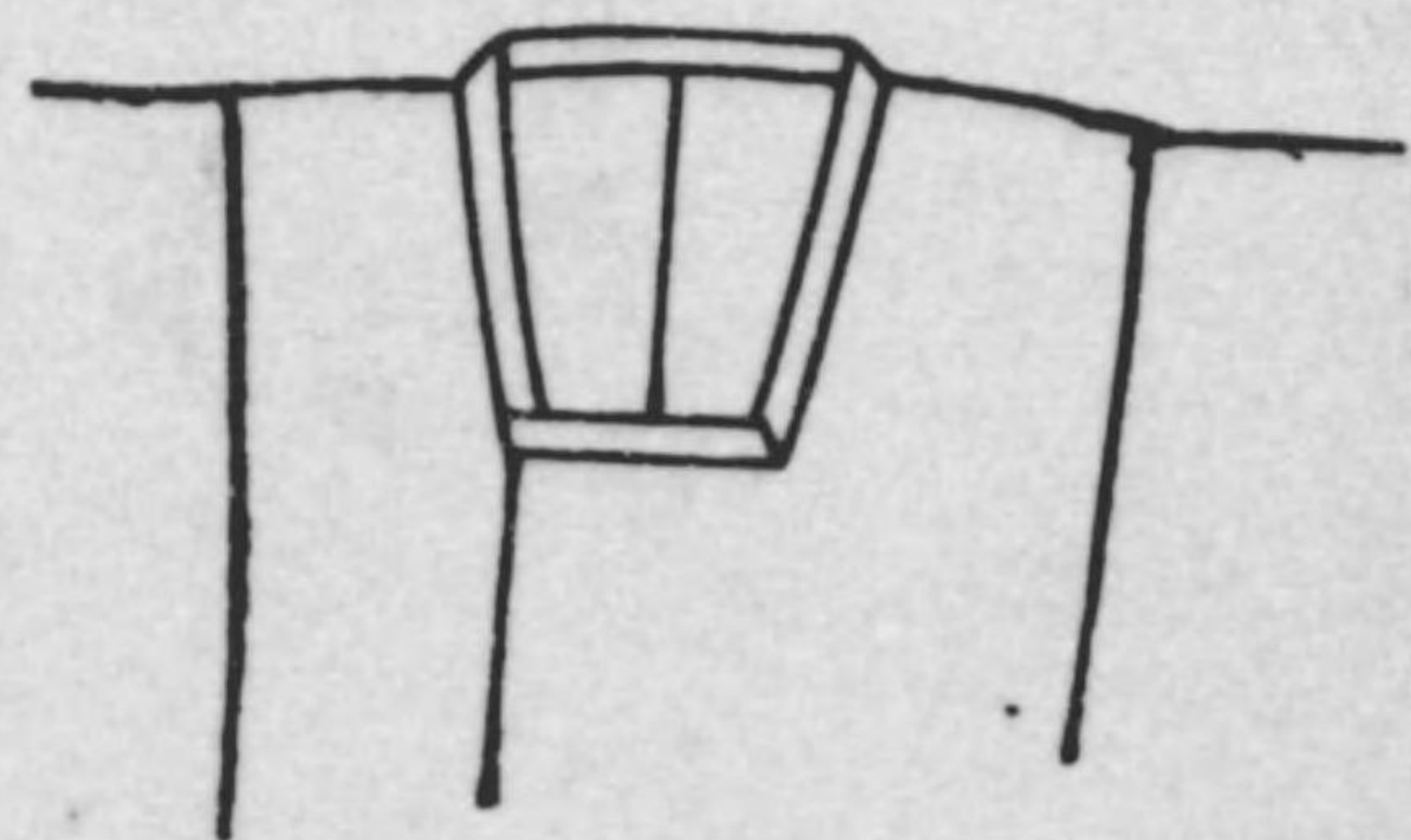
左の事項を説明せよ。

1. 色紙繼、は布の痛みたる個所を繕ふ方法で長方形の共切又は同色の布をあて、細いつぎ糸に

色紙縫ぎ圖



道行コート衿の圖



2. 三つ衿、とは着物又は褌袴の衿肩明の部分云ふ。
3. 道行とは普通道中着に用ゐた合羽の名で衿は細く衿け堅衿と前巾との角を額縁に縫つた衿をつける。

目下一般に用ひられる女物コートの衿は道行形である。

七、宮城縣

布帛を裁ち切る前の注意

1. 用布の總尺を計つて所定の仕立上げ寸法に何等支障を生じないか否かを検する。

2. 染斑、織斑、汚點等の有無を検する。

以上二項を検し、其の結果によつて、それら裁方の方法を工夫し裁切つた後故障を生じないやう詳細な注意を必要とする。

3. 木綿、絹、毛織物其他何れの布帛にても裁切る以前に於ては、必ず火熨斗をかけて、布の伸縮及皺等大體を直し正確な寸法に折り疊むに便利なやうにする。

4. 絹織物、毛織物等は湯通しをして、糊氣を除去し、他日、水分に遭つて汚點を生ずる變ひないやう又、毛織物は之によつて收縮を生じないやう注意すること大切である。前述の注意によつて裁ち切つた後又は仕立上げの後に於いて遺憾なきことを期する事が最も大切である。

八、高知縣

裁方につき特に注意すべき事項と理由

裁つ以前の注意は、(前宮城縣の部参照の事)

1. 染斑、織斑等のあつた場合はその部分が表面に現はれぬやう裁方の方法を種々工夫して成る可く經濟上便なるやう考慮する事。